

## 基本計画書

基本計画										
事項	記入欄							備考		
計画の区分	学部の学科の設置									
フリガナ設置者	ガッコウメイガクシフジガクケン 学校法人 藤学園									
フリガナ大学の名称	フジヨシカガク 藤女子大学 (Fuji Women's University)									
大学本部の位置	北海道札幌市北区北十六条西二丁目1番1号									
大学の目的	教育基本法及び学校教育法に従い、設立母体である殉教者聖ゲオルギオのフランシスコ修道会が掲げるカトリック精神に基づいて、人間性豊かな教育を行うことを目的とする。									
新設学部等の目的	子ども教育学科では、乳児期から児童期の子どもの成長や子どもにかかわる人々を支えるために必要な学びを得ることができるカリキュラムのもと、地域社会に貢献するための幅広い視野を持ち、乳幼児期の子どもと就学後の子どもの教育を連続的に捉えることができる教育者を養成することを目的としている。4年間の学びを通して、子どもの発達連続性・子どもを取り巻く人々や社会の状況・各関係機関との連携のあり方などを総合的に捉える思考力を身につけ、子どもに深くかかわる専門家や、さまざまな立場から子どもの周囲にいる人々を支えることで社会に貢献する人材を養成する。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	人間生活学部 【Faculty of Human Life Sciences】 子ども教育学科 【Department of Child Education】 計	年	人	年次人	人	学士(教育学) 【Bachelor of Education】	平成32年4月 第1年次	北海道石狩市花川南 四条五丁目7番地		
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	人間生活学部 保育学科(廃止) (△80) ※平成32年4月学生募集停止									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
	人間生活学部 子ども教育学科	講義	演習	実験・実習	計	127単位				
教員の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等		
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	人	
	新設	人間生活学部 子ども教育学科	10 (10)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	116 (78)	
		計	10 (10)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	— (—)	
	組織	既設	文学部 英語文化学科	4 (4)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	115 (69)
			文学部 日本語・日本文学科	9 (9)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	105 (63)
			文学部 文化総合学科	6 (6)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	117 (60)
			人間生活学部 人間生活学科	9 (9)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	120 (89)
			人間生活学部 食物栄養学科	11 (11)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	14 (14)	6 (6)	108 (81)
	計	39 (39)	16 (16)	7 (7)	1 (1)	63 (63)	6 (6)	— (—)		
合計		49 (49)	20 (20)	7 (7)	1 (1)	76 (76)	6 (6)	— (—)		
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計			
	事務職員		45 (45)		17 (17)		62 (62)			
	技術職員		4 (4)		0 (0)		4 (4)			
	図書館専門職員		7 (7)		4 (4)		11 (11)			
	その他の職員		0 (0)		4 (4)		4 (4)			
計		56 (56)		25 (25)		81 (81)				

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	118,000 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	118,000 m <sup>2</sup>					
	運 動 場 用 地	43,655 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	43,655 m <sup>2</sup>					
	小 計	161,655 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	161,655 m <sup>2</sup>					
	そ の 他	60,999 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	60,999 m <sup>2</sup>					
合 計	222,654 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	222,654 m <sup>2</sup>						
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
		37,538 m <sup>2</sup> ( 37,538 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> ( 0 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> ( 0 m <sup>2</sup> )	37,538 m <sup>2</sup> ( 37,538 m <sup>2</sup> )					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	42 室	22 室	64 室	3 室 (補助職員 2人)	1 室 (補助職員 0人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称 人間生活学部子ども教育学科		室 数	12 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学部単位での特 定不能なため、 大学全体の数		
	人間生活学部 子ども教育学科	383,840〔54,052〕 (355,045〔50,877〕)	4,847〔441〕 ( 4,727〔434〕)	15,450〔14,020〕 (15,450〔14,020〕)	10,372 (8,232)	1,085 (1,085)	0 ( 0)			
	計	383,840〔54,052〕 (355,045〔50,877〕)	4,847〔441〕 ( 4,727〔434〕)	15,450〔14,020〕 (15,450〔14,020〕)	10,372 (8,232)	1,085 (1,085)	0 ( 0)			
図書館		面積	閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数	大学全体					
		3,668m <sup>2</sup>	537席	423,300冊						
体育館		面積	テニスコート5面	トラック1面						
		2,337m <sup>2</sup>								
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	届出学科全体  図書購入費には 電子ジャーナル の整備費（運用 コスト含む）を 含む。	
	教員1人当り研究費等		430千円	430千円	430千円	430千円	－千円	－千円		
	共同研究費等		2,900千円	2,900千円	2,900千円	2,900千円	－千円	－千円		
	図書購入費	2,600千円	2,600千円	2,600千円	2,600千円	2,600千円	－千円	－千円		
	設備購入費	3,500千円	2,000千円	2,000千円	2,000千円	2,000千円	－千円	－千円		
学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
	1,160千円	980千円	980千円	980千円	－千円	－千円				
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、資産運用収入、手数料収入、寄付金収入等								
大 学 の 名 称 藤女子大学										
既 設 大 学 等 の 状 況	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	平成32年度より 学生募集停止 (保育学科)
	文学部	年	人	年次 人	人		倍		北海道札幌市北区北十六 条西二丁目1番1号	
	英語文化学科	4	80	—	320	学士(文学)	1.19	昭和36年度		
	日本語・日本文学科	4	80	—	320	学士(文学)	1.17	昭和36年度		
	文化総合学科	4	80	—	320	学士(文学)	1.20	平成12年度		
	人間生活学部						0.91			
	人間生活学科	4	80	—	320	学士(人間生活学)	0.74	平成4年度		
	食物栄養学科	4	80	—	320	学士(食物栄養学)	1.09	平成4年度		
	保育学科	4	—	—	—	学士(保育学)	—	平成12年度	北海道石狩市花川南四 条五丁目7番地	
	大学院									
人間生活学研究科						0.46				
人間生活学専攻	2	8	—	16	修士(人間生活学)	0.31	平成14年度			
食物栄養学専攻	2	8	—	16	修士(食物栄養学)	0.62	平成14年度			
附属施設の概要		該当なし								

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積り及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

教育課程等の概要															
(人間生活学部 子ども教育学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	人間と宗教	キリスト教概論	1前	2			○							兼1	集中・オムニバス
		キリスト教と藤女子大学	1通	2			○							兼7	
		キリスト教人間学A	1後	2			○							兼1	
		キリスト教人間学B	1後	2			○							兼1	
		聖書概論A	1後	2			○							兼1	
		聖書概論B	1後	2			○							兼1	
		宗教と文化	1後	2			○							兼1	
	リア・ジェンダー形成	女性とキャリア I	1後	1				○		1					
		女性と労働	1前	2			○							兼1	
		女性と法律	1前	2			○							兼1	
		ジェンダー論	1後	2			○							兼1	
	国際理解	文化人類学	1前	2			○							兼1	
		異文化コミュニケーション	1前	2			○							兼1	
		国際関係論	1後	2			○							兼1	
		国際理解教育	1後	2			○							兼1	
	社会と文化	経済学	1前	2			○							兼1	
		社会学	1前	2			○							兼1	
		日本国憲法	1前	2			○							兼2	
		心理学	1前	2			○							兼1	
		音楽	1後	2			○							兼1	
		美術論	1前	2			○							兼1	
		日本語文学	1後	2			○							兼1	集中 2年毎に教員変更
		英語圏文学	1後	2			○							兼1	
		アジア圏文学	1前	2			○							兼1	集中 2年毎に教員変更
		言語学	1後	2			○							兼1	
	人間形成	子ども学	1後	2			○			1					
		西洋史	1前	2			○							兼1	
		日本史A	1後	2			○							兼1	
		日本史B	1前	2			○							兼1	
		東洋史	1前	2			○							兼1	
		哲学	1前	2			○							兼1	
		倫理学	1前	2			○							兼1	
		環境科学	1前	2			○							兼1	
		自然と化学	1後	2			○							兼1	
		生命科学	1前	2			○							兼1	
	自然・科学	数学	1前	2			○							兼1	
		物理学	1後	2			○							兼1	
		ライフステージ栄養学	1後	2			○							兼5	オムニバス・共同（一部）
	健康	健康の科学	1前	2			○							兼1	
		運動の科学	1後	2			○			1					
		運動の実践A	1前	1					○		1			兼3	共同
		運動の実践B	1後	1					○		1			兼3	共同
	リテラシー	文章表現	1前・後	2			○							兼3	
		統計学	1前	2			○							兼1	
		情報処理の基礎	1前	1			○							兼1	
		情報リテラシーA	1前・後	2			○							兼2	
		情報リテラシーB	1後	2			○							兼2	
	小計（47科目）	—	3	87	0	—	—	—	2	1	0	0	0	兼50	—

共通科目	外国語科目	Academic Communication I	1前	1				○											兼9	
		Academic Communication II	1後	1				○											兼9	
		Essential Vocabulary & Grammar	1前		1			○											兼1	
		Interactive English A	2前		1			○											兼4	
		Interactive English B	2後		1			○											兼4	
		Practical English A	1前		1			○											兼1	
		Practical English B	1後		1			○											兼1	
		Academic Listening & Note-taking	1前		1			○											兼1	
		Academic Speaking & Discussion	1後		1			○											兼1	
		Academic Reading I	2前		1			○											兼2	
		Academic Reading II	2後		1			○											兼2	
		Skills for the TOEFL I	1前		1			○											兼1	
		Skills for the TOEFL II	1後		1			○											兼1	
		English for Global Communication	2前		1			○											兼1	
		CLIL English	2後		1			○											兼1	
		初級ドイツ語 I	1前		1			○											兼1	
		初級ドイツ語 II	1後		1			○											兼1	
		中級ドイツ語 I	2前		1			○											兼1	
		中級ドイツ語 II	2後		1			○											兼1	
		ドイツ語演習 I	2前		1			○											兼1	
		ドイツ語演習 II	2後		1			○											兼1	
		上級ドイツ語 I	3前		1			○											兼1	
		上級ドイツ語 II	3後		1			○											兼1	
		初級フランス語 I	1前		1			○											兼2	
		初級フランス語 II	1後		1			○											兼2	
		中級フランス語 I	2前		1			○											兼1	
		中級フランス語 II	2後		1			○											兼1	
		フランス語演習 I	2前		1			○											兼1	
		フランス語演習 II	2後		1			○											兼1	
		上級フランス語 I	3前		1			○											兼1	
		上級フランス語 II	3後		1			○											兼1	
		初級中国語 I	1前		1			○											兼3	
		初級中国語 II	1後		1			○											兼3	
		中級中国語 I	2前		1			○											兼1	
		中級中国語 II	2後		1			○											兼1	
		中国語演習 I	2前		1			○											兼1	
		中国語演習 II	2後		1			○											兼1	
		上級中国語 I	3前		1			○											兼1	
		上級中国語 II	3後		1			○											兼1	
		中国語実践演習 A	2前		2			○											兼1	
		中国語実践演習 B	2後		2			○											兼1	
		初級韓国語 I	1前		1			○											兼3	
		初級韓国語 II	1後		1			○											兼3	
		中級韓国語 I	2前		1			○											兼1	
		中級韓国語 II	2後		1			○											兼1	
		韓国語演習 I	2前		1			○											兼1	
		韓国語演習 II	2後		1			○											兼1	
		上級韓国語 I	3前		1			○											兼1	
		上級韓国語 II	3後		1			○											兼1	
		韓国語実践演習 A	2前		2			○											兼1	
		韓国語実践演習 B	2後		2			○											兼1	
		海外語学研修 A	1・2・3・4通年		2			○												留学した学生の認定科目
		海外語学研修 B	1・2・3・4通年		2			○												留学した学生の認定科目
		海外語学研修 C	1・2・3・4通年		2			○												留学した学生の認定科目
		海外語学研修 D	1・2・3・4通年		1			○												留学した学生の認定科目
		海外語学研修 E	1・2・3・4通年		1			○												留学した学生の認定科目
		海外語学研修 F	1・2・3・4通年		1			○												留学した学生の認定科目
	小計 (57科目)	—	2	62	0	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	兼25		

子ども教育学科専門科目	子ども教育専修	保育・教育の理論	教育原理	1前	2		○												兼1				
			保育原理	1前		2		○				1											
			教師・保育者論	1後		2		○				3										オムニバス	
			教育方法論	2後		2		○				1									兼1		
			教育制度論	3前		2		○														オムニバス	
			教育課程総論 (全体的な計画を含む)	3前		2		○					2										オムニバス・共同 (一部)
			保幼小連携特論	4前		2		○					1										
			学級経営論	3後		2		○					2										オムニバス・共同 (一部)
			道徳教育の理論と実践	2前		2		○														兼1	
			特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2後		2		○					1										
		地域社会と学校	2前		2			○					2									オムニバス・共同 (一部)	
		現代社会と教育	4前		2			○					3									オムニバス・共同 (一部)	
		子どもの理解	教育心理学	2後		2		○						1									
			学校教育心理学	4前		2		○						1									
			発達心理学	1前	2			○						1									
			児童期以降の発達と心理	3前		2		○						1									
			子どもの理解と発達援助	4後		2			○				1										
			幼児理解と援助	2後		2			○				1										
			特別な教育的ニーズに対する理解と支援	3前		2			○				2										オムニバス・共同 (一部)
			特別支援教育総論	1前	2				○						1								
	特別支援教育実践論		4前		2			○					1	1								オムニバス・共同 (一部)	
	知的障害児の心理・生理・病理		2前		2			○					1										
	肢体不自由児の心理・生理・病理	2後		2			○													兼1			
	病弱児の心理・生理・病理	3前		2			○													兼1			
	知的障害児教育	2後		2			○													兼1			
	肢体不自由児教育	3前		2			○						1										
	病弱児教育	3後		2			○													兼1			
	知的障害児教育総論	1後		2			○													兼1			
	肢体不自由児教育総論	2前		2			○						1										
	視覚・聴覚障害児の心理・生理・病理	3後		1			○					1											
	重複・発達障害児の心理・生理・病理	3後		2			○														兼1		
	視覚・聴覚障害児教育総論	3後		1			○					1											
	重複・発達障害児教育総論	3後		2			○						1										
	保育・教育の内容	総合表現	2前		2			○														兼1	
		国語 (書写含む)	3前		2			○					1										
		社会	3前		2			○														兼1	
		算数	3前		2			○					1										
		理科	3前		2			○														兼1	
		生活	3前		2			○					1										
		音楽	2通		2				○					1								兼10 共同	
音楽表現法		3通		2				○					1								兼10 共同		
音楽表現演習		4前		1				○					1								兼6 共同		
図画工作		2前		2				○				1											
造形表現法	4前		2				○					1											
家庭	2前		2				○													兼1			
初等体育	2前		2					○					1										
スポーツ実技A (水泳)	2通		1						○				1							集中			
スポーツ実技B (スキー)	2後		1							○				1						集中			
英語	2後		2					○												兼1			
保育内容 (健康)	2後		1						○					1									
保育内容 (人間関係)	2前		1							○			1							兼1	オムニバス		
保育内容 (環境)	2後		1							○				1									
保育内容 (言葉)	2前		1								○				1					兼1	オムニバス		
保育内容 (表現)	2前		1									○			1						オムニバス		



学位又は称号	学士（教育学）	学位又は学科の分野	教育学・保育学関係
卒業要件及び履修方法		授業期間等	
<p>下記の①、②の要件を充たした上で、合計127単位以上修得。</p> <p>①教養科目から、必修科目3単位、選択必修科目として、区分「人間と宗教」から2単位以上、区分「人間形成」のうち、「国際理解」「社会と文化」「歴史・思想」から2単位以上、「自然・科学」「健康」から2単位以上、区分「リテラシー」から2単位以上、外国語科目から必修科目2単位、必修科目を除いた科目から4単位以上修得し、必修科目、選択必修科目を含めて、教養科目及び外国語の合計修得単位数が30単位以上。</p> <p>②必修科目12単位、学科専門科目の幼稚園教諭及び小学校教諭免許科目のうち、選択必修として下記科目から48単位以上を修得。</p> <p>&lt;学科選択必修科目&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語（書写含む） ・社会 ・算数 ・理科 ・生活</li> <li>・子どもの遊びと学び ・音楽 ・音楽表現法 ・音楽表現演習</li> <li>・図画工作 ・造形表現法 ・家庭 ・初等体育 ・英語</li> <li>・保育内容総論 ・保育内容（言葉） ・保育内容（環境）</li> <li>・保育内容（人間関係） ・保育内容（健康） ・保育内容（表現）</li> <li>・国語科教育法 ・社会科教育法 ・算数科教育法 ・理科教育法</li> <li>・英語科教育法 ・生活科教育法 ・音楽科教育法</li> <li>・図画工作科教育法 ・家庭科教育法 ・体育科教育法</li> <li>・保育原理 ・教師 ・保育者論 ・教育制度論 ・学級経営論</li> <li>・教育心理学 ・学校教育心理学 ・児童期以降の発達と心理</li> <li>・特別な教育的ニーズに対する理解と支援</li> <li>・教育課程総論（全体的な計画を含む）</li> <li>・道徳教育の理論と実践</li> <li>・特別活動・総合的な学習の時間の指導法</li> <li>・教育方法論 ・児童生徒指導 ・進路指導</li> <li>・幼児理解と援助 ・臨床発達検査法</li> <li>・教育相談の理論と方法</li> <li>・教育実習（幼稚園・小学校）</li> <li>・教育実習指導（幼稚園・小学校）</li> <li>・保育・教職実践演習（小学校・幼稚園）</li> <li>・保幼小連携特論 ・地域社会と学校 ・現代社会と教育</li> </ul> <p>（履修科目の登録の上限：49単位（年間））</p>		1学年の学期区分	2学期
		1学期の授業期間	15週
		1時限の授業時間	90分

授 業 科 目 の 概 要			
（人間生活学部子ども教育学科）			
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間と宗教	キリスト教概論	この授業においては、普遍的な宗教としてのキリスト教の基礎知識を学び、西欧文化の根底に流れている世界観をよりよく理解することを目的とする。それによってキリスト教と西欧文化（芸術・文学・言語・生活習慣等）を東洋のそれと比較し、東西の共通点と相違点を理解する。さらに、宗教と日常生活とのかかわりについてあらためて考える時間としたい。	
	キリスト教と藤女子大学	（概要）1961年に開設された藤女子大学、その淵源はどこに由来するのか。その前身は、「北海道の未来は女子教育にある」と確信したドイツ人ヴェンセスラウス・キノルド司教が母国ドイツから女子教育の真の担い手になる殉教者聖ゲオルギオのフランシスコ修道会の三人の修道女を招聘し、1925年（大正14年）に創設された「札幌 藤高等女学校」である。しかし、それ以上に壮大で壮絶な人類歴史の展開の中で醸成され誕生し得た背景がある。その背景を探るため歴史を辿り、藤のルーツを求める。 （オムニバス形式／全15回）  （16 木村晶子／3回） 藤に脈打つ精神 （17 阿部包／1回） 近世から近代初頭の北海道におけるキリスト教：北海道とカトリック （20 漆崎正人／3回） 日本とキリスト教との出会い （21 渡邊浩／3回） キリスト教における聖人 （34 松本あつさ／1回） 近世から近代初頭の北海道におけるキリスト教：江戸時代の北海道とキリスト教 （35 下田尊久／1回） 近世から近代初頭の北海道におけるキリスト教：北海道と聖公会 （44 川村信三／3回）（集中） 日本キリシタンの歴史	集中 オムニバス方式
	キリスト教人間学A	この授業では、キリスト教的人間観を中心として、人間の内面性や命の問題等について考察してゆき、特に、現代の様々な社会問題を通して、家族関係のあり方や人と人との関わりを各自が見直し、人間らしく生きること、真の幸福、平和についてなどについて考えてゆく。	
	キリスト教人間学B	この授業では、カトリック的見地から、環境と人間について考えてゆく。教皇フランシスコの回勅『ラウダート・シ』を中心に、日本カトリック司教団発行の『いのちへのまなざし』を使用し、自然環境の変化の原因と思われる人間中心主義についての見直しをする。また、「いのち」の尊厳とは何かについて熟考する。ますます発達する科学技術は、本当に人間の生き方に役立つのか、あるいは弊害となるのか、人間の精神性にもたらすものは何か、人間らしくあるとはどういうことなのかを探ってゆく。	
	聖書概論A	聖書は、アジアの西端の地域で生まれた書物だが、それは後にギリシア思想と共にヨーロッパの文化・文明の形成に不可欠な役割を果たした。また、聖書が描く世界観・人間観は、一神教と総称される宗教（例えば、ユダヤ教、キリスト教、イスラーム）の根幹をなしている。この授業は、このような聖書が描き出す世界観・人間観を理解するための基礎的知識を提供する。 内容としては、旧約聖書、特に律法の内容を概観した上で、新約聖書のうち福音書が描き出すイエスのメッセージに焦点を合わせ、旧約聖書の引用に注意しながら、その特徴を明らかにする。	
	聖書概論B	聖書は、ギリシア思想と共にヨーロッパの文化・文明の形成に不可欠な役割を果たした。また、その世界観・人間観は、一神教と総称される宗教（例えば、ユダヤ教、キリスト教、イスラーム）の根幹をなしている。この授業は、このような聖書が描き出す世界観・人間観を理解するための基礎的知識を提供する。 内容としては、旧約聖書、特に律法の内容を概観した上で、新約聖書のうちパウロがその手紙群で提示するキリスト理解および、後のキリスト教の成り立ちに大きな影響を与えた信仰理解、キリスト者の生活の諸相、救済史と時代認識など、キリスト教が誕生しつつある時代のダイナミズムを明らかにする。	



	宗教と文化	<p>宗教は太古より人類とその歩みを共にしてきた身近な存在であり、今日に至るまで宗教を基盤とする多くの文化が世界各地で花開いてきた。</p> <p>それらは人々の生活に深く浸透し、その影響の跡はときに日常的に用いられる言語にも見出される。</p> <p>また、特に21世紀に入って増え続ける衝突・虐殺、難民の問題などの背景に目を注ぐとき、宗教と文化の関係は現代世界を読み解く上で、重要なキーワードの一つになると言える。</p> <p>この授業ではキリスト教文化圏を主に考察の対象としつつ、ときに他の宗教との比較を通してそれを相対化し、宗教と文化の深い関わりについて紐解いていく。</p>	
ジェンダー・キャリア形成	女性とキャリア I	<p>卒業後を見据え、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度等を確実に身に付けていくための意識形成をめざす。</p> <p>独立した女性としての意識を明確に持ち、社会、特に職場の構成員として、他者との協調を図れる人材を育成する。</p>	
	女性と労働	<p>情報通信技術の革新、経済のサービス化、グローバル化が急速に進む中、現代社会を生きる人々、とりわけ女性の働き方や生き方は大きく変動している。従来の働き方とは異なる多様なワークスタイルを生み出し、キャリアアップしている女性が増えてきている。本講義は、女性と労働を取り巻く現状を、客観的・科学的な視点で総合的かつ複眼的にとらえ、そのあり方についての理解を深めるとともに、女性労働をめぐる法律や諸制度を学んだうえで、自分の人生に向き合い、各ライフステージごとに、自分らしい働き方・生き方を実践していく知恵を身につけることを目標とする。</p>	
	女性と法律	<p>ジェンダー概念が法学および社会科学全体にもたらした意義を確認するとともに、ジェンダー視点から法学そのものを捉え直し、ジェンダー平等社会のあり方について考えることを目的とする。具体的には、まず、ジェンダーに関する概念および理論の展開について歴史的文脈からの習得・理解を通じて、社会各領域（家族、職場、教育、司法、政治等）で起きている性をめぐる現象についてジェンダー・センシティブに捉える視点を獲得する。つぎに、関連する判例や資料（文献、メディア情報、映像等）を用いて法の世界にみられるジェンダー問題およびその問題状況の背景にある要因について講義・検討する。その際には、グローバルな視点も取り入れ日本社会を相対化し、問題解決に必要な打開策への示唆を探る。最終的には、本講義は、尊厳ある「個人」として生きられる社会とは何か、法と政治はどうあるべきかについて考えるためのきっかけを提供することを到達点とする。</p>	
	ジェンダー論	<p>女子大学における教養科目として、現代社会におけるジェンダー（文化的社会的性）とはなにかを理解することが求められる。</p> <p>現代の日本社会にはどのような社会的文化的性別役割が存在し、そのなかでこれからの時代を生きる女性として、どのように主体的に生きていくか考えることをねらいとする。</p>	
	文化人類学	<p>文化人類学 (Cultural Anthropology) は、かつて「文化の科学」と呼ばれ、これまで多くの人類学者が世界のさまざまな地域へフィールドワーク（現地調査）に赴き、浩瀚な文化理論を生み出してきた。この講義は、文化人類学の歴史と理論に関する体系的理解を深めるとともに、事例の分析や解釈を通して、人類学的思考を身につけることを目的としている。世界各地の事例をテーマとして、異文化理解における同時代的課題の発見とその解決に向けた手がかりの探求を目途とする。</p>	
	異文化コミュニケーション	<p>文化的多様性にあふれる現代社会において、日本語や英語、あるいは他の言語を使って他者との関係を構築、維持するためにどのような知識とスキルが必要か。また、文化理解とコミュニケーションはどのようにかわり合っているか。この講義では、異文化コミュニケーション学で重要視されるいくつかの理論をわかりやすく解説するとともに、それらをどのようにグローバル・コミュニケーション実践へとつなげていくことができるのか、学生とともに考えていく。</p>	

国際理解	国際関係論	本授業では、現代世界において極めて重要ないくつかの概念——(集団)安全保障、人権、グローバリゼーション……——について取り上げ、それらが国際関係論としてどのように論じられてきたのかを解説する。そしてその説明に際して、国際政治をテーマとする二つの代表的な著書——ハンス・モーゲンソウの『国際政治』とジョン・ロールズの『万民の法』——にも言及し紹介していく。こうした古典的な研究を通じて、これまで学術的な探求として国際政治のどのような現実の把握が試みられ、どのような理想が描かれようとしていたのかを学ぶ機会を提供する。それによって、国際社会の一員として生きる上での基礎的な教養を身につけることとともに、国際社会において現実を重視するのかそれとも理想を重視するのかといった、単純な二者択一の見解を反省的に捉えることを、本授業の主な狙いとした。	
	国際理解教育	グローバリゼーションの現在、世界各国の様々な分野について日本との違いや類似点、関係性などを学び、グローバルな視点から豊かな人間形成に役立つ幅広い教養を身につけ、国際理解能力を養うために必要な基礎知識を習得する。本講義では特に、国際社会の中の東アジアに対する捉え方・考え方により重点をおいて授業を展開する。今現在なぜ東アジア地域内の各国の社会現象は異なっているのかという問いに対して、各国特有の経済・政治・社会・文化など多様なシステムについて学習しながらその答えを考察する。本講義で取り上げた題材をもとに、ディスカッション及びプレゼンテーションを通じて、自分なりの考え方を主張できる能力を向上させることを目指す。	
	経済学	現代社会を生きる人間にとって、経済は重要な環境である。この環境は、人間が生み出しているとともに、この環境がまた、人を結び、物を動かし、貨幣を移動させ、地域社会をつくっている。経済を社会の基礎としてとらえ、経済の基本的なしくみと歴史的な成り立ちを理解することによって、現代社会を読み解くための知識を身につけてもらうことを目的とする。	
	社会学	この授業は、社会学的研究に関心を持つ人を対象に、これまで社会学という学問領域で蓄積されてきた基本的な知識を紹介・解説していくことを通じて「社会学とは何か」「社会学ではどのようなことが問題とされているのか」「社会学ではどのような方法で社会現象を分析するのか」といったことについての理解を深めてもらうことを目的としている。それらは、社会学的研究において必要な知識・知的技能の一部であり、いわば「大学で社会学を学ぶ」ということの「入り口に立つ」と言い換えることもできるであろう。また、この授業は社会福祉士国家試験受験資格取得に必要な科目(社会福祉士法に定められている指定科目「社会理論と社会システム」に対応)でもあり、上記の資格取得を希望する人も対象に含まれる。したがって、国家試験の受験へと向けて、各々で今後の自学自習を進めていく上で、最低限必要となる知識を習得してもらうことも重要な目的の一つとしている。そのため、授業の中では特に社会学で用いられる「用語の意味」や、その「用法」についての解説に重点を置きながら進めていくことを予定している。	
	日本国憲法	複雑・多様化する社会において、人間社会の最低限のルールとしての憲法やその中核をなす人権の基礎知識を身につけることを目指す。本講義では、憲法を基礎とするわが国の法制度の中で、現代に起きてきている様々な「人間」ないしは「個人」が問われる問題を扱いつつ、上記の目的を達したいと考える。	
	心理学	心理とは、心の働きや変化、状態のことをいう。私たちは、日常いろいろなことを感じたり考えたりしながら行動している。そこにいつも心は関わってくるが、心は実際に目で見ることや触ることはできない。心理学は、実際に身体などで確認しにくい人間の心理や行動について科学的に研究する学問である。実験やデータを用いて客観的に考えていく態度が必要である。この授業では、まず、心理学の歴史をはじめ、さまざまな分野、領域を取り上げ、基礎的な知識を身につけていく。その中で心理学的な見方や考え方を理解し、日常生活におけるの自分や相手の気持ちや行動の背景、そして社会のあり様を考える手がかりとして活用できることを目指す。	
	音楽	なぜ楽譜は5本線で記されているのか? どうして「ト音記号」と呼ぶのか? ドレミファソラシド・・・はこの国の言葉? など、普段から何気なく使用されている音楽に関する疑問や一般常識を、わかりやすく検証・考察することで、音楽への興味や考えをより深く豊かなものになりたい。	

美術論	『ルネッサンスから現代アートまで』 イタリアで興ったルネッサンスは世界の芸術の基盤となり、現代のアートを創りだした。私たちの身の回りには世界的なアートが案外気づかれず存在し、また生活と密着したアートも多く存在している。知らなければ何も見えない、少し関心を持つだけで、素晴らしいものが見えてくることに関心が持てるようになることを目標とする。	
日本語文学	<p>「日本語文学」とは何か？それは、簡単な問いのようで実はとてもむずかしい。</p> <p>たとえば、「万葉集」は、万葉仮名という漢字で書かれているし、長らく支配的エリートの読む/書く文献は、訓読漢文であった。こうした歴史的現状に立ち、本講義では、翻訳文学も「日本語文学」ととらえることで、「世界文学」とは何かを考えていきたい。</p> <p>(28 関谷博／平成32年度、平成33年度担当) 中島敦と世界文学 中島敦は日本の植民地統治下の朝鮮での生活、およびパラオで南洋庁・教科書編集書記としての体験をもった作家である。緊迫した政治的状況下で彼は日本語について、日本語と文学の関係について、どのような思索をめぐらせたのか、考えてみたい。</p> <p>(29 種田和加子／平成34年度、平成35年度) 沖縄文学を読む 沖縄の現代作家、目取真俊、崎山多美などを扱う。「水滴」（目取真）、「くりかえしがえし」（崎山）などを予定している。</p>	<p>集中</p> <p>2年毎に担当者が変更</p>
英語圏文学	<p>近現代の英語圏文学について、小説を中心に概観する。各時代の歴史・社会的背景、主要な作家や作品の紹介に続き、良く知られている小説についてはテキストの一部を原文で読み、解説を加える。英語圏の文学作品に触れる機会を持ち、自ら作品に親しむようになることを期待する。そのために、学生の興味や関心につなげられるような課題を設定したり、学期中に一度、文学関連の図書の検索や利用についてのガイダンス等を行うなどする予定である。</p>	
アジア圏文学	<p>古代中国で誕生した漢字とそれによって記述される言語としての漢文が、しだいに周辺地域へと浸透し、中国を中心とした文明圏における共通の文化基盤となるに伴い、「漢詩」もまたこの文明圏における必須の教養となっていった。人間の心理活動を表現する「詩」の共有は、各地域の文化の多様性を超えた共通のものの方をこの文明圏にもたらすものだったと言える。この授業では、中国をルーツとする文学を知ることを通じて、東アジア圏共通の感性のあり方を理解することをめざす。</p> <p>(28 関谷博／平成34年度、平成35年度) 韓流ドラマにみる日本文化と韓国文化 日本において漢詩の持つ文化的想像力は、近代化の進展と共に次第に失われていったが、しかし漢詩を母体とする詩的創造力は韓流ドラマにおいて、今なお盛んである。ドラマ分析を通して、日本と韓国の文化的差異を考察し、それが両国の“文学的たたずまい”をどのように規定しているのかを考える。</p> <p>(30 山本綏子／平成32年度、平成33年度担当) 上田秋成『雨月物語』に収録された話には、中国文学を典拠とするものが多い。それらは典拠の直接的な翻訳ではなく、設定・表現などを改案し、日本の物語として新たに創りかえたものである。『雨月物語』を典拠と読みくらべることによって、江戸時代の日本人が漢詩を含む中国文学をどのように受け入れ、自分たちの文学・文化として成熟させていったのかを学ぶ。</p>	<p>集中</p> <p>2年毎に担当者が変更</p>
言語学	<p>私たちは日常生活を送っていく中で、「ことば」を意識して使うことはほとんどない。むしろ、無意識的にことばを使って自らの考えを表すことができる。また、ことばは個人の使用のみならず、社会共同体の中で慣習化され、時代と共に変化したり、常に変化する可能性を秘めている。この授業では、人のことばを科学的・体系的な視点から捉え直し、ことばについて深く考えてみたいと思う。具体的には、ことばは私たちの文化や出来事の解釈と密接に結びついていることを学んでいく。授業で対象とする言語は日本語や英語を中心とする。</p>	

## 人間形成

子ども学	この講義では、子ども理解というテーマのもと、歴史的・文化的視点からのアプローチ、心理学的・現代社会論的視点からのアプローチ、保育・教育実践的視点からのアプローチなど、様々な視点を通して通して、今日の子どもの現状を捉え、それらの現状がなぜ引き起こされるのかについて解説していく。その上で、子どもと大人がどのようにしたら相互に成熟し合える関係を築くことができるのかについて考えていく。	
西洋史	「グローバリゼーション」とよく言われるように、今日、私たちは一体化した世界のなかに暮らしている。この一体化した世界は、地球上のそれぞれの地域が対等に参与してつくられたというよりも、ヨーロッパの影響の拡大によってつくられたという側面が強い。本講義では、このような意味で今日の世界の成り立ちに大きな影響を及ぼしたヨーロッパの歴史を、ヨーロッパ世界の形成の基礎となった古代、ヨーロッパが独自の世界として確立する中世、ヨーロッパ世界が非ヨーロッパ世界へと拡大してゆく近代と、時代を追いながら概説的に学ぶ。ある意味ではヨーロッパ中心の歴史的な見方を提示することになるが、これを無自覚に絶対的なものとして学ぶことにならないよう折にふれて注意を促したい。	
日本史A	本講義は、日本の古代から中世、近世初頭の流れについて、概要を理解するとともに、日本史研究の基礎を学ぶことが目的である。歴史を学ぶ際には、まずは広い範囲の知識を持ち、そこから深く学んでいく必要がある。そのため、政治だけではなく、社会の変化、海外との関係も含めて、幅広く講義する。 また、研究者によって見解が別れている点について、そうした違いが生じた理由を、元となった史料も用いながら紹介することで、歴史学の研究方法の基礎も身につけられるようにする。	
日本史B	江戸時代から明治維新後の政治と対外関係の概要について理解を深めることを目的とする。260年余り続いた近世国家と明治維新後に新たに成立した近代国家による国内政治および対外関係の変遷について概観する。また、同時代の蝦夷地（北海道）の動向も見ること、広い視野のなかで近世および近代国家について考えていく。全体を通じて、出来るだけ多くの史料に触れながら、暗記科目とは異なる日本史研究の世界に慣れ親しんでいくことを目指す。	
東洋史	毎回、一つの「時代」を取り上げる。まず、その「時代」のユーラシア大陸と周辺海域の大まかな歴史的特徴をつかまえる。続いて、アジアで興亡した主要な国家を取り上げ、それらの関係性に注目する。また、民族の移動、文化の伝播、特定の間人集団の動向にも注意を払いたい。こうして、アジア史の大きな流れをつかむことがねらいである。	
哲学	哲学は人間や世界に関して人々が感じる根本的な疑問を発端とする知的な営みである。哲学者は、自分や他人の心、言葉や社会の起源、認識の確実性、情念と理性の然るべき関係、人生の意味など、誰もが感じるであろう疑問について、古代ギリシアの時代から様々な考察を行ってきた。こうした哲学という知的な営みは、物事に対する我々の考え方や見方を養うものであると共に、自己反省や他者との対話といった私たちの実生活の上でも十分に役立つものである。 ところで、こうした哲学という営みは単に思弁的なものに留まるだけでなく、炭鉱でその声を響き渡らせるカナリアのように自身の生きる時代に対する警鐘を鳴らす役割を持ったものでもあった（K. ヴォネガット「アメリカ物理学協会への講演」1969年）。この授業では、西洋思想史上における哲学の主要なトピックに関する古代から現代に至るまでの哲学者たちの考えを紹介していくが、その際、そうした哲学者の生きた時代的コンテクストに注目し、彼らの考えがその時代においてどのような意義や役割、先見性を持つものであったのかも併せて見ていく。	
倫理学	本講義では、古代から近代にわたる倫理学の代表的思想家を取り上げ、それぞれの立場や意義を紹介するとともに、現代を生きる私たちへの影響や問題点を考察する。そして、さまざまな思想家の考え方やその思考過程を知識として得るだけではなく、それらを使って、「倫理的に生きる」とはどのようなことか、行為の善悪や正不正をどのように判断するか、自分や社会が抱える問題をどのように解決するかといったことについて、各人が自分なりに考える能力を身につけることを目指す。	

## 歴史・思想

自然・科学	環境科学	私達は、大気圏、水圏、地圏という環境に囲まれているが、人類活動により大気汚染、水質汚濁、土壌汚染といった公害問題や地球温暖化、オゾン層の破壊、酸性雨といった地球環境問題が生じている。また外来生物や野生生物の保護といった生物圏の問題もある。このような種々の環境問題の現状と問題点を講義し、環境保全、自然保護についての知識を養う。 また、環境保全の取り組み、環境に配慮した生活を学び、社会の一員としての責任を自覚させる。	
	自然と化学	自然界のすべては、約100種類の元素でできている。元素や化学物質などの性質についての化学的基礎を講義する。日常生活において、種々の元素や化学物質が利用されていることを意識させる。自然界における化学物質の利用が我々の生活に利便性をもたらす半面、自然環境に影響を与えている場合があることを認識させる。エネルギー（電池など）や食品加工の分野でも化学の役割を認識させる。 身近な事例を示しながら講義する。	
	生命科学	授業目的は、大学生が身につけているべき基礎科学として、様々な生命現象について分子レベルから集団レベルで、理論的に理解できるようになることである。そのために、生体分子・細胞・器官の構造とはたらき、遺伝子の機能と遺伝現象、個体・集団・種・生態系の多様性と進化について、具体的な例をあげながら、わかりやすく学べるようにする。さらに、このような学習を通して、現代社会で課題となっている、遺伝子組換え食品、再生医療、環境保全などのあり方について、背景を十分理解して考えていくことができるようにする。	
	数学	人間生活学科、食物栄養学科、保育学科のいずれの学生であろうとも、日常生活において物事を数学的あるいは論理的にとらえることはとても重要である。授業では、日常的に現れる幾つかの数学の基本事項（事象）について解説し、数学の本質である論理的な思考法に慣れ、さらに論理的思考力を身につけることを目的とする。また、必ずしも生活には密着してはいないが、楽しめる「数独」や、数学的内容を実験的に興味深く確認できる「トポロジー」なども取り入れる。補足として、就職試験によく使われるSPIの問題演習も取り入れる。	
	物理学	乗り物や家庭電化製品を扱う際には、物理学的な視点を持つことが重要である。物事を物理学的に正しく理解していなければ身の危険にさらされることさえある。この授業は、日常生活で出会う様々な物理現象に対して、それらが物理学のどのような法則や原理と関係しているのか、そのカラクリを理解することにより、具体的な問題に対して物理的に正しく対応出来るようになることを目的とする。 文科系の学生でも常識として知っておくべき事柄を精選し、数学的な取り扱いはごく簡単なものに限って解説する。簡単な実験・実演や映像も交えながら、分かり易い説明を心がける。	
	ライフステージ栄養学	<p>（概要） 女性にとって必要な一般的な食に関する知識から学び、心身共に健康な食生活を送ることができる正しい情報を身につけ、氾濫する食情報から自分に必要な情報を判断できる。</p> <p>（オムニバス方式・共同（一部）／全15回）</p> <p>（22 池田 隆幸／2回） 食生活と安全：食品衛生と食中毒 食生活と安全：食品の機能性と表示 （23 菊地 和美／1回） 食生活と安全：食品の調理・加工と栄養 （33 隈元 晴子／6回） オリエンテーション：自分の食生活を見つめる わたしたちの食生活「むかし」と「いま」：日本食の歴史と疾病の変遷 いのちを育む食生活：次世代の健康と栄養 こころを育む食生活：ストレスと栄養 こころを育む食生活：睡眠・休息・運動と栄養 食生活と情報：SNSやメディアの活用と栄養 （25 三田村 理恵子／2回） 毎日の食生活と健康：栄養の基礎知識（5大栄養素） からだを育む食生活：女性のライフステージ栄養学 （26 村田 まり子／2回） 食生活の実践：毎日の献立と栄養 食生活と情報：中食・外食の活用と栄養 （33 隈元 晴子・26 村田 まり子／2回）（共同） 昼食会（朝食会）：調理実習とふりかえり（1） 昼食会（朝食会）：調理実習とふりかえり（2）</p>	オムニバス方式・共同（一部）

健康	健康の科学	主体的な健康構築法について講義する。とくに日常生活（精神生活、身体活動、食事、睡眠等）の諸原則を提示し解説する。人間は、環境および身体臓器のコミュニケーションの中でその主体性を発揮している。病気や障害は、これらのコミュニケーション不足に由来することから、コミュニケーションの改善により成長して主体性を発揮するきっかけにもなる。このように成長して主体性を発揮する人間のための健康長寿の諸原則を提示する。	
	運動の科学	本科目では人間生活の基本である健康・体力・身体活動に関する知識を学ぶとともに、これらを積極的に高めていく態度や能力を養うことを目的としている。身体活動の意義や健康に関する諸問題を科学的に理解することは、現在の学生生活には必要不可欠である。また、将来の社会生活における健全な生活実践へ向け、豊かで充実したライフスタイルを確立するための知識と技能を習得することも目的のひとつである。	
	運動の実践A	○軽スポーツA 軽スポーツや健康づくり運動、レクリエーション活動の実践を通して自らの体力の維持増進を行い、生涯にわたる運動・スポーツ・レクリエーションの習慣化を図ることをねらいとする。  ○テニス 人間生活の基本としての健康・体力および身体運動の重要性を実践を通して認識し、生涯にわたる運動ならびにスポーツの生活化の習慣をはかることをねらいとする。授業の展開はゲームを中心に、チームワークの重要性や協調性などを養いながら、技術の向上を目指していく。  ○バレーボール 走る・跳ぶ・打つといった基本的な身体運動を通し、各種体力の維持・増強を図る。ゲームを通じ、協調性・フェアプレイの精神・マナー等の社会性を養うとともにゲームの楽しさを知る。生涯スポーツの習慣化を図る。	共同
	運動の実践B	○卓球 この授業では卓球についてその基本的技術を習得し、さらにゲームを通して皆と運動を楽しむ経験を積み重ねることにより、生涯に渡って積極的にスポーツに取り組む意義を理解し、意欲を養うことをねらいとする。  ○軽スポーツB 軽スポーツや健康づくり運動、レクリエーション活動の実践を通して自らの体力の維持増進を行い、生涯にわたる運動・スポーツ・レクリエーションの習慣化を図ることをねらいとする。  ○バドミントン シャトルコックの特性を知り、クリアー・ドライブ・スマッシュなどの基本的フライトをいろいろなストロークで打ちこなすことができる。ゲームを有利に進めるためディセプションやアンティシペーションなどの技術を身につけながら、ゲームの楽しさを知る。各種の体力の維持・増進と生涯スポーツの習慣化を図る。	共同
健康	文章表現	本講では、講義と実践を通して、適切な日本語で文章を書く力（表現力）、論理的な文章を的確に読解しまとめる力（要約力）、それに対する自分の考えを第三者に対して効果的に伝える力（論理的思考力、構成力）を総合的に高めていく。さらに、文献を引用する際のルールや、書誌情報の書き方など、レポート・論文を作成するうえで必要な知識を身につけていく。この講義によって、学生生活において必須となるレポートを作成するための考え方を理解することができる。	
	統計学	統計学は、 ・データ集団の特徴や傾向を数値化する ・少数のデータからその背後にある膨大なデータを推測する 学問である。 たとえばものの値段を高い・安いと判断する、天気予報を見て傘を持つなど、私たちは日常的に統計に基づいた判断をしながら生活している。まずは統計が身近なもので、種々の選択や決定の材料を与えていることに気づいてほしい。また、さまざまな情報に接するときにそれを鵜呑みにせず、「統計的に正しいか」を立ち止まって考えられる力を身につけることを期待する。 統計は実験・研究分野はもちろんのこと、品質管理、生産管理、売上管理、成績管理などあらゆる実務分野で用いられており、データ分析のできる人材への養成が高まっている。本講義では数学的な解説よりも、解析の目的を理解すること、結果の解釈ができることに重点を置く。また、統計計算については自習しやすいようにExcelを利用する。	

リテラシー	情報処理の基礎	現代社会に於いて、コンピュータはあらゆる場面で使われており、もはや必要不可欠な社会基盤である。 この授業では、情報処理の基礎知識として、コンピュータの基本構成やオフィスツールの操作方法について学び、完成度の高いドキュメントを作成するテクニックと活用する能力、そして適切な情報リテラシーを身に付けることを目指す。 演習では、様々の現場での実践的な活用に向けて情報機器を使用してどのような作業ができるのか、どういった場面でコンピュータが有用であるかなどを含めて幅広い知識と応用力を習得することを目的とする。	
	情報リテラシー A	情報を的確に選択し利用するための情報アクセス能力を高めることがねらいである。そのために、①情報検索の考え方を学び実習する。②情報の整理方法や情報の整理に使われるコンピューターの言語やソフトを学び実習する。③各自のテーマでプレゼンテーションとレポート作成をすることで、情報に関わる技術の理解を深める。全授業の課題をこなしていくことで、レポートや卒業論文などの作成に必要な情報リテラシーの基礎を身につけていく。コンピュータについては全くの初心者であることを想定している。	
	情報リテラシー B	情報リテラシーA受講済みの学生を対象とした科目である。住所録のような簡易なデータベースを実際に作成することで、データベースの仕組みを学ぶ。コンピュータについては、全くの初心者であることを想定している。情報を的確に選択し効果的に利用するための情報アクセス能力を高めることを目標とする。そのために、①プロトコルの使い方などネットワークの活用を練習する。②MySQL (図書館・会社でよく使用されているSQL) を用い検索の仕組みを学ぶ。③PHP言語も加え検索を作成する。受講者の状況によっては④統計ソフトRなど他のプログラムとの組み合わせ方法も勉強する。授業の最後には⑤受講者の作成した検索を相互に評価しあう。情報の整理方法や情報の整理に使われるコンピューターの言語やソフトを学ぶことで、情報に関わる技術の理解を深める。全授業の課題をこなしていくことで、レポートや卒業論文などの作成に必要な情報リテラシーの基礎をさらに身につけていく。	
共通科目	Academic Communication I	大学レベルの学術的なコミュニケーションに必要な4技能 (Speaking, Listening, Reading, Writing) の基礎力を総合的に養成する。Academic Communication I では、発音・リスニングの基礎、コミュニケーションのための基本的語彙・文法項目の習熟、キャンパス等のアカデミックなシーンで必要となるコミュニケーションの基礎スキル、大学での学びにおいて大きな意味を持つクリティカル・シンキングの基本などを扱う。	
	Academic Communication II	大学レベルの学術的なコミュニケーションに必要な4技能 (Speaking, Listening, Reading, Writing) の基礎力を総合的に養成する。Academic Communication II では、特定のテーマにもとづいて(theme-based)、オーセンティックな素材 (authentic materials: 学習者用に作られた人工的な教材ではなく、実際に社会で発表・活用されている素材) を多用しながら、グループで協力してリサーチしたり、調べた内容をポスターやプレゼンテーションにして発表したり、その結果を簡単なレポートにまとめたりといったプロジェクト型学習 (project-based learning) を目指す。	
	Essential Vocabulary & Grammar	中学・高校を通して英語が不得意である、苦手意識がある、基礎からもう一度英語を学びたいと思っている学生対象のコースである。語彙に関しては「語と語の慣用的な結びつき」のコロケーションを学習することにより、日常に必要な語彙力を身につけていく。また、中中で学ぶ基礎文法の重要事項を確認し、練習問題をこなしていくことによって、英語理解や表現力の基礎を固めていくことを目的としたコースである。	
	Interactive English A	このコースは、これまでに身につけた「手持ち」の英語の知識・スキルを基礎として、比較的身近なトピックについて実際に英語を使って対話やディスカッションをすることで、英語によるコミュニケーション能力の育成を実践的にはかることを主眼としている。従って、英語を使うことによって学ぶ (use English to learn it) を基本とし、自分の持っている知識を最大限に活用するストラテジーやスキルを意識的に取り上げ、その過程で、ディスカッションで頻出する便利な表現や語彙についても学ぶ。何よりも、英語を使って自分の意思を伝えることを「楽しむ」ことを最重要視する。Interactive English Aでは、主にグループディスカッションと簡単なスピーチを中心に練習を行う。	

Interactive English B	<p>このコースは、これまでに身につけた「手持ち」の英語の知識・スキルを基礎として、比較的身近なトピックについて実際に英語を使って対話やディスカッションをすることで、英語によるコミュニケーション能力の育成を実践的にはかることを主眼としている。従って、英語を使うことによって学ぶ (use English to learn it) を基本とし、自分の持っている知識を最大限に活用するストラテジーやスキルを意識的に取り上げ、その過程で、ディスカッションで頻出する便利な表現や語彙についても学ぶ。何よりも、英語を使って自分の意思を伝えることを「楽しむ」ことを最重要視する。Interactive English Bでは、主にプレゼンテーションと質疑応答のスキルを中心に練習を行う。</p>	
Practical English A	<p>(英文) This course aims to help students develop confidence in speaking English in common everyday practical situations and to do so without fear of making mistakes. There is a clear focus on verbal communication which is supplemented with extensive listening and minor reading tasks. Students are expected to use English only in the classroom where that is practical and learn how to use the specific grammatical objectives in group and/or pair verbal presentation projects. The classes will follow Units 1-6 of the textbook plus additional materials.</p> <p>(和訳) 本コースでは、日常生活の中で遭遇する頻度の高い場面で、間違いを恐れずに英語を実際に使ってコミュニケーションする自信を育むことを主な目的としている。従って重点はスピーキングに置かれるが、それを補うための長めのリスニング課題と短めのリーディング課題も取り入れている。履修者は教室でグループまたはペアで行う様々な口頭発表プロジェクトを通して特定の文法習得事項を実践的に使いこなす練習をしていく。前期はテキストの Unit 1～6に取り組み、補助教材も提供する。</p>	
Practical English B	<p>(英文) This course aims to help students develop confidence in speaking English in common everyday practical situations and to do so without fear of making mistakes. There is a clear focus on verbal communication which is supplemented with extensive listening and minor reading tasks. Students are expected to use English only in the classroom where that is practical and learn how to use the specific grammatical objectives in group and/or pair verbal presentation projects. The classes will follow Units 7-12 of the textbook plus additional materials.</p> <p>(和訳) 本コースでは、日常生活の中で遭遇する頻度の高い場面で、間違いを恐れずに英語を実際に使ってコミュニケーションする自信を育むことを主な目的としている。従って重点はスピーキングに置かれるが、それを補うための長めのリスニング課題と短めのリーディング課題も取り入れている。履修者は教室でグループまたはペアで行う様々な口頭発表プロジェクトを通して特定の文法習得事項を実践的に使いこなす練習をしていく。前期はテキストの Unit 7～12に取り組み、補助教材も提供する。</p>	
Academic Listening & Note-taking	<p>(英文) This course is designed to help students become confident and efficient listeners and note-takers by providing practice opportunities to use strategies for listening to academic talks and lectures and taking effective notes.</p> <p>(和訳) 本コースは、学術的な内容のトークや講義を聞いて理解したり、効果的なノートを取るために学習者が用いるべき方略を実践的な演習を通して訓練をすることで、英語でのリスニングとノートテイキングのスキルを高めることを目的としている。</p>	
Academic Speaking & Discussion	<p>(英文) This course is designed to help students become confident and effective speakers in academic situations. The specific focus is on group discussion skills and presentation skills essential for successful communication and meaningful interactions at the college level.</p> <p>(和訳) 本コースは、学術的な事柄に関わる場面でのオーラル・コミュニケーションにおいて、臆することなく且つ効果的に自分の意志や考えを伝えられるスピーキング・スキルを養うことを目的としている。特に、大学レベルで英語での円滑なコミュニケーションを行い意味のあるやり取りをするためには不可欠であるグループディスカッションに必要なスキルを中心に訓練する。</p>	



Academic Reading I	<p>(英文) This class is designed to help students develop solid academic reading skills through exposure to important current issues concerning science and technology. Although the main focus will be on reading exercises, ample opportunities will be provided to practice the other three skills (speaking, listening, and writing) as well. Lessons will include various exercises and group activities that utilize video clips and other supplementary materials, video clips. As part of the reading focus, extensive reading will also be introduced at the beginning of the course to help students improve reading fluency and, above all, learn the joy of reading in English.</p> <p>(和訳) 本コースは、広義の科学技術に関する現代の諸問題についてのリーディングを通じて、アカデミックな文章を読むために必要なスキルの堅固な基盤を養うことを目的としている。主眼はリーディングに置かれてはいるものの、他の3つのスキル（スピーキング、リスニング、ライティング）に関する訓練も同時に行う。授業では、様々な演習問題やグループワークに加えて、ビデオ教材やその他の補助教材を用いる。また、リーディングの訓練の一環として、多読 (extensive reading)も最初の段階で取り入れることで、読みの流暢さ (reading fluency) を高め、英語で読書する楽しさを覚えることも意図されている。前期は、「比較と対照 (comparison and contrast) や「原因と結果 (cause and effect)」といった、学術的なテキストの基本的な構造を中心に学ぶ。</p>	
Academic Reading II	<p>(英文) This class is designed to help students develop solid academic reading skills through exposure to important current issues concerning science and technology. Although the main focus will be on reading exercises, ample opportunities will be provided to practice the other three skills (speaking, listening, and writing) as well. Lessons will include various exercises and group activities that utilize video clips and other supplementary materials, video clips. As part of the reading focus, extensive reading will also be introduced at the beginning of the course to help students improve reading fluency and, above all, learn the joy of reading in English.</p> <p>(和訳) 本コースは、広義の科学技術に関する現代の諸問題についてのリーディングを通じて、アカデミックな文章を読むために必要なスキルの堅固な基盤を養うことを目的としている。主眼はリーディングに置かれてはいるものの、他の3つのスキル（スピーキング、リスニング、ライティング）に関する訓練も同時に行う。授業では、様々な演習問題やグループワークに加えて、ビデオ教材やその他の補助教材を用いる。また、リーディングの訓練の一環として、多読 (extensive reading)も最初の段階で取り入れることで、読みの流暢さ (reading fluency) を高め、英語で読書する楽しさを覚えることも意図されている。後期は、主旨 (main points) やそれを支える詳細情報 (supporting details) などの理解に加えて、筆者の意図を汲み取ったり、事実 (fact) と意見 (opinion) の違いを判別したりする、より高度なスキルも扱う。</p>	
Skills for the TOEFL I	<p>TOEFL (Test of English as a Foreign Language)は、主にアメリカなどの英語圏の大学・大学院への留学希望者が、授業についていけるだけの英語力の基準に達しているかを測る目安として使われる英語能力テストだが、近年グローバル人材の育成が叫ばれる中、「世界標準の英語力」を示すのに有効な尺度としても内外で大きな脚光を浴びている。本コースでは、単にTOEFLのスコアを上げるテクニックを学ぶのではなく、EAP (English for Academic Purposes: 学術目的の英語)の基礎力を身につけることを主眼としている。</p>	
Skills for the TOEFL II	<p>TOEFL (Test of English as a Foreign Language)は、主にアメリカなどの英語圏の大学・大学院への留学希望者が、授業についていけるだけの英語力の基準に達しているかを測る目安として使われる英語能力テストであるが、近年グローバル人材の育成が叫ばれる中、「世界標準の英語力」を示すのに有効な尺度としても内外で大きな脚光を浴びている。本コースでは、単にTOEFLのスコアを上げるテクニックを学ぶのではなく、EAP (English for Academic Purposes: 学術目的の英語)の基礎力を身につけることを主眼としている。</p>	

English for Global Communication	このコースは、グローバル化が進む世界で国際社会の一員として、地球規模で重要な意味を持つ諸問題について客観的かつ論理的に思考し、自分自身の言葉で意見を述べ、文化・社会的背景や考えの異なる人々と意義のある対話をするための英語力と批判的思考スキル (critical thinking skills) のしっかりとした基盤を作ることを目的としている。従って、英語「を」学ぶのではなく、英語「で」あるいは英語「を通して」、日常生活に影響を及ぼす諸問題について学び、考察し、議論し、提案し、評価する、一連のプロセスを最重要視する。	
CLIL English	このコースは、専門の入り口となるような内容を英語で学びながら知識を身につけ、同時に、そうした内容について説明したり議論したりする英語力の基礎を養成することをねらいとしている。すなわち、内容 (専門分野の基礎知識) と言語 (英語を使うスキルや能力) の両方を主眼に据えた (dual-focused) 学習を目指している。それが、CLIL (content and language integrated learning) の基本理念である。従って、単純に英語でのコミュニケーションスキルを身につけるのではなく、知的関心を引くようなテーマやトピックについてある程度体系的に学びながら、ディスカッションや対話を通して新たな発見をしていく中で、自分自身の価値判断や行動の基準枠 (frame of reference) を英語という言語を媒介にして広げていくプロセスを最重要視する。	
初級ドイツ語 I	ドイツ語を学び、最終的に自らの専門分野に活かすことができるようになれば、これほど望ましいことはない。しかし、そのようなレベルに到達することは容易ではなく、大学での授業に参加するのみならず、自ら興味を持ち、学ぶ姿勢を身につけることが必要となる。この姿勢を身につける前に躓かぬよう、授業ではドイツ語を聞き、読み、話し、書く練習を、ていねいに幅広く行う。将来飛躍的にドイツ語力を伸ばすための基礎を固めることがねらいとなる。	
初級ドイツ語 II	ドイツ語を学び、最終的に自らの専門分野に活かすことができるようになれば、これほど望ましいことはない。しかし、そのようなレベルに到達することは容易ではなく、大学での授業に参加するのみならず、自ら興味を持ち、学ぶ姿勢を身につけることが必要となる。この姿勢を身につける前に躓かぬよう、授業ではドイツ語を聞き、読み、話し、書く練習を、ていねいに幅広く行う。初級ドイツ語 I に引き続き、将来飛躍的にドイツ語力を伸ばすための基礎を固めることがねらいとなる。	
中級ドイツ語 I	ドイツ語を学び、最終的に自らの専門分野に活かすことができるようになれば、これほど望ましいことはない。しかし、そのようなレベルに到達することは容易ではなく、大学での授業に参加するのみならず、自ら興味を持ち、学ぶ姿勢を身につけることが必要となる。この姿勢を身につける前に躓かぬよう、授業ではドイツ語を聞き、読み、話し、書く練習を、ていねいに幅広く行う。初級ドイツ語に引き続き、将来飛躍的にドイツ語力を伸ばすための基礎を固めること、そして問題演習を行うことで応用力を付け始めることがねらいとなる。	
中級ドイツ語 II	ドイツ語を学び、最終的に自らの専門分野に活かすことができるようになれば、これほど望ましいことはない。しかし、そのようなレベルに到達することは容易ではなく、大学での授業に参加するのみならず、自ら興味を持ち、学ぶ姿勢を身につけることが必要となる。この姿勢を身につける前に躓かぬよう、授業ではドイツ語を聞き、読み、話し、書く練習を、ていねいに幅広く行う。中級ドイツ語 I に引き続き、将来飛躍的にドイツ語力を伸ばすための基礎を固めること、そして問題演習を行うことで応用力を付け始めることがねらいとなる。	
ドイツ語演習 I	ドイツ語はきちんと法則にしたがって構成されているので、とても学びやすい言語である。1年次で得た技能に磨きをかけ、ドイツ語のコミュニケーション能力を高めていく。またドイツ語圏の社会や文化について理解を深め、広い視野から世界を眺める力を伸ばしていく。	
ドイツ語演習 II	ドイツ語はきちんと法則にしたがって構成されているので、とても学びやすい言語である。ドイツ語演習 I に引き続き、1年次で得た技能に磨きをかけ、ドイツ語のコミュニケーション能力を高めていく。またドイツ語圏の社会や文化について理解を深め、広い視野から世界を眺める力を伸ばしていく。	

外国語科目

上級ドイツ語 I	この授業では、少なくとも2年間、ドイツ語をすでに学んだ人を対象として、より進んだドイツ語の能力を身につけるための発展的な訓練を行う。基礎的な文法事項を復習しながら、複雑な文章に親しみ、表現力の養成に力点を置く。発音指導もできるだけ行う。会話表現を中心に、日常的なトピックを扱う。比較的少人数の授業になることが予想されるので、効率よくドイツ語力をアップさせることができるであろう。	
上級ドイツ語II	この授業では、少なくとも2年間、ドイツ語をすでに学んだ人を対象として、より進んだドイツ語の能力を身につけるための発展的な訓練を行う。基礎的な文法事項を復習しながら、複雑な文章に親しみ、表現力の養成に力点を置く。発音指導もできるだけ行う。文章表現を中心に、文化的なトピックを扱う。比較的少人数の授業になることが予想されるので、効率よくドイツ語力をアップさせることができるであろう。	
初級フランス語 I	フランス語の基礎的な文法や発声・発音、日常でよく使われる会話表現などを少しずつ身につけ、フランス語で簡単なコミュニケーションが出来るようになることを目指す。授業は教科書や教材（CD・DVDなど）を用い、練習問題や複数人による会話、ロールプレイなどでフランス語をより多く使う演習形式で実施する。	
初級フランス語II	初級フランス語 I に引き続き、フランス語の基礎的な文法や発声・発音、日常でよく使われる会話表現などを少しずつ身につけ、フランス語で簡単なコミュニケーションが出来るようになることを目指す。授業は教科書や教材（CD・DVDなど）を用い、練習問題や複数人による会話、ロールプレイなどでフランス語をより多く使う演習形式で実施する。	
中級フランス語 I	中級フランス語は、これまで培ってきたフランス語の知識を活かして、フランス語やフランス文化を理解しようというコンセプトのもとに進められるクラスである。 Iでは、1年次の復習から始め、仏検4級合格レベルへの足がかりとなる重要な文法を学び、フランス語の基礎力の完成を目指す。後期は今まで学んだフランス語を実践していくことが目的となる。フランス文化をテーマとして、全3回の簡単な発表を行う。授業を通じて、フランス語やフランス文化への興味を各自が深めていくことを目指す。	
中級フランス語II	中級フランス語は、これまで培ってきたフランス語の知識を活かして、フランス語やフランス文化を理解しようというコンセプトのもとに進められるクラスである。 IIは、これまで培ってきたフランス語を実践していくことが目的となる。フランス文化をテーマとして、全3回の簡単な発表を行う。授業を通じて、フランス語やフランス文化への興味を各自が深めていくことを目指す。	
フランス語演習 I	地理、歴史、教育、政治・経済、信仰、日常生活、言語、伝統文化など、多様な観点から日本の姿が紹介された文章の読解を通じて、日本の社会、歴史、文化を客観的にみつめなおすとともに、それとの比較において、フランスの社会、歴史、文化に対する関心を高めていくことが本講義のねらいとなる。	
フランス語演習II	フランス語演習 I に引き続き、地理、歴史、教育、政治・経済、信仰、日常生活、言語、伝統文化など、多様な観点から日本の姿が紹介された文章の読解を通じて、日本の社会、歴史、文化を客観的にみつめなおすとともに、それとの比較において、フランスの社会、歴史、文化に対する関心を高めていくことが本講義のねらいとなる。	
上級フランス語 I	すでにフランス語を最低2年間学んだ学生を対象に、フランス語の読解力と会話力を高めることをめざす。フランスの歴史・地理・経済・社会・教育等に関する時事的なトピックを紹介する中級教科書をメインに副教材として会話参考書を併用して、初・中級レベルの知識（仏検3級までに相当）の復習をし、その定着もめざす。フランス語そのものを実際に使っていくことが、その背景にあるフランス（語圏）についての知識を豊かにすることにつながれば幸いである。	
上級フランス語II	すでにフランス語を最低2年間学んだ学生を対象に、フランス語の読解力と会話力を高めることをめざす。上級フランス語Iに引き続き、フランスの歴史・政治・社会・文化・日仏関係等に関する時事的なトピックを紹介する中級教科書をメインに副教材として会話参考書を併用して、初・中級レベルの知識（仏検3級までに相当）の復習をし、その定着もめざす。フランス語そのものを実際に使っていくことが、その背景にあるフランス（語圏）についての知識を豊かにすることにつながれば幸いである。	

初級中国語 I	初めて中国語を学ぶ人を対象とし、中国語の発音（①巻舌音、②二つの「u」の判断、読み、③ [e]の読み、④三つの[i]など）とその表記法（ピンイン）の読み方と綴り方正しく把握する。さらに中国語の基本構造と基本文形、日常で使う表現方式を学び、簡単な会話や挨拶ができるようになることを目指す。また授業を通じて中国人の考え方や、その背景にある文化や生活などについても理解を深める。	
初級中国語 II	初級中国語 I から引き続き、中国語の発音（①巻舌音、②二つの「u」の判断、読み、③ [e]の読み、④三つの[i]など）とその表記法（ピンイン）の読み方と綴り方正しく把握する。さらに中国語の基本構造と基本文形、日常で使う表現方式を学び、初級中国語 I よりも進んだ会話や表現ができるようになることを目指す。また授業を通じて中国人の考え方や、その背景にある文化や生活などについても理解を深める。	
中級中国語 I	既に中国語初級で勉強した経験を持つものを対象とし、現代中国さまざまな現実を触れながら、中級レベルの文法や語彙の取得を目指す。初級中国語で学んだ基礎知識を、特に日本語人が間違いやすい発音と文法項目の確認、会話練習によって、より正しい文法を使った発話能力の向上を目指す。	
中級中国語 II	既に中国語初級で勉強した経験を持つものを対象とし、中級中国語 I に続き、現代中国さまざまな現実を触れながら、中級レベルの文法や語彙の取得を目指す。初級中国語で学んだ基礎知識を、特に日本語人が間違いやすい発音と文法項目の確認、会話練習によって、より正しい文法を使った発話能力の向上を目指す。	
中国語演習 I	この授業は、すでに1年間中国語を学んだ人を対象にしている。中国語の基礎をしっかりと固めるために、初級クラスで学習したことをもう一度ふりかえり、自信をもって使えるように練習しながら、新しい表現も少しずつ学んでいく。併せて、日本で中国語を使う場面を想定して、簡単な会話や語彙を学び、実生活のなかで使える中国語をおぼえていく。とくに音読の繰り返しを通じて、中国語のメロディーとリズムを鍛え上げることを重視する。また、言語の背景にある中国語圏の社会や文化についても適宜紹介し、理解を深めていく。	
中国語演習 II	この授業では、すでに「中国語演習 I」を履修した人を対象にしている。引き続き、初級クラスで学習したことをもう一度ふりかえり、自信をもって使えるように練習しながら、少しずつ新しい表現を学んでいく。併せて、日本で中国語を使う場面を想定して、簡単な会話や語彙を学び、実生活のなかで使える中国語をおぼえていく。とくに音読の繰り返しを通じて、中国語のメロディーとリズムを鍛え上げることを重視する。また、言語の背景にある中国語圏の社会や文化についても適宜紹介し、理解を深めていく。	
上級中国語 I	この授業は、今の中国社会で何が話題となっているかを知りたいと希望する人を対象に、初～中級の授業を通じて身につけた中国語の文法や語彙の知識をさらに深め、中国語の文章を読む力がつき、リスニング力を高め、会話内容をもっと深めることをねらいとしている。	
上級中国語 II	この授業は、上級中国語 I に続き、今の中国社会で何が話題となっているかを知りたいと希望する人を対象に、初～中級の授業を通じて身につけた中国語の文法や語彙の知識をさらに深め、中国語の文章を読む力がつき、リスニング力、会話内容をもっと深めることをねらいとしている。	
中国語実践演習 A	場面に即して中国語を繰り出す力を身につけることを目的とする。そのために、文法知識を学び中国語の構造を理解したうえで、をクイックレスポンス能力を養う。	
中国語実践演習 B	場面に即して中国語を繰り出す力と、何かを説明する力を身につけることを目的とする。そのために、文法知識を学び中国語の構造を理解し、さらに定番表現に慣れることで、クイックレスポンス能力を養う。	

初級韓国語 I	初めて韓国語を学ぶ学生を対象としたクラスである。韓国語は語順も日本語とほぼ同じで、漢字由来の言葉も多く、日本人には学びやすい言語といえるが、ハングルは文字数も多く最初は覚えるのに苦労すると思う。ハングルの読み書き、文法事項や語彙・表現を学び、「話す」「聞く」「読む」力を養い、会話や挨拶などの簡易なコミュニケーションが出来るようになることを目指す。また日本にも馴染みのあるドラマやK-Popなどの韓国の文化についても授業で触れ、韓国を知る機会としたい。	
初級韓国語 II	初級韓国語 I を履修した学生を対象としたクラスである。初級韓国語 I で学んだ内容を踏まえ、更に詳しく文法事項や語彙・表現を学び、「話す」「聞く」「読む」力を養い、初級韓国語 I よりも少し進んだコミュニケーションが出来るようになることを目指す。また引き続き韓国文化を題材とした話題提供などで、語学学習と同時に韓国文化・社会への理解を深める。	
中級韓国語 I	『中級韓国語 I』は、『初級韓国語 I・II』を修了、あるいは韓国語を1年間(90分授業を30回程度)学んだ学生向けの授業である。この授業では初級韓国語を通して身に着けた韓国語能力を、言語の4機能(話す・聞く・書く・読む)の面においてより発展させることを目標とする。新しく学習する様々な語彙と文法、表現を用い、自分の考えや言いたいことを韓国語でさらに表現できるようになることを目指す。	
中級韓国語 II	『中級韓国語 II』は、『中級韓国語 I』を修了あるいは90分授業を45回程度受講した学生向けの授業である。この授業ではこれまでの韓国語授業を通して身に着けた韓国語能力を、言語の4機能(話す・聞く・書く・読む)の面においてより発展させることを目標とする。新しく学習する様々な語彙と文法、表現を用い、自分の考えや言いたいことを韓国語でさらに表現できるようになることを目指す。	
韓国語演習 I	初級韓国語で学んだ知識を発展させ、さらに複雑な会話文が表現できるようになることを目標とする。上称形(～ムニダ)の活用を理解し、様々な助詞を覚えることでより複雑な文を作ることが出来ることを目指す。また、ビデオや映画を用いてヒアリング練習を行う。	
韓国語演習 II	韓国語演習 I で学んだ知識を発展させ、さらに複雑な会話文が表現できるようになることを目標とする。略待上称形(～ヨ)の活用を理解し、尊敬・否定・過去形などを習得して韓国映画のセリフなどを一部聞き取ることが出来ることを目指す。また、ビデオや映画を用いてヒアリング練習を行ったり、学習用DVDを利用して実践的な会話文を暗記する。	
上級韓国語 I	この授業では、韓国語の基本文法や語彙について十分な知識(2年間の韓国語授業を着実にやってきた程度)があることが前提となっている。お互いの考えや気持ちなどを韓国語を使って伝え合うコミュニケーション能力を養うことが目的で、特に「読む」「話す」能力を伸ばすことに重点を置く(旧韓国語能力試験3-4級水準を目指す)。	
上級韓国語 II	上級レベルの学習者にふさわしい日常的・社会的テーマを取り上げ、それぞれのテーマで使用される典型的な表現を習得する。多様なテーマについて韓国語でコミュニケーションをとる能力を養うことを目標とする。特に「読む」「話す」能力を伸ばすことに重点をおく(旧韓国語能力試験3級~4級を目指す)。	
韓国語実践演習 A	1年生の時に初級韓国語を履修した学生、および同程度の韓国語の学習能力を持つ学生を対象とする。初級レベルの復習、グループワークを取り入れながら「書く・読む・聞く・話す」という4技能を総合的に学習し、それを通して自分の意志を確実に伝える韓国語コミュニケーション能力を目指す。また、様々な日常生活場面において、自然な会話表現ができるようにし、実践的な能力を身に付けていく。	
韓国語実践演習 B	1年生の時に初級韓国語を履修した学生、および同程度の韓国語の学習能力を持つ学生を対象とする。グループワークを取り入れながら「書く・読む・聞く・話す」という4技能を総合的に学習し、それを通して自分の意志を確実に伝える韓国語コミュニケーション能力を目指す。また、様々な日常生活場面、において、自然な会話表現ができるようにし、実践的な能力を身に付けていく。文章表現のポイントを学び、正しく相手に伝えることのできる文章作成法を学ぶ。	

海外語学研修A	協定校留学や短期語学研修を通じて、学習対象となる言語が実際に使用されている環境で学ぶことにより、これまで身につけた語学スキルをさらに発展させると同時に、異なる文化だけではなく自国文化への理解も深化させることにより、真の意味での国際化に貢献できる人材を育成することを目的としている。（協定校大学での海外語学研修修了者の単位認定科目である。）	
海外語学研修B	協定校留学や短期語学研修を通じて、学習対象となる言語が実際に使用されている環境で学ぶことにより、これまで身につけた語学スキルをさらに発展させると同時に、異なる文化だけではなく自国文化への理解も深化させることにより、真の意味での国際化に貢献できる人材を育成することを目的としている。（協定校大学での海外語学研修修了者の単位認定科目である。）	
海外語学研修C	協定校留学や短期語学研修を通じて、学習対象となる言語が実際に使用されている環境で学ぶことにより、これまで身につけた語学スキルをさらに発展させると同時に、異なる文化だけではなく自国文化への理解も深化させることにより、真の意味での国際化に貢献できる人材を育成することを目的としている。（協定校大学での海外語学研修修了者の単位認定科目である。）	
海外語学研修D	協定校留学や短期語学研修を通じて、学習対象となる言語が実際に使用されている環境で学ぶことにより、これまで身につけた語学スキルをさらに発展させると同時に、異なる文化だけではなく自国文化への理解も深化させることにより、真の意味での国際化に貢献できる人材を育成することを目的としている。（協定校大学での海外語学研修修了者の単位認定科目である。）	
海外語学研修E	協定校留学や短期語学研修を通じて、学習対象となる言語が実際に使用されている環境で学ぶことにより、これまで身につけた語学スキルをさらに発展させると同時に、異なる文化だけではなく自国文化への理解も深化させることにより、真の意味での国際化に貢献できる人材を育成することを目的としている。（協定校大学での海外語学研修修了者の単位認定科目である。）	
海外語学研修F	協定校留学や短期語学研修を通じて、学習対象となる言語が実際に使用されている環境で学ぶことにより、これまで身につけた語学スキルをさらに発展させると同時に、異なる文化だけではなく自国文化への理解も深化させることにより、真の意味での国際化に貢献できる人材を育成することを目的としている。（協定校大学での海外語学研修修了者の単位認定科目である。）	
教育原理	この講義では、近代教育の問題がどこにあるかを知り、学校文化の自明性を相対化し、しなやかで、強靱な教師の資質・能力を獲得することを目的とする。近代教育は17～18世紀の西欧にはじまる、固有の歴史的背景のなかで成立した。西欧に発したこの近代教育は、世界を席卷することになるが、それは〈教育〉の様々なあり得た可能性のうちの一つでしかない。今後、近代教育を克服し、改革していくにあたって、〈教育〉の新しい形を模索していくことが求められるため、新しい形を模索できるような思考を獲得できることを目指す。	
保育原理	この講義は、保育学の基礎的事項を学ぶと同時に、様々な角度から「保育」「幼児教育」をみつめ、保育・幼児教育の本質や保育職・教育職の専門性、人間とは何かという根本的な問いを共に考える時とする。講義は主に（1）保育・幼児教育の意義や本質を理解するための発達学び、（2）保育・幼児教育の今後を考察するための保育・幼児教育制度や歴史的学習、（3）保育方法の基本的原理の3領域で構成されている。講義中に、目標の到達度をはかる課題を実施し、今後の学習の指針とする。	

<p>教師・保育者論</p>	<p>この講義では、教職・保育に携わる教師・保育者の役割・資質能力・職務内容などを学び、教師や保育者になることへの意欲を高めることを目的とする。また教育・保育経験者の声を聞きながら、進路選択についても考える時としたい。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(3 吾田富士子／5回) 教育実践者の声から学ぶ教師・保育者とは、保護者やその他の立場から見える教師・保育者とは、教育職を学ぶ自身の課題—進路選択と教職の職業的特徴、学校・幼児教育の役割の多様化とこれからの教師</p> <p>(6 庄井良信／5回) 教育者の役割と子どもの心理、自己評価と他者の目に映る自分、子ども・保護者の理解と教育・保育者、子ども・保護者・同僚・他職との関係—チーム学校の視座</p> <p>(10 松村聡／5回) 教育者の専門性とは、教育職の役割・職務内容・教育者集団と倫理観—教育公務員特例法ほか法規、公教育の目的と社会的意義、教職の今日的意義、服務及び身分上の義務、職務遂行と研修、生涯学び続ける義務、身分保障</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>教育方法論</p>	<p>これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育方法や情報化への対応等に関する基礎的な知識・技能を身に付けることを目的とする。そのために学校教育の目的に応じた学習を成立するための、授業や保育内のコミュニケーションを支援する環境や方法、情報機器の活用等について取り上げる。</p>	
<p>教育制度論</p>	<p>近代公教育成立の過程を踏まえながら、民主的な社会を支える市民を育成するための今日の教育制度の仕組みについて理解を深める。同時に、子どもの貧困や格差、不登校などの現代的な課題について取り上げ、学校教育として何ができるのかについて考える。特に、教育の機会均等という公教育としてもっとも重要な概念について、自分なりに解釈できることを目指す。</p>	
<p>教育課程総論（全体的な計画を含む）</p>	<p>「学習指導要領」「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における教育に対する基本的な考え方を示したうえで、教育課程の意義や基本原理、教育施設の違いによる教育課程の捉え方の違い、学齢期や幼児期の子どもにふさわしい生活の構成について考える。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(3 吾田富士子／8回) 「学習指導要領」「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の改訂の変遷と社会的背景・思想、教育課程編成の基本原則—子どもの資質・能力育成、教育目標、保育実践と教育課程、教育課程と全体計画、長期計画と短期計画、指導計画の実際、カリキュラム・マネジメントとカリキュラムの評価、さまざまなカリキュラムとこれからの教育</p> <p>(9 大室道夫／7回) 教育課程とは何か、「学習指導要領」「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の位置づけと教育課程の編成の目的、教育課程と子どもの実態、教科・領域と学年・発達の視点、カリキュラムの実際、評価と指導要録について</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>保幼小連携特論</p>	<p>保育所や幼稚園、認定こども園から小学校への接続を滑らかにするため、交流活動やカリキュラムの接続などさまざまな取り組みが行われているが、幼児教育から小学校教育へ移行する際、どのような問題が生じているのか、その背景にあるものはどのようなものであるのかを様々な視点から考える。また、接続期に必要な配慮や工夫についての実践例や世界の教育実践等から学び、子どもたちの資質・能力を育むうえでこれからの教師や教育に求められることについて考える。</p>	

<p>学級経営論</p>	<p>「いじめ」「不登校児童の増加」「学力格差」「配慮が必要な児童の支援」等が教育現場の課題となっている。本講義では学校現場が抱えている様々な事例を取り上げ、原因の解明と解決方法について探っていきたい。また、授業の後半では指導案や学級経営案の作成を通して実践的な力を身につけていく。</p> <p>(オムニバス方式・共同(一部) / 全15回)</p> <p>(8 稲實順・10 松村聡 / 2回) (共同) 教育現場における今日的課題の共有、学級経営に関する課題と指導方法のまとめ (8 稲實順 / 7回) 子ども理解の方法、学校現場で発生する生徒指導上の問題についての実態把握と原因解明の方法、生徒指導上の問題事例と解決方法、「家庭」「地域社会」及び「関係機関」との連携や交流、子どもたちの安全・安心について、模擬授業、学級経営案の作成など (10 松村聡 / 6回) 子どもたちの学ぶ意欲を満たす授業づくり、基礎学力の定着や個に応じた学習支援のあり方、充実感を高める授業とは、学力格差の原因とその対策、よりよい挨拶を実践していくための模擬授業案作成、いじめが起きない学級を作るための模擬授業案作成など</p>	<p>オムニバス方式・共同(一部)</p>
<p>道徳教育の理論と実践</p>	<p>道徳教育の意義とその目指すところの理解を起点に、学校教育活動の全体を通して行う道徳教育の目標、具体的な推進方法や小学校における「道徳科」の授業についての目標、実践的な指導方法、評価方法を学ぶことを目的とする。具体的には、小学校における道徳教育の意義と原理を理解し、道徳科の授業構築のための基礎や基本、課題活動と生活、自発活動について、行事のあり方と問題点、飼育・栽培が持つ特徴と指導計画など、道徳科教育の指導の際に必要な知識や技術を修得していく。</p>	
<p>特別活動・総合的な学習の時間の指導法</p>	<p>特別活動と総合的な学習の時間の目標や内容、指導法や評価法を学ぶ。また、学習指導案の作成や模擬授業などを通して、具体的な指導法を理解する。主な内容は、オリエンテーション、特別活動の目標と内容、特別活動の全体計画と年間指導計画、学級活動の学習指導と評価、学校行事・児童会活動・クラブ活動の学習指導と評価、総合的な学習の時間の創設の背景とねらい、総合的な学習の時間の全体計画と年間指導計画、総合的な学習の時間の学習指導と評価、学習指導案を基にした模擬授業、特別活動と総合的な学習の時間の今後についてなどである。</p>	
<p>地域社会と学校</p>	<p>この授業は、北海道の地域性から生じる様々な特性をとらえ、その特性を生かした学校と地域とのかかわりについて考察し、問題意識を高めることを目的としている。各時間のテーマに沿って中心となる講師が進行役となり説明を加えたり、問題提起を行う。講師の話聞き理解するだけでなく、理解したことに対して自分自身の問題意識を持つことや小グループでの対話を行う。</p> <p>(オムニバス方式・共同(一部) / 全15回)</p> <p>(7 駒形武志・9 大室道夫 / 2回) (共同) オリエンテーション、講義を振り返り地域社会と学校とのかかわりについて問題意識を持ちレポートにまとめる (7 駒形武志 / 6回) 土曜日の教育活動、石狩市におけるSAT事業、石狩市浜益小学校の実践、郷土愛を育てる実践、地域と大学の連携について (9 大室道夫 / 7回) 北海道の持つ地域性について、地域が学校に求めていること・学校が地域に求めていること、地域連携の実情と今後の課題、地域連携の課題について考える、小規模校の特色ある教育、コミュニティ・スクール、環境教育の事情と今後の方向性</p>	<p>オムニバス方式 共同(一部)</p>



現代社会と教育	<p>現代社会が抱える教育の課題について捉えるとともに、それらに対して自分自身の考えを持ち深めるため、講義は講師の講話に加え、グループでの対話をもとに構成される。問題意識を持つことはもとより、積極的に他と関り、自分自身の考えを深めていく。</p> <p>(オムニバス方式・共同(一部) / 全15回)</p> <p>(5 小山和利・8 稲實順・10 松村聡 / 2回) (共同) オリエンテーション、現代社会と教育に関わる課題に対して自分なりの問題意識を持ちレポートにまとめる。 (5 小山和利 / 5回) 児童生徒の問題行動等の現状と対応、いじめ問題の現状と対応、不登校の現状と対応、教育相談体制の充実、教育の貧困と格差 (8 稲實順 / 4回) 子ども・子育て支援新制度、幼児教育無償化問題について、食物アレルギー対策などの学校給食の安全確保について、東日本大震災を踏まえた防災教育について、北海道における保幼小の連携について (10 松村聡 / 4回) 全国学力・学習状況調査について 北海道の抱える問題、英語教育の改革、子どもの体力向上 北海道の抱える問題、北海道における教員育成指標について</p>	オムニバス方式 共同(一部)
教育心理学	<p>私たちの生活は、学びの連続であり、私たちの学びは、学習の方法・これまでの経験を記憶しておくこと・できるようになりたいという動機づけなどによって支えられている。この授業では、学習・記憶・動機づけなどの教育心理学に関する基本的な知識を身につけ、また、それらの知識を子どもとの関わりに活用できるようになるため、各回のトピックに関連する研究の紹介などを行いながら、授業を進める。また、研究によって指摘されていることを体感して理解できるよう、いくつかの実験も実施する。</p>	
学校教育心理学	<p>児童期の子どもの学びは、学級・学校・学習方法・教師や友達との関係性といった、学習を行う文脈や場面からの影響を受けている。また、教師からの評価も、子どもの学びに大きな影響をもたらしている。この授業では、児童期の学びの特徴について、これらが子どもの学習に与える影響について、心理学的な観点から理解し、それらの特徴を考慮し、子どもへの支援ができるようになることを目指す。授業は、各回のトピックに関連する研究の紹介などを行いながら進めていく。また、実習などで出会った子どもや教師の様子を挙げてもらい、それらについて教育心理学的な視点から分析するといった活動も行う。</p>	
発達心理学	<p>子どもの発達には、身体面の成長だけでなく、言語能力・認知能力・他者と関わる能力など、さまざまな側面がある。この授業では、言語・認知・記憶・感情・社会性などの側面から子どもの発達について理解し、発達心理学に関する基礎的な知識を身につけ、これらの知識を基盤とし、子どもの発達段階の特徴に応じた子どもへの対応ができるようになることを目的とする。授業は、各回のトピックに関連する研究の紹介などを行いながら、授業を進めていく。また、子どもの様子をとらえた映像資料なども活用し、子どもの発達と学びを支えるために必要なことならについて理解を深める。</p>	
児童期以降の発達と心理	<p>人間は、児童期以降も発達し続けている。世代ごとのライフイベントや陥りやすい心理状態などを理解し、児童期以降の人間の発達について理解を深めておくことは、子どものこれからの発達を意識した支援をするために必要な視点といえる。また、子どもの保護者の世代の心理状態を知ることは、保護者対応の際にも役立つ。この授業では、児童期以降の発達について各時期のライフイベントと関連づけながら説明できるようになることを目指す。また、児童期以降の発達を意識しながら乳児・幼児・児童と関われるようになること、保護者などの児童期以降の人々の発達段階に応じた対応ができるようになることもこの授業の目的である。授業は、各回のトピックに関連する研究の紹介などを行いながら進めていく。また装具を用いた妊婦体験や高齢者体験なども取り入れ、身体的な感覚からの刺激を手がかりに、各発達段階の特徴について理解を深めていく。</p>	
子どもの理解と発達援助	<p>この授業では、保育実践において、子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義、子ども理解をする上での基本的な考え方、子ども理解するための具体的な方法、子ども理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解することを目的とする。具体的な内容は、子どもの生活や遊び、子ども相互のかかわり場面、葛藤やつまづき、集団における子どもの育ちなど様々な視点を通じた子ども理解や観察、記録の取り方、職員間の連携のあり方など子ども理解に必要な方法を学ぶ。子どもを理解するためには発達の道筋を理解することも必要となるため、発達の視点から保育を構想する力も身につけていく。</p>	

<p>幼児理解と援助</p>	<p>子どもを理解するには、物事を多角的にとらえる視点が必要である。この授業では、多角的に子どもを捉える力をつけるために、子ども理解に必要な知識の提供のみならず、視聴覚教材を用いて様々な場面における子どもの捉え方を学生同士が話し合いの時間をもつ。また取り扱う事例は、幼稚園での遊びや生活場面においてよく見られるものにし、学生が具体的な子どもの姿を想像し、その援助方法を考えられるように配慮していく。</p>	
<p>特別な教育的ニーズに対する理解と支援</p>	<p>障害とは何かについて考えることをはじめ、障害のある子どもの発達の様相や特性、そして自身の生きにくさについて、様々な事例を紹介しながら学ぶ。講義を中心とするが、具体的な事例についてグループによる検討を中心とした体験的な学び合いも展開する。</p> <p>(オムニバス方式・共同(一部) / 全15回)</p> <p>(4 原田公人・5 小山和利 / 1回) (共同) オリエンテーション、授業の概要 (4 原田公人 / 10回)</p> <p>障害と障害児教育の歴史経緯・制度等、学校教育における指導・支援の現状、通常の学級における障害のある子どもの理解と支援、自閉スペクトラム症(ASD)の理解と支援、注意欠如・多動症(ADHD)と限局性学習症、学校教育場面における支援の実際 (5 小山和利 / 4回)</p> <p>乳幼児における支援の現状、文化的或いは複合的な不利を被った子どもへの理解と支援、乳幼児期における個別のニーズに応じた支援の実際、支援のための多機関ネットワーク</p>	<p>オムニバス方式 共同(一部)</p>
<p>特別支援教育総論</p>	<p>この授業では、障害そのものについて考えることから始め、次に特別支援教育の意義とシステムについて、さらに特別支援教育の対象となる幼児児童生徒の実態とその教育的対応について、理解を深めることをねらいとする。障害では、知的障害、自閉症スペクトラム障害、学習障害、注意欠如多動症、肢体不自由、重症心身障害、視覚障害、聴覚障害、言語障害、病弱、てんかん等についてふれる。</p>	
<p>特別支援教育実践論</p>	<p>我が国は、障害のある子どもの教育について、共生社会の形成に向けてインクルーシブ教育システムを構築するための特別支援教育の推進が喫緊の課題となっている。国内外の動向も踏まえ、特別支援教育に関する現状(教育課程、指導の実際等)や課題(環境整備、専門性等)を包括的に把握し、今後の特別支援教育の展望・方向性について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式・共同(一部) / 全15回)</p> <p>(4 原田公人・13 今野邦彦 / 1回) (共同) オリエンテーション (4 原田公人 / 7回)</p> <p>障害児教育の歴史、インクルーシブ教育システム、特別支援学校の教育、障害のある子どもと家族支援、障害のある子どもと関係機関連携 (13 今野邦彦 / 7回)</p> <p>障害当事者研究、きょうだい支援、寄宿舎教育、障害者の高等教育、発達援助者への支援</p>	<p>オムニバス方式 共同(一部)</p>
<p>知的障害児の心理・生理・病理</p>	<p>本講義では、知的障害の定義(アメリカ知的・発達障害学会)・分類、発達及び心理特性、指導上、求められる生理・病理の基礎的知見を学ぶ。知的障害の定義、原因(生理的要因)、程度と状態像、知的障害に起因する行動特性、知的障害に関する検査法(目的、種類、留意事項)を解説する。また、知的障害児(自閉症スペクトラム障害を含む)の指導事例から学校や家庭生活におけるコミュニケーション上の配慮や評価、障害の認識、家族支援をとりあげる。</p>	
<p>肢体不自由児の心理・生理・病理</p>	<p>肢体不自由児の主要な疾患や肢体不自由児の心理・生理・病理について、特に、様々な障害が重複で出現している脳性麻痺児を中心に基礎知識を中心に基礎知識を学習・実習し、肢体不自由児に適切な支援ができる教員としての資質を培うことを目指す。授業では、肢体不自由の概念、原因、起因疾患、脳性麻痺のタイプ別症状等についての座学と、体験実習・イメージ実習・グループ討議など具体的な、実践的に行う。</p>	
<p>病弱児の心理・生理・病理</p>	<p>教育・保育の現場で高頻度に遭遇する病気について深く理解し、病気を患う児及び家族の心理を学ぶ。その上で、家庭及び社会的な対応や教育・保育の重要性を考える。総論で病弱児の定義、児を取り巻く環境・支援、心理、アタッチメントの発達段階とその重要性、分離不安、病気の子どもと親のトータルケアを学んだ後、高頻度に遭遇する主な疾患について事例を交えて提示する。自分ならどう対応するか、考えることが求められる。</p>	

知的障害児教育	この授業では、知的障害児教育における教育課程の編成、指導の実際について、理解を深めることをねらいとする。内容としては、知的障害児教育の歴史、教育課程の類型、生活単元学習、作業学習、日常生活の指導、遊びの指導、教科・領域別の指導、自立活動、発達障害への支援、個別的教育支援計画、個別の指導計画、学習指導案、就学前教育、進路指導・キャリア教育、特別支援学級、通級指導等を取りあげる。	
肢体不自由児教育	この授業では、肢体不自由児教育における教育課程編成、指導の実際について、理解を深めることをねらいとする。講義に加え、実技による学習も行う。内容としては、肢体不自由児教育の歴史、教育課程の類型、身体の使い方、自立活動、身体の動き、コミュニケーション、各教科指導、重度重複障害児・重症心身障害児への支援、訪問教育、外部専門家による支援、個別的教育支援計画、個別の指導計画、学習指導案、就学前教育、進路指導・キャリア教育、特別支援学級等を取りあげる。	
病弱児教育	この授業では、病弱養護学校や院内学級等に在籍する児童生徒の病気特性及び病弱教育の実態などについて解説するとともに、特別支援教育の教育課程を説明する中で、障がい特性に応じた指導の在り方について取り上げ、病弱児童生徒への支援の在り方についての専門性を高めることを目指す。また、病弱教育の位置づけ、歴史的考察についても理解を深める。具体的な疾患としては、白血病、腎臓病、気管支喘息、てんかん等の特性とその理解、教育的支援について取りあげる。	
知的障害児教育総論	この授業では「知的障害（知的発達障害）」の特性に関する知識を身につけることで、障害を持つ子供を理解するための基盤とすることをねらいとし、この知識に基づいた発達や教育における支援についての概要を学ぶ。また、支援の計画を立てる際に、具体的な発達のアセスメントに基づいた適切な手だてを検討できるようになることを目指す。主な内容として、知的障害の定義・発達の特性、認知心理学的検討、知的障害を持つ人の教育をめぐる法律とその運用、アセスメントに基づく教育方法の検討、支援の継続性、包括的・多角的支援等を取りあげる。	
肢体不自由児教育総論	この授業では、肢体不自由とは何か、肢体不自由児の特性、肢体不自由児の教育的支援についての理解を深めることをねらいとする。講義に加え、実技による学習も行う。内容としては、肢体不自由の定義・原因・疫学、身体の機能と構造、姿勢と運動、姿勢や関節運動の表し方、乳児の運動発達（定型発達と障害）、脳性麻痺、筋ジストロフィー、脊髄損傷、二分脊椎、切断、骨関節疾患、肢体不自由児の姿勢と運動、補装具・車いす、肢体不自由児の学習時のサポート等について取りあげる。	
視覚・聴覚障害児の心理・生理・病理	この授業では、感覚障害（視覚障害・聴覚障害）の概念、基礎的理解（視覚器の解剖 聴覚の構造と機能、代表的疾患（眼疾患・耳疾患）に伴う視覚障害・聴覚障害の特徴、視覚・聴覚認知の形成及び教育、コミュニケーション、精神保健、弱視・軽度・中等度難聴、一側性難聴児等に対する教育的対応等）について解説する。特に、心理では視覚障害・聴覚障害から派生する心理特性、生理では視機能・聴能発達上の課題、病理では視覚認知・聴覚認知と医療的リハビリテーションの理解を深める。	
重複・発達障害児の心理・生理・病理	この授業では、重複障害・発達障害（LD、ADHD、自閉症、言語障害を含む）の主要な疾患や心理・生理・病理および適切な支援方法の理解を深める。講義形式を中心に進め、理解を深めるためにゲストスピーカーによる報告を交え現状の理解を深める。また、実態把握のための施設見学及び報告会を行い、卒後の実践力を高めていく。主な内容は、重複障害の概念・実態把握、重複障害の健康・感覚・生活・運動・探索、発達障害の概念、発達障害児の感覚・知覚・コミュニケーション・運動等である。	
視覚・聴覚障害児教育総論	この授業では、視覚障害教育については、視覚障害の基礎的知識（視機能、実態等）、視覚障害児に対する各発達段階における指導内容と課題を取り上げる。聴覚障害教育については、基礎的理解（きこえの仕組み、聴覚伝導路等）、聴覚障害教育における指導法とその目的や内容の理解を深める。また、障害教育教育史、インクルーシブ教育体制における教育、特別支援学校の学習指導要領と教育課程（自立活動）、早期教育、教科指導、授業に必要な知識や技能と基礎的な事項、発達段階及び障害の程度に応じた指導について学ぶ。	
重複・発達障害児教育総論	この授業では、重複障害・発達障害（LD、ADHD、自閉症、アスペルガー症候群を含む）の概念や障害の特性および教育課程と教育の実際について、理解を深めることをねらいとする。内容としては、重複障害児の教育課程、重複障害児教育の実際、重症心身障害児施設見学と報告・討議、発達障害児の教育課程・家庭教育・生涯教育・社会的処遇、発達障害児教育の実際、大人の発達障害、発達障害と虐待、発達障害児の施設見学と報告・討議、全体のまとめ等を取りあげる。	

総合表現	この授業では、絵本の読み・語りきかせ、群読、パントマイム等の技術の習得に加え、卒業後、それぞれの活動の場で、子どもたちの興味を惹き、自ら行動できる身体づくりを目指す。具体的内容としては、台本づくりから始める腹話術、人形劇、ペープサート、シルエットシアター（影絵劇）へと、少しずつランクアップしながら保育現場で活かすことができる知識や技術を取得する。また最終的には、台本作成や大道具製作等、脚色、練習を経て、日本のむかしばなし「三枚のおふだ」のワンシーンを各グループで上演し、子どもの表現活動への援助の仕方を実技を通して学ぶ。	
国語（書写含む）	この授業は、生きて働く国語の力の育成に資する国語科授業のポイントを理解できること、日本語の文字表記を理解し、文字や文章を正しく表記できること、漢字指導や文字について、基本を正しく理解し評価できることを目標として、小学校学習指導要領に基づき、小学校における国語科授業のあり方を考察する。具体的には、実践事例等の検討を通して、実生活に生きて働き、各教科などの学習の基本となる国語の力の育成を目指した国語科授業を構想する。話すこと・聞くこと・書くこと・読むこと・伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項や言語活動について考察を深め、自身の国語への概念形成を行うことを目的とする。	
社会	この授業では、戦後誕生した社会科の基本理念とその変遷を、学習指導要領をもとに検討し理解すること、現在の社会科を巡る実践的な課題を検討し考察することを目標として、小学校社会科の学習指導要領をもとに、我が国の社会科教育の基本理念とその変遷を学ぶ。また現在の社会学習の課題として、社会科における地域学習の教材開発、国土の脆弱性や防災教育、ICTを活用した資料読解能力の向上を実現する社会科学習、カリキュラムマネジメントの実施等について検討し、考察する。	
算数	この授業では、学習指導要領改訂の経緯や趣旨をとらえながら、算数科の目標、育成すべき資質・能力、学習内容等についての理解を深めるとともに、授業の具体について構想することができることをテーマとする。授業では、「数学的な見方・考え方」の意味と「数学的活動」の充実について、教師の教育観・授業観の確立と算数科における「主体的・対話的で深い学び」の実現について等を踏まえ、算数科の本質的な意義を理解し、授業を行うための基礎的な知識を領域ごとに身に付けるとともに、具体的な実践事例を基に授業づくりの視点から指導内容・方法について考察する。	
理科	この授業は、小学校理科教育の目標や内容構成とその系統について理解することを目的とする。具体的な内容としては「安全で適切な観察・実験：身近や身の回りの植物・動物の観察、実験器具や薬品の取り扱い」「エネルギー：エネルギーの捉え方、エネルギーの変換と保存、エネルギー資源の有効活用」「粒子：粒子の存在、粒子の結合、粒子の保存性、粒子のもつエネルギー」「生命：生物の構造と機能、生命の連続性、生物と環境のかかわり」「地球：地球の内部と地表面の変動、地球の大気と水の循環、地球と天体の運動」などを扱っていく。	
生活	この授業は、生活科の創設の経緯や趣旨、教科目標や内容について理解すること、学習指導案の作成を通して、生活科の授業の実際について理解することを目標とする。具体的には、生活科の教科目標や内容を学ぶことによって教科の特性を理解するとともに、授業場面のVTRを視聴したりしながら、どのように授業が行われているのか理解していく。取り扱う主な内容は、内容1（学校と生活）内容2（家庭と生活）内容3（地域と生活）内容4（公共物や公共施設の利用）内容5（季節の変化と生活）内容6（自然や物を使った遊び）内容7（動植物の飼育・栽培）内容8（生活や出来事の交流）内容9（自分の成長）である。	
音楽	この授業では、コアカリキュラムを基盤とし、学生自身が幼稚園・小学校教諭及び保育者として実りある教育・保育実践を進めていくための土台となる基礎的な音楽的知識、能力の獲得を目指す。幼稚園・小学校教諭、保育士として音楽教育及び音楽表現活動を行うために必要となる基礎的な音楽知識や技能を演習および個人レッスンにて習得する。90分の授業のうち45分を楽典、ソルフェージュ、歌唱法を中心とした演習、45分をピアノ奏法を学ぶ個人レッスンとする。	共同
音楽表現法	本科目では、科目「音楽」にて培った基礎的な音楽的知識、能力を踏まえ、学生自身が幼稚園・小学校教諭及び保育者として質の高い教育・保育実践を進めていくための土台となる音楽的知識、能力のさらなる獲得を目指すとともに、感性豊かな音楽表現法を身に付ける。基礎的な音楽知識や技能を土台とし、幼稚園・小学校教諭、保育士として音楽教育及び音楽表現活動を行うために必要となる感性豊かな音楽表現法を演習および個人レッスンにて習得する。90分の授業のうち45分を楽典、ソルフェージュ、歌唱法を中心とした演習、45分をピアノ奏法を学ぶ個人レッスンとする。	共同

保育・教育の内容

音楽表現演習	本科目では、科目「音楽」及び「音楽表現法」にて培った音楽的知識、能力、表現力を踏まえ、学生自身が幼稚園・小学校教諭及び保育者として子どもたちの音楽的感性を誘発し、子どもたちが主体的に音楽に関わり、協働して感性豊かな音楽表現活動を行うことのできる音楽表現技術を獲得する。基礎的な音楽知識や技能を土とし、幼稚園・小学校教諭、保育士として音楽教育及び音楽表現活動を行うために必要となる感性豊かな音楽表現法を主にピアノの個人レッスンにて習得する。	共同
図画工作	この授業では、小学校学習指導要領の図画工作科の目標及び内容を踏まえ、「A表現」「B鑑賞」「共通事項」などの造形表現活動の分野における基本的な考え方と実践的な事例についての学習を通して、図画工作科の授業改善のための基礎的な特性を幅広く理解する。主な内容は、「造形遊びをする活動」「絵や立体、工作に表す活動」「表現授業の実際と分析」「鑑賞授業の実際と分析」「低学年・中学年・高学年の共通事項」「図画工作科ならではの見方・考え方」等である。	
造形表現法	この授業では、身の回りにある素材・材料の特徴を生かし、いろいろな技法を通して、表現の仕方を学び取り、感じたことや考えたことをいろいろな作品として制作する。主な題材は、紙皿などの円形の紙を生かした起き上がりこぼし、チラシを細く丸めたオブジェ、画用紙とはさみを使ったはさみのアート、ビニール袋、段ボール片で作るオブジェ、飛び出す仕組みのカード、絵の具、ストローを組み合わせた動くおもちゃ、ケント紙とカッターナイフを使ったオリジナルタワー等である。これらを通して教材研究を行う力も養っていく。	
家庭	家庭科は、身近な家庭生活を総合的に捉え、生活の質的向上と人間形成を図ることを目的とする教科であることを理解する。その上で、小学校家庭科の教育内容に関わる知識や技能を、指導者の立場で正しく理解するとともに、技能を身に付けて、教材研究ができるようにする。主な内容は、小学校家庭科の学習内容（教科書）について、食生活領域に関する学習、衣生活領域に関する学習、家族・家庭生活領域に関する学習、住生活領域に関する学習、消費生活と環境領域に関する学習等である。	
初等体育	小学校体育科および幼児体育における各運動領域の指導に必要な運動技能を習得し、各運動の特性について理論に基づく指導の実践力を身につけることを目標とする。主な内容は「小学校教諭・幼稚園教諭として子どもが楽しむことのできる体育の指導方法、安全に配慮した授業展開と指導の方法を知る」「小学校体育科における各運動領域の指導に必要な運動技能を習得し、自らが運動に親しむ姿勢を育む」「各運動の特性について理論的に理解し、幼児や児童に適した理論に基づく運動指導の方法を知る」等である。	
スポーツ実技A（水泳）	近代泳法の理論について理解し、水泳における各泳法の基本技術の習得と指導に必要な基礎知識の習得を目的とする。また、アクアエクササイズや水中レクリエーション等についても実践し、学習者のレベルに応じた水泳の指導法の理解や、アクアスポーツを楽しむための技能を高める。水上安全理論や初心者指導理論、水慣れ実習等を通じ、水泳指導における安全管理の方法についても学習する。	集中
スポーツ実技B（スキー）	アルペンスキーの特性について、理論と実践を通して理解するとともに、実践的な指導法について学び、指導者として必要な基礎技能を習得する。スキーの特性および指導上の留意点についての理解を深め、スキーのもつ教育的価値や生涯スポーツとしての価値について理解することを目的とする。また、実践を通して、初心者指導法やスキー指導における安全管理の方法についても学習する。	集中
英語	学習者の発達段階を踏まえて、コミュニケーションな授業の創出、言語習得に必要な手立てを理解し、コミュニケーション活動などを通して、文法などの明示的な学習項目にも展開できる英語基礎能力を学ぶ。学習指導要領の目標や指導内容について、教員の講義、グループディスカッションなどアクティブで学習者が自ら知識や技能を獲得していく過程を重要視する。また卒業生などを特別講師として招聘しながら外部のリソースも利用する開かれた講義を目指す。	
保育内容（健康）	健康に関する現代的課題について理解するため、近年の子どもたちの生活や体力などに関する資料などから、子どもの健康に関する課題を考える。その上で、最近の子どもの気になる姿や体のおかしさなどを考え、それらが幼児の健康に関わる身近な問題であることを理解し、その背景についても考える。また保育における危険に関し、リスクとハザードの違いとその内容を理解するため、子どもにとっての危険な場所や遊び方などを実際に探したり、体験したりするなどの機会を設けたり、身近な環境や遊具などを活用し、子どもの多様な動きを引き出す環境を体験しながら理解するなど、実際に学生が体験を通して学ぶ機会を設ける。	

<p>保育内容（人間関係）</p>	<p>前半では幼児を取り巻く人間関係について、現代の特徴と課題を捉えた上でそれらの課題と人と関わる力との関連について考える。後半では、幼児の様々な発達の諸側面が人との関わりの中で育つことについて、それぞれの発達の時期の特徴と関連付けて理解できるように、具体的な事例を基に理解していくことを目的とする。</p> <p>(6 庄井良信/4回) 親子やきょうだい関係、地域における子ども同士の関わり等、幼児を取り巻く人間関係について、昔から現代にかけて年代毎にどのような特徴的な違いがあるのかについて事例を挙げながら、現代の特徴とその課題を考える機会を設けた上で、それらの課題を乗り越えるためにどのような保育が必要か考えていく。また幼児の人と関わる力幼稚園教育において育みたい資質能力の向上を目指す保育のあり方について、領域「人間関係」の視点から考察していく。</p> <p>(65 増山由香里/4回) 幼児の様々な発達の諸側面が人との関わりの中で育つことについて、それぞれの発達の時期の特徴と関連付けて理解できるように、具体的な事例を基に説明する。また人間関係領域の専門性に関わる最新の知見に基づき、集団の中で見られる具体的な幼児の姿や幼児同士の関係の発達を理解していく。</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>保育内容（環境）</p>	<p>幼児をとりまく物的・人的環境が幼児の育ちにどのような影響を与えるのかについて、映像などの視覚的教材を活用し、具体的な事例などを用いて分かりやすく説明していく。また幼児に身近な動植物の生態やその栽培・飼育方法を学ぶため、生長の早い植物や野菜の栽培、昆虫の飼育を行ったり、自然物や身近な素材を用いた簡単な製作等、幼児が環境を取り入れて遊ぶ活動を実際に行い、学生がそれらを体験的に学ぶ機会を設ける。また、近隣の環境や施設を取りあげ、学生たちが改めて身近にある自然や標識・文字に気付き、それらを保育の中でどのように活用できるか、また幼児がどのような体験ができるか考える力を養う。</p>	
<p>保育内容（言葉）</p>	<p>前半は、言葉の発達過程において、乳幼児が言葉の意義と機能を理解していく道筋や言葉の意義や機能について具体的な幼児の姿をもとに理解する。後半では、言葉に関する教材や児童文化財を取り上げ、保育に活かしていく方法について考えていく。</p> <p>(11 青木直子/4回) 言葉の発達過程において、乳幼児が言葉の意義と機能をどのように理解していくか、映像資料や事例を通して、具体的に説明していく。また言葉の意義や機能について、言葉のコミュニケーション機能である「言葉による伝え合い」や「文字の意味や役割」を取り上げ、それらとかわる幼児の姿を映像資料や事例を通して、具体的に理解していく。</p> <p>(84 清水貴子/4回) しりとりやなぞなぞ等、言葉に対する感覚を豊かにする言葉遊びを体験するとともに、言葉遊びと幼児の言葉の発達との関連を考える機会を設ける。また絵本・物語・紙芝居などの児童文化財の中に描かれている幼児の姿を読み解くことで、幼児理解を深めるとともに、幼児にとっての児童文化財の意義を考えたり、児童文化財を実際に読む、演じることで、その楽しさを体験的に理解し、保育への取り入れ方を具体的に理解していく。</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>保育内容（表現）</p>	<p>幼児期の表現の特性やそれを受け止めていくことの重要性を理解し、幼児の世界に関心をもつようにする。また様々な表現を学生が体験することを通し、表現の多様性に気付き、その面白さや可能性、重要性を理解することを目的とする。</p> <p>(12 新海節/4回) 幼児の遊びや生活の中に見られる表現に関し、主に音楽や身体表現に関する事項について、映像や具体的事例を通して説明していく。また子どもの表現を活かす音楽的・身体的な教材を取り入れた表現活動を学生が実際に経験することを通して、感じたことを共有したりイメージを再構成しながら表現する機会を設ける。</p> <p>(8 稲實順/4回) 幼児の遊びや生活の中に見られる表現に関し、主に造形表現に関する事項について、学生が様々な表現方法を体験する。それらによって表現の多様性について理解するとともに、表現活動の面白さや可能性、重要性を体験的に理解し、子どもの表現活動を支える力をつけていく。</p>	<p>オムニバス方式</p>

国語科教育法	この授業は、小学校学習指導要領における国語の改定の経緯を理解できること、具体的な実践事例等の検討を通してそれを実践するための知識や技能を身に付けることができること、指導目標の達成に向けた効果的な指導方法を位置付けた授業を構想し指導計画を立案することができることを目標とする。具体的には、実践事例等の検討を通して、効果的な指導方法を位置付けた授業を構想し、指導計画を立案する。また、実際に小学校の授業を参観したり、模擬授業を行ったりすることによって実践力を身に付ける。これらを通して小学校学習指導要領に基づいた小学校における国語科授業のあり方を考察する。	
社会科教育法	この授業は、小学校学習指導要領における社会を分析し、社会科の授業の目標や内容等を理解すること、教科書や授業記録等を分析することで社会科授業の構成を理解し、基本的な指導案を書けるようにすることを目標とする。具体的な内容としては、各学年の学習指導要領社会の内容分析、教科書や資料の分析による授業構成の仕方、教材研究、指導案の作成と模擬授業の実施、評価の方法である。これらを通して、社会科教育に関する知識や授業を組み立てる技術を学ぶ。	
算数科教育法	学習指導要領に示された算数科の目標及び学習内容を理解し、算数教育の基礎理論や指導理論を身に付けるとともに、具体的な授業場面を想定した授業設計を行うことができることを目標とする。学習指導要領の背景と算数科の目標、育成すべき資質・能力と学習内容の4領域について学び、授業の具体的事例の考察、学習指導案の作成、模擬授業等を通して、算数科の授業実践に必要とされる教材解釈の力、授業構築の力、子ども理解の力などを身に付けていく。	
理科教育法	小学校理科の教科の目標、育成する資質・能力や学習内容について、背景となる学問領域と関連させて理解することを目標とする。主な内容は、「小学校理科の教材化や単元構成・評価など授業づくりの基礎を学ぶ」「各学年の目標や内容を理解し問題解決能力を育む問題解決学習のある学習指導案を作成する」「各学年で働かせる「見方・考え方」を考慮した学習指導案を作成し模擬授業を実施する」「小学校理科授業の参観と授業についての話し合い、小学校教諭による授業づくりの講話」などである。	
生活科教育法	生活科における指導法や評価法について理解すること、学習指導案の作成を通して、指導法を検討するとともに授業場면을体験することを目標とする。生活科の目標や内容を押さえながら、指導法や評価法を学ぶ。また、学習指導案作成や模擬授業を通して、授業のあり方を理解する。主な内容は、生活科の指導計画、生活科における教師の役割、生活科における評価法、生活科の指導と評価の在り方、生活科の学習指導案、生活科の指導の実際、生活科の今後についてである。	
音楽科教育法	小学校音楽科の目標・領域・内容・方法について正確に理解すること、また、児童の発達段階に応じた音楽科授業を構想することができることを目標とする。授業では、小学校音楽科の目標・領域・内容・方法を概観し、児童の成長・発達の過程に音や音楽を位置づけることの意義を理解する。そのうえで、音楽科教育の理論的背景や具体的事例、今日的な動向を知り、音楽科の授業づくりに必要な教材解釈・教材研究の方法、および指導方法の獲得を目指す。	
図画工作科教育法	小学校図画工作科の授業を構想し、実践するための基礎的力量的の形成を目指す。また、教科書を用いた図画工作科授業の基本構成を学び、指導計画や指導案を作成し模擬授業ができるようにする。授業では、教科用図書の基本的な構成を学び、図画工作科授業の基本的な構成を理解するとともに、学びの過程を意識した学習指導案を作成したり、それを基にした模擬授業を相互に検討し合ったりすることで、授業実践力の基礎を養う。	
家庭科教育法	授業科目名「家庭」で身に付けた専門的知識と技能を基に、子どもたちの実態を踏まえながら、授業でどのように指導していくか、そのための教材をどのように開発していくかなど、具体的な授業場면을想定した授業設計をする。内容は「家族・家庭生活領域に関する学習内容」「食生活領域に関する学習内容」「衣・住生活領域に関する学習内容」「消費生活・環境領域に関する学習内容」「布を用いた製作に関する教材づくり」の指導・評価のポイント等である。	
体育科教育法	小学校教育の現場において教師として子どもたちに指導するために、体育の歴史の変遷や今日の課題を把握し、体育授業における目標・内容・方法を理解し、そして体育授業を計画・実践できるようになることを目標とする。授業では、これまでの小学校体育科教育の推移を学習指導要領の変遷や社会情勢の移り変わりから概観し、これからの体育授業に必要な事柄を考察する。また、学習指導案の作成、授業研究を通して、現場の体育指導場面で必要な知識・技術を学び、専門職としての小学校教師像を考える。	

保育

内容・教科の指導法

英語科教育法	<p>小学校で行われる外国語の教科化に伴い、小学校教員免許取得に必要な英語授業に関わる目的とその内容を理解する。コミュニケーション能力の育成や教授法、及び具体的な指導技術に関する知識を得ながら、学習者の発達段階に応じた学びに対応できる教員養成をねらいとする。ICTを利用した授業構成やALTとのチームティーチングなどの教室運営など新しいトレンドに関する理解も深める。学習指導要領の目標や指導内容について、教員の講義、グループディスカッションなどアクティブで学習者が自ら知識や技能を獲得していく過程を重要視する。卒業生などを特別講師として招聘しながら外部のリソースも利用する開かれた講義を目指す。</p>	
保育内容総論	<p>この授業は演習科目であるため、グループワークや発表などを中心に行っていく。前半では幼児教育の基本や5領域のねらいと内容、指導計画の基本的な考え方を学ぶ。後半では前半での学びを基盤として、教材研究、指導計画の立案を行い、幼児教育の基本的な考え方を実践的に理解していく。なお、各授業ではビデオや写真などの視聴覚教材の活用や具体的な事例を示し、学生が幼児の姿や幼稚園での教育を具体的にイメージしながら理解できるようにする。</p>	
保育内容の指導法（健康）	<p>幼児期は生涯にわたる心身の健康の基礎を養うためにとても重要な時期と言える。本科目では、子どもたちが生涯にわたって健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うことができるようになるため、保育者がどのような援助の仕方や環境の整備をしていくかを学ぶ。特に、幼稚園教育要領および保育所保育指針における心身の健康に関する領域「健康」に示された観点から、子どもの生活リズム、生活習慣、安全、あそび、食育などについて具体的な取組の事例や客観的データから、園生活のあり方、保育者の子どもとの関わり方、家庭との連携について探求する力を身に付けることが目的である。また、現代の子どもをとりまく環境の中で、健全な心身の発達を阻害する要因の把握や対処についての基礎を理解することも目的の一つとなる。</p>	
保育内容の指導法（人間関係）	<p>乳幼児期は子どもの人間形成の基礎を作る重要な時期であり、その多くは人とのかかわりのなかで培われていく。例えば、発達の中核を占める自己の認識も、子どもの認知発達の基礎となる「モノ」との関係も、人とのかかわりに支えられている。いわば「生きる力」の基礎は、子ども自身の「人間関係」や子どもを取り巻く「人間関係」のなかで、身につけていくものだといえる。このような観点から、小学校以降の発達や教育とのつながりについても視野に入れながら、事例をもとに人間関係を軸にして乳幼児期の発達と保育実践を概観し、人とのかかわりを育てる保育計画を構想する力をつけていく。</p>	
保育内容の指導法（環境）	<p>前半では子どもの遊びと環境の関連について、自然と子ども、様々な道具と子ども、地域社会と子ども、数や文字への関心など様々なトピックから保育内容を考えていく。後半では前半での学びを基盤として指導案立案と模擬保育を行い、保育内容の指導方法を実践的に理解していく。なお、各授業ではビデオや写真などの視聴覚教材の活用や具体的な事例を示し、学生が幼児の姿や幼稚園での教育を具体的にイメージしながら理解できるようにする。</p>	
保育内容の指導法（言葉）	<p>前半の講義では、各回のトピックに関連することからについて、研究結果や子どもの様子をとらえた映像資料などを活用しながら授業を進める。後半では、実践的な活動を取り入れ、具体的な子どもの姿や援助の方法について指導案の立案、模擬保育などを通して理解する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(11 青木直子／8回)</p> <p>各回のトピックに関連することからについて、研究結果や子どもの様子をとらえた映像資料などを活用しながら授業を進める。具体的な内容は、言葉とは、話し言葉の発達、書き言葉の発達、就学前後の子どもの言葉、生活の中の言葉である。</p> <p>(84 清水貴子／7回)</p> <p>実践的な活動を取り入れ、具体的な子どもの姿や援助の方法について理解を深める。取り扱う内容は、言葉を使った遊び、児童文化財・環境の設定と評価である。</p>	オムニバス方式



	保育内容の指導法（表現）	<p>領域「表現」に則した子どもたちの表現活動を主に造形的視点及び音楽的視点から検討し、具体的な指導・保育場面を想定した活動を行う。それらの活動により、領域「表現」のねらい及び内容を踏まえた表現活動を行うための技法や実践法を習得する。</p> <p>（オムニバス方式・共同（一部）／全15回）</p> <p>（8 稲實順・12 新海節／1回）（共同）</p> <p>子どもと表現について （8 稲實順／7回）</p> <p>造形表現における情報機器や教材の活用、絵具の基礎技法、表現教材について （12 新海節／7回）</p> <p>表現するためのテクニックについて、保育者に必要な音楽的表現能力について、あそびと音楽活動</p>	オムニバス方式 共同（一部）
保育・教育の理論	社会福祉論	<p>今日、私たちが社会生活を営む上で、社会福祉は必要不可欠な存在として位置づけられている。社会福祉は、社会的要因の影響を受けて発生した社会生活上の諸問題に対応する、専門的な社会サービスの体系を意味している。社会生活上の諸問題には、格差、貧困、社会的不平等、保育や介護などの多くの生活問題が含まれる。この授業では、利用者（消費者）の立場から社会福祉の身近な事例を取り上げ、福祉問題の概要、内容やしぐみ、課題などについて解説する。</p>	
	子ども家庭福祉論	<p>現代社会における子どもと家庭の状況をふまえながら「保育と福祉」の関連について考える。そのうえで子ども家庭福祉の理念・歴史・法律について理解を深めるとともに、子ども家庭施策の現状と課題、児童の権利擁護、児童福祉機関について学び、福祉を担う保育士としての役割と責任について習得することを目的とする。子育て支援サービス、母子保健サービス、保育サービス、児童虐待防止とドメスティック・バイオレンス、社会的養護、ひとり親家庭への福祉、障がいのある子どもの福祉、情緒障害・少年非行問題、子ども家庭福祉の専門職と連携にもふれる。</p>	
	社会的養護	<p>社会的養護を必要とする子どもとその家族の状況を理解した上で、子どもの権利を尊重した児童養護の基本原則および日本における社会的養護の制度・内容・現状・問題点等について学ぶことを目的とする。また、現代の保育士に要求される児童虐待対応について、虐待の発生予防・早期発見からその後のケア、および親子の再統合支援に至る機関連携の方法について理解を深めることを目指す。家庭養護、施設養護、社会的養護とソーシャルワーク、児童福祉施設の運営管理、今後の社会的養護のあり方にもふれる。</p>	
	児童館・放課後児童クラブの機能と運営	<p>この授業では、児童福祉法制定の経緯、児童福祉法に盛り込まれた健全育成の考え方、健全育成の具体的内容、現代の子どもの健全育成上の課題、遊びの健全育成上の意義についてなど、児童の健全育成について学ぶ。また児童館について、その起源、施策の経緯、施設概要、施設規模別特徴、児童館の機能と運営上の留意点、児童館ガイドライン、児童館の課題と展望、放課後児童クラブについて、放課後児童健全育成事業の概要、活動内容と実施上の留意点、放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準、放課後児童クラブ運営指針、都道府県認定資格研究、放課後児童クラブの課題と展望など、児童館や放課後児童クラブの機能や運営について理解していく。</p> <p>（126 柴田恵里子） 主担当者として全ての授業回を担当する。</p> <p>（127 森岡裕美子／3回） オリエンテーション、運営管理（法令順守、子どもの権利擁護、要望・苦情への対応 他）、安全対策（安全管理・危機管理、防災・防犯、事故防止活動 他）の授業を柴田と共に担当する。</p>	共同（一部）
	特別支援教育と福祉	<p>今日の「子ども家庭福祉問題」の中から障害児問題を中心に障害児が抱える現状や地域での連携・福祉サービスの役割と課題を理解し、家庭福祉専門職としての役割を学ぶ。また、障害児保育の考え方、保護者支援の方策を学ぶ。主な内容は、障害の理解と支援、発達を目指したさまざまな連携、個別の支援計画、小学校との接続、思春期・青年期に向けて、障害のある子どもの保護者（親）への支援、障害児保育・教育の歴史の変遷、インクルーシブ教育と合理的配慮などである。</p>	共同

	教育相談の理論と方法	この授業は、教育現場における教育相談の意義と理論、教育相談で必要な心理学の基礎的知識、子どもや保護者との面談の際などで必要となる援助者としての態度・カウンセリングマインド、教育・福祉・医療の現場などで行われている心理的ケア・地域支援・連携の実際を理解することを目標とする。主な内容は、教育相談の意義と課題、教育相談における不適応行動等への理解と対応の基本、児童生徒理解のための心理学、教育相談の方法、子どもを支援するための組織的対応、子どもを支援するための機関連携、教育現場で応用可能な心理教育的支援、教育相談の実際等である。	
	家庭支援論	この授業は、子育て家庭に対する支援の意義・目的、保育の専門性を活かした支援の意義と基本、支援の体制、ニーズに応じた多様な支援の展開、家庭支援の現状と課題を理解することを目的とする。具体的な内容は、家庭支援の目的や機能、子どもの育ちの喜びの共有、保護者や地域が有する子育てを实践する力の向上に対する支援、保育士に求められる基本的態度、多様な子育て家庭に対する支援にかかわる各関連機関との連携のあり方についてなどを取り上げていく。	
	子どもの保健	この授業では、子どもの発育と発達、主な疾病の特徴について基本的な知識を修得することを目的とする。主な内容は、子どもの発育・発達、子どもの生活環境と精神保健、発達障害の子どもたち、子どもの心の健康とその課題、子どもの食と栄養、子どもの健康状態の把握、主な疾病の特徴（新生児の疾患、先天性疾患、呼吸器・循環器・消化器の疾患、アレルギー・免疫・腎・泌尿器の疾患、中枢神経系・その他の疾患、感染症）、子どもの疾病の予防と適切な対応である。	
子どもの理解	子どもの健康と安全	小児期は、将来成人し社会人となった時の「こころ」と「からだ」の健康の基礎を形成する重要な一時期である。このような考えを基本に、この授業では子供の保育と健康管理に必要な基本的知識及び技術について学ぶ。主な内容は、生命誕生、乳幼児の成長発達と保育の概要、子供の健康およびヘルスアセスメントの方法、子供の生活援助技術、保育施設における安全管理、応急措置、救急蘇生法、施設における保育活動についての検討、検討事例に関する発表会等なのである。	
	子どもの食と栄養	<p>保育を通して食育をどのように進めていくことができるのか、生活の中での子どもの「食を営む力」への理解と、その支援方法を習得する。「食育」の必要性、国の施策、保育所での保育と連動した「食育」のあり方、また家庭・地域との連携の方法、そして、その具体的な方法について実践例を参考にしながら、自ら計画・実践し、評価する力を養う。主な内容は、子どもの健康と食生活の意義、栄養と食品に関する基礎的知識、子どもの発育・発達と栄養生理、子どもの発育・発達と食生活、特別な配慮を要する子どもの食と栄養、食育の基本と内容、家庭や児童福祉施設における食事と栄養等である。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(33 隈元晴子／4回)</p> <p>子どもの健康と食生活の意義、栄養と食品に関する基礎知識、子どもの発育・発達と食生活</p> <p>(86 石田しづえ／11回)</p> <p>子どもの発育・発達と栄養生理、子どもの発育・発達と食生活、食育の基本と内容、家庭や児童福祉施設における食事と栄養、特別な配慮を要する子どもの食と栄養</p>	オムニバス方式
	子ども文化論	現代の子どもたちがおかれている様々な状況をとおしてその実態を明らかにしていく。その中で「子ども文化」について考察をしていく。とりわけ、子どもが自ら作り出す遊び、長く伝えられてきた文化的財産、大人が子どもに関わり生み出された社会的現象や事物、歴史的に見て新たに生じてくるもの、失われてしまったものなど、子どもに関わる文化財を意識してとらえる。主な内容は、「子ども文化」とは何か、遊びの歴史、子どもを取り巻く社会の変化、伝承遊び、むかし遊びにふれる、絵本、「子ども文化」のまとめ等である。	
	乳児保育 I	この授業では、乳児保育の意義と目的、歴史の変遷と保育所、保育士の役割について理解すること、保育所や乳児院における乳児保育の現代的課題や現状について把握し、他機関との連携などについて理解すること、3歳未満児の発育、発達について学び、具体的な保育内容について理解を深め、未満児の保育を構成する力を養っていくことを目的としている。改訂された保育所保育指針をもとにして、未満児保育の重要性とその内容、方法について理解を深めていく。	

保育・教育の内容	乳児保育Ⅱ	この授業は、乳児保育Ⅰでの学びを踏まえ、より実践的な知識や方法を学ぶ。授業の目的は、3歳未満児の発育、発達のプロセスを踏まえた援助や関わり、子どもの最善の環境を踏まえた生活や具体的な遊びの内容について理解することである。また養護および教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法や環境の設定について具体的に理解し、子どもの発達をより促すための指導計画を作成できる力を身につけていく。	
	社会的養護内容	「子ども家庭福祉」領域では伝統的かつ中核的役割を担ってきた入所型児童福祉施設の実践を題材としながら、社会的養護にかかわるソーシャルワークの知識・技術とその応用について理解した上で、各児童福祉施設の養護内容と保育士の役割を学ぶことを目的とする。また、施設養護の実践を通して家族支援、地域支援について考察する。主な内容は、施設養護の実際、ソーシャルワークに関わる知識・技術、施設の特性と養護内容、児童福祉施設における支援者の資質と倫理等である。	
	子どもの遊びと学び	講義を通して、子どもの遊びと学びへの理解を深め、遊びを通じた子どもの健全な発達はどうあるべきかを考える。主な内容は、子どもにとっての遊びの意義、現代の子どもの遊び環境と遊びの実態、乳幼児期の子どもの遊びにみる学び、生活科導入の歴史にみる小学校における「遊びと学び」の捉え方、生活科における遊びを基盤にした実践例、地域の環境を活かした活動における子どもの学び、子どもの「知りたい」「わかりたい」をかなえる教育実践、子どもの自然体験と学び、子どもの生活にみられる遊びと学び—小学校と幼稚園の生活から—、子どもの遊びや遊び心を尊重した教師・保育者の援助等である。	
子	児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法Ⅰ	この授業では、児童館・放課後児童クラブにおける活動内容やその指導法を学ぶ。具体的には、日々の活動や年間を通じた活動の流れ、行事等の企画立案方法、遊びの環境構成や遊びを通じた支援の実際、小学生の仲間づくり、生活や学習支援の実際など、子ども達への支援の仕方を理解する。また、子育て支援活動、保護者・学校・地域との連携の仕方、ボランティアの育成や支援、児童館・放課後児童クラブにおけるグループワーク・ケースワークなどへの理解も深めていく。  (128 山田美奈) 主担当者として全ての授業回を担当する。  (130 吉原朝子/2回) 子育て支援活動、ボランティアの育成・支援、の授業を山田と共に担当する。	共同（一部）
	児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法Ⅱ	この授業では、児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法Ⅰを踏まえ、児童館・放課後児童クラブにおける活動内容やその指導法の発展的内容を学ぶ。具体的には、コミュニティーワーク、コミュニティーワークの展開方法と児童厚生員の役割、児童ソーシャルワークの展開方法、中高生の居場所づくり、児童の参画の考え方、地域資源の発掘・育成、地域の関係機関との連携・協働などの地域のネットワークづくり等を理解する。また、実践記録の取り方、実践レポートの書き方など、児童館・放課後児童クラブ活動の記録方法も学んでいく。  (130 吉原朝子/15回) 主担当者として全ての授業回を担当する。  (129 工藤明美/3回) 地域のネットワークづくり（地域資源の発掘・育成・連携・協働）、子どもの社会参画（考え方、プログラム）	共同（一部）

こもと家族の支援

<p>子ども家庭支援の心理学</p>	<p>この授業では、人の生涯発達の基礎的知識を得ること、家族や家庭の理解を深めること、子育て家庭の現状を課題を理解すること、子どもの精神保健とその課題について理解することを目的としている。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(5 小山和利／11回) 家庭・家族の意義と機能、親子関係・家族関係の理解、子育てと親の育ち、子育てを取り巻く社会的状況、ライフコースと仕事。子育て、多様なニーズをかかえる家族とその理解・支援、特別な配慮を要する家庭の理解とその支援、成育環境と子どもの育ち、子どもの心の健康とそれにかかわる諸問題 (11 青木直子／4回) 乳幼児期から幼児期前半の発達、幼児期後半から学童期前半にかけての発達、学童期後半から青年期にかけての発達、成人期・老年期における発達</p>	<p>オムニバス方式</p>	
<p>子育て支援（演習）</p>	<p>この授業は、保育士の行う専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供などの支援についてその特性と展開を具体的に理解すること、保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法および技術を事例等を通して具体的に理解して行くことを目的として行う。具体的には、子どもの家庭の状況把握について、支援計画、支援の実践・記録・カンファレンスについて、職員間の連携や協働について学ぶ。また保育所内のみならず、地域の子育て家庭に対する支援のあり方や、子ども虐待の予防や対策の方法などを学び、多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解に努める。</p>		
<p>子育て支援（講義）</p>	<p>この講義では子育て支援が必要な背景について、子どもや家族を取り巻く社会の変化を中心に理解し、現代の社会において子育て支援がどの様に行われており、どの様な課題があるのかについて学ぶことを目的とする。また、一般的な子育て支援の理論を踏まえた上で、父親の子育て、配慮が必要な子育て、諸外国における子育て支援等、さまざまな子育て支援も取りあげる。特に支援の対象を絞り行う子育て支援については、困難なケースから、どの様な配慮と支援のあり方が望ましいかについて理解を深める。</p>		
<p>児童生徒指導・進路指導</p>	<p>この授業は、児童・生徒理解のための、行動観察、社会調査、心理アセスメントの方法、社会的自立、職業的自立に向けた長期的視点に立った発達段階と発達支援の方法、児童・生徒指導及びキャリア教育のための個別指導及び集団指導・支援計画の作成方法、保護者対応、組織的対応、地域社会や関係機関との連携について理解することを目的としている。具体的な内容は、児童生徒をめぐる今日的課題を理解し、特別活動・体験活動と指導の関連、教育活動全体を通じた全体指導、ポートフォリオの活用、指導の基本的な姿勢（関係性、個の尊重、自己洞察、カウンセリングマインド他）等、具体的な指導の方法を学んでいく。</p>		
<p>共通</p>	<p>児童館実習指導</p>	<p>児童館実習を行うための事前及び事後の指導を行う。事前指導では、児童館実習の意義と目的、児童館の設置目的や機能・役割に関する知識を修得するとともに、児童厚生員の役割について学ぶ。また、実習生としての姿勢や態度、実習中の具体的な目標や記録の仕方、児童個々に合った支援を実施する意義や方法について理解を深める。事後指導では、振り返りを通じて自己の課題を理解する。</p>	
	<p>児童館実習</p>	<p>核家族化、地域連携の希薄化の中で、子どもの健全育成、子育て支援など、地域児童福祉活動の拠点となる児童館への期待はますます大きくなっている。本実習では、子どもの遊びや生活に対する援助をととして子どもの育ちを支援する専門職としての児童厚生員のあり方について、実習を通して学ぶことを目的としている。具体的には、実習施設の概要、児童厚生員の役割を理解し、児童支援活動への参加や施設事務等の実習を通して、実践的に児童厚生員の職務について理解していく。</p>	
	<p>保育実習指導Ⅰ（保育所）</p>	<p>この授業は、保育所実習Ⅰ（保育所）の事前・事後指導のための科目である。事前指導では、子ども、保育者や職員の方々等多くの人たちとの貴重な出会いを通して、自分のものの見方、考え方、保育者としての資質が問われ、自身の進路について考える機会ともなる実習に臨むにあたり、実習の意義や目的、子どもの発達や保育に関する知識やこれまでに修得した基本的な技術を確認していく。具体的には、保育所保育指針の内容の確認、子ども理解の方法、実習の全体像の理解、1日の流れの理解、保育教材についてなど、実習で必要な知識や技術の確認を行っていく。事後指導では、実習をふりかえり、自己課題の整理をしていく。</p>	

実習

保育実習Ⅰ（保育所）	保育所実習Ⅰは保育士資格取得のための必修科目である。道内の保育所で10日間の実習を行う。保育所実習Ⅰでは保育所での実習を通して、現代の子どものおかれている状況や保育所の役割等を理解する。また、子ども、保育者や職員の方々等多くの人たちとの貴重な出会いを通して、自分のものの見方、考え方、保育者としての資質が問われ、自身の進路について考える機会ともなる。	
保育実習指導Ⅰ（福祉施設）	保育実習指導Ⅰ（福祉施設）の事前・事後指導のための科目である。保育実習指導Ⅰ（福祉施設）の対象施設として、乳児院、母子生活支援施設、障害児入所施設、児童発達支援センター、障害者支援施設、指定障害福祉サービス事業所、児童養護施設、児童心理治療施設、児童自立支援施設等がある。事前指導では自分が実習を行う実習施設の特性と社会的役割、利用児・者の特性、施設保育士の役割を学び、実習に向けた準備をすることを目的とする。また、事後指導では実習を振り返り新たな課題や学習目標を明らかにすることを旨とする。	
保育実習Ⅰ（福祉施設）	保育実習指導Ⅰ（福祉施設）の対象施設である乳児院、母子生活支援施設、障害児入所施設、児童発達支援センター、障害者支援施設、指定障害福祉サービス事業所、児童養護施設、児童心理治療施設、児童自立支援施設等の施設実習を通し、利用児・者一人一人が抱える状況について理解を深めるとともに、福祉施設の目的と機能、利用児・者および家族への支援方法、施設保育士の役割と業務内容について学ぶことを目的とする。	
保育実習指導Ⅱ（保育所）	この授業は、保育所実習Ⅱの事前・事後指導にあたる科目である。事前指導では、保育所実習Ⅰを踏まえ、現場での自己の学びを整理し、他実習生の学びの報告から自己評価を行い、あらたな課題や学習目標を明確にし、社会人として、保育者としての自身の進路を考える時とする。事後指導では、多様な保育の現状を知り、求められる保育者像と保育所の課題について考察し、最近の保育研究と講義や実習経験から、保育について考える時とする。	
保育実習Ⅱ（保育所）	保育所実習Ⅱは保育士資格取得のための選択必修科目である。この実習の10日間は、保育所実習Ⅰと同じ保育所で行い保育実践経験を深める。また、保育所実習Ⅰ及び大学での実習指導をふまえ、明らかになった自己課題を追求すると同時に、子どもや保育に関して自分なりに課題を設定し、実習を通して主体的に深め、子どもや保育、保育所についてさらに理解を深めていく。課題に関しては現場の保育者の助言・指導を受けながら、より実践的な理解が得られるよう努力する。	
保育実習指導Ⅱ（福祉施設）	保育実習指導Ⅱ（福祉施設）の事前・事後指導のための科目である。保育実習指導Ⅱ（福祉施設）は、保育実習Ⅰ（福祉施設）をふまえ、福祉施設の役割、施設保育士としての知識や生活技術、自己課題等について、実践を通してさらに学びを深めるための実習である。そのため、事前指導では実習を円滑に進めていくための知識や技術を習得し、実習内容や実習課題を明確にすることを目的とする。また、事後指導では実習を振り返り施設保育士の専門性について理解を深めるとともに、保育に対する課題や認識を明確にすることを旨とする。	
保育実習Ⅱ（福祉施設）	保育実習Ⅰ（福祉施設）を踏まえ、施設養護に携わる保育士としてさらに高い援助技術や専門的知識を習得することを目的とする。実習を通して、福祉施設の役割や機能についての理解を深めるとともに、そこで生活をする子どものニーズを把握し子どもや家族への支援と対応や職業倫理について実践的に学ぶ。さらに、自己課題を明確にし、施設保育士に必要な資質について理解を深める。	
保育実習指導Ⅱ（児童館）	児童館実習をふまえ、保育実習Ⅱ（児童館）実習の行うための事前及び事後の指導を行う。事前指導では、児童の健全育成の在り方や地域子育て支援のための知識・技術を習得し、地域福祉活動等の具体的プログラムの内容や展開方法について学ぶとともに、そうしたプログラムが求められる社会的背景についても理解を深める。事後指導では、振り返りを通じて自己の課題を理解するとともに、児童館に対する認識を新たにす。	
保育実習Ⅱ（児童館）	児童館の役割や活動内容を観察等を通して体験的に理解することを目的とする。児童の健全育成の在り方や地域子育て支援のための知識・技術を習得し、児童厚生員の職務を理解すること、子どもたちのニーズを的確に把握、課題をアセスメントし、専門職の担う役割を理解するとともに、多職種との連携について学ぶ。具体的には、実習施設の役割と機能の理解、個別支援計画の作成と実践の方法、子どもの家族への支援と対応、多様な専門職との連携など、児童館における支援の実際、児童厚生員の職業倫理について理解していく。	

教育実習指導（特別支援）	この講義は、教育実習（特別支援）を履修する者は必ず事前に履修しなければならない。主な内容は、事前指導として、特別支援教育の概要、特別支援学校の現況、障害のある子ども・特別な教育的ニーズのある子どもの教育についての基礎的知識の獲得、実習における心得、特別支援学校での教育の実際、個別の指導計画の作成、幼児児童生徒の実態把握、学習指導案の作成について、事後指導として、実習の反省と成果・課題の報告である。	共同
教育実習（特別支援）	この実習は、特別支援学校教諭一種免許状を取得するためのものである。特別支援学校の制度、システム、教育理念、教育目標・内容・方法などについて理解し、教員としての自覚をもって教育実習を行うことを目標として、学外実習を行う。実習における主な内容は、各クラスに所属し一人の指導教員につき、基本的な事柄を学び実習する。担当の幼児児童生徒の観察と理解、実態把握、教育目標の設定、教育内容・方法などについて、学習指導案の作成、研究授業の準備と実施、研究授業反省会である。	共同
教育実習指導（幼稚園・小学校）	教育実習（小学校・幼稚園）の事前・事後指導のための科目である。事前指導においては、教育実習の意義や小学校、幼稚園での全体像の理解をした上で、それぞれの教育施設における1日の流れ、教育実習に必要な技術や知識の確認、指導案や日誌の作成についてなど、実習に必要な知識や技術を修得する。また教師としての倫理観や使命感についても学ぶ。また事後指導では、実習を振り返り、新たな課題や学習目標を明らかにすることを目指す。	共同
教育実習（幼稚園・小学校）	この実習は、小学校教諭一種免許および幼稚園教諭一種免許を取得するためのものである。市内や近郊の小学校、道内の幼稚園などで4週間の実習を行う。実習では、小学校および幼稚園の教育内容の理解、教育課程に基づいた授業・保育計画の考え方の理解、授業・保育のための指導案の作成とその実施、子どもとの生活における子ども理解を深めることなどを目的とする。この実習を通して、小学校や幼稚園の教師に求められる力を再認識すると共に、自己の課題を明確にしていく。	共同
スタートアップセミナー	この授業では、大学で学ぶためのスキルを得ること、学科で扱う専門領域はどのようなものかを理解することを目的としている。具体的には、ノートのとり方、文献の検索方法、文章表現の方法、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法等、大学の授業で必要な技術を修得すること、また、小学校教育、保育・幼児教育、特別支援教育に関する基礎的な内容を学び、子どもの教育の様々な側面から、子どもの育ちについて考えていく。授業は6名の教員が共同で15回担当し、3名の教員が各1回ずつそこに加わり、下記のテーマについて授業を実施する。  (共同・オムニバス方式（一部）／全15回)  (1 高橋真由美／1回) 実習の体系と実習の内容 (5 小山和利／1回) 特別な配慮を必要とする家庭や子ども達 (8 稲實順／1回) 教員になるために必要なこととは	共同 オムニバス方式 (一部)
研究調査法	研究調査法は、人々の行動を客観的に記録するための研究方法について学ぶことを目的とした授業である。この授業では、研究をする際の倫理的配慮の重要性、倫理的配慮の具体的な内容、質問紙法・実験法・面接法などの調査方法について学ぶ。また、授業では、調査を計画・実施し、得られたデータの分析も行う。授業で学んだことがらを実践することによって、適切な調査方法や分析方法とはどのようなものなのかについて、理解を深めていく。	
臨床発達検査法	子どもの不適応行動の理解や発達を支援するためには、適切な心理アセスメントが必要となる。この授業では、現在の相談機関で用いられている知能検査や発達検査及び性格検査を紹介し、その特徴と実施方法、背景となる理論や解釈上の留意点を学び、心理検査の結果を適切に理解し現場で応用できる実践的な知識の習得を目指す。授業は講義資料とスライドを中心に進めるが、随時、心理検査を実際体験したり、グループによる討議も取り入れながら理解を深めていく。また実際の事例を通じて、子どもの心理状態を推測し、支援につなげる方法についても学んでいく。	
	この授業は、教師・保育者として「教科・保育内容の指導力に関する事項」「幼児児童理解や学級経営に関する事項」「使命感・責任感・教育的愛情に関する事項」「社会性や対人関係能力に関する事項」を広く学ぶ。1学年をa～dの4つのクラスに分けて授業を実施する。  (オムニバス方式・共同／全15回)	

専門研究法	保育・教職実践演習（幼稚園・小学校）	<p>&lt; a・bクラス &gt;  (1 高橋真由美・10 松村聡／9回) (共同)  オリエンテーション：授業の目的・進め方、履修カルテを使用した4年間の学びの振り返りと自己課題の整理、教科、保育内容における教材研究 学びを深める教材とは、子どもの疑問を学びに変える教育・保育とは、授業や生活の様々な場面を想定したロールプレイ、子どもの姿をとらえる記録の作成、模擬カンファレンスの実施、クラス便りの機能と作成上の留意点・クラス便りの作成、現代社会の問題と教育、まとめ 自己の教育・保育観に関するレポート作成</p> <p>(3 吾田富士子・7 駒形武志／6回) (共同)  ワークショップ：自分自身を知ろう、～自己分析と他人から見た自分、協働性を養うチームビルディング、現代社会の問題と教育、子どもをとりまく環境と教育、自己の教育・保育観を考える</p> <p>&lt; c・dクラス &gt;  (3 吾田富士子・7 駒形武志／9回) (共同)  オリエンテーション：授業の目的・進め方、履修カルテを使用した4年間の学びの振り返りと自己課題の整理、ワークショップ：自分自身を知ろう、～自己分析と他人から見た自分、協働性を養うチームビルディング、現代社会の問題と教育、子どもをとりまく環境と教育、自己の教育・保育観を考える、まとめ 自己の教育・保育観に関するレポート作成</p> <p>(1 高橋真由美・10 松村聡／6回) (共同)  教科、保育内容における教材研究 学びを深める教材とは、子どもの疑問を学びに変える教育・保育とは、授業や生活の様々な場面を想定したロールプレイ、子どもの姿をとらえる記録の作成、模擬カンファレンスの実施、クラス便りの機能と作成上の留意点・クラス便りの作成</p>	オムニバス方式 共同
	専門演習	<p>専門演習は、保育者・教育者として必要な力をつけること、保育・教育を研究的にとらえる力をつけることを目的として行う。そのため演習を通して保育・教育研究のために必要な知識や技術を身につけていくとともに、物事を多角的な見方ができる姿勢を養う。最終的には、保育・教育を行う上で、物事を多角的に捉え、保育・教育を創造していく力の基礎をつけるとともに、理論的な物事の考え方の基礎を育むことを目標とする。</p>	
	卒業研究演習	<p>この授業は、卒業研究を行うために必要とされる知識や技術を学ぶことを目的として行う。文献の検索方法、文献の読み込みの仕方、データ収集・分析の方法、文章の書き方、論文の構成の仕方などを、卒業研究の進捗を見ながら随時学ぶ機会としたい。卒業研究のテーマは個々によって違うが、グループでディスカッションを行う等する中で、さまざまな角度から自分の研究テーマを追究する目を養うことを目標とする。</p>	
	卒業研究	<p>卒業研究演習での指導を基盤として、研究テーマを各受講生がそれぞれの興味に応じて選択し、そのテーマに基づき、調査、研究を行い、論文にまとめる。論文作成を通して、物事を理論的、多面的に捉える力、正しい文章を書く力、人に伝わる文章の組み立てができる力などを養うことを目標とする。具体的内容としては、研究倫理の理解、文献検索の方法の理解、データの分析方法、文章の組み立て方などの研究に必要な知識や技術を修得し、論理的に事象を説明する力をつけていく。</p>	

## 学校法人 藤学園 設置認可等に関わる組織の移行表

	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
平成31年度					平成32年度			
<b>藤女子大学</b>					<b>藤女子大学</b>			
<b>文学部</b>					<b>文学部</b>			
英語文化学科	80	-	320		英語文化学科	80	-	320
日本語・日本文学科	80	-	320		日本語・日本文学科	80	-	320
文化総合学科	80	-	320		文化総合学科	80	-	320
<b>人間生活学部</b>					<b>人間生活学部</b>			
人間生活学科	80	-	320		人間生活学科	80	-	320
食物栄養学科	80	-	320		食物栄養学科	80	-	320
保育学科	80	-	320		<u>子ども教育学科</u>	80	-	320 学科の設置(届出)
計	480	-	1920		計	480	-	1920
<b>藤女子大学大学院</b>					<b>藤女子大学大学院</b>			
<b>人間生活学研究科</b>					<b>人間生活学研究科</b>			
人間生活学専攻(M)	8	-	16		人間生活学専攻(M)	8	-	16
食物栄養学専攻(M)	8	-	16		食物栄養学専攻(M)	8	-	16
計	16	-	32		計	16	-	32



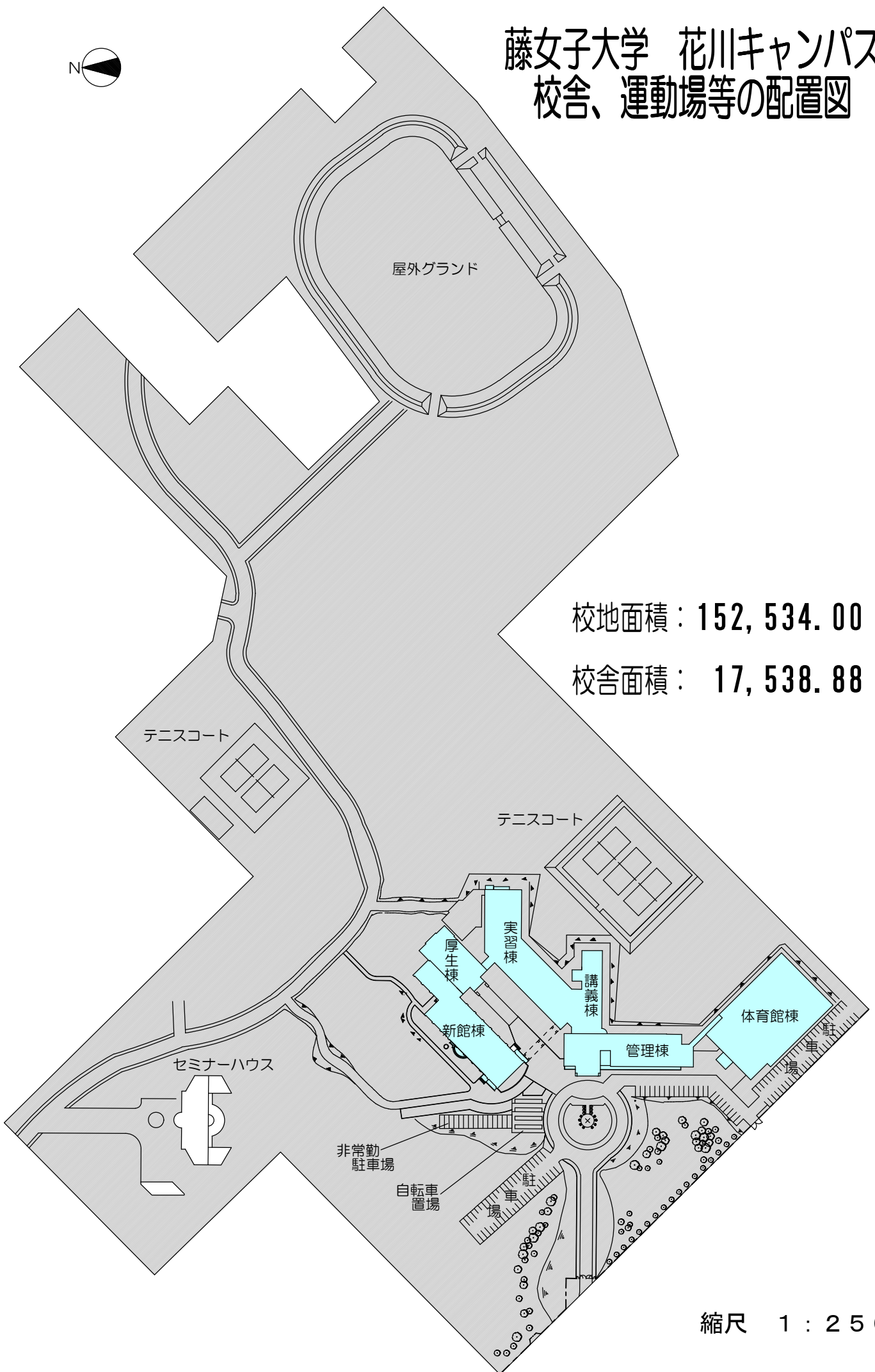






Copyright (C) 2019 Yahoo Japan Corporation. All Rights Reserved.

# 藤女子大学 花川キャンパス 校舎、運動場等の配置図



校地面積：152,534.00 m<sup>2</sup>

校舎面積：17,538.88 m<sup>2</sup>

縮尺 1 : 2500

# ○藤女子大学学則

## 第1章 総 則

### (目的)

第1条 藤女子大学(以下「本学」という。)は、カトリック精神に基づき、教育基本法と学校教育法の定めるところに従い、高等学校教育の基礎の上に、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を研究教授し、高い徳性と知性とを具備する指導的女性を育成することを目的とする。

### (大学院)

第1条の2 本学に、大学院を置く。

2 大学院の学則は、別に定める。

### (自己点検・評価等)

第2条 本学は、教育研究水準の向上を図り、その目的及び社会的使命を達成するため、次の活動等を行う。

(1) 教育研究活動等の状況について、自ら点検及び評価を行い、その結果を公表する。

(2) ファカルティ・ディベロップメント(教員が教育の質的向上を図るために組織的に取り組む活動をいう。)を実施する。

2 前項の点検及び評価等の実施に関する基本的事項は別に定める。

### (位置)

第3条 本学を、札幌市北区北16条西2丁目1番1号及び石狩市花川南4条5丁目7番地に設置する。

### (学部、学科)

第4条 本学に、次の学部学科を置く。

学 部	学 科
文 学 部	英 語 文 化 学 科
	日 本 語 ・ 日 本 文 学 科
	文 化 総 合 学 科
人 間 生 活 学 部	人 間 生 活 学 科
	食 物 栄 養 学 科
	子 ども 教 育 学 科

### (学部、学科の目的)

第4条の2 文学部は、人文・社会に関する諸分野の教育を通じて、広く、深い知識と鋭敏な感性とを自らのものとし、地域社会のみならずより広範な社会環境において多角的な視野のもとで多様な課題に主体的に取り組み、社会に貢献できる女性を育てることを目的とする。

(1) 英語文化学科は、国際言語としての英語の運用能力を高めつつ、英語圏の言語文化の社会的・歴史的諸相についての知見を養い、母語を含め、広く言語文化への関心と理解を深めていくことを目指す。その成果をもって、国際社会および地域社会の一員として他と協働し、健全な批判力と構想力をもって、自らを的確に表現することのできる女性を育てることを目的とする。

(2) 日本語・日本文学科は、日本語学、古典から近現代までの日本文学、日本文化を入門から専門性への段階を踏んだカリキュラムに従い探究し、最終的に卒業研究(論文)を書くことを課している。そこに至るまでに思考力を高め、柔軟にして鋭いものの見方ができる女性を育成する。その結果自立した有能な人間として社会に貢献できる人材を送り出すことが目的である。

(3) 文化総合学科は、人間の歴史や思想をふまえて、現代の社会と文化を地球規模で多面的に学び、

今日の社会の諸問題に対して柔軟でバランスのとれた対応ができる人材の育成を目的とする。そのために、人文・社会科学に関わる学問分野を基礎から学び、専門分野を絞り込みながら、最終的に卒業研究（論文）を執筆することを課している。

2 人間生活学部は、生命及び人間の尊厳と個人の多様な生き方を尊重し、他者と共存しつつ自立した生活を送り、人間と社会及び自然の相互関係に対する洞察に基づいて、多様化・複雑化してゆく生活の諸課題に責任を持って対処し、国際関係を超えた地球的視野から生活の諸問題を実践的に対処することのできる女性を育てる。

(1) 人間生活学科は、広く共生社会の実現に貢献するため、多様な価値観をもつ他者との協働的な取り組みを通して、日常生活の課題にしなやかに向き合い、行動し続ける女性の育成を目的とする。そのために、生活・福祉に関わる知識や技能、それらをつなげるプロジェクトを運営する実践力を養うことを目指す。

(2) 食物栄養学科は、人間生活（ヒューマン・ライフ）の視点から、人と人との関わりの中でとらえた食と栄養の教育・研究を目指している。そのために、入門から専門への段階を踏んだカリキュラムに従い教育・探究し、その過程で情報リテラシー、思考力・問題解決能力、コミュニケーション能力、専門能力を高め、柔軟にして科学的・客観的なものの見方ができる女性を育成する。その結果、健康・栄養情報をリアルタイムにとらえ、それを人のこころに共感しながらやさしく伝えることで生活の質の向上と社会に貢献できる管理栄養士を送り出すことを目的としている。

(3) 子ども教育学科では、人が人として成長していくための基礎を築き上げる時期である乳児期から児童期の子どもの成長や子どもにかかわる人びとを支えるために必要な学びを得ることができカリキュラムを構成してしており、地域社会に貢献できる幅広い視野を持ちながら、乳幼児期の子どもと就学後の子どもの教育を連続的に捉えることができる教育者の養成を目指している。4年間の学びを通して、子どもの発達の連続性・子どもを取り巻く人びとや社会の状況・各関係機関との連携のあり方などを総合的に捉える思考力を身につけ、学生自らが人間的成長を遂げることができる教育によって、子どもに深くかかわる専門家や、さまざまな立場から子どもの周囲にいる人びとを支えることで社会に貢献する人材を送り出すことを目的としている。

(修業年限及び在学年限)

第5条 本学の修業年限を4年とする。ただし在学年数は8年を超えてはならない。

(収容定員)

第6条 第4条に定める各学部学科の入学定員及び収容定員並びに所在地は次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	収容定員	所在地
文学部	英語文化学科	80名	320名	札幌市北区北16条西2丁目1番1号
	日本語・日本文学科	80名	320名	
	文化総合学科	80名	320名	
人間生活学部	人間生活学科	80名	320名	石狩市花川南4条5丁目7番地
	食物栄養学科	80名	320名	
	子ども教育学科	80名	320名	

## 第2章 学年、学期及び休業日

(学年)

第7条 学年は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期)

第8条 学年を分けて、次の2期とする。

前期 4月1日から9月30日まで  
後期 10月1日から翌年3月31日まで

(休業日)

第9条 休業日を、次のように定める。

- (1) 日曜日
  - (2) 国民の祝日に関する法律に定める休日
  - (3) 本学創立記念日(9月28日)
  - (4) 夏季休業、8月1日から9月14日まで
  - (5) 冬季休業、12月16日から翌年1月14日まで
  - (6) 春季休業、3月21日から4月5日まで
- 2 休業日については、必要と認める場合に変更することがある。

### 第3章 授業科目及び単位

(授業科目)

第10条 文学部の授業科目は、大学共通科目、学科専門科目及び教職に関する科目とする。

2 文学部の授業科目とその単位数は、別表第1(1)①、別表第1(2)①、別表第2、別表第3(1)から別表第3(3)及び別表第5(1)のとおりとする。

3 キリスト教学専修による卒業研究を可能にするために、文学部オープン科目を設ける。

第11条 人間生活学部の授業科目は、大学共通科目、学科専門科目及び教職に関する科目とする。

2 人間生活学部の授業科目とその単位数は、別表第1(1)②、別表第1(2)②、別表第4(1)から別表第4(3)及び別表第5(2)のとおりとする。

第11条の2 図書館情報学課程の授業科目とその単位数は、別表第11のとおりとする。

2 文学部の日本語教員養成課程の授業科目とその単位数は、別表第12のとおりとする。

(卒業研究)

第12条 卒業研究の審査に関する規程は別に定める。

第13条 削除

第14条 削除

第15条 削除

(一年間の授業期間)

第16条 一年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35週にわたることを原則とする。

(単位の算定基準)

第17条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とする。

(1) 講義及び演習については、15時間から30時間の授業をもって1単位とし、科目によってその基準は異なる。

(2) 実験、実習、実技については、30時間から45時間の授業をもって1単位とし、科目によってその基準は異なる。

2 前項各号の規定にかかわらず、卒業研究の授業科目については、学修の成果を評価し所定の単位を授与する。

### 第4章 履修方法及び卒業の要件

(履修方法)

第18条 本学卒業の認定を受けるためには、学生は別表第6（1）から別表第7（3）に定める科目及び単位を履修しなければならない。

2 履修に関する規程は、別に定める。

（単位の授与）

第19条 前条による必要単位修得の認定は、各授業科目の成績及び履修時数によって行う。

2 前項の認定に必要な授業科目の成績は試験によって定める。ただし、レポートその他の成績をもってこれに代えることができる。

3 授業科目の成績の評価は、A+(100～91点)、A(90～80点)、B(79～70点)、C(69～60点)、F(59点以下)とし、A+、A、B及びCを合格とする。

4 第1項の単位認定に必要な授業科目の履修時数については、その授業時数の3分の2以上であることを原則とする。

5 試験に関する規程は、別に定める。

（他の大学又は短期大学における授業科目の履修等）

第19条の2 本学が教育上有益と認めるときは、他の大学又は短期大学との協議に基づき、学生に当該他の大学又は短期大学の授業科目を履修させることができる。

2 前項の規定により、学生が修得した単位は、60単位を超えない範囲で本学において修得した単位と見なすことができる。

3 前2項の規定は、学生が海外留学協定校に留学する場合及び国内他大学との学生交流協定に基づき派遣される場合に準用する。

（大学以外の教育施設等における学修）

第19条の3 本学は、教育上有益と認める場合は、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修、海外単位認定指定校の語学センター等の学修を本学における授業科目の履修とみなし、本学の定めるところにより単位を与えることができる。

2 前項により与えることができる単位数は、前条第2項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

（入学前の既修得単位等の認定）

第19条の4 本学が教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む）を、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項により修得したものとみなし、与えることができる単位数は、編入学、転学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、第19条の2第2項及び前条第2項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

（卒業の認定）

第20条 本学に4年以上在学し、第18条及び履修要項に定める授業科目及び単位を修得した者には、教授会の具申を経て卒業を認定する。

（学位の授与）

第21条 本学を卒業した者には、卒業証書を授与するとともに学士の学位を授与する。

2 本学において授与する、学士の学位に付記する専門分野の名称は、次のとおりとする。

文 学 部	英語文化学科	学士（文学）
	日本語・日本文学科	学士（文学）
	文化総合学科	学士（文学）
人間生活学部	人間生活学科	学士（人間生活学）
	食物栄養学科	学士（食物栄養学）
	子ども教育学科	学士（教育学）



(教育職員免許状授与の所要資格の取得)

第22条 教育職員の免許状授与の所要資格を取得しようとする者は、教育職員免許法並びに同法施行規則の定めるところに従って、本学が定めた所定の科目について必要な単位を修得しなければならない。教育職員の免許状取得に関する履修要項は別に定める。

2 前項に規定する所定の単位を修得した者が取得できる教育職員の免許状の種類と免許教科の種類は、別表第8のとおりとする。

(保育士の資格の取得)

第22条の2 子ども教育学科の学生で保育士の資格を取得しようとする者は、児童福祉法並びに同法施行規則の定めるところに従って、本学が定めた所定の科目について、必要な単位を修得しなければならない。

2 前項の資格を取得しようとする者が第27条による転入学または編入学をした者である場合については文部科学大臣の認可した大学でかつ指定保育士養成施設である大学で修得した授業科目を、30単位を超えない範囲で当該教科目に相当する本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。また、指定保育士養成施設以外の大学で修得した授業科目の場合は、本学で設定する教養科目、学校独自の科目に相当する授業科目について30単位を超えない範囲で修得したものとみなすことができる。

(司書又は司書教諭となる資格の取得)

第22条の3 司書となる資格又は司書教諭となる資格を取得しようとする者のため、図書館情報学課程を置く。

2 前項の資格を取得しようとする者は、別表第11の(1)又は(2)に定める科目及び単位を修得しなければならない。

3 図書館情報学課程に関する事項は、別に定める。

(日本語教員養成課程)

第22条の4 文学部に日本語教員養成課程を置く。

2 日本語教員養成課程を履修しようとする者は、別表第12に定める科目及び単位を修得しなければならない。

3 日本語教員養成課程に関する事項は、別に定める。

(社会福祉士国家試験受験資格の取得)

第22条の5 人間生活学科の学生で社会福祉士国家試験受験資格を取得しようとする者は、社会福祉士及び介護福祉士法並びに社会福祉士介護福祉士養成施設指定規則等の定めるところに従って、本学が定めた所定の科目について、必要な単位を修得しなければならない。

2 前項に係る実習演習科目の履修方法については、別表第13のとおりとする。

(管理栄養士国家試験受験資格の取得)

第22条の6 食物栄養学科の学生で管理栄養士国家試験受験資格を取得しようとする者は、栄養士法及び管理栄養士学校指定規則の定めるところに従って、本学が定めた所定の科目について、必要な単位を修得しなければならない。

2 前項に係る科目の履修方法については、別表第14のとおりとする。

## 第5章 入学、退学、休学、留学並びに転部、転科及び懲戒等

(入学の時期)

第23条 学生を入学させる時期は、毎学年の始めとする。

第24条 入学検定は、人物、学力及び身体について行う。

(入学資格)

第25条 本学に入学することができる者は、次の各号の一に該当する女性とする。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者(通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む)
- (3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者、又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 文部科学大臣の指定した者
- (6) 高等学校卒業程度認定試験規則により文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者(旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。)
- (7) その他本学において、相当の年令に達し高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めたる者

第26条 入学を志願する者は、次の各号の書類に、別表第9に定める検定料を添えて所定の期日までに提出しなければならない。

- (1) 入学願書
- (2) 出身学校調査書

(転入学、編入学)

第27条 次の各号の一に該当する者については、特別の選考により入学を許可することがある。

- (1) 他の大学から本学に転入学を希望する者
- (2) 他の大学に2年以上在学した者または短期大学を卒業した者で本学の3年次に編入学を希望する者

第28条 前条第1号または第2号により本学に入学を許可された者の、入学前に履修して修得した単位(科目等履修生として修得した単位を含む。 )について、その一部または全部を本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 編入学及び転入学に関する規程は、別に定める。

(再入学)

第29条 本学を退学し、同一学科に再入学を希望する者がある場合は、特別の選考により再入学を許可することがある。

2 再入学に関する規程は、別に定める。

(転部、転科)

第29条の2 所属する学部の学科から他の学部の学科に転ずることを志願する者がいる場合は、選考の上当該教授会の具申を経て、転部を許可することがある。

2 所属する学部の学科から同一学部の他の学科に転ずることを志願する者がいる場合は、選考の上当該教授会の具申を経て、転科を許可することがある。

3 転部、転科に関する規程は、別に定める。

(入学手続)

第30条 入学を許可された者は、保証人連署の本学所定の誓約書に住民票記載事項証明書及び入学金その他所定の諸納付金を添えて、指定期日までに提出しなければならない。

(保証人)

第31条 保証人は、その学生の父母または独立の生計を営む成年者でなければならない。

第32条 保証人は、その学生の在学中、本人にかかるいっさいの事項につき、連帯の責任を負わなければならない。

第33条 保証人を不適当と認めた場合は、これを変更させることがある。

第34条 保証人が転籍、転居または改姓した場合は、その旨ただちに届け出なければならない。

第35条 保証人が死亡その他の事由でその責を尽くし得ない場合は、新たにその承継者を定めて届け出なければならない。

(退学)

第36条 やむを得ない事由により退学しようとする者は、その事由を詳記した保証人連署の退学願を提出して許可を受けなければならない。

(休学)

第37条 病気またはやむを得ない事由により2か月以上引きつづき出席できない者は、医師の診断書を添え、または詳細に事由を具して、保証人連署の休学願を提出し、許可を得て休学することができる。休学期間は4年以内とし、第5条の在学期間に算入しない。

(復学)

第38条 病気その他の事由により休学中の者で、その事由が消滅して復学しようとする場合には、医師の診断書またはその理由書を添え、保証人連署の復学願を提出して許可を受けなければならない。

(留学)

第38条の2 本学との間に協定を結んでいる外国及び国内の大学で授業科目の履修を希望する者がある場合は審査の上、それを許可することがある。

2 前項の留学の期間は1年以内とし、在学年数に通算する。

3 第19条の2の規定は、留学する場合に準用する。

4 留学に関する規程は、別に定める。

(除籍及び復籍)

第38条の3 次の各号のいずれかに該当する場合は、教授会の具申を経て除籍とする。

(1) 第5条に定める在学年限を超えた者

(2) 第37条に規定する休学期間を超えなお修学できない者

(3) 正当の事由なくして授業料その他の納付金を、所定の期間に納入しない者

(4) 行方不明の者

2 前項第3号により除籍となった者が復籍を願い出たときは、当該教授会の具申を経て、学長がこれを許可することがある。

3 復籍に関する規程は、別に定める。

(懲戒)

第39条 学則に違背し、あるいは学生の本分に反する行為のあった者は、懲戒処分とする。

第40条 懲戒は、譴責、停学及び退学の三種とし、次の各号の一に該当する者には、教授会の具申を経て学長が退学を命ずることがある。

(1) 性行不良にして改しゅんの見込がない者

(2) 学業劣等にして成業の見込がない者

(3) 正当の事由なくして出席常でない者

(4) 学内の秩序を乱し、学生の本分に反する者

2 懲戒に関する取り扱いは、別に定める。

## 第6章 学 費

(授業料等)

第41条 学生は、別表第10に定める授業料その他の納付金を所定の期日に納入しなければならない。

(授業料等の免除)

第42条 学生の生活の実情と成績により、入学後の学費の全部または一部を免除し、または貸与することがある。

(実験実習費等)

第43条 実験、実習費等については、その実費を徴収する。

(休学・卒業延期者の授業料等)

第44条 休学期間中の授業料は徴収しない。ただし学期の中途において休学もしくは復学した者は、その全期間の授業料を徴収する。

2 卒業延期者の授業料その他の納付金は別に定める。

(授業料等の不返還)

第45条 いったん納入した授業料その他の納付金は、いっさい返還しない。

第46条 削除

## 第7章 職員組織

(職員組織)

第47条 本学に、学長、副学長、教授、准教授、講師、助教、助手及び事務職員を置く。

第47条の2 学長は、校務をつかさどり、所属職員を統督する。

2 副学長は、学長を助け、命を受けて校務をつかさどることができる。

第48条 学長及び副学長は学校法人藤学園の理事長が任免する。

第49条 教授、准教授、講師、助教及び助手は学長の上申に基づいて、学校法人藤学園の理事長が任免する。

第50条 本学の学部に学部長、学科に学科主任、教務部、学生部、入試部に部長及び図書館に図書館長を置く。

第51条 学部長、学科主任、教務部長、学生部長、入試部長及び図書館長は、学長が任免する。

第52条 本学に、顧問を置くことができる。

## 第8章 評議会及び教授会

(評議会)

第53条 本学に、評議会を置く。

2 評議会は、次に掲げる者をもって組織する。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 各学部長、研究科長
- (4) 教務部長、学生部長、入試部長、図書館長
- (5) 各学科主任、各専攻主任
- (6) 各学部教授会から推薦を受けた各3名の教授
- (7) 事務局長

3 評議会は、学長が次に掲げる事項について決定を行なうに当たり意見を述べるものとする。

- (1) 文学部、人間生活学部及び人間生活学研究科間の連絡調整に関する事項
- (2) 教務部長、学生部長、入試部長、図書館長の選考に関する事項
- (3) 入学試験に関する事項
- (4) 自己点検・評価に関する事項

- (5) その他、大学の教育研究に関する重要な事項で、評議会の意見を聞くことが必要なものとして学長が定めるもの。

第54条 評議会の運営に関する事項は別に定める。

(教授会)

第55条 本学の学部教授会を置く。

2 教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行なうに当たり意見を述べるものとする。

(1) 学生の入学、卒業

(2) 学位の授与

(3) 前各号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聞くことが必要なものとして学長が定めるもの。

3 教授会は前項に規定するもののほか、学長がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長の求めに応じ、意見を述べることができる。

第56条 教授会の組織及び運営に関する事項は、別に定める。

第57条 削除

## 第9章 委託学生、科目等履修生、聴講生、特別聴講学生、 交換留学生、交流学生及び外国人留学生

(委託学生)

第58条 官公庁、法人または外国政府から教育を委託された者を委託学生とする。

2 委託学生に関する事項については別に定める。

(科目等履修生)

第59条 本学の授業科目のうち、1または複数の授業科目を履修する者を科目等履修生とする。

2 科目等履修生として履修を希望する者のある場合は、学生の履修に支障のない限り選考の上許可することがある。

3 科目等履修生には、試験の上合格者には、単位を与えるものとする。

4 科目等履修生に関する規程は、別に定める。

5 法令等により特別に開設した授業科目を受講する者も科目等履修生として前2項及び3項を適用することとし、当該科目の運営等については別に定める。

(聴講生)

第60条 本学の授業科目のうち、1または複数の授業科目を聴講する者を聴講生とする。

2 聴講生として聴講を希望する者のある場合は、学生の履修に支障のない限り選考の上許可することがある。

3 聴講生に関する規程は、別に定める。

(特別聴講学生)

第60条の2 他の大学又は短期大学の学生で、本学において特定の授業科目を履修することを希望する者がある場合は、当該他大学との協議に基づき、特別聴講学生として履修を許可することがある。

2 特別聴講学生に関する規程は、別に定める。

(交換留学生)

第61条 本学との交換留学協定に基づき、外国の大学から派遣された学生を交換留学生とする。

2 交換留学生に関する規程は別に定める。

(交流学生)

第61条の2 本学と国内の他大学との学生交流協定に基づき、当該他大学から派遣された学生を交流

学生とする。

2 交流学生に関する規程は別に定める。

第62条 委託学生、科目等履修生、聴講生、特別聴講学生、交換留学生、交流学生及び外国人留学生には、本学学生に関する諸規程を準用する。

(外国人留学生)

第63条 外国人にして入学を希望する者がある場合は、選考の上許可することがある。

2 前項に係わる外国人留学生に関する規程は、別に定める。

## 第10章 図書館

(図書館)

第64条 本学に図書館を設ける。

第65条 図書館に関する細則は別に定める。

附 則

本学則は、昭和36年4月1日から施行する。

附 則

本学則は、昭和38年4月1日から施行する。

附 則

本学則は、昭和39年4月1日から施行する。

附 則

本学則は、昭和46年4月1日から施行する。

附 則

本学則は、昭和51年4月1日から施行する。

附 則

本学則は、昭和53年4月1日から施行する。

附 則

本学則は、昭和54年4月1日から施行する。

附 則

本学則は、昭和55年4月1日から施行する。

附 則

本学則は、昭和60年4月1日から施行する。

附 則

本学則は、昭和62年4月1日から施行する。

附 則

本学則は、昭和63年4月1日から施行する。

附 則

本学則は、平成元年4月1日から施行する。

附 則

本学則は、平成2年4月1日から施行する。

附 則

本学則は、平成3年4月1日から施行する。

附 則

本学則は、平成3年10月16日から施行する。

附 則

- 1 本学則は、平成4年4月1日から施行する。
- 2 第6条の規定にかかわらず、平成4年度から平成11年度までの間の文学部の入学定員は、次の表の通りとする。

学 部	学 科	入学定員
文 学 部	英 文 学 科	80 名
	国 文 学 科	80 名

- 3 第6条の規定にかかわらず、平成4年度から平成6年度までの間の人間生活学部の収容定員は、次の表の通りとする。

年度	学部	人間生活学部	
	学科	人間生活学科	食物栄養学科
平成4年度		80 名	50 名
平成5年度		160 名	100 名
平成6年度		240 名	150 名

附 則

本学則は、平成5年4月1日から施行する。

附 則

本学則は、平成6年4月1日から施行する。

附 則

本学則は、平成7年4月1日から施行する。

附 則

- 1 本学則は、平成8年4月1日から施行する。
- 2 平成8年3月31日に在学する者にかかわる授業科目及び履修単位数については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

- 1 本学則は、平成9年4月1日から施行する。
- 2 平成9年3月31日に在学する者にかかわる授業科目及び履修単位数については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

科目	学部 学科	文 学 部		人間生活学部	
		英文学科	国文学科	人間生活学科	食物栄養学科
一般教育科目		人文、社会及び自然の3分野にわたり、それぞれ2科目以上8単位以上 合計36単位以上		人文、社会及び自然の3分野の選択科目の中から、それぞれ2科目以上8単位以上、必修科目を含め合計38単位以上	
外国語科目		独語・仏語のうち1外国語 8単位以上	英語・独語・仏語のうち1外国語 8単位以上		
保健体育科目		講義及び実技各2単位計4単位			
専門教育科目		76単位以上		86単位以上	
合 計		124単位以上		136単位以上	

附 則

本学則は、平成9年12月3日から施行する。

附 則

- 1 本学則は、平成10年4月1日から施行する。
- 2 平成10年3月31日に在学する者にかかわる授業科目及び履修単位数については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 3 平成10年3月31日に在学する者に係る保証人については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

- 1 本学則は、平成12年4月1日から施行する。
- 2 第6条の規定にかかわらず、平成12年度から平成14年度までの間の文学部文化総合学科、人間生活学部食物栄養学科及び保育学科の収容定員は、次の表のとおりとする。

年度	学部 学科	文 学 部		人 間 生 活 学 部	
		文化総合学科	食物栄養学科	食物栄養学科	保 育 学 科
平成12年度		80名	230名	230名	160名
平成13年度		160名	260名	260名	320名
平成14年度		240名	290名	290名	320名

- 3 平成12年3月31日に文学部英文学科、国文学科及び人間生活学部人間生活学科、食物栄養学科に在学する者にかかわる授業科目及び単位数については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

本学則は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

本学則は、平成13年8月1日から施行する。

附 則

- 1 本学則は、平成14年4月1日から施行する。
- 2 平成14年3月31日に人間生活学部人間生活学科、食物栄養学科、保育学科に在学する者にかかわる授業科目及び単位数については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

本学則は、平成14年12月7日から施行する。



附 則

本学則は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

- 1 本学則は、2004年4月1日から施行する。
- 2 2004年3月31日に在学する者にかかわる授業科目及び履修単位数については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

- 1 本学則は、2005年4月1日から施行する。
- 2 2005年3月31日に在学する者にかかわる授業科目及び履修単位数については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 3 別表第5の2に掲げる科目及び別表第6の教職に関する科目のうち、栄養教諭免許状を取得するための科目は2004年度入学生から適用する。ただし、2004年度入学生については卒業要件には含まれない。

附 則

- 1 本学則は、2006年4月1日から施行する。
- 2 2006年3月31日に在学する者にかかわる授業科目及び履修単位数については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

本学則は、2007年1月1日から施行する。

附 則

- 1 本学則は、2007年4月1日から施行する。
- 2 2007年3月31日に在学する者にかかわる授業科目及び履修単位数については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

- 1 本学則は、2008年4月1日から施行する。
- 2 2008年3月31日に在学する者にかかわる別表第7及び別表第8を除く別表は、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 3 2008年3月31日に人間生活学部食物栄養学科に在学する者にかかわる別表第8の2の表中、必修単位及び選択単位については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

- 1 本学則は、2009年4月1日から施行する。
- 2 2009年3月31日に在学する者にかかわる授業科目及び履修単位数については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 3 別表第5の2に掲げる科目のうち、フードスペシャリスト受験資格取得にかかわる「食品流通経済論」、「フードコーディネイト論」及び「フードスペシャリスト論」は、2008年度以前に人間生活学部食物栄養学科に在学する者にも適用する。ただし、2008年度以前入学生については卒業要件には含まれない。

附 則

- 1 本学則は、2010年4月1日から施行する。
- 2 2010年3月31日に在学する者にかかわる授業科目及び履修単位数については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

- 1 本学則は、2011年4月1日から施行する。
- 2 2011年3月31日に在学する者にかかわる授業科目及び履修単位数については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

- 1 本学則は、2012年4月1日から施行する。
- 2 2012年3月31日に在学する者にかかわる授業科目及び履修単位数については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

- 1 本学則は、2013年4月1日から施行する。
- 2 2013年3月31日に在学する者にかかわる授業科目及び履修単位数については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 3 別表第3に掲げる科目のうち、「教職実践演習(中・高)」は、2009年度以前に入学し文学部に在学する者の履修を認める。ただし、卒業要件には含まれない。
- 4 別表第6に掲げる科目のうち、「教職実践演習(中・高)」は、2009年度以前に入学し人間生活学部人間生活学科に在学する者、「教職実践演習(栄養教諭)」は、2009年度以前に入学し人間生活学部食物栄養学科に在学する者の履修を認める。ただし、卒業要件には含まれない。

附 則

- 1 本学則は、2014年4月1日から施行する。
- 2 2014年3月31日に在学する者にかかわる授業科目及び履修単位数については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

- 1 本学則は、2015年4月1日から施行する。
- 2 2015年3月31日に在学する者にかかわる授業科目及び履修単位数については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

- 1 本学則は、2016年4月1日から施行する。
- 2 2016年3月31日に在学する者にかかわる授業科目、成績評価及び履修単位数については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

- 1 本学則は、2017年4月1日から施行する。
- 2 2017年3月31日に在学する者にかかわる授業科目及び履修単位数については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

- 1 本学則は、2018年4月1日から施行する。
- 2 2018年3月31日に在学する者の学部、学科の目的、授業科目及び履修単位数は、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

- 1 本学則は、2019年4月1日から施行する。

- 2 2019年3月31日に在学する者にかかわる授業科目及び履修単位数については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 3 別表第5（1）及び（2）に掲げる科目のうち、「英語科教育法Ⅲ・Ⅳ」「国語科教育法Ⅱ・Ⅲ」「特別支援教育論」「特別活動・総合的な学習の時間の指導法」「北海道の教育」は、2019年度及び2020年度に3年次編入学した者の履修を認める。ただし、卒業要件には含まれない。

附 則

- 1 本学則は、2020年4月1日から施行する。
- 2 保育学科及び子ども教育学科の収容定員は第6条の規定にかかわらず、2020年度から2023年度までは次のとおり定める。保育学科は2020年度から募集を停止し、学生が在籍しなくなるのをまって廃止する。

年度	学部	人間生活学部	
	学科	保育学科	子ども教育学科
2020年度		240名	80名
2021年度		160名	160名
2022年度		80名	240名
2023年度		—	320名

- 3 2020年3月31日に在学する保育学科の学生については、改正後の規定にかかわらず、学生が在籍しなくなる日までの間、なお従前の例による。

## 別表第1 大学共通科目

## (1)教養科目

区分	授 業 科 目	開設 単位数	必修 単位数	選択 単位数	備 考
人間と宗教	キリスト教概論	2	2		} 6科目の中から 1科目以上 選択必修
	キリスト教と藤女子大学	2		2	
	キリスト教人間学 A	2		2	
	キリスト教人間学 B	2		2	
	聖書概論 A	2		2	
	聖書概論 B	2		2	
	宗教と文化	2		2	
キャリア形成 ジェンダー・	女性とキャリア I	1	1		文学部学生のみ対象
	女性とキャリア II	1		1	
	女性と労働	2		2	
	女性と法律	2		2	
	ジェンダー論	2		2	
国際理解	文化人類学	2		2	
	異文化コミュニケーション	2		2	
	国際関係論	2		2	
	国際理解教育	2		2	
社会と文化	経済学	2		2	
	社会学	2		2	
	日本国憲法	2		2	
	心理学	2		2	
	音楽	2		2	
	美術論	2		2	
	日本語文学	2		2	
	英語圏文学	2		2	
	アジア圏文学	2		2	
	言語学	2		2	
子ども学	2		2		
歴史・思想	西洋史	2		2	
	日本史 A	2		2	
	日本史 B	2		2	
	東洋史	2		2	
	哲学	2		2	
	倫理学	2		2	
自然・科学	環境科学	2		2	
	自然と化学	2		2	
	生命科学	2		2	
	数学	2		2	
	物理学	2		2	
健康	ライフステージ栄養学	2		2	
	健康の科学	2		2	
	運動の科学	2		2	
	運動の実践 A	1		1	
	運動の実践 B	1		1	

リテラシー	文章表現	2		2	
	統計学	2		2	
	情報処理の基礎	1		1	
	情報リテラシーA	2		2	
	情報リテラシーB	2		2	
計		91	3	88	

<第10・11条関係>

(2)外国語科目

①文学部開講科目

区分	授業科目	開設 単位数	必修 単位数	選択 単位数	備考	
英語	基礎・アカデミック関連科目群	Academic Communication I	1		1	日本語・日本文学科、文化総合学科
		Academic Communication II	1		1	
		Essential Vocabulary & Grammar	1		1	
		Interactive English A	1		1	
		Interactive English B	1		1	
		Academic Reading I	1		1	
		Academic Reading II	1		1	
		Academic Listening & Note-taking	1		1	
		Academic Speaking & Discussion	1		1	
		Academic Vocabulary Development I	1		1	
		Academic Vocabulary Development II	1		1	
		Grammar for Communication I	1		1	
		Pronunciation for Communication	1		1	
	応用・留学関連科目群	Academic Skills & Strategies	1		1	
		CLIL English A	1		1	
		CLIL English B	1		1	
		CLIL English C	1		1	
		CLIL English D	1		1	
		Skills for the TOEFL I	1		1	
		Skills for the TOEFL II	1		1	
		Skills for IELTS I	1		1	
		Skills for IELTS II	1		1	
		留学事前セミナー	1		1	
	留学事後セミナー	1		1		
	実践・キャリア関連科目群	Practical English A	1		1	
		Practical English B	1		1	
		Practical English C	1		1	
		Practical English D	1		1	
		TOEIC Starter A	1		1	
		TOEIC Starter B	1		1	
		TOEIC Intermediate A	1		1	
		TOEIC Intermediate B	1		1	
		TOEIC Advanced A	1		1	
TOEIC Advanced B		1		1		
English for Global Communication A		1		1		

	English for Global Communication B	1		1	
	English for Global Communication C	1		1	
	English for Global Communication D	1		1	
	Writing for Career Success	1		1	
ドイツ語	初級ドイツ語 A I	1		1	
	初級ドイツ語 A II	1		1	
	初級ドイツ語 B I	1		1	
	初級ドイツ語 B II	1		1	
	中級ドイツ語 A I	1		1	
	中級ドイツ語 A II	1		1	
	中級ドイツ語 B I	1		1	
	中級ドイツ語 B II	1		1	
	上級ドイツ語 I	1		1	
	上級ドイツ語 II	1		1	
フランス語	初級フランス語 A I	1		1	
	初級フランス語 A II	1		1	
	初級フランス語 B I	1		1	
	初級フランス語 B II	1		1	
	中級フランス語 A I	1		1	
	中級フランス語 A II	1		1	
	中級フランス語 B I	1		1	
	中級フランス語 B II	1		1	
	上級フランス語 I	1		1	
	上級フランス語 II	1		1	
中国語	初級中国語 A I	1		1	
	初級中国語 A II	1		1	
	初級中国語 B I	1		1	
	初級中国語 B II	1		1	
	中級中国語 A I	1		1	
	中級中国語 A II	1		1	
	中級中国語 B I	1		1	
	中級中国語 B II	1		1	
	上級中国語 I	1		1	
	上級中国語 II	1		1	
	中国語実践演習 A	2		2	
	中国語実践演習 B	2		2	
	中国語文献読解演習 A	2		2	
	中国語文献読解演習 B	2		2	
韓国語	初級韓国語 A I	1		1	
	初級韓国語 A II	1		1	
	初級韓国語 B I	1		1	
	初級韓国語 B II	1		1	
	中級韓国語 A I	1		1	
	中級韓国語 A II	1		1	
	中級韓国語 B I	1		1	
	中級韓国語 B II	1		1	
	上級韓国語 I	1		1	

	上級韓国語Ⅱ	1		1	
	韓国語実践演習 A	2		2	
	韓国語実践演習 B	2		2	
	韓国語文献読解演習 A	2		2	
	韓国語文献読解演習 B	2		2	
海外語学研修	海外語学研修 A	2		2	
	海外語学研修 B	2		2	
	海外語学研修 C	2		2	
	海外語学研修 D	1		1	
	海外語学研修 E	1		1	
	海外語学研修 F	1		1	
日本語科 留学生 科目	日本語(口頭表現Ⅰ)	2		2	留学生対象
	日本語(口頭表現Ⅱ)	2		2	
	日本語(読解)	1		1	
	日本語(文章表現Ⅰ)	1		1	
	日本語(文章表現Ⅱ)	1		1	
	日本語(総合 A)	1		1	
	日本語(総合 B)	1		1	
計		113		113	

< 第10条関係 >

②人間生活学部開講科目

授業科目	開設 単位数	必修 単位数	選択 単位数	備考
Academic Communication I	1	1		
Academic Communication II	1	1		
Essential Vocabulary & Grammar	1		1	
Interactive English A	1		1	
Interactive English B	1		1	
Practical English A	1		1	
Practical English B	1		1	
Academic listening & Note-taking	1		1	
Academic Speaking & Discussion	1		1	
Academic Reading I	1		1	
Academic Reading II	1		1	
Skills for the TOEFL I	1		1	
Skills for the TOEFL II	1		1	
English for Global Communication	1		1	
CLIL English	1		1	
初級ドイツ語Ⅰ	1		1	
初級ドイツ語Ⅱ	1		1	
中級ドイツ語Ⅰ	1		1	
中級ドイツ語Ⅱ	1		1	
ドイツ語演習Ⅰ	1		1	
ドイツ語演習Ⅱ	1		1	
上級ドイツ語Ⅰ	1		1	
上級ドイツ語Ⅱ	1		1	
初級フランス語Ⅰ	1		1	

初級フランス語Ⅱ	1		1	
中級フランス語Ⅰ	1		1	
中級フランス語Ⅱ	1		1	
フランス語演習Ⅰ	1		1	
フランス語演習Ⅱ	1		1	
上級フランス語Ⅰ	1		1	
上級フランス語Ⅱ	1		1	
初級中国語Ⅰ	1		1	
初級中国語Ⅱ	1		1	
中級中国語Ⅰ	1		1	
中級中国語Ⅱ	1		1	
中国語演習Ⅰ	1		1	
中国語演習Ⅱ	1		1	
上級中国語Ⅰ	1		1	
上級中国語Ⅱ	1		1	
中国語実践演習 A	2		2	
中国語実践演習 B	2		2	
初級韓国語Ⅰ	1		1	
初級韓国語Ⅱ	1		1	
中級韓国語Ⅰ	1		1	
中級韓国語Ⅱ	1		1	
韓国語演習Ⅰ	1		1	
韓国語演習Ⅱ	1		1	
上級韓国語Ⅰ	1		1	
上級韓国語Ⅱ	1		1	
韓国語実践演習 A	2		2	
韓国語実践演習 B	2		2	
海外語学研修 A	2		2	
海外語学研修 B	2		2	
海外語学研修 C	2		2	
海外語学研修 D	1		1	
海外語学研修 E	1		1	
海外語学研修 F	1		1	
計	64	2	62	

< 第11条関係 >



別表第2 文学部オープン科目

専修	区分	授業科目	開設単位数	必修単位数	選択単位数
キリスト 教学専修	講義 科目	キリスト教学特殊講義 a	2		2
		キリスト教学特殊講義 b	2		2
		キリスト教学特殊講義 c	2		2
		キリスト教学特殊講義 d	2		2
	演習 科目	キリスト教学演習 a	2		2
		キリスト教学演習 b	2		2
		キリスト教学演習 c	2		2
		キリスト教学演習 d	2		2
	卒業 研究 関連 科目	卒業研究演習	4		4
		卒業研究	4		4
	計			24	

&lt; 第10条関係 &gt;

別表第3 文学部 学科専門科目

(1) 英語文化学科

専修	区分	授業科目	開設単位数	必修単位数	選択単位数
共通	学科基礎科目	Grammar I	0.5	0.5	
		Grammar II	0.5	0.5	
		Grammar III	0.5	0.5	
		Grammar IV	0.5	0.5	
		Writing I	0.5	0.5	
		Writing II	0.5	0.5	
		The Art of Writing I	1	1	
		The Art of Writing II	1	1	
		Oral English I a	1	1	
		Oral English I b	1	1	
		Oral English II a	1	1	
		Oral English II b	1	1	
		Oral English III	1	1	
		Oral English IV	1	1	
		Reading I	1	1	
		Reading II	1	1	
		Reading III	1	1	
		Reading IV	1	1	
		Voice & Articulation I	0.5	0.5	
		Voice & Articulation II	0.5	0.5	
		Vocabulary Building I	0.5	0.5	
Vocabulary Building II	0.5	0.5			
Strategies for Listening I	0.5	0.5			
Strategies for Listening II	0.5	0.5			
文学・文化専修		文学・文化講読 A-a	1		1
		文学・文化講読 A-b	1		1
		文学・文化講読 B-a	1		1
		文学・文化講読 B-b	1		1
		文学・文化講読 C-a	1		1
		文学・文化講読 C-b	1		1
		文学・文化講読 D-a	1		1
		文学・文化講読 D-b	1		1
言語・コミュニケーション専修	専門講読科目	言語・コミュニケーション講読 A-a	1		1
		言語・コミュニケーション講読 A-b	1		1
		言語・コミュニケーション講読 B-a	1		1
		言語・コミュニケーション講読 B-b	1		1
		言語・コミュニケーション講読 C-a	1		1
		言語・コミュニケーション講読 C-b	1		1
		言語・コミュニケーション講読 D-a	1		1
		言語・コミュニケーション講読 D-b	1		1
共通		時事英語講読 a	1		1
		時事英語講読 b	1		1
		Advanced Reading A	1		1
		Advanced Reading B	1		1

		Advanced Reading C	1		1		
		Advanced Reading D	1		1		
文学・文化専修	基礎演習科目	文学・文化基礎演習 A	2		2		
		文学・文化基礎演習 B	2		2		
		文学・文化基礎演習 C	2		2		
		文学・文化基礎演習 D	2		2		
		文学・文化基礎演習 E	2		2		
言語・コミュニケーション専修	基礎演習科目	言語・コミュニケーション基礎演習 A	2		2		
		言語・コミュニケーション基礎演習 B	2		2		
		言語・コミュニケーション基礎演習 C	2		2		
		言語・コミュニケーション基礎演習 D	2		2		
		言語・コミュニケーション基礎演習 E	2		2		
文学・文化専修	講義科目	英文学史 a	2		2		
		英文学史 b	2		2		
		米文学史 a	2		2		
		米文学史 b	2		2		
		英語圏文学研究 a	2		2		
		英語圏文学研究 b	2		2		
		英語圏文学概論 a	2		2		
		英語圏文学概論 b	2		2		
		英語圏文学講義 A	2		2		
		英語圏文学講義 B	2		2		
		英語圏文学講義 C	2		2		
		英語圏文化概論 a	2		2		
		英語圏文化概論 b	2		2		
		英語圏文化研究 a	2		2		
		英語圏文化研究 b	2		2		
		英語圏文化講義 A	2		2		
		英語圏文化講義 B	2		2		
		英語圏文化講義 C	2		2		
言語・コミュニケーション専修	講義科目	英語学概論 a	2		2		
		英語学概論 b	2		2		
		言語学概論 a	2		2		
		言語学概論 b	2		2		
		英語史 a	2		2		
		英語史 b	2		2		
		英語学研究 a	2		2		
		英語学研究 b	2		2		
		コミュニケーション概論 a	2		2		
		コミュニケーション概論 b	2		2		
		コミュニケーション研究 a	2		2		
		コミュニケーション研究 b	2		2		
		英語学講義 A	2		2		
		英語学講義 B	2		2		
		言語学講義 A	2		2		
		言語学講義 B	2		2		
				国際教養講義 A	2		2

共通		国際教養講義 B	2		2
		国際教養講義 C	2		2
		国際教養講義 D	2		2
		国際教養講義 E	2		2
		国際教養講義 F	2		2
		特殊講義 a	2		2
		特殊講義 b	2		2
		特殊講義 c	2		2
共通	実践英語科目	翻訳・通訳			
		翻訳ワークショップ A-a	1		1
		翻訳ワークショップ A-b	1		1
		翻訳ワークショップ B-a	1		1
		翻訳ワークショップ B-b	1		1
		通訳ワークショップ A-a	1		1
		通訳ワークショップ A-b	1		1
		通訳ワークショップ B-a	1		1
	通訳ワークショップ B-b	1		1	
	児童英語	児童英語入門	2		2
		児童英語 a	1		1
		児童英語 b	1		1
		児童英語活動 I	1		1
		児童英語活動 II	1		1
		児童英語実習 a	1		1
		児童英語実習 b	1		1
		児童英語実習 c	1		1
		児童英語実習 d	1		1
		児童英語実習 e	1		1
	児童英語実習 f	1		1	
	イングリッシュ・スキルズ	English Discussion & Presentation a	1		1
		English Discussion & Presentation b	1		1
		English Discussion & Presentation c	1		1
		English Discussion & Presentation d	1		1
		English Discussion & Presentation e	1		1
		English Discussion & Presentation f	1		1
		English Discussion & Presentation g	1		1
		English Discussion & Presentation h	1		1
		English Discussion & Presentation i	1		1
		English Discussion & Presentation j	1		1
English Discussion & Presentation k		1		1	
English Discussion & Presentation l		1		1	
文学・文化専修	演習科目	文学・文化演習 A-a	2		2
		文学・文化演習 A-b	2		2
		文学・文化演習 A-c	2		2
		文学・文化演習 A-d	2		2
		文学・文化演習 B-a	2		2
		文学・文化演習 B-b	2		2
		文学・文化演習 B-c	2		2
		文学・文化演習 B-d	2		2

		文学・文化演習 C-a	2		2
		文学・文化演習 C-b	2		2
		文学・文化演習 C-c	2		2
		文学・文化演習 C-d	2		2
		文学・文化演習 D-a	2		2
		文学・文化演習 D-b	2		2
		文学・文化演習 D-c	2		2
		文学・文化演習 D-d	2		2
		文学・文化演習 E-a	2		2
		文学・文化演習 E-b	2		2
		文学・文化演習 E-c	2		2
		文学・文化演習 E-d	2		2
言語・コミュニケーション専修		言語・コミュニケーション演習 A-a	2		2
		言語・コミュニケーション演習 A-b	2		2
		言語・コミュニケーション演習 A-c	2		2
		言語・コミュニケーション演習 A-d	2		2
		言語・コミュニケーション演習 B-a	2		2
		言語・コミュニケーション演習 B-b	2		2
		言語・コミュニケーション演習 B-c	2		2
		言語・コミュニケーション演習 B-d	2		2
		言語・コミュニケーション演習 C-a	2		2
		言語・コミュニケーション演習 C-b	2		2
		言語・コミュニケーション演習 C-c	2		2
		言語・コミュニケーション演習 C-d	2		2
		言語・コミュニケーション演習 D-a	2		2
		言語・コミュニケーション演習 D-b	2		2
		言語・コミュニケーション演習 D-c	2		2
		言語・コミュニケーション演習 D-d	2		2
		言語・コミュニケーション演習 E-a	2		2
		言語・コミュニケーション演習 E-b	2		2
		言語・コミュニケーション演習 E-c	2		2
		言語・コミュニケーション演習 E-d	2		2
共通	卒業研究 関連科目	Academic Writing I	1	1	
		Academic Writing II	1	1	
		Advanced Writing a	1		1
		Advanced Writing b	1		1
		卒業研究演習	4	4	
		卒業研究	4	4	
計			270	28	242

< 第10条関係 >

## (2) 日本語・日本文学科

専修	区分	授業科目	開設単位数	必修単位数	選択単位数
共通	基礎講義科目Ⅰ	日本語学 A-a	2		2
		日本語学 A-b	2		2
		日本語学 B	2		2
		日本語学 C	2		2
		古典文学 A	2		2
		古典文学 B	2		2
		古典文学 C	2		2
		近現代文学 A	2		2
		近現代文学 B	2		2
		近現代文学 C	2		2
		日本文化 A	2		2
		日本文化 B	2		2
		日本文化 C	2		2
		日本文化 D	2		2
		日本文化 E	2		2
		漢文学 a	2		2
		漢文学 b	2		2
	基礎講義科目Ⅱ	日本語表現法 A-a	2		2
		日本語表現法 A-b	2		2
		日本語表現法 B-a	2		2
		日本語表現法 B-b	2		2
		日本語学概論 a	2		2
		日本語学概論 b	2		2
		日本文学概論 a	2		2
		日本文学概論 b	2		2
		古文読解	2		2
日本語・日本文学専修	講義科目	日本語学研究 A-a	2		2
		日本語学研究 A-b	2		2
		日本語学研究 B-a	2		2
		日本語学研究 B-b	2		2
		日本語学研究 C-a	2		2
		日本語学研究 C-b	2		2
		日本語学研究 D-a	2		2
		日本語学研究 D-b	2		2
		日本語学研究 E-a	2		2
		日本語学研究 E-b	2		2
		古典文学研究 A-a	2		2
		古典文学研究 A-b	2		2
		古典文学研究 B-a	2		2
		古典文学研究 B-b	2		2
		古典文学研究 C-a	2		2
		古典文学研究 C-b	2		2
		古典文学研究 D-a	2		2
		古典文学研究 D-b	2		2
		古典文学研究 E-a	2		2

		古典文学研究 E-b	2		2
		近現代文学研究 A-a	2		2
		近現代文学研究 A-b	2		2
		近現代文学研究 B-a	2		2
		近現代文学研究 B-b	2		2
		近現代文学研究 C-a	2		2
		近現代文学研究 C-b	2		2
		近現代文学研究 D-a	2		2
		近現代文学研究 D-b	2		2
日本文化専修		日本思想史 I	2		2
		日本思想史 II	2		2
		日本文化論 A-a	2		2
		日本文化論 A-b	2		2
		日本文化論 B-a	2		2
		日本文化論 B-b	2		2
		日本文化論 C-a	2		2
		日本文化論 C-b	2		2
		日本文化論 D-a	2		2
		日本文化論 D-b	2		2
		日本文化論 E-a	2		2
		日本文化論 E-b	2		2
		日本文化論 F-a	2		2
		日本文化論 F-b	2		2
		日本文化とアジア A-a	2		2
		日本文化とアジア A-b	2		2
		日本文化とアジア B-a	2		2
		日本文化とアジア B-b	2		2
		日本文化とアジア C-a	2		2
		日本文化とアジア C-b	2		2
	日本文化とアジア D-a	2		2	
	日本文化とアジア D-b	2		2	
	日本文化と女性 A	2		2	
	日本文化と女性 B	2		2	
共通		特殊講義 a	2		2
		特殊講義 b	2		2
		特殊講義 c	2		2
日本文化専修	書道科目	書道 I	2		2
		書道 II	2		2
		書道 III	2		2
		書道 IV	2		2
		書道史 a	2		2
		書道史 b	2		2
		書論・鑑賞 a	2		2
		書論・鑑賞 b	2		2
		日本語学演習 I A	4		4
		日本語学演習 I B	4		4
		古典文学演習 I A	4		4

共通	演習科目	古典文学演習 I B	4		4
		古典文学演習 I C	4		4
		近現代文学演習 I A	4		4
		近現代文学演習 I B	4		4
		日本文化論演習 I A	4		4
		日本文化論演習 I B	4		4
		日本文化論演習 I C	4		4
日本語・日本文学専修	演習科目	日本語学演習 II A-a	4		4
		日本語学演習 II A-b	4		4
		日本語学演習 II B-a	4		4
		日本語学演習 II B-b	4		4
		古典文学演習 II A-a	4		4
		古典文学演習 II A-b	4		4
		古典文学演習 II B-a	4		4
		古典文学演習 II B-b	4		4
		古典文学演習 II C-a	4		4
		古典文学演習 II C-b	4		4
		近現代文学演習 II A-a	4		4
		近現代文学演習 II A-b	4		4
		近現代文学演習 II B-a	4		4
		近現代文学演習 II B-b	4		4
日本文化専修	演習科目	日本文化論演習 II A-a	4		4
		日本文化論演習 II A-b	4		4
		日本文化論演習 II B-a	4		4
		日本文化論演習 II B-b	4		4
		日本文化論演習 II C-a	4		4
日本文化論演習 II C-b	4		4		
共通	卒業研究 関連科目	卒業研究ゼミ I	4		4
		卒業研究ゼミ II	4	4	
		卒業研究	4	4	
学科共通プログラム科目	演習科目	国語教材研究	2		2
		国語科教員採用試験研究	2		2
		実用書道	1		1
		アジアと日本	2		2
		文献資料論	2		2
		論文読解	2		2
		実践日本語表現	2		2
		コミュニケーションとプレゼンテーション a	2		2
		コミュニケーションとプレゼンテーション b	2		2
計			327	8	319

<第10条関係>



## (3) 文化総合学科

専修	区分	授 業 科 目	開設単位数	必修単位数	選択単位数
現代社会専修	文化総合学科基礎演習	「現代社会」基礎演習 A	2		2
		「現代社会」基礎演習 B	2		2
		「現代社会」基礎演習 C	2		2
		「現代社会」基礎演習 D	2		2
		「現代社会」基礎演習 E	2		2
歴史・思想専修		「歴史・思想」基礎演習 A	2		2
		「歴史・思想」基礎演習 B	2		2
		「歴史・思想」基礎演習 C	2		2
		「歴史・思想」基礎演習 D	2		2
		「歴史・思想」基礎演習 E	2		2
現代社会専修	講義科目	文化人類学入門	2		2
		異文化コミュニケーション論入門	2		2
		政治学(国際政治学)入門	2		2
		国際関係論入門	2		2
		基礎法学 A(憲法)	2		2
		基礎法学 B-a(民法)	2		2
		基礎法学 B-b(民法)	2		2
		基礎法学 C-a(国際関係法)	2		2
		基礎法学 C-b(国際関係法)	2		2
		経済学入門(国際経済学を含む)	2		2
		社会学入門	2		2
		心理学入門	2		2
		統計学入門(確率論を含む)	2		2
		イギリス文化論	2		2
		アメリカ文化論	2		2
		フランス文化論	2		2
		ドイツ文化論	2		2
		中国文化論 a	2		2
		中国文化論 b	2		2
		韓国文化論 a	2		2
		韓国文化論 b	2		2
		文化人類学特講 a	2		2
		文化人類学特講 b	2		2
		文化人類学特講 c	2		2
		文化人類学特講 d	2		2
		異文化コミュニケーション論特講 a	2		2
		異文化コミュニケーション論特講 b	2		2
		異文化コミュニケーション論特講 c	2		2
		異文化コミュニケーション論特講 d	2		2
		English for Global Competency a	2		2
		English for Global Competency b	2		2
		English for Global Competency c	2		2
English for Global Competency d	2		2		
国際関係論特講 A-a	2		2		

	国際関係論特講 A-b	2	2
	国際関係論特講 A-c	2	2
	国際関係論特講 A-d	2	2
	国際関係論特講 B-a	2	2
	国際関係論特講 B-b	2	2
	法学特講 A-a(コミュニケーションと法)	2	2
	法学特講 A-b(コミュニケーションと法)	2	2
	法学特講 B-a(比較政治制度)	2	2
	法学特講 B-b(比較政治制度)	2	2
	法学特講 C-a(法女性学)	2	2
	法学特講 C-b(法女性学)	2	2
	女性論 a	2	2
	女性論 b	2	2
	音楽社会学 a	2	2
	音楽社会学 b	2	2
	心理学特講 A-a	2	2
	心理学特講 A-b	2	2
	心理学特講 A-c	2	2
	心理学特講 A-d	2	2
	心理学特講 B-a	2	2
	心理学特講 B-b	2	2
	心理学文献講読 a	2	2
	心理学文献講読 b	2	2
歴史・思想専修	西洋史入門	2	2
	日本史入門 A(概論)	2	2
	日本史入門 B(概論)	2	2
	東洋史入門 a	2	2
	東洋史入門 b	2	2
	地理学基礎論(自然地理学を含む)	2	2
	人文地理学	2	2
	地誌学	2	2
	哲学入門	2	2
	倫理学入門	2	2
	ラテン語 I-a	2	2
	ラテン語 I-b	2	2
	西洋史特講 A-a	2	2
	西洋史特講 A-b	2	2
	西洋史特講 A-c	2	2
	西洋史特講 B-a	2	2
	西洋史特講 B-b	2	2
	西洋史特講 C-a	2	2
	西洋史特講 C-b	2	2
	西洋史特講 D-a	2	2
	西洋史特講 D-b	2	2
	西洋史文献講読 a	2	2
	西洋史文献講読 b	2	2

西洋史文献講読 c	2	2
西洋史文献講読 d	2	2
イギリス文化史	2	2
アメリカ文化史	2	2
フランス文化史	2	2
ドイツ文化史	2	2
キリスト教文化論 a	2	2
キリスト教文化論 b	2	2
考古学	2	2
日本史特講 A-a(学説史)	2	2
日本史特講 A-b	2	2
日本史特講 A-c	2	2
日本史特講 B-a(学説史)	2	2
日本史特講 B-b	2	2
日本史特講 B-c	2	2
日本史特講 C-a	2	2
日本史特講 C-b	2	2
日本史特講 D	2	2
歴史資料論 A	2	2
歴史資料論 B	2	2
歴史資料論 C	2	2
歴史資料論 D	2	2
東洋史特講 a	2	2
東洋史特講 b	2	2
古代・中世哲学史	2	2
近世・近代哲学史	2	2
現代哲学史	2	2
哲学特講 A-a	2	2
哲学特講 A-b	2	2
哲学特講 A-c	2	2
哲学特講 A-d	2	2
哲学特講 B-a	2	2
哲学特講 B-b	2	2
哲学特講 B-c	2	2
哲学特講 B-d	2	2
倫理学特講 A-a	2	2
倫理学特講 A-b	2	2
倫理学特講 A-c	2	2
倫理学特講 A-d	2	2
倫理学特講 B-a	2	2
倫理学特講 B-b	2	2
倫理学特講 B-c	2	2
倫理学特講 B-d	2	2
ラテン語Ⅱ-a	2	2
ラテン語Ⅱ-b	2	2
古典ギリシア語 a	2	2

		古典ギリシア語 b	2		2		
		身体表現論	2		2		
		造形美術論	2		2		
		映像表現論	2		2		
共通		文総特殊講義 a	2		2		
		文総特殊講義 b	2		2		
		文総特殊講義 c	2		2		
		文総特殊講義 d	2		2		
現代社会専修		異文化コミュニケーション論演習 a	2		2		
		異文化コミュニケーション論演習 b	2		2		
		異文化コミュニケーション論演習 c	2		2		
		異文化コミュニケーション論演習 d	2		2		
		文化人類学演習 a	2		2		
		文化人類学演習 b	2		2		
		文化人類学演習 c	2		2		
		文化人類学演習 d	2		2		
		国際関係論演習 a	2		2		
		国際関係論演習 b	2		2		
		国際関係論演習 c	2		2		
		国際関係論演習 d	2		2		
		法学演習 a	2		2		
		法学演習 b	2		2		
		法学演習 c	2		2		
		法学演習 d	2		2		
		心理学演習 a	2		2		
		心理学演習 b	2		2		
		心理学演習 c	2		2		
		心理学演習 d	2		2		
歴史・思想専修	演習	西洋史演習 a	2		2		
		西洋史演習 b	2		2		
		西洋史演習 c	2		2		
		西洋史演習 d	2		2		
		日本史演習 A-a	2		2		
		日本史演習 A-b	2		2		
		日本史演習 A-c	2		2		
		日本史演習 A-d	2		2		
		日本史演習 B-a	2		2		
		日本史演習 B-b	2		2		
		日本史演習 B-c	2		2		
		日本史演習 B-d	2		2		
		哲学演習 a	2		2		
		哲学演習 b	2		2		
		哲学演習 c	2		2		
		哲学演習 d	2		2		
				倫理学演習 a	2		2

		倫理学演習 b	2		2
		倫理学演習 c	2		2
		倫理学演習 d	2		2
現代社会専修	関連科目 卒業研究	「現代社会」卒業研究演習	4		4
歴史・思想専修		「歴史・思想」卒業研究演習	4		4
現代社会専修		「現代社会」卒業研究	4		4
歴史・思想専修		「歴史・思想」卒業研究	4		4
		計	384		384

<第10条関係>

別表第4 人間生活学部 学科専門科目

(1)人間生活学科

専修	区分	授業科目	開設単位数	必修単位数	選択単位数
共通	総合	共生社会への招待	2	2	
		ボランティアと学び	2		2
		課題発見フィールドワーク	2		2
		人間生活学研究演習	4	4	
		卒業研究演習	4	4	
		卒業研究	4	4	
	現代家政	衣食住生活のルーツ	2	2	
		生活環境基礎	2		2
		現代の生活経営	2		2
		ライフマネジメント	2		2
	社会福祉	社会福祉論	2	2	
		ソーシャルワーク入門演習	2		2
		子どもと福祉	2		2
		高齢者福祉論	2		2
		ソーシャルワーク論Ⅰ	2		2
		ライフステージと社会保障	2		2
	プロジェクト マネジメント	プロジェクトマネジメント入門	2	2	
		対人コミュニケーションの技法	2		2
		プロジェクトマネジメント基礎演習	2		2
女性リーダーシップ論		2		2	
チームビルディング演習		2		2	
現代家政専修	衣生活	現代衣生活論	2		2
		服飾美学	1		1
		色彩の錯視と衣服	1		1
		衣造形実習	2		2
		テキスタイル工芸実習	2		2
		被服学実験	2		2
	食生活	現代食生活論	2		2
		食品の成分と機能	1		1
		食べ物の材料学	1		1
		食生活と栄養	2		2
		調理学実習	2		2
		食物学実験	2		2
	住生活	現代住生活論	2		2
		住居計画	2		2
		まちづくり論	2		2
		住居デザイン演習Ⅰ	2		2
		住居デザイン演習Ⅱ	2		2
	生活経営・家族	現代の生活経済	2		2
家族と社会		2		2	
消費者問題		2		2	
男女共同参画社会と女性		2		2	
家族と法律		2		2	
子育ての比較文化		2		2	

	生涯発達	子どもの発達と保育 発達と心理 日常生活活動 加齢と障害 生活技術	2 2 1 1 2		2 2 1 1 2		
	総合	北国のライフコーディネート ユニバーサルデザイン	2 2		2 2		
社会福祉専修	利用者、制度・サービスの理解	介護福祉論 医学概論 児童家庭福祉論 障害者福祉論 介護保険制度と高齢者支援 権利擁護と成年後見制度 公的扶助論 精神保健福祉論 医療福祉論 就労支援論 更生保護論	1 2 2 2 2 2 2 2 2 1 1		1 2 2 2 2 2 2 2 2 1 1		
		制度・サービスの理解	社会保障論 福祉行財政と福祉計画 社会福祉運営管理論	2 2 2		2 2 2	
			地域・社会のしくみの理解	現代社会と福祉 地域福祉の理論と方法Ⅰ 地域福祉の理論と方法Ⅱ	2 2 2		2 2 2
				社会福祉士の役割・機能の理解	社会福祉調査 ソーシャルワーク論Ⅱ ソーシャルワーク論Ⅲ ソーシャルワーク論Ⅳ ソーシャルワーク論Ⅴ ソーシャルワーク論Ⅵ ソーシャルワーク演習Ⅰ ソーシャルワーク演習Ⅱ ソーシャルワーク演習Ⅲ ソーシャルワーク実習指導Ⅰ ソーシャルワーク実習指導Ⅱ ソーシャルワーク実習指導Ⅲ ソーシャルワーク実習Ⅰ ソーシャルワーク実習指導Ⅳ ソーシャルワーク実習指導Ⅴ ソーシャルワーク実習Ⅱ ソーシャルワーク専門実習指導 ソーシャルワーク専門実習 スクールソーシャルワーク論 スクールソーシャルワーク演習 スクールソーシャルワーク実習指導 スクールソーシャルワーク実習 チームアプローチ演習	2 2 2 2 2 2 4 4 2 1 1 1 2 1 1 2 1 2 2 1 2 1 2 2 1 2	

		ソーシャルワーク専門演習	2		2
プロジェクトマネジメント専修	学びの技法	論理的思考の技法	1		1
		デザイン思考の技法	1		1
		プレゼンテーションの技法	1		1
		議論の技法	1		1
		写真の表現技法	2		2
		動画の表現技法	2		2
		インタビュー調査の技法	2		2
		ソーシャルメディア活用の技法	2		2
		アンケート調査の技法	2		2
		ワークショップデザイン	ワークショップ入門	2	
	ワークショップデザイン		2		2
	ワークショップデザイン基礎演習		2		2
	協同学習入門		2		2
	レクリエーション入門		1		1
	アイスブレイク入門		1		1
	ファシリテーション演習		2		2
	インストラクショナルデザイン入門		2		2
	ファシリテーショングラフィック入門		1		1
	ソーシャルラーニング	地域資源活用法	2		2
		人間関係と心理	2		2
		統計調査と北海道	2		2
		統計調査と心理	2		2
		マーケティングリサーチ	2		2
		北海道の文化と女性	2		2
		国際社会と女性	2		2
		社会的起業と女性	2		2
		広報・メディアと女性	2		2
		組織マネジメント論	2		2
	プロジェクトマネジメント専修	プロジェクトマネジメント	プロジェクトマネジメントⅠ	2	
プロジェクトマネジメントⅡ			2		2
プロジェクトマネジメントⅢ			2		2
計			232	20	212

< 第11条関係 >



## (2) 食物栄養学科

専修	区分	授業科目	開設 単位数	必修 単位数	選択 単位数	備考
管理栄養士専修	社会・環境と 健康	食生活論	2	2		
		公衆衛生学A	2	2		
		公衆衛生学B	2	2		
		高齢者健康論	2		2	
	人体の構造と機能及び 疾病の成り立ち	生化学A	2	2		
		生化学B	2	2		
		解剖生理学A	2	2		
		解剖生理学B	2	2		
		解剖生理学実験	2	2		
		疾病医療学A	2	2		
		疾病医療学B	2	2		
		疾病医療学C	2	2		
		運動生理学・スポーツ栄養学	2		2	
	代替医療としての栄養学	2		2		
	食べ物と健康	食品化学A	1	1		
		食品化学B	2	2		
		食品化学C	1		1	
		食品加工学Ⅰ	1	1		
		食品加工学Ⅱ	1		1	
		食品実験Ⅰ	2	2		
食品実験Ⅱ		2	2			
食品実験Ⅲ		2		2		
食品機能学Ⅰ		1		1		
食品機能学Ⅱ		1		1		
調理科学		2	2			
調理実習Ⅰ		2	2			
調理実習Ⅱ		2	2			
微生物学		2	2			
食品衛生学A		2	2			
食品衛生学B		1		1		
食と安全論		1		1		
食品開発論	2		2			
基礎栄養学	基礎栄養学A	2	2			
	基礎栄養学B	2	2			
	栄養生化学実験Ⅰ	1	1			
	栄養生化学実験Ⅱ	1		1		
応用栄養学	応用栄養学A	1	1			
	応用栄養学B	2	2			
	応用栄養学C	1	1			
	応用栄養学実習	2	2			
	分子栄養学	2		2		
栄養教育論	栄養教育論Ⅰ	2	2			
	栄養教育論Ⅱ	2	2			
	栄養教育論演習	1	1			

	栄養教育論実習	1	1		
	対人関係トレーニング	1	1		
臨床栄養学	臨床栄養学A	2	2		
	臨床栄養学B	2	2		
	臨床栄養学C	2	2		
	臨床栄養管理論	2		2	
	臨床栄養学実習Ⅰ	2	2		
	臨床栄養学実習Ⅱ	2		2	
	実践臨床栄養学	2		2	
学 公衆栄養	公衆栄養学A	2	2		
	公衆栄養学B	2	2		
	地域栄養学実習	1		1	
理論 給食経営管	給食経営管理論Ⅰ	2	2		
	給食経営管理論Ⅱ	2	2		
	給食経営管理実習Ⅰ	2	2		
	食品流通経済論	2		2	
総合演習	総合演習A	1	1		
	総合演習B	1		1	
臨地実習	臨床栄養学実習Ⅲ	2		2	} 3科目から 2科目選択 必修
	公衆栄養学実習	2		2	
	給食経営管理実習Ⅱ	2		2	
	管理栄養士実務実習	2		2	
その他	化学入門	1		1	
	栄養士のための化学A	2		2	
	栄養士のための化学B	2		2	
	栄養統計学	2		2	
	社会調査演習	1		1	
	社会調査実習	2		2	
	科学英語A	1		1	
	科学英語B	1		1	
	学校栄養教育Ⅰ	2		2	
	学校栄養教育Ⅱ	2		2	
	フードコーディネイト論	2		2	
	フードスペシャリスト論	2		2	
	管理栄養士演習Ⅰ	2		2	
	管理栄養士演習Ⅱ	2		2	
	卒業演習Ⅰ	0.5	0.5		
	卒業演習Ⅱ	1.5	1.5		
	卒業研究	6		6	
	計		146	79	67

< 第11条関係 >

## (3) 子ども教育学科

専修	区分	授業科目	開設 単位数	必修 単位数	選択 単位数	備考
子ども教育専修	保育・教育の理論	教育原理	2	2		
		保育原理	2		2	
		教師・保育者論	2		2	
		教育方法論	2		2	
		教育制度論	2		2	
		教育課程総論(全体的な計画を含む)	2		2	
		保幼小連携特論	2		2	
		学級経営論	2		2	
		道徳教育の理論と実践	2		2	
		特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2		2	
		地域社会と学校	2		2	
		現代社会と教育	2		2	
		子どもの理解	教育心理学	2		2
	学校教育心理学		2		2	
	発達心理学		2	2		
	児童期以降の発達と心理		2		2	
	子どもの理解と発達援助		2		2	
	幼児理解と援助		2		2	
	特別な教育的ニーズに対する理解と支援		2		2	
	特別支援教育総論		2	2		
	特別支援教育実践論		2		2	
	知的障害児の心理・生理・病理		2		2	
	肢体不自由児の心理・生理・病理		2		2	
	病弱児の心理・生理・病理		2		2	
	知的障害児教育		2		2	
	肢体不自由児教育		2		2	
	病弱児教育		2		2	
	知的障害児教育総論		2		2	
	肢体不自由児教育総論	2		2		
	視覚・聴覚障害児の心理・生理・病理	1		1		
重複・発達障害児の心理・生理・病理	2		2			
視覚・聴覚障害児教育総論	1		1			
重複・発達障害児教育総論	2		2			
保育・教育の内容	総合表現	2		2		
	国語(書写含む)	2		2		
	社会	2		2		
	算数	2		2		
	理科	2		2		
	生活	2		2		
	音楽	2		2		
	音楽表現法	2		2		
	音楽表現演習	1		1		
	図画工作	2		2		

		造形表現法	2		2	
		初等体育	2		2	
		スポーツ実技 A(水泳)	1		1	
		スポーツ実技 B(スキー)	1		1	
		英語	2		2	
		保育内容(健康)	1		1	
		保育内容(人間関係)	1		1	
		保育内容(環境)	1		1	
		保育内容(言葉)	1		1	
		保育内容(表現)	2		2	
	保育内容・教科の指導法	国語科教育法	2		2	
		社会科教育法	2		2	
		算数科教育法	2		2	
		理科教育法	2		2	
		生活科教育法	2		2	
		音楽科教育法	2		2	
		図画工作科教育法	2		2	
		家庭科教育法	2		2	
		体育科教育法	2		2	
		英語科教育法	2		2	
		保育内容総論	1		1	
		保育内容の指導法(健康)	2		2	
		保育内容の指導法(人間関係)	2		2	
		保育内容の指導法(環境)	2		2	
		保育内容の指導法(言葉)	2		2	
		保育内容の指導法(表現)	2		2	
子ども生活支援専修	保育・教育の理論	社会福祉論	2		2	
		子ども家庭福祉論	2	2		
		社会的養護	2		2	
		児童館・放課後児童クラブの機能と運営	2		2	
		特別支援教育と福祉	2		2	
		教育相談の理論と方法	2		2	
	子どもの理	家庭支援論	2		2	
		子どもの保健	2		2	
		子どもの健康と安全	2		2	
		子どもの食と栄養	2		2	
	保育・教育の内	子ども文化論	2		2	
		乳児保育Ⅰ	2		2	
		乳児保育Ⅱ	1		1	
		社会的養護内容	2		2	
		子どもの遊びと学び	2		2	
	家族の支援	子どもと				
		児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法Ⅰ	2		2	
		児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法Ⅱ	2		2	
		子ども家庭支援の心理学	2		2	
		子育て支援(演習)	2		2	
子育て支援(講義)	2		2			

		児童生徒指導・進路指導	2		2		
共通	実習	児童館実習指導	1		1		
		児童館実習	2		2		
		保育実習指導Ⅰ(保育所)	1		1		
		保育実習Ⅰ(保育所)	2		2		
		保育実習指導Ⅰ(福祉施設)	1		1		
		保育実習Ⅰ(福祉施設)	2		2		
		保育実習指導Ⅱ(保育所)	1		1		
		保育実習Ⅱ(保育所)	2		2		
		保育実習指導Ⅱ(福祉施設)	1		1		
		保育実習Ⅱ(福祉施設)	2		2		
		保育実習指導Ⅱ(児童館)	1		1		
		保育実習Ⅱ(児童館)	2		2		
		教育実習指導(特別支援)	1		1		
		教育実習(特別支援)	2		2		
		教育実習指導(幼稚園・小学校)	1		1		
		教育実習(幼稚園・小学校)	4		4		
		専門研究法	スタートアップセミナー	2	2		
	研究調査法		2		2		
	臨床発達検査法		2		2		
	保育・教職実践演習(幼稚園・小学校)		2		2		
	専門演習		2	2			
	卒業研究演習		2		2		
	卒業研究		2		2		
	計			210	12	198	

< 第11条関係 >

別表第5 教員免許に関する科目（「指導法に関する科目等」）

(1) 文学部

授業科目	開設単位数	必修単位数	選択単位数	備考
英語科教育法Ⅰ	2		2	
英語科教育法Ⅱ	2		2	
英語科教育法Ⅲ	2		2	
英語科教育法Ⅳ	2		2	
国語科教育法Ⅰ	4		4	
国語科教育法Ⅱ	2		2	
国語科教育法Ⅲ	2		2	
書道科教育法Ⅰ	2		2	
書道科教育法Ⅱ	2		2	
社会科系教育法Ⅰ（地歴）	2		2	
社会科系教育法Ⅱ（公民）	2		2	
地歴科教育法	2		2	
公民科教育法	2		2	
教育原理	2		2	
教師論	2		2	
教育制度論	2		2	
教育心理学	2		2	
特別支援教育論	2		2	
教育課程論	2		2	
道德教育	2		2	
特別活動の指導法・総合的な 学習の時間の指導法	2		2	
教育方法論	2		2	
生徒指導・進路指導	2		2	
教育相談	2		2	
教育実習ⅠA	2		2	
教育実習ⅠB	2		2	
教育実習Ⅱ	2		2	
教育実習Ⅲ	2		2	
教職実践演習（中・高）	2		2	
北海道の教育	2		2	
教職課外活動Ⅰ	1		1	
教職課外活動Ⅱ	1		1	
教職課外活動Ⅲ	1		1	
介護等体験	1		1	
計	66		66	

< 第10条関係 >

## (2) 人間生活学部

授業科目	開設単位数	必修単位数	選択単位数	備考
中等家庭科教育法Ⅰ	2		2	
中等家庭科教育法Ⅱ	2		2	
中等家庭科教育法Ⅲ	2		2	
中等家庭科教育法Ⅳ	2		2	
福祉科教育法Ⅰ	2		2	
福祉科教育法Ⅱ	2		2	
教育原理	2		2	
教師論	2		2	
教育制度論	2		2	
教育心理学	2		2	
特別支援教育論	2		2	
教育課程論	2		2	
道德教育	2		2	
特別活動の指導法・総合的 な学習の時間の指導法	2		2	
教育方法論	2		2	
生徒指導・進路指導	2		2	
生徒指導	2		2	
教育相談	2		2	
教育実習ⅠA	2		2	
教育実習ⅠB	2		2	
教育実習Ⅱ	2		2	
教育実習Ⅲ	2		2	
栄養教育実習Ⅰ	1		1	
栄養教育実習Ⅱ	1		1	
教職実践演習(中・高)	2		2	
教職実践演習(栄養教諭)	2		2	
北海道の教育	2		2	
教職課外活動Ⅰ	1		1	
教職課外活動Ⅱ	1		1	
教職課外活動Ⅲ	1		1	
介護等体験	1		1	
計	56		56	

&lt; 第11条関係 &gt;

別表第6 文学部 履修方法与卒業必要単位数

(1) 英語文化学科

授業科目区分 単位区分	大学共通科目		英語文化学科	日本語・日本文学科	文化総合学科	文学部
	教養科目	外国語科目	専門科目	専門科目	専門科目	オープン科目
必修単位	3単位		28単位(*1)			
選択必修単位	8単位以上	8単位以上	32単位以上(*2)			
選択単位	11単位以上					
自由選択単位	34単位以上					
卒業必要単位数合計	124単位以上					

・教養科目は、区分「人間と宗教」から2単位以上、区分「人間形成」のうち、「国際理解」「社会と文化」「歴史・思想」から2単位以上、「自然・科学」「健康」から2単位以上、区分「リテラシー」から2単位以上選択必修。

・外国語科目は、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語のうち1外国語8単位以上選択必修。

(\*1)英語文化学科の必修科目は、区分「学科基礎科目」の18単位、区分「卒業研究関連科目」の「Academic Writing I」「Academic Writing II」の各1単位及び「卒業研究演習」「卒業研究」の各4単位。「卒業研究演習」「卒業研究」については、キリスト教学専修を選択した場合は、文学部オープン科目の「卒業研究演習」「卒業研究」各4単位で充当可。

(\*2)英語文化学科の選択必修科目は、区分「専門講読科目」のうち選択する専修の2単位を含む4単位以上、区分「基礎演習科目」のうち文学・文化専修と言語・コミュニケーション専修からそれぞれ2単位以上、区分「講義科目」のうち選択する専修から8単位、それ以外の専修から4単位以上および共通から2単位以上、区分「実践英語科目・イングリッシュ・スキルズ」のうち「English Discussion & Presentation c~l」の中から2単位以上、区分「演習科目」のうち、選択する専修から8単位以上。

ただし、キリスト教学専修を選択した場合は、区分「専門講読科目」から4単位以上、区分「基礎演習科目」のうち文学・文化専修と言語・コミュニケーション専修からそれぞれ2単位以上、区分「講義科目」については文学・文化専修と言語・コミュニケーション専修からそれぞれ4単位以上、共通から2単位以上、区分「実践英語科目・イングリッシュ・スキルズ」のうち「English Discussion & Presentation c~l」の中から2単位以上、区分「演習科目」から4単位以上、合計24単位以上。

※大学共通科目のうち教養科目は、必修・選択必修・選択単位を含め、32単位を超えて卒業必要単位に算入することはできない。

※教員免許に関する科目（「指導法に関する科目等」）は、指定された科目のうち8単位まで自由選択単位として算入できる。

※他学部学科専門科目は、12単位まで自由選択単位として算入できる。

※協定校修得科目（本学教育課程表外の科目）は、12単位まで自由選択単位として算入できる。

< 第18条関係 >



(2) 日本語・日本文学科

授業科目区分 単位区分	大学共通科目		日本語・日本文学科	英語文化学科	文化総合学科	文学部
	教養科目	外国語科目	専門科目	専門科目	専門科目	オープン科目
必修単位	3単位		8単位(*1)			
選択必修単位	8単位以上	8単位以上	32単位以上(*2)			
選択単位	11単位以上		8単位以上			
自由選択単位	46単位以上					
卒業必要単位数合計	124単位以上					

- ・教養科目は、区分「人間と宗教」から2単位以上、区分「人間形成」のうち、「国際理解」「社会と文化」「歴史・思想」から2単位以上、「自然・科学」「健康」から2単位以上、区分「リテラシー」から2単位以上選択必修。
- ・外国語科目は、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語のうち1外国語8単位以上、または英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語の中から2外国語各4単位、合計8単位以上選択必修。
- ・外国語(英語)の場合は、英語文化学科「講読科目」で充当可。

(\*1)日本語・日本文学科の必修科目は、「卒業研究ゼミⅡ」「卒業研究」の各4単位。キリスト教学専修を選択した場合は、文学部オープン科目の「卒業研究演習」「卒業研究」各4単位で充当可。

(\*2)日本語・日本文学科専門科目の選択必修科目は、区分「共通」から12単位以上、選択した専修から16単位以上、選択しない専修の講義科目から4単位以上。

ただし、キリスト教学専修を選択した場合は、区分「共通」から8単位以上、日本語・日本文学専修と日本文化専修の講義科目からそれぞれ4単位以上、合計16単位以上。

※大学共通科目のうち教養科目は、必修・選択必修・選択単位を含め、32単位を超えて卒業必要単位数に算入することはできない。

※区分「学科共通プログラム科目」は6単位まで自由選択単位として算入できる。

※教員免許に関する科目(「指導法に関する科目等」)は、指定された科目のうち8単位まで自由選択単位として算入できる。

※他学部学科専門科目及び協定校修得科目(本学教育課程表外の科目)は、合わせて12単位まで自由選択単位として算入できる。

< 第18条関係 >

(3) 文化総合学科

授業科目区分 単位区分	大学共通科目		文化総合学科	英語文化学科	日本語・日本文学科	文学部
	教養科目	外国語科目	専門科目	専門科目	専門科目	オープン科目
必修単位	3単位					
選択必修単位	16単位以上	8単位以上	40単位以上(*)			
選択単位	3単位以上		12単位以上			
自由選択単位	42単位以上					
卒業必要単位数合計	124単位以上					

・教養科目は、区分「人間と宗教」から2単位以上、区分「人間形成」のうち、「国際理解」から2単位以上、「社会と文化」から2単位以上、「歴史・思想」から4単位以上、「自然・科学」「健康」から2単位以上、区分「リテラシー」から4単位以上選択必修。

・外国語科目は、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語のうち1外国語8単位以上選択必修。

・外国語(英語)の場合は、英語文化学科「講読科目」で充当可。

(\*)文化総合学科の選択必修科目は、区分「文化総合学科基礎演習」から4単位、区分「講義科目」のうち、「異文化コミュニケーション論入門」「文化人類学入門」から2単位以上、「基礎法学A(憲法)」「国際関係論入門」及び「心理学入門」から2単位以上、「西洋史入門」「日本史入門」から2単位以上、「哲学入門」「倫理学入門」から2単位以上、区分「演習」のうち卒業研究指導教員の演習を4単位以上、区分「講義科目」のうち卒業研究指導教員の特講科目を4単位以上、それ以外の同一専任教員の特講科目を4単位のほか、選択した専修の特講科目のうち卒業研究指導教員以外の担当科目を8単位以上。区分「卒業研究関連科目」のうち選択した専修の卒業研究演習及び卒業研究を各4単位。

ただし、キリスト教学専修を選択した場合は、区分「文化総合学科基礎演習」から4単位、区分「講義科目」のうち「異文化コミュニケーション論入門」「文化人類学入門」から2単位以上、「基礎法学A(憲法)」「国際関係論入門」及び「心理学入門」から2単位以上、「西洋史入門」「日本史入門」から2単位以上、「哲学入門」「倫理学入門」から2単位以上、区分「演習」のうち同一専任教員の演習を4単位以上、区分「講義科目」のうち区分「演習」で履修した教員の特講科目を4単位以上、卒業研究演習及び卒業研究には文学部オープン科目の「卒業研究演習」「卒業研究」各4単位を充当、合計26単位以上。

※大学共通科目のうち教養科目は、必修・選択必修・選択単位を含め、32単位を超えて卒業必要単位数に算入することはできない。

※教員免許に関する科目(「指導法に関する科目等」)は、指定された科目のうち8単位まで自由選択単位として算入できる。

※他学部学科専門科目は、12単位まで自由選択単位として算入できる。

※協定校修得科目(本学教育課程表外の科目)は、12単位まで自由選択単位として算入できる。

<第18条関係>

別表第7 人間生活学部 履修方法と卒業必要単位数

(1) 人間生活学科

単位区分	大学共通科目		人間生活学科 専門科目
	教養科目	外国語科目	
必修単位	3単位	2単位	20単位
選択必修単位	10単位	4単位以上	40単位以上(*)
選択単位	11単位以上		
自由選択単位	37単位以上		
卒業必要単位数合計	127単位以上		

・教養科目は、区分「人間と宗教」から2単位以上、区分「人間形成」のうち、「国際理解」「社会と文化」「歴史・思想」から2単位以上、「自然・科学」「健康」から2単位以上、区分「リテラシー」から4単位以上選択必修。

(\*)2年次からは、「現代家政専修」、「社会福祉専修」、「プロジェクトマネジメント専修」の3専修のうち、選択した専修の条件に従って履修する。人間生活学科専門科目の選択必修単位は、所属する専修が指定する科目から40単位以上修得する。その内、次のとおり専修ごとに定める科目の単位を必ず修得すること。

- ・現代家政専修の場合、12単位。
- ・社会福祉専修の場合、10単位。
- ・プロジェクトマネジメント専修の場合、20単位。

※他学科専門科目は、12単位まで自由選択単位として算入できる。

※教員免許に関する科目（「指導法に関する科目等」）は、指定された科目のうち12単位まで自由選択単位として算入できる。

※他学部学科専門科目及び協定校修得科目（本学教育課程表外の科目）は、合せて12単位まで自由選択単位として算入できる。

※他大学等で修得した単位は、12単位まで自由選択単位として算入できる。

< 第18条関係 >

(2) 食物栄養学科

単位区分	大学共通科目		食物栄養学科 専門科目
	教養科目	外国語科目	
必修単位	3単位	2単位	77単位
選択必修単位	21単位	4単位以上	4単位
選択単位			19単位以上
卒業必要単位数合計	130単位以上		

・教養科目は、区分「人間と宗教」、「ジェンダー・キャリア形成」からそれぞれ2単位以上、区分「人間形成」の「国際理解」「社会と文化」「歴史・思想」「自然・科学」よりそれぞれ2単位以上、「健康」から「運動の実践A」または「運動の実践B」1単位を含む3単位以上、区分「リテラシー」から6単位以上選択必修。

※他学科専門科目、他学部学科専門科目、教員免許に関する科目（「指導法に関する科目等」）（指定科目）及び協定校修得科目（本学教育課程表外の科目）は、合わせて8単位まで選択単位として算入できる。

< 第18条関係 >

## (3) 子ども教育学科

単位区分	授業科目区分		子ども教育学科 専門科目
	大学共通科目		
	教養科目	外国語科目	
必修単位	3単位	2単位	12単位
選択必修単位	8単位以上	4単位以上	幼免・小免指定科目から 48単位以上
選択単位	13単位以上		
自由選択単位	37単位以上		
卒業必要単位数合計	127単位以上		

・教養科目は、区分「人間と宗教」から2単位以上、区分「人間形成」のうち、「国際理解」「社会と文化」「歴史・思想」から2単位以上、「自然・科学」「健康」から2単位以上、区分「リテラシー」から2単位以上選択必修。

※他学科専門科目、他学部学科専門科目、協定校修得科目(本学教育課程表外の科目)及び他大学等で修得した科目は、合わせて8単位まで自由選択単位として算入できる。

< 第18条関係 >

## 別表第8 教育職員免許状の種類と免許教科の種類

学部	学科	免許状の種類	免許教科
文学部	英語文化学科	中学校教諭1種免許状 高等学校教諭1種免許状	外国語(英語) 外国語(英語)
	日本語・日本文学科	中学校教諭1種免許状 高等学校教諭1種免許状	国語 国語・書道
	文化総合学科	中学校教諭1種免許状 高等学校教諭1種免許状	社会 地理歴史・公民
人間生活学部	人間生活学科	中学校教諭1種免許状 高等学校教諭1種免許状	家庭 家庭・福祉
	食物栄養学科	栄養教諭1種免許状	
	子ども教育学科	幼稚園教諭1種免許状 小学校教諭1種免許状 特別支援学校教諭1種免許状	

< 第22条関係 >

## 別表第9 入学検定料

検定料	30,000 円
-----	----------

< 第26条関係 >

別表第10 授業料その他の納付金

年度	学部・学科	学年	費目		備考	
2019 年度以降入学生 学費一覧	文学部	1年	入学申込金	210,000円	※ 2020年度入学生の編入生については、2018年度以前入学生の3年次を適用する。	
			授業料(年額)	706,000円		
			教育充実費(年額)	170,000円		
		2年～4年	授業料(年額)	736,000円		
			教育充実費(年額)	170,000円		
	人間生活学部	人間生活学科	1年	入学申込金		210,000円
				授業料(年額)		738,000円
				教育充実費(年額)		190,000円
			2年～4年	授業料(年額)		768,000円
				教育充実費(年額)		190,000円
		食物栄養学科	1年	入学申込金		210,000円
				授業料(年額)		768,000円
			教育充実費(年額)	210,000円		
	2年～4年	授業料(年額)	798,000円			
		教育充実費(年額)	210,000円			
子ども教育学科	1年	入学申込金	210,000円			
		授業料(年額)	750,000円			
		教育充実費(年額)	200,000円			
	2年～4年	授業料(年額)	780,000円			
		教育充実費(年額)	200,000円			
2018 年度以前入学生 学費一覧	文学部	1年～4年	授業料(年額)	707,500円	※ 2020年度入学生の編入生については、2018年度以前入学生の3年次を適用する。	
			教育充実費(年額)	150,000円		
	人間生活学部	人間生活学科	1年～4年	授業料(年額)		738,700円
				教育充実費(年額)		170,000円
		食物栄養学科	1年～4年	授業料(年額)		769,900円
		教育充実費(年額)	190,000円			
	保育学科	1年～4年	授業料(年額)	750,000円		
		教育充実費(年額)	180,000円			

図書館情報学課程 受講料	司書	50,000円
	司書教諭	30,000円

&lt;第41条関係&gt;

別表第11 図書館情報学課程に関する科目

(1) 司書となる資格を取得するための科目・単位数

区分		授業科目	単位数
必修科目	基礎科目	生涯学習概論	2
		図書館概論	2
		図書館制度・経営論	2
		図書館情報技術論	2
	図書館サービスに関する科目	図書館サービス概論	2
		児童サービス論	2
		情報サービス論	2
		情報サービス演習 A	1
		情報サービス演習 B	1
	図書館情報資源に関する科目	図書館情報資源概論	2
		情報資源組織論	2
		情報資源組織演習 A	1
情報資源組織演習 B		1	
選択科目	図書館に関する科目	図書館基礎特論	1
		図書館サービス特論	1
		図書館情報資源特論	1
		図書・図書館史	1
		図書館施設論	1
		図書館総合演習	1
	コミュニケーションに関する科目	コミュニケーション概論 a	2
		コミュニケーション概論 b	2
		法学特講 A-a(コミュニケーションと法)	2
		法学特講 A-b(コミュニケーションと法)	2
		人間関係と心理	2
		異文化間コミュニケーション	2
		国際理解教育	2
		対人関係トレーニング	1
	資料に関する科目	アーカイブズ論	2
		日本語学演習 I A	4
		日本語学演習 I B	4
		古典文学演習 I A	4
		古典文学演習 I B	4
		古典文学演習 I C	4
		近現代文学演習 I A	4
近現代文学演習 I B		4	
日本文化論演習 I A		4	
日本文化論演習 I B		4	
日本文化論演習 I C		4	
時事英語講読 a		1	
時事英語講読 b		1	
言語・コミュニケーション演習 E-a		2	
言語・コミュニケーション演習 E-b		2	
言語・コミュニケーション演習 E-c	2		
言語・コミュニケーション演習 E-d	2		
ラテン語 I-a	2		

	ラテン語Ⅰ-b	2
	ラテン語Ⅱ-a	2
	ラテン語Ⅱ-b	2
	古典ギリシア語 a	2
	古典ギリシア語 b	2
	科学英語 A	1
	科学英語 B	1
	子ども文化論	2
	絵本論	2
	児童文学	2
計		115
必修13科目22単位を含む25単位以上修得すること*		

\*選択科目の履修にあたっては、「図書館に関する科目」2科目2単位を含む、3科目3単位以上履修すること。

<第22条の3関係>

(2) 司書教諭となる資格を取得するための科目・単位数

区分	授業科目	単位数	
必修科目	学校経営と学校図書館	学校経営と学校図書館	2
	学校図書館メディアの構成	学校図書館メディアの構成	2
	学習指導と学校図書館	学習指導と学校図書館	2
	読書と豊かな人間性	読書と豊かな人間性	2
	情報メディアの活用	情報メディアの活用	2
計		10	

<第22条の3関係>

(3) 学校司書に必要な科目・単位数

区分	授業科目	単位数	
必修科目	学校経営と学校図書館	2	
	図書館情報技術論	2	
	図書館情報資源概論	2	
	学校図書館の運営・管理 ・サービスに関する科目	情報資源組織論	2
	情報資源組織演習 A	1	
	情報資源組織演習 B	1	
	図書館サービス概論	2	
	情報サービス論	2	
	児童生徒に対する教育支援 に関する科目	学校教育概論	2
		学習指導と学校図書館	2
読書と豊かな人間性		2	
計		20	

<第22条の3関係>

別表第12 日本語教員養成課程に関する科目

区分	授業科目	開設 単位数	必修 単位数	選択 単位数	備考
言語	日本語文法 a	2	2		
	日本語文法 b	2	2		
	音声学	2	2		
	対照言語学	2		2	
	日本語コミュニケーション技法	2		2	
	言語学概論 a	2		2	
	言語学概論 b	2		2	
	言語学講義 A	2		2	
	言語学講義 B	2		2	
	翻訳ワークショップ A-a	1		1	
	翻訳ワークショップ A-b	1		1	
	翻訳ワークショップ B-a	1		1	
	翻訳ワークショップ B-b	1		1	
	日本語学 A-a	2		2	
	日本語学 A-b	2		2	
	日本語学 B	2		2	
	日本語学 C	2		2	
	日本語表現法 A-a	2		2	
	日本語表現法 A-b	2		2	
	日本語表現法 B-a	2		2	
	日本語表現法 B-b	2		2	
	日本語学概論 a	2		2	
	日本語学概論 b	2		2	
	日本語学研究 A-a	2		2	
	日本語学研究 A-b	2		2	
	日本語学研究 B-a	2		2	
	日本語学研究 B-b	2		2	
	日本語学研究 C-a	2		2	
	日本語学研究 C-b	2		2	
	日本語学研究 D-a	2		2	
	日本語学研究 D-b	2		2	
	日本語学研究 E-a	2		2	
	日本語学研究 E-b	2		2	
	日本文化とアジア C-a	2		2	
日本文化とアジア C-b	2		2		
日本語学演習 I A	4		4		
日本語学演習 I B	4		4		
言語と社会	社会言語学a	2		2	
	社会言語学b	2		2	
	コミュニケーション概論 a	2		2	
	コミュニケーション概論 b	2		2	
	異文化コミュニケーション	2		2	
	異文化コミュニケーション論入門	2		2	
	異文化コミュニケーション論特講 a	2		2	
	異文化コミュニケーション論特講 b	2		2	



	異文化コミュニケーション論特講 c	2		2	
	異文化コミュニケーション論特講 d	2		2	
	法学特講 A-a(コミュニケーションと法)	2		2	
	法学特講 A-b(コミュニケーションと法)	2		2	
言語と心理	第二言語習得概論	2		2	
	心理学	2		2	
	心理学入門	2		2	
	心理学特講 A-a	2		2	
	心理学特講 A-b	2		2	
	心理学特講 A-c	2		2	
	心理学特講 A-d	2		2	
	心理学特講 B-a	2		2	
	心理学特講 B-b	2		2	
社会・文化・地域	古典文学 A	2		2	
	古典文学 B	2		2	
	古典文学 C	2		2	
	近現代文学 A	2		2	
	近現代文学 B	2		2	
	近現代文学 C	2		2	
	日本文化 A	2		2	
	日本文化 B	2		2	
	日本文化 C	2		2	
	日本文化 D	2		2	
	日本文化 E	2		2	
	日本文学概論 a	2		2	
	日本文学概論 b	2		2	
	古典文学研究 A-a	2		2	
	古典文学研究 A-b	2		2	
	古典文学研究 B-a	2		2	
	古典文学研究 B-b	2		2	
	古典文学研究 C-a	2		2	
	古典文学研究 C-b	2		2	
	古典文学研究 D-a	2		2	
	古典文学研究 D-b	2		2	
	古典文学研究 E-a	2		2	
	古典文学研究 E-b	2		2	
	近現代文学研究 A-a	2		2	
	近現代文学研究 A-b	2		2	
	近現代文学研究 B-a	2		2	
	近現代文学研究 B-b	2		2	
	近現代文学研究 C-a	2		2	
	近現代文学研究 C-b	2		2	
	近現代文学研究 D-a	2		2	
	近現代文学研究 D-b	2		2	
	日本思想史 I	2		2	
日本思想史 II	2		2		
日本文化論 A-a	2		2		
日本文化論 A-b	2		2		

	日本文化論 B-a	2		2	
	日本文化論 B-b	2		2	
	日本文化論 C-a	2		2	
	日本文化論 C-b	2		2	
	日本文化論 D-a	2		2	
	日本文化論 D-b	2		2	
	日本文化論 E-a	2		2	
	日本文化論 E-b	2		2	
	日本文化論 F-a	2		2	
	日本文化論 F-b	2		2	
	書道史 a	2		2	
	書道史 b	2		2	
	書論・鑑賞 a	2		2	
	書論・鑑賞 b	2		2	
	文化人類学	2		2	
	文化人類学入門	2		2	
	国際関係論	2		2	
	国際理解教育	2		2	
	政治学(国際政治学)入門	2		2	
	国際関係論入門	2		2	
	国際関係論特講 A-a	2		2	
	国際関係論特講 A-b	2		2	
	国際関係論特講 A-c	2		2	
	国際関係論特講 A-d	2		2	
	日本国憲法	2		2	
	基礎法学 A(憲法)	2		2	
	基礎法学 B-a(民法)	2		2	
	基礎法学 B-b(民法)	2		2	
	基礎法学 C-a(国際関係法)	2		2	
	基礎法学 C-b(国際関係法)	2		2	
	法学特講 B-a(比較政治制度)	2		2	
	法学特講 B-b(比較政治制度)	2		2	
	日本史 A	2		2	
	日本史入門 A(概論)	2		2	
	日本史 B	2		2	
	日本史入門 B(概論)	2		2	
言語と教育	日本語教授法Ⅰ	2	2		
	日本語教授法Ⅱ	2	2		
	日本語教育概論Ⅰ	2	2		
	日本語教育概論Ⅱ	2	2		
	日本語教育実習Ⅰ	2		2	
	日本語教育実習Ⅱ	2		2	
	計	270	14	256	

< 第22条の4関係 >

別表第13 社会福祉士国家試験受験資格を取得するための実習演習科目等履修方法

	実習演習科目	単位数	前提科目	単位数	併行履修科目	単位数
授業科目	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	1	ソーシャルワーク入門演習	2	ソーシャルワーク演習Ⅰ	4
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	1	社会福祉論	2		
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	1	子どもと福祉	2		
	ソーシャルワーク実習Ⅰ	2	高齢者福祉論	2		
			ソーシャルワーク論Ⅰ	2		
			ソーシャルワーク論Ⅱ	2		
	ソーシャルワーク実習指導Ⅳ	1	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	1	ソーシャルワーク演習Ⅱ	4
	ソーシャルワーク実習指導Ⅴ	1	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	1		
	ソーシャルワーク実習Ⅱ	2	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	1		
	ソーシャルワーク演習Ⅲ	2	ソーシャルワーク実習Ⅰ	2		

注1 前提科目は、原則として実習演習科目の履修開始までに修得済みであること。

注2 「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」及び「ソーシャルワーク実習Ⅰ」は、「ソーシャルワーク演習Ⅰ」と併行履修すること。

注3 「ソーシャルワーク実習指導Ⅳ・Ⅴ」、「ソーシャルワーク実習Ⅱ」及び「ソーシャルワーク演習Ⅲ」は、「ソーシャルワーク演習Ⅱ」と併行履修すること。

〈第22条の5関係〉

別表第14 管理栄養士国家試験受験資格取得に関する科目

教育内容	単位数		授業科目	単位数		備考	
	講義又は演習	実験又は実習		講義又は演習	実験又は実習		
専門基礎分野	社会・環境と健康	6	食生活論	2			
			公衆衛生学 A	2			
			公衆衛生学 B	2			
	社会・環境と健康の小計			6	0		
	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	14	生化学 A	2			
			生化学 B	2			
			解剖生理学 A	2			
			解剖生理学 B	2			
			解剖生理学実験		2		
			疾病医療学 A	2			
疾病医療学 B			2				
疾病医療学 C	2						
人体の構造と機能及び疾病の成り立ちの小計			14	2			
食べ物と健康	8	10	食品化学 A	1			
			食品化学 B	2			
			食品加工学 I	1			
			食品実験 I		2		
			食品実験 II		2		
			食品機能学 I	1			
			調理科学	2			
			調理実習 I		2		
			調理実習 II		2		
			微生物学	2			
			食品衛生学 A	2			
			食品衛生学 B	1			
食べ物と健康の小計			12	8			
		28	10	専門基礎分野小計		32	10
専門分野	基礎栄養学	2	基礎栄養学 A	2			
			基礎栄養学 B	2			
			栄養生化学実験 I		1		
	基礎栄養学の小計			4	1		
	応用栄養学	6	8	応用栄養学 A	1		
				応用栄養学 B	2		
				応用栄養学 C	1		
				応用栄養学実習		2	
				分子栄養学	2		
	応用栄養学の小計			6	2		
栄養教育論	6	8	栄養教育論 I	2			
			栄養教育論 II	2			
			栄養教育論演習	1			
			栄養教育論実習		1		
			対人関係トレーニング	1			
栄養教育論の小計			6	2			

臨床栄養学	8		臨床栄養学 A	2		} 3科目から 2科目選択 必修
			臨床栄養学 B	2		
			臨床栄養学 C	2		
			臨床栄養管理論	2		
			臨床栄養学実習 I		2	
臨床栄養学実習 II		2				
臨床栄養学の小計			8	4		
公衆栄養学	4		公衆栄養学 A	2		
			公衆栄養学 B	2		
			地域栄養学実習		1	
公衆栄養学の小計			4	1		
給食経営 管理論	4		給食経営管理論 I	2		
			給食経営管理論 II	2		
			給食経営管理実習 I		2	
給食経営管理論の小計			4	2		
総合演習	2		総合演習 A	1		
			総合演習 B	1		
			管理栄養士演習 I	2		
			管理栄養士演習 II	2		
総合演習の小計			6	0		
臨地実習		4	臨床栄養学実習 III		2	
			公衆栄養学実習		2	
			給食経営管理実習 II		2	
臨地実習の小計			0	6		
	32	12	専門分野の小計		38	17
82		合 計		97		

< 第22条の6関係 >

# 藤女子大学学則新旧対照表

2020 年度改正案	現行																																																																											
<p>第1章 総則</p> <p>第1条～第3条 (省略)</p> <p>(学部、学科)</p> <p>第4条 本学に、次の学部学科を置く。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">学 部</th> <th>学 科</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">文 学 部</td> <td>英 語 文 化 学 科</td> </tr> <tr> <td>日 本 語 ・ 日 本 文 学 科</td> </tr> <tr> <td>文 化 総 合 学 科</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">人間生活学部</td> <td>人 間 生 活 学 科</td> </tr> <tr> <td>食 物 栄 養 学 科</td> </tr> <tr> <td>子 ども 教 育 学 科</td> </tr> </tbody> </table> <p>(学部、学科の目的)</p> <p>第4条の2 (省略)</p> <p>2 (省略)</p> <p>(1)・(2) (省略)</p> <p>(3) 子ども教育学科では、人が人として成長していくための基礎を築き上げる時期である乳児期から児童期の子どもの成長や子どもにかかわる人々を支えるために必要な学びを得ることができるカリキュラムを構成しており、地域社会に貢献できる幅広い視野を持ちながら、乳幼児期の子どもと就学後の子どもの教育を連続的に捉えることができる教育者の養成を目指している。4年間の学びを通して、子どもの発達の連続性・子どもを取り巻く人々や社会の状況・各関係機関との連携のあり方などを総合的に捉える思考力を身につけ、学生自らが人間的成長を遂げることができる教育によって、子どもに深くかかわる専門家や、さまざまな立場から子どもの周囲にいる人々を支えることで社会に貢献する人材を送り出すことを目的としている。</p> <p>第5条 (省略)</p> <p>(収容定員)</p> <p>第6条 第4条に定める各学部学科の入学定員及び収容定員並びに所在地は次のとおりとする。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">学部</th> <th style="width: 15%;">学科</th> <th style="width: 10%;">入学定員</th> <th style="width: 10%;">収容定員</th> <th style="width: 55%;">所在地</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">文学部</td> <td>英語文化学科</td> <td>80名</td> <td>320名</td> <td rowspan="3">札幌市北区北16条西2丁目1番1号</td> </tr> <tr> <td>日本語・日本文学科</td> <td>80名</td> <td>320名</td> </tr> <tr> <td>文化総合学科</td> <td>80名</td> <td>320名</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">人間生活学部</td> <td>人間生活学科</td> <td>80名</td> <td>320名</td> <td rowspan="3">石狩市花川南4条5丁目7番地</td> </tr> <tr> <td>食物栄養学科</td> <td>80名</td> <td>320名</td> </tr> <tr> <td>子ども教育学科</td> <td>80名</td> <td>320名</td> </tr> </tbody> </table> <p>第2章・第3章 (省略)</p>	学 部	学 科	文 学 部	英 語 文 化 学 科	日 本 語 ・ 日 本 文 学 科	文 化 総 合 学 科	人間生活学部	人 間 生 活 学 科	食 物 栄 養 学 科	子 ども 教 育 学 科	学部	学科	入学定員	収容定員	所在地	文学部	英語文化学科	80名	320名	札幌市北区北16条西2丁目1番1号	日本語・日本文学科	80名	320名	文化総合学科	80名	320名	人間生活学部	人間生活学科	80名	320名	石狩市花川南4条5丁目7番地	食物栄養学科	80名	320名	子ども教育学科	80名	320名	<p>第1章 総則</p> <p>第1条～第3条 (省略)</p> <p>(学部、学科)</p> <p>第4条 本学に、次の学部学科を置く。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">学 部</th> <th>学 科</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">文 学 部</td> <td>英 語 文 化 学 科</td> </tr> <tr> <td>日 本 語 ・ 日 本 文 学 科</td> </tr> <tr> <td>文 化 総 合 学 科</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">人間生活学部</td> <td>人 間 生 活 学 科</td> </tr> <tr> <td>食 物 栄 養 学 科</td> </tr> <tr> <td>保 育 学 科</td> </tr> <tr> <td>保 育 学 科</td> </tr> </tbody> </table> <p>(学部、学科の目的)</p> <p>第4条の2 (省略)</p> <p>2 (省略)</p> <p>(1)・(2) (省略)</p> <p>(3) 保育学科では、人が人として成長していくための基礎を築き上げる時期である乳児期から児童期の子どもの成長や子どもにかかわる人々を支えるために必要な学びを得ることができるカリキュラムを構成しており、地域社会に貢献できる幅広い視野を持ちながら、乳幼児期の子どもと就学後の子どもの教育を連続的に捉えることができる教育者の養成を目指している。4年間の学びを通して、子どもの発達の連続性・子どもを取り巻く人々や社会の状況・各関係機関との連携のあり方などを総合的に捉える思考力を身につけ、学生自らが人間的成長を遂げることができる教育によって、子どもに深くかかわる専門家や、さまざまな立場から子どもの周囲にいる人々を支えることで社会に貢献する人材を送り出すことを目的としている。</p> <p>第5条 (省略)</p> <p>(収容定員)</p> <p>第6条 第4条に定める各学部学科の入学定員及び収容定員並びに所在地は次のとおりとする。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">学部</th> <th style="width: 15%;">学科</th> <th style="width: 10%;">入学定員</th> <th style="width: 10%;">収容定員</th> <th style="width: 55%;">所在地</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">文学部</td> <td>英語文化学科</td> <td>80名</td> <td>320名</td> <td rowspan="3">札幌市北区北16条西2丁目1番1号</td> </tr> <tr> <td>日本語・日本文学科</td> <td>80名</td> <td>320名</td> </tr> <tr> <td>文化総合学科</td> <td>80名</td> <td>320名</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">人間生活学部</td> <td>人間生活学科</td> <td>80名</td> <td>320名</td> <td rowspan="3">石狩市花川南4条5丁目7番地</td> </tr> <tr> <td>食物栄養学科</td> <td>80名</td> <td>320名</td> </tr> <tr> <td>子ども教育学科</td> <td>80名</td> <td>320名</td> </tr> </tbody> </table> <p>第2章・第3章 (省略)</p>	学 部	学 科	文 学 部	英 語 文 化 学 科	日 本 語 ・ 日 本 文 学 科	文 化 総 合 学 科	人間生活学部	人 間 生 活 学 科	食 物 栄 養 学 科	保 育 学 科	保 育 学 科	学部	学科	入学定員	収容定員	所在地	文学部	英語文化学科	80名	320名	札幌市北区北16条西2丁目1番1号	日本語・日本文学科	80名	320名	文化総合学科	80名	320名	人間生活学部	人間生活学科	80名	320名	石狩市花川南4条5丁目7番地	食物栄養学科	80名	320名	子ども教育学科	80名	320名
学 部	学 科																																																																											
文 学 部	英 語 文 化 学 科																																																																											
	日 本 語 ・ 日 本 文 学 科																																																																											
	文 化 総 合 学 科																																																																											
人間生活学部	人 間 生 活 学 科																																																																											
	食 物 栄 養 学 科																																																																											
	子 ども 教 育 学 科																																																																											
学部	学科	入学定員	収容定員	所在地																																																																								
文学部	英語文化学科	80名	320名	札幌市北区北16条西2丁目1番1号																																																																								
	日本語・日本文学科	80名	320名																																																																									
	文化総合学科	80名	320名																																																																									
人間生活学部	人間生活学科	80名	320名	石狩市花川南4条5丁目7番地																																																																								
	食物栄養学科	80名	320名																																																																									
	子ども教育学科	80名	320名																																																																									
学 部	学 科																																																																											
文 学 部	英 語 文 化 学 科																																																																											
	日 本 語 ・ 日 本 文 学 科																																																																											
	文 化 総 合 学 科																																																																											
人間生活学部	人 間 生 活 学 科																																																																											
	食 物 栄 養 学 科																																																																											
	保 育 学 科																																																																											
	保 育 学 科																																																																											
学部	学科	入学定員	収容定員	所在地																																																																								
文学部	英語文化学科	80名	320名	札幌市北区北16条西2丁目1番1号																																																																								
	日本語・日本文学科	80名	320名																																																																									
	文化総合学科	80名	320名																																																																									
人間生活学部	人間生活学科	80名	320名	石狩市花川南4条5丁目7番地																																																																								
	食物栄養学科	80名	320名																																																																									
	子ども教育学科	80名	320名																																																																									

第4章 履修方法及び卒業の要件

第18条～第20条 (省略)

(学位の授与)

第21条 本学を卒業した者には、卒業証書を授与するとともに学士の学位を授与する。

2 本学において授与する、学士の学位に付記する専門分野の名称は、次のとおりとする。

文 学 部	英語文化学科	学士 (文学)
	日本語・日本文学科	学士 (文学)
	文化総合学科	学士 (文学)
人間生活学部	人間生活学科	学士 (人間生活学)
	食物栄養学科	学士 (食物栄養学)
	子ども教育学科	学士 (教育学)

第22条 (省略)

(保育士の資格の取得)

第22条の2 子ども教育学科の学生で保育士の資格を取得しようとする者は、児童福祉法並びに同法施行規則の定めるところに従って、本学が定めた所定の科目について、必要な単位を修得しなければならない。

第22条の2～第65条 (省略)

附則

1 本学則は、2020年4月1日から施行する。

2 保育学科及び子ども教育学科の収容定員は第6条の規定にかかわらず、2020年度から2023年度までは次のとおり定める。保育学科は2020年度から募集を停止し、学生が在籍しなくなるのをまって廃止する。

学部 学科 年度	人間生活学部	
	保育学科	子ども教育学科
2020年度	240名	80名
2021年度	160名	160名
2022年度	80名	240名
2023年度	—	320名

3 2020年3月31日に在学する保育学科の学生については、改正後の規定にかかわらず、学生が在籍しなくなる日までの間、なお従前の例による。

第4章 履修方法及び卒業の要件

第18条～第20条 (省略)

(学位の授与)

第21条 本学を卒業した者には、卒業証書を授与するとともに学士の学位を授与する。

2 本学において授与する、学士の学位に付記する専門分野の名称は、次のとおりとする。

文 学 部	英語文化学科	学士 (文学)
	日本語・日本文学科	学士 (文学)
	文化総合学科	学士 (文学)
人間生活学部	人間生活学科	学士 (人間生活学)
	食物栄養学科	学士 (食物栄養学)
	保育学科	学士 (保育学)

第22条 (省略)

(保育士の資格の取得)

第22条の2 保育学科の学生で保育士の資格を取得しようとする者は、児童福祉法並びに同法施行規則の定めるところに従って、本学が定めた所定の科目について、必要な単位を修得しなければならない。

第22条の2～第65条 (省略)

藤女子大学学則新旧対照表

2020年度改正案

現行

別表第1～3 (省略)

別表第1～3 (省略)

別表第4 人間生活学部 学科専門科目

別表第4 人間生活学部 学科専門科目

(1)～(2) (省略)

(1)～(2) (省略)

(3) 保育学科

専修区分	授業科目	開設単位数	必修単位数	選択単位数	備考
	(省略)				

(3) 子ども教育学科

専修区分	授業科目	開設単位数	必修単位数	選択単位数	備考
保育・教育の理論	教育原理	2	2		
	保育原理	2		2	
	教師・保育者論	2		2	
	教育方法論	2		2	
	教育制度論	2		2	
	教育課程総論(全体的な計画を含む)	2		2	
	保幼小連携特論	2		2	
	学級経営論	2		2	
	道徳教育の理論と実践	2		2	
	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2		2	
	地域社会と学校	2		2	
	現代社会と教育	2		2	
子どもの理解	教育心理学	2		2	
	学校教育心理学	2		2	
	発達心理学	2	2		
	児童期以降の発達と心理	2		2	
	子どもの理解と発達援助	2		2	
	幼児理解と援助	2		2	
	特別な教育的ニーズに対する理解と支援	2		2	
	特別支援教育総論	2	2		
	特別支援教育実践論	2		2	
	知的障害児の心理・生理・病理	2		2	
	肢体不自由児の心理・生理・病理	2		2	
	病弱児の心理・生理・病理	2		2	
	知的障害児教育	2		2	
	肢体不自由児教育	2		2	
	病弱児教育	2		2	
	知的障害児教育総論	2		2	
	肢体不自由児教育総論	2		2	
視覚・聴覚障害児の心理・生理・病理	1		1		
重複・発達障害児の心理・生理・病理	2		2		
視覚・聴覚障害児教育総論	1		1		
重複・発達障害児教育総論	2		2		
保育・教育の内容	総合表現	2		2	
	国語(書写含む)	2		2	
	社会	2		2	
	算数	2		2	
	理科	2		2	
	生活	2		2	
	音楽	2		2	
	音楽表現法	2		2	
	音楽表現演習	1		1	
	図画工作	2		2	
	造形表現法	2		2	
	家庭	2		2	
	初等体育	2		2	
	スポーツ実技A(水泳)	1		1	
	スポーツ実技B(スキー)	1		1	
	英語	2		2	
	保育内容(健康)	1		1	
保育内容(人間関係)	1		1		
保育内容(環境)	1		1		
保育内容(言葉)	1		1		
保育内容(表現)	1		1		
保育内容・教科の指導法	国語科教育法	2		2	
	社会科教育法	2		2	
	算数科教育法	2		2	
	理科教育法	2		2	
	生活科教育法	2		2	
	音楽科教育法	2		2	
	図画工作科教育法	2		2	
	家庭科教育法	2		2	
	体育科教育法	2		2	
	英語科教育法	2		2	
	保育内容総論	1		1	
	保育内容の指導法(健康)	2		2	
	保育内容の指導法(人間関係)	2		2	
保育内容の指導法(環境)	2		2		
保育内容の指導法(言葉)	2		2		
保育内容の指導法(表現)	2		2		



専修	区分	授業科目	開設単位数	必修単位数	選択単位数	備考
子ども生活支援専修	理論	社会福祉論	2	2	2	
		子ども家庭福祉論	2		2	
		社会的養護	2		2	
		児童館・放課後児童クラブの機能と運営	2		2	
		特別支援教育と福祉	2		2	
	理解	教育相談の理論と方法	2		2	
		家庭支援論	2		2	
		子どもの保健	2		2	
		子どもの健康と安全	2		2	
		子どもの食と栄養	2		2	
	内容	子ども文化論	2		2	
		乳児保育Ⅰ	2		2	
		乳児保育Ⅱ	1		1	
		社会的養護内容	2		2	
		子どもの遊びと学び	2		2	
実践	児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法Ⅰ	2		2		
	児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法Ⅱ	2		2		
	子ども家庭支援の心理学	2		2		
	子育て支援（演習）	2		2		
	子育て支援（講義）	2		2		
共通	児童生徒指導・進路指導	2		2		
	児童館実習指導	1		1		
	児童館実習	2		2		
	保育実習指導Ⅰ（保育所）	1		1		
	保育実習Ⅰ（保育所）	2		2		
	保育実習指導Ⅰ（福祉施設）	1		1		
	保育実習Ⅰ（福祉施設）	2		2		
	保育実習指導Ⅱ（保育所）	1		1		
	保育実習Ⅱ（保育所）	2		2		
	保育実習指導Ⅱ（福祉施設）	1		1		
	保育実習Ⅱ（福祉施設）	2		2		
	保育実習指導Ⅱ（児童館）	1		1		
	保育実習Ⅱ（児童館）	2		2		
	教育実習指導（特別支援）	1		1		
	教育実習（特別支援）	2		2		
教育実習指導（幼稚園・小学校）	1		1			
教育実習（幼稚園・小学校）	4		4			
専門	スタートアップセミナー	2	2			
	研究調査法	2		2		
	臨床発達検査法	2		2		
	保育・教職実践演習（幼稚園・小学校）	2		2		
	専門演習	2	2			
	卒業研究演習	2		2		
	卒業研究	2		2		
計		210	12	198		

<第11条関係>

<第11条関係>

藤女子大学学則新旧対照表

2020年度改正案				2019年度改正案			
別表第5～6 (省略)				別表第5～6 (省略)			
別表第7 人間生活学部 履修方法と卒業必要単位数				別表第7 人間生活学部 履修方法と卒業必要単位数			
(1)～(2) (省略)				(1)～(2) (省略)			
(3) <u>子ども教育学科</u>				(3) <u>保育学科</u>			
授業科目区分 単位区分	大学共通科目		子ども教育学科 専門科目	授業科目区分 単位区分	大学共通科目		保育学科 専門科目
	教養科目	外国語科目			教養科目	外国語科目	
必修単位	3単位	2単位	12単位	必修単位	3単位	2単位	12単位
選択必修単位	8単位以上	4単位以上	幼免・小免指定科目から 48単位以上	選択必修単位	8単位以上	4単位以上	幼稚園教諭免許指定科目から 40単位以上
選択単位	13単位以上			選択単位	13単位以上		
自由選択単位	37単位以上			自由選択単位	45単位以上		
卒業必要 単位数合計	127単位以上			卒業必要 単位数合計	127単位以上		
<p>・教養科目は、区分「人間と宗教」から2単位以上、区分「人間形成」のうち、「国際理解」「社会と文化」「歴史・思想」から2単位以上、「自然・科学」「健康」から2単位以上、区分「リテラシー」から2単位以上選択必修。</p> <p>※他学科専門科目、他学部学科専門科目、協定校修得科目（本学教育課程表外の科目）及び他大学等で修得した科目は、合わせて8単位まで自由選択単位として算入できる。</p> <p style="text-align: right;">&lt;第18条関係&gt;</p>				<p>・教養科目は、区分「人間と宗教」から2単位以上、区分「人間形成」のうち、「国際理解」「社会と文化」「歴史・思想」から2単位以上、「自然・科学」「健康」から2単位以上、区分「リテラシー」から2単位以上選択必修。</p> <p>※他学科専門科目、他学部学科専門科目、協定校修得科目（本学教育課程表外の科目）及び他大学等で修得した科目は、合わせて8単位まで自由選択単位として算入できる。</p> <p style="text-align: right;">&lt;第18条関係&gt;</p>			
別表第8 教育職員免許状の種類と免許教科の種類				別表第8 教育職員免許状の種類と免許教科の種類			
学部	学科	免許状の種類	免許教科	学部	学科	免許状の種類	免許教科
文学部	(省略)			文学部	(省略)		
人間生活学部	人間生活学科	中学校教諭1種免許状 高等学校教諭1種免許状	家庭 家庭・福祉	人間生活学部	人間生活学科	中学校教諭1種免許状 高等学校教諭1種免許状	家庭 家庭・福祉
	食物栄養学科	栄養教諭1種免許状			食物栄養学科	栄養教諭1種免許状	
	子ども教育学科	幼稚園教諭1種免許状 小学校教諭1種免許状			保育学科	幼稚園教諭1種免許状	
		特別支援学校教諭1種免許状				特別支援学校教諭1種免許状	
<第22条関係>				<第22条関係>			

藤女子大学学則新旧対照表

2020年度改正案					現行						
別表第9 (省略)											
別表第10 授業料その他の納付金					別表第10 授業料その他の納付金						
年度	学部・学科		学年	費目	備考	年度	学部・学科		学年	費目	備考
2020 年 度 入 学 生 学 費 一 覧	文学部		(省略)		※ 2015年度以前に在学している者については、第41条の規定にかかわらず従来額による。休学等により、上級年次に進級できなかった場合は、復学年次を適用する。	2019 年 度 入 学 生 学 費 一 覧	文学部		(省略)		※ 2015年度以前に在学している者については、第41条の規定にかかわらず従来額による。休学等により、上級年次に進級できなかった場合は、復学年次を適用する。
	人間生活学部	人間生活学科	(省略)				人間生活学科	(省略)			
		食物栄養学科	(省略)				食物栄養学科	(省略)			
		子ども教育学科	(省略)				保育学科	(省略)			
図書館情報学課程 受講料			(省略)		図書館情報学課程 受講料			(省略)			
<第41条関係>					<第41条関係>						
別表第11～14 (省略)					別表第11～14 (省略)						

# ○藤女子大学人間生活学部教授会規程

制定 1992年 4月 1日  
改正 2000年 6月14日      2003年 4月 1日      2007年 4月 1日  
2008年 4月 1日      2013年 4月 1日      2015年 4月 1日  
2017年 4月 1日

## (設置)

第1条 藤女子大学学則第56条の規定に基づき、藤女子大学人間生活学部教授会（以下「教授会」という。）規程を定める。

## (組織)

第2条 教授会は、学部長、教授、准教授及び専任の講師をもって構成する。ただし、「藤女子大学任期を定めた教員の採用等に関する規程」に基づいて採用された任期付教員は除く。

## (審議事項)

第3条 教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うにあたり意見を述べるものとする。

(1) 学生の入学、卒業及び課程の修了

(2) 学位の授与

(3) 前各号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聞くことが必要なものとして学長が定めるもの。

2 教授会は、前項に規定するもののほか、学長がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長の求めに応じ、意見を述べることができる。

## (会議の招集及び議長)

第4条 教授会は、学部長が招集し、その議長となる。ただし、学部長にさしつかえあるときは、学部長の指名した教授が議長となる。

第5条 教授会構成員5名以上の要求がある場合は、学部長はすみやかに教授会を招集しなければならない。

## (議事及び運営)

第6条 教授会の出席定数は、休職者及び長期公務出張者を除く教授会構成員の3分の2以上とする。

第7条 教授会の議事は、出席した構成員の過半数をもって決し、可否同数の時は、議長の決するところによる。

第7条の2 教授会は、教授会の構成員のうち一部の者をもって構成される代議員会、専門委員会等（以下、「代議員会等」という。）を置くことができる。

2 教授会は、代議員会等の議決をもって、教授会の議決とすることができるものとする。

3 代議員会等に関して必要な事項は、教授会が定める。

## (構成員以外の出席)

第8条 第2条ただし書きの任期付教員は、教授会に出席することができる。

2 前項に定めるもののほか、教授会は、構成員以外の者の出席を求めることができる。

## (事務)

第9条 教授会の事務は、総務課（花川オフィス）があたる。

附 則  
この規程は、平成4年4月1日から施行する。

附 則  
この規程は、平成12年6月14日から施行する。

附 則  
この規程は、2003年4月1日から施行する。

附 則  
この規程は、2007年4月1日から施行する。

附 則  
この規程は、2008年4月1日から施行する。

附 則  
この規程は、2013年4月1日から施行する。

附 則  
この規程は、2015年4月1日から施行する。

附 則  
この規程は、2017年4月1日から施行する。

## 目 次

1.	設置の趣旨及び必要性	… p	1
2.	学部・学科等の特色	… p	5
3.	学科の名称及び学位の名称	… p	6
4.	教育課程の編成の考え方及び特色	… p	7
5.	教員組織の編成の考え方及び特色	… p	1 3
6.	教育方法、履修指導方法及び卒業要件	… p	1 6
7.	施設、設備等の整備計画	… p	2 0
8.	入学者選抜の概要	… p	2 2
9.	取得可能な資格	… p	2 5
1 0.	実習の具体的計画	… p	2 6
1 1.	管理運営	… p	3 3
1 2.	自己点検・評価	… p	3 5
1 3.	情報の公表	… p	3 6
1 4.	教育内容等の改善を図るための組織的な研修等	… p	3 9
1 5.	社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	… p	4 1

## 1. 設置の趣旨及び必要性

### (1) 子ども教育学科を設置する理由及び必要性

藤学園は、カトリック札幌教区初代教区長ヴェンセスラウス・キノルド司教が、「北海道の未来は女子教育にある」との確信から母国ドイツに女子教育の真の担い手になる人材の派遣を要請し、この要望に応じて、殉教者聖ゲオルギオのフランシスコ修道会から三人の修道女が来道したことに由来する。藤女子大学は、この意思を継ぎ、キリスト教的世界観や人間観を土台として、女性の全人的高等教育を通して、広く人類社会に対する愛と奉仕に生きる高い知性と豊かな人間性を備えた女性の育成を使命としている。

以上の建学の理念のもと、子ども教育学科の前身の保育学科は昭和 29 年の保育専修学校に端を発して以来、社会状況の変化がもたらす様々な課題に向き合いながら、乳幼児と障害児の育ちを支えることができる専門性の高い人材の養成に尽力し、幼稚園、保育所、児童福祉施設等に多くの人材を輩出してきた。さらに平成 30 年 4 月からは、児童館や放課後児童クラブなどで 0～18 歳の子どもの健全な育成を支援する児童厚生一級指導員資格の取得のためのカリキュラムを導入することで、乳児期から児童期までの子どもと、保護者をはじめとする子どもの周りに存在する大人を支援する人材の養成に取り組んでいる。しかしながら、今後の社会に貢献できる人材を育成するためには、これまでの実績を基盤としながらも、現代の教育を巡る動向に対応した人材の養成を目指す必要がある。

教育に関する世界の動向では、OECD（経済協力開発機構）の ECEC (Early Childhood Education and Care) に関する調査において、①誕生からおおよそ 8 歳までの子どもに対する明瞭で一貫性のある総合的な政策枠組みの構築、②学校教育制度と強固で対等な連携をとり、子どもの誕生期から生涯にわたる学びを支援する重要性が示されている。また、国内においても、平成 30 年から施行されている幼稚園教育要領・保育所保育指針等をはじめ、平成 32 年度から全面実施される小学校学習指導要領やその他の学習指導要領の改訂では、「0 歳～18 歳までの教育を連続的に捉える」ことの重要性が示されている。これらのことから、時代が子どもに対する教育の枠組みの見直しを求めていると捉えることができる。

さらに、多様化・複雑化する現代社会において、保育・教育現場では、特別な支援を必要とする子ども、貧困、児童虐待への対応、多様な保護者への支援などといった課題が山積しており、それらに対し、保育・教育の専門家として、子どもや保護者に対する深い理解力と指導力を持つ人材が求められている。今後ますます多様化・複雑化すると考えられる子ども達を取り巻く環境の変化に対応するためには、その変化を敏感に捉える力や地域で子どもを育てるといった視点を持ち、地域の実態に応じた支援を行うことができる人材の養成に取り組まなければならない。

以上のように、乳幼児期の子どもの教育と就学後の子どもの教育を連続的に捉え、社会の変化に応じて保護者・地域と連携しながら子どもを育てることができる人材の育成は、これからの保育・教育に携わる人材の養成における最重要事項のひとつである。保育学科はこれまで就学前の子どもを支えるために必要な専門的知識や技術を修得させることを目

指してきたが、子ども教育学科は、その学問対象を小学校教育まで広げ、乳児期からの子どもの育ちと幼児教育、小学校教育の繋がりを意識した保育・教育を構築できる力を学生が獲得することを目指す。また、学部・学科がこれまで育んできた地域との連携（石狩市教育委員会とのSAT<school assistant teacher>事業：石狩市内の小中学校で行われている地域人材を活用した学習ボランティア、子育て広場等）やこれまでの保育者養成において蓄積されてきた地域への支援のノウハウを活かし、急激な変化を伴うと言われているこれからの社会において、保育・教育によって地域を支援していくことができる力を有した人材を養成していく。

以上のように、子ども教育学科への改組は、これまで保育学科が行ってきた就学前の子どもを支える保育者養成の実績を発展させ、社会の動向に沿った人材の養成を目指すものである。

《資料 1-1:石狩市教育委員会 SAT 事業関連の資料》

《資料 1-2 : いしかり子育てガイドブック》

## **（２）人材養成の目的、教育上の目的及び学生が修得すべき能力等の学位授与の方針**

「子ども教育学科の教育目的」

子ども教育学科は、人が人として成長していくための基礎を築き上げる時期である乳児期から児童期の子どもの成長や子どもにかかわる人びとを支えるために必要な学びを得ることができるカリキュラムを構成しており、地域社会に貢献できる幅広い視野を持ちながら、乳幼児期の子どもと就学後の子どもの教育を連続的に捉えることができる教育者の養成を目指している。4年間の学びを通して、乳児期から児童期の子どもの発達の連続性・子どもを取り巻く人びとや社会の状況・各関係機関との連携のあり方などを総合的に捉える思考力を身につけ、学生自らが人間的成長を遂げることができる教育によって、子どもに深くかかわる専門家や、さまざまな立場から子どもの周囲にいる人びとを支えることで社会に貢献する人材を送り出すことを目的としている。

この教育目的のもと、人材育成の理念は、保育・教育にかかわる現場を通して地域社会に貢献できる人材を育成するということである。この理念は、「キリスト教的世界観や人間観を土台として、女性の全人的高等教育を通して、広く人類社会に対する愛と奉仕に生きる高い知性と豊かな人間性を備えた女性の育成を使命とする。」という本学の建学の理念に立脚しているものである。以上のような人材養成の理念の下、養成したい具体的な保育・教育者像は次のとおりである。

1. 乳幼児期の子どもと就学後の子どもの教育を連続的に捉え「保幼小連携」において活躍できる保育・教育者

平成 30 年度から施行された幼稚園教育要領等をはじめとして、各学習指導要領等の改



訂において「0歳～18歳までの教育を連続的に捉える」ことの重要性が示されている。これまで保育学科は昭和29年の保育専修学校に端を発して以来、北海道の保育者養成を牽引してきたが、これまで学科が行ってきた乳幼児の支援や教育に携わる人材の育成を基盤とし、人格形成の重要な時期にあたる幼児期から青年前期の子どもの心身の発達を連続したひとつの発達過程と捉え、「保幼小連携」において活躍できる優れた教育を担う人材の養成を目指す。

## 2. 現代の子どもを取り巻く社会的な状況を理解し、保護者・地域と連携しながら子どもを育てることができる保育・教育者

現代の保育・教育者には、多様化・複雑化する社会状況において、様々な課題を持つ子どもや家族と向き合い、「人間とは何か」「我々は何をなすべきか」という本質的な問いに常に立脚しつつ、具体的かつ効果的な指導や援助が求められる。そのために必要な専門的知識および技能の修得と、専門機関や保護者等と連携しつつ多様な他者と「ともに生きる」関係を大切にし、地域の親子のために教育の質の向上に取り組む実践的指導力を身に付けた人材の養成を目指す。

## 3. 知識・技術のみならず人間性を兼ね備えた保育・教育者

子どもや保護者に尊敬され、信頼される保育・教育者となるためには、幅広い教養や子どもに対する愛情と責任を持つとともに、人と深くかかわることのできるコミュニケーション能力や、保育・教育者としての使命感や倫理観を備えていることが必要である。子どもの育ちと教育のあり方を絶えず反省的に思考しつつ、常に自己啓発、自己研鑽に努め、豊かな人間性を身に付けた人材の養成を目指す。

### 「子ども教育学科のディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）」

本学科の教育目的を達成するため、ディプロマ・ポリシーを以下のように定める。

1. 乳幼児期から青年期までの子どもの成長・発達を支援し、子どもや子どもを取り巻く人びとの生活の質の向上に寄与するための専門的知識を修得する。（知識・理解）
2. 社会が抱える複雑な問題を包括的な視点で分析し、保育・教育場面で生じる課題に対処できる論理的思考力と問題解決へと導く能力を身につけることができる。（汎用的技能）
3. 保育・教育を通して社会的責任を果たしていくことのできる態度・倫理観と、生涯にわたり主体的に学びを深める態度を身につけることができる。（態度・志向性）
4. 地域社会とかかわるさまざまな社会経験を通し、広い教養の涵養と子どもにかかわる多様な問題に対処できる幅広い視野と創造的思考力を身につけることができる。（総合的な学習経験と創造的思考力）

このように、子ども教育学科は、専門的知識を基盤として、保育・教育の場面で起こり

うる様々な課題に対応するための問題解決能力、幅広い視野、創造的思考力を身につけるとともに、社会での責任を果たす態度や倫理観を併せ持ち、生涯にわたって主体的に学びを深めながら社会に貢献していく人材の養成を目指す。

### **(3) 研究対象とする中心的な学問分野**

子ども教育学科は、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、特別支援学校教諭等の養成を目的とした学科である。そのため、研究対象とする中心的な学問分野は、教育・保育原理、教育心理学、教育相談、カウンセリング、保育内容、教科教育、特別支援教育などの保育・教育分野、および社会福祉、社会的養護、保護者支援などの福祉分野など、幅広い分野が研究の対象となっている。また子ども教育学科が目指しているのは、「0～18歳までの子どもの教育を連続的に捉えることができる人材の育成」であるため、特に乳幼児期と児童期前半の子どもの育ちの接続に着目する保幼小連携の分野も研究対象となる。

専任教員が活躍する学会は、日本教育学会、教育哲学会、日本教育方法学会、日本教師教育学会、日本保育学会、日本発達心理学会、日本教育心理学会、日本生活科・総合的学習教育学会、日本数学教育学会、日本音楽教育学会、日本体育学会、日本特殊教育学会、日本リハビリテーション連携科学学会、日本生活指導学会、社会福祉学会、日本子ども虐待防止学会、全国児童相談研究会などである。

## 2. 学部・学科の特色

設置の主旨および必要性でも述べたように、子ども教育学科の目的は、乳児期から児童期の子どもの学びを連続的に捉え、保幼小連携において活躍できる人材、保護者や地域社会と連携して子どもの育ちを支える実践ができる人材の養成をすることである。このような学科の目的を達成するために、子ども教育学科の教育課程は、幼稚園教諭、小学校教諭、特別支援学校教諭の各一種教員免許、保育士資格、児童厚生一級指導員資格取得に関する科目を配したものとなっている。また学科の人材養成の考え方の基盤となっているのは、これまで行ってきた保育者養成の実践である。

北海道教育委員会が平成 29 年 12 月に策定した「北海道における教員育成指標」では、目指すべき教員像として「教育者として、強い使命感・倫理観と、子どもへの深い教育的愛情を、常に持ち続ける教員」「教育の専門家として、実践的指導力や専門性の向上に、主体的に取り組む教員」「学校（園）づくりを担う一員として、地域等とも連携・協働しながら、課題解決に取り組む教員」の 3 つを挙げている。また教員像を具現化するためのいくつかのキーとなる資質能力と、それらを重点的に学修・研修すべき時期が、養成・初任・中堅・ベテランの 4 段階のキャリアステージごとに示されている。このキーとなる資質能力のひとつに「子ども理解力」が挙げられているが、「子ども理解力」は 4 段階すべてのステージにおいて重点的に学修・研修に努めるものとされている。

このことから、北海道の教員が修得すべき力として「子ども理解力」が重要視されていることがわかる。保育学科はこれまで保育・幼児教育の分野で活躍する人材の養成をしてきたが、養成の過程で大切にしてきたことは、子どもを理解する目を養うことである。保育実践は、目の前の子どもの興味関心から展開されることを重視していることからわかるように、子ども理解は保育を構築する際の中核をなすものである。これまでも講義・演習・実習などを通して学生の子どもの理解力の向上に努めてきたが、子ども教育学科は、この養成実践のノウハウを活かし、地域社会が求める人材を輩出することで、地域社会に貢献する機能を担っていく。

また多様化・複雑化する現代社会において、地域社会には様々な問題が山積している。そのため、これからの保育・教育者には、子どものみならず、その保護者やまわりの大人にも目を向けて地域社会の状況を捉え、何が問題であるのか分析する能力が必要である。そしてその問題を解決するための手立てを考え、地域の人々、さまざまな専門機関と連携しながら、問題解決に向かうことが求められる。そのため、基本知識・技術として、子どもの成長発達に関すること、家族の機能、親子関係と子どもの育ちとの関連、特別な支援を必要とする子どもの理解とその支援方法、子どもの発達を支える保育・教育の実践力など、実に多岐にわたる専門性を身に付けることが必要である。子ども教育学科は、そのような高度な専門性をもった職業人の養成機能をも学科の特色と位置付けている。

### 3. 学部・学科の名称及び学位の名称

子ども教育学科は、平成30年から施行されている幼稚園教育要領等の改訂をはじめとする各種の学習指導要領の改訂の背景にある、0～18歳の子どもの学びを連続したものとして捉えた上で、各段階の子どもの生活や学びを支えることができる人材の育成を目的とした学科である。

乳幼児期の子どもに関する学びを幼稚園教諭養成課程ならびに保育士養成課程の科目群、就学以降の子どもに関する学びを小学校教諭養成課程や児童厚生一級指導員資格取得のための科目群、そして、特別な支援を必要とする子どもに関する学びを特別支援教諭養成課程の科目群によって得ることで、対象となる子どもの「これまで」を捉え、「これから」を見通した上で「現在」に必要な教育や支援の在り方を考えることができる人材を養成していく。このように、教育という視点から0～18歳の子どもの育ちを連続的に捉える人材を育成するという学科の目的により、学科名称を「子ども教育学科」(英訳名称:Department of Child Education)とし、学位の名称を「学士(教育学)」(英訳名称: Bachelor of Education)とする。

#### 4. 教育課程の編成の考え方及び特色

##### (1) 子ども教育学科の教育課程の編成の方針（カリキュラム・ポリシー）

子ども教育学科のカリキュラム・ポリシーは次の通りである。

本学科の教育目的に基づきディプロマ・ポリシーを実現させるために、次の通りカリキュラム・ポリシーを定め、教育課程の編成をカリキュラム・マップによって示す。

##### 1. (カリキュラムの体系性および順次性)

- ・本学科のカリキュラムは、専門に関する学びを得るために、子どもの教育という視点からアプローチする「子ども教育専修」、子どもの生活支援という視点からアプローチする「子ども生活支援専修」、各種実習や専門領域の研究法などを学ぶ「共通」の各科目群で構成し、子どもとそれを取り巻く人びとを支えるために必要な学びを多角的に捉える力を養う。
- ・1、2年次には大学共通科目である教養科目・外国語科目ならびに学科の専門科目のうち基礎科目や保育・教育の内容に関する科目等を配置し、大学での学修や専門的な学びの基盤形成を図る。
- ・3年次以降では、各種実習を配置し、大学で学ぶ理論や技術と保育・教育現場での経験を関連付けながら専門領域に関する学びを深め、多面的な視点で子どもや子どもを取り巻く環境を捉え、保育・教育を構想する力を育成する。

##### 2. (教養・外国語教育)

- ・ディプロマ・ポリシー各項目の基盤形成に資するために、1、2年次に幅広い教養科目を偏りなく履修することにより、広い視野や多角的な視点の獲得を促す。
- ・異文化理解の一環として外国語科目を主として1、2年次に配置し、個々の関心に応じた柔軟な履修を促す。

##### 3. (専門教育)

- ・1年次は、保育・教育・福祉の原理、人の発達の道筋など、子どもの成長・発達を支えるための基礎的な知識を修得する。
- ・2年次は、保育・教育・福祉の内容や技術に関する科目を配し、実際の保育・教育場面をイメージしながら、子どもの成長・発達を支えるために必要な具体的内容について理解する。
- ・3年次以降は、これまで修得した知識や技術をさまざまな実習によって体得する。また現代の子どもを取り巻く環境を分析し、子どもの生活の質に関する問題解決に向けた実践や子どもを取り巻く人びとを支える力の基礎を育むために、社会の構造、対象理解の方法、問題解決の方法論などを多角的に学ぶ。
- ・4年次は、それぞれの興味・関心に基づいたテーマを追究する卒業研究を通し、社会の諸問題に研究的にアプローチする方法や、論理的思考を身につける。

##### 4. (キャリア教育)

- ・卒業後を見据え、学科での学びとキャリア形成とのかかわりを認識するために、1 年次からキャリア教育科目を必修とする。
  - ・幼稚園教諭一種免許状、小学校教諭一種免許状、特別支援学校教諭一種免許状、保育士資格、児童厚生一級指導員資格取得にかかわるカリキュラムを通し、障がいのある子どもを含むすべての子どもおよびその家族の生活の質の向上に寄与するための力や考え方を身につける。
5. (学修の方法と評価)
- ・主体的に学ぶ態度や広い視野で物事を捉える思考力を身につけるために、能動的学修の要素を取り入れた授業を提供する。
  - ・大学で学ぶ理論や技術を基盤とし、保育・教育現場および地域との連携を図り、学生が主体的に保育・教育現場にかかわる演習や実習を通して、子どもと子どもを取り巻く人びとの支援者としての役割に対する総合的な理解を深める。
  - ・学生が自分自身の理解度や達成度を確認し、その後の学びのあり方の手がかりを得ることができるように、客観的で的確な評価を行う。

## (2) 学科専門科目：専修の設定

子ども教育学科は、人が人として成長していくための基礎を育む乳児期から児童期の子どもや子どものまわりの大人を支える力をつけることを目的とした学科である。子どもや子どものまわりの大人を支えていくためには、教育的側面と生活的側面の両方から子どもを捉える視点を持ち、適切な支援のあり方を考える力が必要となる。そのため、子ども教育学科の教育課程は、子どもの教育という視点からアプローチする「子ども教育専修」、子どもの生活支援という視点からアプローチする「子ども生活支援専修」の2専修と、体験によって2専修での学びを深める各種実習や専門領域の研究法などを学ぶ「共通」で構成されている。

「子ども教育専修」の科目群の履修では、子どもの豊かな感性と生きる力を高めるような指導ができ、保幼小接続に対応しながら、特別な支援を必要とする子どもへも対応できる教育者となるために必要な力を修得することを目指している。「子ども生活支援専修」の科目群の履修では、乳児期からの子どもを豊かに育み、子どもの生活にも目を向け、子育て支援や子どもとその保護者にしっかりと向き合う力を修得することを目指している。さらに「共通」の科目群の履修により、大学での学びを実践に活かす力を身につける各種実習や、専門領域の研究法および少人数制のゼミを通して、物事を多角的に捉える力を修得することを目指している。なお、「子ども教育専修」と「子ども生活支援専修」の2専修は学科の学びを体系化したものであり、学生は自由に両専修の科目を選択し、子どもを教育と生活の両視点から捉える力をつけていく。

### **(3) 学科専門科目：科目群の設定及び配当年次、必修・選択の考え方**

#### **1) 区分の設定と各区分の目的**

子ども教育専修と子ども生活支援専修はそれぞれ4つの区分に分かれている。区分は両専修に共通しているものと異なるものがある。両専修に共通した区分は、「保育・教育の理論」「子どもの理解」「保育・教育の内容」であり、異なる区分として、子ども教育専修に「保育内容・教科の指導法」、子ども生活支援専修に「子どもと家族の支援」を置いている。また「共通」には「実習」「専門研究法」の2つの区分を置いている。以下ではそれぞれの区分の科目構成とその目的について述べる。

##### **◆区分「保育・教育の理論」**

保育や教育にかかわる原理や基礎理論を理解することを目的とした区分である。子ども教育専修では、「教育原理」「保育原理」「教師・保育者論」「教育制度論」「教育課程総論」などの科目により、教育や保育を実践していく上での基本原理や基礎知識を修得していく。子ども生活支援専修では、「社会福祉論」「子ども家庭福祉論」「社会的養護」などの科目により、福祉にかかわる基本原理、「教育相談の理論と方法」「児童館・放課後児童クラブの機能と運営」などの科目では、子どもの生活や育ちに向き合うための基礎知識を修得していく。

##### **◆区分「子どもの理解」**

子どもを理解するための理論や方法を理解することを目的とした区分である。子ども教育専修では、「教育心理学」「発達心理学」「幼児理解と援助」などの科目により、子どもを理解するための理論や方法を学ぶ。さらに特別な支援を必要とする子どもに対する理解を深める特別支援教育関連の科目を配し、子どもを多面的に理解できる力を修得していく。子ども生活支援専修では、「子どもの食と栄養」「子どもの保健」などの科目により、子どもの生活に視点をおいた子ども理解や、「家庭支援論」により、子どものみならず子どもが育つ家庭への理解を深める。

##### **◆区分「保育・教育の内容」**

保育や教育の内容を理解することを目的とした区分である。子ども教育専修では、保育内容5領域、各教科目の内容を学び、保育・教育を構築していく力を修得する。子ども生活支援専修では、「乳児保育」「子ども文化論」「社会的養護内容」などの科目により、子ども達の生活場面に関連した保育や教育の内容を学ぶ。

##### **◆区分「保育内容・教科の指導法」**

保育内容5領域の指導法、各教科の指導法を理解し、教育・保育により子ども達の学びを支援していく実践力を養うことを目的とした区分である。保育内容5領域や各教科にお

ける指導の基本技術を学び、指導案作成や模擬保育・模擬授業を通して、保育や授業を実践していく力をつけていく。

◆区分「子どもと家族の支援」

子どもや家族を支援するための知識や技術を学ぶことを目的とした区分である。「児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法」「子ども家庭支援の心理学」「子育て支援」などの科目により、教育機関における子どものみならず、家庭や地域における子どもやその家族を支えていく力をつけていく。

◆区分「実習」

大学で学んだ理論や技術を実際の保育・教育現場で経験を通して理解していくことを目的とした区分である。各免許・資格に必要な実習を行うことで、保育・教育のための専門的技術の向上、業務内容の理解、子ども観の形成、保育者・教育者としての倫理観、自己課題の自覚など、多岐にわたる学びを得る。

◆区分「専門研究法」

物事を多面的に捉える力をつけることを目的とした区分である。「研究調査法」「臨床発達検査法」などの科目により、対象となる子どもやそのまわりの大人を理解する方法を学ぶ。また少人数制のゼミや卒業研究を通して、物事を理論的に考える力や分析力、問題解決能力、幅広い視野、創造的思考力を身に付ける。

## 2) 必修科目・選択科目・自由科目の構成、配当年次の考え方

専門科目の必修科目は、「教育原理」「発達心理学」「特別支援教育総論」「子ども家庭福祉論」「スタートアップセミナー」「専門演習」の6科目(12単位)である。これは、学科の学問対象である、教育・子ども理解・特別支援教育・福祉の基礎知識を広く学ぶこと、広い視野で物事を捉える力をつけることを目的としている。また学生が2年次以降の履修の方向性を考えられるようにするための配慮から、「専門演習」を除いた他の科目はすべて1年次に配当した。

子ども教育学科は、教員免許状、保育士資格の取得を主たる目的とする学科であるため、上記12単位の他に、それぞれの免許や資格取得のために必要な科目を必修科目や選択科目として開設している。また、保幼小連携で活躍できる人材、保護者・地域と連携しながら子どもを育てる力を有した人材を養成するという学科の教育目的を実現するために、学科独自の科目として「保幼小連携特論」「子どもの遊びと学び」「地域社会と学校」「現代社会と教育」「子育て支援(講義)」などの科目を選択科目として開設している。

科目の配当年次に関しては、1、2年次には大学共通科目である教養科目・外国語科目ならびに学科の専門科目のうち基礎科目や保育・教育の内容に関する科目等を配置し、大学



での学修や専門的な学びの基盤形成を図るようにしている。そして、3年次以降には、各種実習を配置し、大学で学ぶ理論や技術と、保育・教育現場での経験を関連付けながら専門領域に関する学びを深め、多面的な視点で子どもや子どもを取り巻く環境を捉え、保育・教育を構想する力の育成を目指している。

子ども教育学科の専門科目は、5種類の免許・資格に必要な科目が中心となっているが、これらの科目を開設することにより、0歳～18歳までの子どもの発達を捉える機会を学生に与え、保育所、幼稚園、学校という場面での子ども理解に留まらず、家庭や地域における子ども、放課後の子どもの生活をも理解することを可能にする教育課程となっている。この教育課程のもと、学生達に対して適切な履修指導をすることで、現代社会が求める人材を輩出することを目指していく。

#### **(4) 教養教育**

本学では建学の理念として、キリスト教的世界観や人間観を土台として、女性の全人的高等教育を通して、広く人類社会に対する愛と奉仕に生きる高い知性と豊かな人間性を備えた女性の育成を使命とすることを掲げている。これを踏まえ、大学のディプロマ・ポリシーを次のように定めている。

「藤女子大学のディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）」

本学の建学の理念および教育目的を達成するため、ディプロマ・ポリシーを次の通り定める。

1. キリスト教的世界観および人間観をよく理解し、愛の精神をもって、柔軟かつ誠実に行動することができる。（キリスト教的世界観および人間観）
2. 文化の多様性に配慮し、現代社会の一員として主体的にその役割を果たすため、他者との円滑なコミュニケーションを行うことができる。（主体性・多様な人々と協働して学ぶ態度）
3. 現代社会における諸問題を理解するために、文学部、人間生活学部の各学科等の求めるそれぞれの専門分野の知識・技能を身につけ活用することができる。（知識・技能）
4. 授業で得た知識を自分の問題として捉えなおし、現代の諸問題に関連づけ、幅広く複眼的な視野をもって論理的かつ批判的に思考し、社会に発信することができる。（思考力・判断力・表現力）

上記のディプロマ・ポリシーのもと、全学共通の科目として教養科目及び外国語科目のカリキュラム・ポリシーを次の通り定めている。

「教養科目・外国語科目 カリキュラム・ポリシー」

本学の教育目的に基づきディプロマ・ポリシーを実現するために、次の通り教養科目・

外国語科目カリキュラム・ポリシーを定める。

1. [専門教育との関連]

・本学の学生としての学修の質を全学的に保証するため、主として1・2年次に教養科目および外国語科目を配置し、各学科等における専門的学修の基盤となる素養や諸技能を養成する。

2. [教養科目]

・幅広い教養科目を「人間と宗教」「ジェンダー・キャリア形成」「人間形成」「リテラシー」の各区分に配し、広い視野や多角的な視点を養成する。

・能動的学修の確立をめざし、学修への高い意欲と主体的な態度を養成する。

3. [外国語科目]

・多彩な外国語科目を設け、個々の関心に応じた履修を可能にし、3・4年次に上級科目を置き、より高度な学修の機会を提供することを通して、実践的な外国語コミュニケーション能力を養成する。

・海外留学プログラムおよび語学研修科目等を設け、国際交流の機会を提供することを通して、異文化を理解し、国際的な視野をもって行動できる力を養成する。

教養科目は、キリスト教の基本的な教え、考え方を学ぶ「人間と宗教」、女性としての立場からキャリアや労働問題、法令を学ぶ「ジェンダー・キャリア形成」、国際情勢の理解と異文化間でのコミュニケーションを学ぶ「国際理解」、経済や社会、文化を学ぶ「社会と文化」、日本と世界の歴史、思想を学ぶ「歴史・思想」、栄養・運動・健康に関して学ぶ「健康」、情報処理の基礎・発展や文章表現などを学ぶ「リテラシー」といった幅広い学問分野を区分とし、区分ごとに科目が開設されている。

外国語科目では基礎的な英語力養成のための「Academic Communication I・II（必修各1単位）」を開設している。英語についてより深く学びたい学生に対しては、シチュエーションに応じた英語でのコミュニケーションを学ぶ「Interactive English」や、ひとつのテーマを多角的に扱い、学習者同士がやり取りを行う「CLIL English」などの科目を開設している。また英語以外の言語について学びたい学生のためにドイツ語、フランス語、中国語、韓国語の初級科目から発展的科目までをそれぞれ開設している。

授業においてもアクティブ・ラーニングの手法を積極的に導入し、知識のみならず、1年生から主体的に考え、判断し、自ら積極的に学ぶ姿勢を身に付けられるようにカリキュラムを構築している。

## 5. 教員組織の編成の考え方及び特色

子ども教育学科の教員組織は、大学設置基準、教育職員免許法施行規則及び指定保育士養成施設にかかわる法令等に則り、専任教員の職位構成、年齢構成に配慮した編成として、前身の保育学科から移行する教員13名（教授9名、准教授4名）と新任教員1名（教授）の計14名であり、学科が対象としている学問分野である保育、学校教育、特別支援教育、福祉、心理学、芸術など、それぞれの分野についての豊かな実務経験や研究業績を有した教員で組織されている。

### (1) 教員の専門性と担当科目、学科の教育目的

子ども教育学科は、幼稚園教諭一種免許状、小学校教諭一種免許状、特別支援教諭一種免許状、保育士資格、児童厚生一級指導員資格の免許・資格が取得できる教育課程を編成しているが、教員の専門性を学問分野で考えると、保育・幼児教育、教育学、教科教育、体育・芸術、特別支援、福祉、心理学に分類することができる。それぞれ分野の教員構成は以下のとおりである。

保育・幼児教育	2名	教授2名（50代）
教育学・子ども学	1名	教授1名（50代）
教科教育	3名	教授3名（60代）
体育・芸術	3名	教授1名（60代）准教授1名（40代）准教授1名（30代）
特別支援教育	2名	教授1名（60代）准教授1名（50代）
子ども家庭福祉	1名	教授1名（60代）
心理学	2名	教授1名（60代）准教授1名（40代）

専任教員の構成は、学科が対象とする学問分野を踏まえ、バランスよく配置されており、それぞれの分野の主要科目は主に専任教員が担当する。子ども教育学科の基盤となる保育・幼児教育を担当する教員は、1名が保育に関する理論科目と保育士養成課程関連科目の担当、もう1名が保育内容と幼稚園教諭養成課程関連科目の担当である。

また、子ども教育学科が目指す、「保幼小連携で活躍できる人材の養成」を実現するにあたり、専任教員が担当する教科教育は、「国語」「算数」「生活」と幼児教育とつながりが深い教科とした。特に生活科は、保幼小連携のキーとなる科目であるため、生活科が創設された当初から北海道の生活科教育を牽引してきた専任教員（教授）が担当することとした。また「教育学・子ども学」分野の新任教員（教授）は、幼児期の子どもと学童期の子どもの学びの接続をテーマに研究を進めている。子ども教育学科が目指す、乳児期から児童期の子どもの発達や教育を連続したものとして捉える力の育成のために開設した、「保幼小連携特論」や「子どもの遊びと学び」を担当するのにふさわしい人材である。さらに、

幼稚園教諭免許状・小学校教諭免許状・保育士資格取得のために共通開設されている、体育・芸術分野を担当する3名の専任教員も幼児期から学童期の子どもの教育やそれぞれの分野に関する専門知識も豊富である。

多様な問題が山積している現代社会において、子ども教育学科が目指す養成のもうひとつの視点である「保護者・地域と連携しながら子どもを育てる力を有した人材養成」のためには、社会状況や対象を深く理解する福祉の視点や心理学などの専門知識が必要である。また特別な支援を必要とする子どもの教育についての学びを深めることも大切である。これらの分野を担当する教員は、それぞれの分野に関する知識や研究業績を有している。

学科専任教員は全員、3年次に開設されている「専門演習」、4年次に開設されている「卒業研究」を担当する。少人数制のゼミの形態で進められるこの科目の目的は、研究的視点を学生に授け、広い視野で物事を捉える力を育成することである。専門性が多岐にわたる学科教員の構成により、学生に多様な視点を与えられるものとなる。

以上のように、子ども教育学科の教員組織は、学科が目指す人材養成を実現するものである。さらに、もうひとつの特徴は、教科教育を担当する専任教員の多くが、豊富な現場経験を有することである。これは、保育や教育の現場で求められている、子どもへの深い愛情と倫理観を持ち合わせた即戦力となる人材を育成するためである。教員の実務経験を活かし、理論や技術をわかりやすく教授するだけでなく、職務のすばらしさや尊さを伝え、子ども達とともに生きる視点と実践力を身に付けた人材の育成を目指すことができると考える。

## **(2) 教員組織と研究分野**

以上のような教員組織においては、中心となる研究分野は、教育学、保育学、福祉、心理学などである。分野は多岐にわたるが、対象となるのは、乳児期から児童期の子どもであるため、研究的な興味・関心には共通点があり、子どもを様々な側面から理解することを可能とする組織であることが利点である。また、保育者・教育者の養成に関しても、それぞれの専門分野からのアプローチが可能である。よって、研究分野が多岐にわたっていても、それぞれの研究について情報交換をすることで、お互いの研究に良い刺激を与えあう集団となりえる。そのためには、教員の担当科目数が過重になりすぎないように配慮し、研究の質を高め合うよう取り組んで行く。

## **(3) 教員の年齢構成**

子ども教育学科が目指す教育研究を実現するための、教員の専門性のバランスを優先したこともあって、教員の年齢構成が開設時において60歳台の教員が8名と半数以上であること、完成年度には60歳台の教員が10名と7割以上となり、かつ30歳台が0名、50歳台が1名と、著しく高年齢に偏った構成となっている。また完成年度前に定年あるいは任期満了を迎える教員も比較的多いことから、教員の年齢構成については大きな課題として

認識している。

本学の専任教員の定年は、採用時期により満 70 歳または満 65 歳に達する日の属する年度末と定められている。また、特定の分野において優れた業績を有する教員や満 65 歳で定年となる本学の専任教員の再任用を目的とした「藤女子大学特別任用教員規程」では満 70 歳までが任用の年齢上限となっている。

完成年度までに定年または任期を迎える教員については、定年または任期満了後引き続き上記の規程によりいずれの教員も再任用、または、任期更新とすることとしている。

一方で前述の通り、60 歳以上の教員が偏在している年齢構成を是正していくため、定年あるいは任期満了となる教員の後任は、専門分野の教育研究業績はもとより、取得学位・職位等にも配慮しながら、20 歳台から 40 歳台の教員の採用を積極的に進めることで順次解消し、教育研究水準の維持向上と活性化に取り組んで行く。

《資料 5-1: 藤女子大学特別任用教員規程》

《資料 5-2: 藤女子大学就業規則（定年について定めた部分の抜粋）》

## 6. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

### (1) 教育方法

#### 1) 授業の方法および学生数

子ども教育学科の教育課程に開設されている科目には、知識や学問分野の理念などの教授を目的とする「講義科目」、グループ討論や発表、模擬授業など、学生の主体的参加が中心となる「演習科目」、スポーツ実技などの「実技科目」、免許・資格取得に必要な各種実習の「実習科目」に大別される。しかしながら、講義科目であってもアクティブ・ラーニングの要素を取り入れ、学生が能動的に授業に参加できるような工夫をする。なお、演習科目は基本的には、ひとクラス40名以下であるが、初年次教育の位置づけである「スタートアップセミナー」は授業内容によって、担当する6名の教員が少人数制のグループを担当し、きめ細かい指導ができる体制をとる。また3年次開講の「専門演習」、4年次開講の「卒業研究演習」は、専任教員14名全員で担当するため、10名以下のグループによるゼミナール形式となる。

#### 2) 配当年次の設定

本学では、1年次に全学共通科目として教養科目、外国語科目を開設し、合わせて30単位の修得を卒業要件としている。また学科専門科目では、「教育原理」「保育原理」「教師・保育者論」「発達心理学」「特別支援教育総論」「保育内容総論」「子ども家庭福祉論」など、子ども教育学科が対象とする学問分野に関する基礎知識を学び、専門的な学びの基盤形成を図るようにしている。また前期には「スタートアップセミナー」を開設し、4年間の学びの内容の理解と大学の授業を受講する際に必要なスキルを身につけ、学びの構えを形づくることを目指している。

2年次には、保育内容5領域や保育内容の指導法、「音楽」「図画工作」「初等体育」「家庭」「英語」「図画工作科指導法」「体育科指導法」などの教科内容と指導法の科目を配置し、1年次の基盤をもとに、保育・教育の内容を具体的に理解していくことを目指す。また、「教育心理学」「研究調査法」などにより、対象となる子どもや子ども集団を捉えるための理論やその方法を理解していく。さらには、知的障害児、肢体不自由児に関する特別支援教育の科目、「地域社会と学校」「社会的養護」「家庭支援論」「乳児保育」「子どもの保健」などの科目を配置し、多様な背景をもった子どもの理解、子どもの生活や家庭について学び、子どもを捉える視点を広げ、教育についての考えを深めていくことを目指す。なお、後期には最初の学外実習である児童館実習を配置している。

3年次は、「国語（書写含む）」「算数」「社会」「生活」「教育課程総論（全体的な計画を含む）」「教育制度論」などを配置し、各科目の内容や教育方法への理解をさらに深め、教育課程を基に教育内容が編成されていることや、学校教育が成り立つ背景としての制度の理解を深めることを目指す。また「特別な教育的ニーズに対する理解と支援」「教育相談の理論と方法」「臨床発達検査法」などを配置し、人を理解するための理論や技術、子どもの

背景をふまえた上で理解する姿勢や相談を受ける者としての姿勢を身に着けるようにする。さらに「学級経営論」「子どもの遊びと学び」を配置し、教科教育の内容だけでなく、学級を経営していくための理論や技術、教師としてのあり方、遊びと学びの関係性などを理解していく。以上のように2年次までに得た知識や技術を基盤として、保育や教育を広い視野で捉える力の修得を目指していく。なお3年次には保育士資格に関連する保育実習Ⅰを配置し、これまで学んできた事柄を実践とむすびつけて体験的に理解していく。

4年次には、教育実習や保育実習を配置し、これまでの学びを踏まえ、実際の現場での保育・教育の場がどのようなものであるか、その教育内容と指導法、教師・保育士の仕事、対象となる子どもとはどのような存在であるのかなどを、体験を通して理解する。さらに、「保幼小連携特論」「現代社会と教育」などを配置し、小学校と幼児教育、社会状況と教育との関連など、幅広い視点で教育を捉える姿勢を身につけることを目指す。また「保育・教職実践演習(幼稚園・小学校)」において、実習での経験と整理した自己課題に向き合い、保育・教育者に必要とされる力の最終的な確認を行うとともに、これまでの学習内容を踏まえ、子ども理解を基盤とした保育展開やクラス運営の在り方、教育方針や子どもの様子を保護者に伝える方法など、保育・教育者として必要とされる知識や技術をより実践的なレベルで修得することを目指す。

## **(2) 履修指導**

### **1) 履修指導の方法**

入学後の新入生オリエンテーションにて、学部単位で履修指導を行うとともに、学年担任、教務部委員などの連携のもと、学科での履修指導を丁寧に行う。また免許・資格取得をベースとした履修モデルを示し、学生が4年間の学びを体系的に理解できるようにする。オリエンテーション期間が過ぎたあとには、前期に開講している「スタートアップセミナー」において、履修の方法や学修に関する質問等を随時受け付ける体制とする。なお、進級時にもガイダンスを実施し、当該学年の履修や未修得科目に関する履修計画への相談体制を整える。

### **2) 卒業要件の考え方**

教養科目では、キリスト教の基本的な教えや考え方を学ぶ「キリスト教概論」を必修科目とし、その他に「人間と宗教」の区分から2単位以上修得することで、建学の理念に示されたキリスト教的世界観、人間観に基づく人間性について学び、学科専門科目に遍在する愛と奉仕の精神への理解の端緒としている。その他にも各区分に卒業要件単位を定める事で、学生の履修の偏りを防ぎ、幅広い教養を身に付けられるように配慮されている。具体的には、区分「人間形成」のうち、「国際理解」「社会と文化」「歴史・思想」から2単位以上、「自然・科学」「健康」から2単位以上、区分「リテラシー」から2単位以上を選択必修としている。

外国語科目では、基礎的な英語力を養成するため「Academic Communication I・II（各1単位）」を必修とし、その他に4単位分履修する必要がある。英語以外にも、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語科目が開設されており、初級から発展まで学生の興味関心によって選択することができる。

上記それぞれの要件を満たした上で、教養科目・外国語科目の合計が30単位以上になるように単位を修得する必要がある。

学科専門科目については、幼稚園教諭及び小学校教諭一種免許、保育士資格の取得を主たる目的とした科目の他、特別支援教諭一種免許や児童厚生一級指導員資格に関する科目を開設する。必修科目として、「教育原理」「特別支援教育総論」「子ども家庭福祉論」などの児童の教育・福祉に関する6科目12単位を修得し、その他の科目のうち、幼稚園教諭・小学校教諭免許課程科目を48単位以上修得することを卒業の要件としている。

これらの要件を満たし、自由選択単位を含めて合計127単位以上修得することで、卒業要件を充足することができる。

### 3) 履修モデル

子ども教育学科では、学生が取得を希望する免許・資格に応じた体系的な科目履修ができるように、主に幼稚園教諭免許と保育士資格の取得を目指す学生には「幼・保履修モデル」を、主に幼稚園教諭・小学校教諭免許の取得を目指す学生には「幼・小履修モデル」を提示している。しかしながら、履修モデルに提示されている科目以外の履修を妨げるものではない。そのため、幼稚園教諭免許、小学校教諭免許、保育士資格の3つの免許・資格取得や、幼稚園教諭免許および小学校教諭免許を基礎免許とした特別支援教諭免許の取得、保育士資格を基礎資格とした児童厚生一級指導員資格の取得を目指すこともできる。

《資料6-1:履修モデル》

### 4) 卒業研究

子ども教育学科では、4年次に選択科目として、「卒業研究演習」（通年科目2単位）「卒業研究」（通年科目2単位）、計4単位を論文等作成の単位として開設している。「卒業研究演習」は通年60時間の授業で、主に教員との研究相談や対面指導の時間として充てられるため、それらの一連の取り組みを通して、卒業研究に対する姿勢や物の見方・捉え方の深化などの学修効果を評価して単位を授与する。また「卒業研究」は、論文または制作品の提出で評価する科目である。文献検索、文献の読み込み、調査の実施やまとめ、論文の執筆、制作への取り組みなどに時間を要し、個々が多大な時間を費やして研究に取り組むことになる。それらの成果が最終的に卒業論文や卒業制作という形となって示され、その成果を評価して単位を授与する。よって、大学設置基準第21条3項に示されているように、



学修の成果を評価して論文等作成にかかわる単位として2単位を授与することは適切であると考えます。

#### **5) 履修登録上限**

子ども教育学科では、大学設置基準における適切な時間外学修の確保に基づき、履修登録単位数は、年間49単位を上限として設定する。ただし、1年次開講の「女性とキャリアI」および図書館情報学課程の科目は上限単位には含まない。なお、学習状況が良好な者に対して、より多くの学びの機会を保障するために、前年度までのGPAが2.5以上、かつ学科内上位30%の者については、当該学年において、上限を超えてさらに4単位の追加履修を認める。

#### **6) 他大学における授業科目の履修**

本学は、札幌圏大学・短期大学間単位互換制度に加盟している。この制度は、制度に加盟している協定大学が提供する単位互換科目を履修し、本学の単位として認定するものである。この制度の目的は、自己の専攻を深めるため、あるいは本学にない分野の科目を学ぶなど、学生の幅広い関心と興味に応じた履修機会を提供することである。1年間に履修できる単位数は10単位であるが、子ども教育学科では、他学科専門科目、他学部専門科目、協定校修得科目と合わせて8単位までを卒業要件単位に含めることができる。

《資料6-2:札幌圏大学・短期大学間単位互換履修生 要綱》

## 7. 施設・設備等の整備計画

### (1) 校地、運動場の整備計画

子ども教育学科を設置する花川キャンパスは、札幌市北区に隣接する石狩市南部の花川地区にあり、校地面積 152,005 m<sup>2</sup>に樹木草花があふれた緑豊かなキャンパスである。校地には 41,150 m<sup>2</sup>の屋外グラウンド、テニスコート等の運動施設のほか、ぶどう畑、砂場等のゼミ指導等でも利用される施設も有している。また屋内体育館は、1,931.04 m<sup>2</sup>の建物面積にトレーニングルーム、卓球室、更衣室を備え、体育実技及び部活動等に利用している。

学生の休息等は、校門からエントランスにいたる前庭や学生食堂前の中庭、また付属施設であるセミナーハウスなど多様に用意している。

### (2) 校舎等施設の整備計画

子ども教育学科を設置する花川校舎は、人間生活学部と大学院人間生活学研究科が共用する校舎で、講義室 17 室、演習室 9 室、実験実習室 35 室、教員個人研究室 41 室及び学生自習室、共同研究室のほか事務室、会議室等を備えており、校舎面積 17,538 m<sup>2</sup>と大学設置基準を上回っている。

人間生活学部の収容定員は、3 学科合計で 960 名、大学院人間生活学研究科 32 名の合計 992 名の教育研究活動が充分に行われるよう用途別に室数を確保している。特に実験実習室は、各学科の教育研究分野の特性に合わせた仕様で配置しており、子ども教育学科の専用の実験実習室としては、遊戯療法室、音楽表現室、保育実習室、心理学実習室、絵画室等を配置し、またピアノの個人練習室等の自習室も配置している。

2018 年度の講義室と演習室の稼働率はおよそ 50%程度であり、子ども教育学科の定員は前身の保育学科の定員と同数であることから、改組にあたっての校舎等施設については増築等の予定はないが、子ども教育学科の教育研究については支障無く実施できる。

### (3) 図書等の資料及び図書館の整備計画

本学の図書館は、北 16 条キャンパスにある本館と花川キャンパスにある花川館の 2 館体制となっている。各キャンパスの図書館は大学図書館として、本学の教育・研究内容を十分に支援できる資料収集を行うことを基本方針としている。

本館は、歴史、社会科学、文学、語学等の人文系の資料を中心として、花川館では社会科学、自然科学系、幼児教育等を中心に学部構成に合わせた蔵書体系となっており、子ども教育学科の設置に併せて今後は乳幼児期から児童期までの保育・教育関係の図書を充実していく。

2019 年 3 月末の蔵書冊数は、本館 304,168 冊、花川館が 50,877 冊の合計 355,045 冊でありそのうち洋書の割合はおよそ 14%である。所蔵雑誌種類は、両館合計で 4,727 タイトル、視聴覚資料は DVD 等 8,232 タイトル、またメディカルオンライン 1430 誌、Academic Search Premier 14,020 誌等の電子ジャーナルあるいは電子データベース等の電子媒体資

料も多種導入している。

学生の貸し出し図書は、本学の Web サイトから予約することで、毎日両キャンパスを往復する大学車両により、希望する館で受け取ることができ、また北海道大学図書館相互利用サービスも創設時から参加しており、国公立大学間の相互利用環境も整備している。

館内設備は、閲覧座席数が本館 331 席、花川館 206 席、OPAC 検索用パソコンが本館 4 台、花川館 3 台、その他視聴覚機器を備えており、レファレンスコーナーには司書資格を持つ専任職員が常駐して学生対応にあたっている。また、両館ともにラーニングコモンズとしてのスペース・設備を、設けており、特に本館は、1 階フロアに可動式の机・椅子、電子黒板や AV 視聴機器等を常設し、貸し出し用のノートパソコンと検索用合わせて 26 台用意し、学生の能動的学修の場として提供している。花川館は 2 階閲覧フロアの一部を利用して、15 台のパソコンで本館同様に学修の場を提供している。

## 8. 入学者選抜の概要

### (1) 学生の受入方針

藤女子大学は、キリスト教的人間観を土台として、愛と奉仕に生きる高い知性と豊かな人間性を備えた女性の育成を建学の理念としている。また人間生活学部においては、自己と他者の人間性をかけがえのないものと認め、地域社会の諸問題に取り組むとともに、人類社会の一員としての責任を果たす人材を育成することを目的としている。そのために教育課程において、幅広い教養と人間理解のための大学共通科目を配置している。子ども教育学科では、乳児期から児童期までの子どもの発達や、子どもを取り巻く状況などを総合的に学び、子どもにかかわる幅広い社会的要請に応えることのできる人材の養成を目的とし、保育・幼児教育・初等教育・特別支援学校教育・児童厚生 of 専門理論と現場実習を配置した専門科目群を配置している。これらの教育目的との関連から、子ども教育学科のアドミッション・ポリシーを以下のように定める。

#### 「子ども教育学科のアドミッション・ポリシー」

##### ○子ども教育学科が目指しているもの

子どもは、社会を構築していくメンバーとして、より良い社会を担う人材となることが期待されています。特に、乳児期から児童期にかけては、人が人として成長していくための基礎を築き上げる時期であり、この時期の経験や環境は、その後の子どもの人間形成に大きな影響を与えます。したがって、いかに子どもの成長を支えるかが重要となります。また、子どもの発達には人とかかわりが欠かせず、子どもとかかわる人びとの存在を支えていくことも、子どもを支えることと同時に必要です。

子ども教育学科では、乳児期から児童期までの子どもの発達の連続性・子どもを取り巻く状況・各関係機関との連携のあり方などを総合的に学び、子ども達に深くかかわる専門家や、さまざまな立場から子どもの周囲にいる人びとを支えることのできる人材を養成します。

##### ○子ども教育学科が求める人材

- ・子どもや子どもを取り巻く環境に関心を持ち、保育学や教育学の探求に励む人
- ・他者とともに人間として成長しようとする人
- ・広く社会に関心を持ち、探究心と自主性を持って課題に取り組もうとする人
- ・自らに備わった資質を磨き、社会に貢献しようとする人

##### ○子ども教育学科において学修を行うものが備えるべき要素

(高等学校で学んできてほしいこと)

大学では物事を多角的な視野で分析し、それを客観的に示す力が要求されます。また、子ども教育学科での学びは、他者とかかわりを通して学ぶことが重要な要素となっている

ため、一般常識や生活力、人間性も問われます。そのため高等学校では多様な科目への積極的参加により、基礎的読解力や的確な言語表現を身につけ、物事を深く追求する探究心や好奇心を高めてきてください。また部活動、ボランティア活動等の課外活動へ積極的に参加したり、自ら検定に挑戦したりするなどさまざまな経験も重ねてください。

## **(2) 選抜方法**

基礎学力の確認を基本としつつ、個性や潜在能力が見失われることが無いよう配慮し、アドミッション・ポリシーに基づく入試方法は以下のとおりである。

### **1) 一般入学試験 (A日程)**

全学共通入学試験 (3科目) では、子ども教育学科で扱う諸学問に対して、積極的に学ぶ意欲のある学生を求めます。この試験では国語・英語のほかに得意とする1科目から総合的に基礎学力を評価します。

学科特化入学試験 (2科目) では、子ども教育学科で扱う諸学問に対して、積極的に学ぶ意欲のある学生を求めます。この試験では国語のほかに得意とする1科目から総合的に基礎学力を評価します。

### **2) 大学入試センター試験利用入学試験 (A日程・B日程)**

子ども教育学科で扱う諸学問に対して、積極的に学ぶ意欲のある学生を求めます。この試験では国語・英語のほかに得意とする1科目から総合的に基礎学力を評価します。

### **3) 公募推薦入学試験**

子ども教育学科で扱う諸学問に対して、積極的に学ぶ意欲のある学生を求めます。この試験では基礎的な学力、調査書による高校生活での取り組み、面接による日常での関心事や生活のしかた、言語表現力などが十分であるかを評価します。

### **4) 姉妹校・カトリック校推薦入学試験**

本学園が設置する高等学校及びカトリック教育を理念としている高等学校の生徒を対象とした入学試験であり、公募推薦入学試験に準じた選抜方法で実施します。

## **(3) 選抜体制**

学長を入試責任者とし、入試部委員長、各学部入試部副委員長、各学科入試部委員、入試課職員からなる入試部委員会を置いて、試験科目、選考方法などの試験実施要項、入試日程、募集人員を決定し、問題作成業務は専任教員と事務職員の協力体制の下に厳正な実施に努めている。可否の判定については、各学科及び主任連絡協議会、教授会の審議を経て、学長が決定する。

## 1) 入試形態別募集定員

- ・ 一般入学試験：全学共通入学試験 25 名、学科特化入学試験 13 名 計 38 名
- ・ 大学入試センター試験利用入学試験 A 日程：3 名、B 日程 2 名
- ・ 公募推薦入学試験：25 名以内
- ・ 姉妹校 カトリック校推薦入学試験：12 名以内

## 2) 科目等履修生及び聴講生

科目等履修生については、本学科の幼稚園、小学校教員並びに保育士の養成という目的に沿って、正規学生の教育研究に支障を及ぼさないよう配慮しつつ、免許、資格取得を目指す社会人等若干名を受け入れる。学則第 59 条及び藤女子大学科目等履修生規程に基づき、「当該科目の担当教員の承諾のもとに当該学部教授会の具申を経て」学長が受け入れを決定する。聴講生についても、正規学生の履修に配慮しつつ、若干名を受け入れる。学則第 60 条及び藤女子大学聴講生規程に基づき、科目等履修生と同様の手続きを経て学長が受け入れを決定する。

《資料 8-1: 藤女子大学科目等履修生規程》

《資料 8-2: 藤女子大学聴講生規程》

## 9. 取得可能な資格

子ども教育学科では、免許・資格取得を卒業要件としないが、学則に規定されている関連科目の修得により取得できる免許・資格は以下の通りである。

資格名	資格の種類	備考
幼稚園教諭一種免許状	国家資格	卒業要件単位に含まれる科目のほか、幼稚園教諭関連の教職科目の履修が必要
小学校教諭一種免許状	国家資格	卒業要件単位に含まれる科目のほか、小学校教諭関連の教職科目の履修が必要
特別支援教諭一種免許状	国家資格	卒業要件単位に含まれる科目を履修の上、幼稚園教諭または小学校教諭関連の教職科目を履修の上、特別支援学校教諭関連の教職科目の履修が必要
保育士資格	国家資格	卒業要件単位に含まれる科目のほか、保育士養成関連科目の履修が必要
児童厚生一級指導員資格	民間資格	保育士養成関連科目を履修の上、児童健全育成推進財団が指定している児童厚生一級指導員資格関連科目の履修が必要
社会福祉主事	任用資格	社会福祉主事取得のための指定科目3科目以上の履修が必要

## 10. 実習の具体的計画

子ども教育学科で取得できる免許・資格のうち、幼稚園教諭、小学校教諭、特別支援学校教諭の各一種免許状、保育士資格、児童厚生一級指導員資格の取得には実習科目の履修が必修となっている。子ども教育学科では、それぞれの免許・資格に必要な実習科目を開設している。(資料⑩-1 子ども教育学科実習一覧) 各実習に関する具体的な計画は以下のとおりである。

《資料 10-1: 子ども教育学科実習一覧 (実習カレンダー)》

### (1) 実習目的

子ども教育学科では、人が人として成長していくための基礎を築き上げる時期である乳児期から児童期の子どもの成長や子どもにかかわる人々を支えるために必要な学びを得ることができるカリキュラムを構成している。そして、地域社会に貢献できる幅広い視野を持ちながら、乳幼児期の子どもと就学後の子どもの教育を連続的に捉えることができる保育・教育者の養成を目指している。4年間の学びを通して、子どもの発達の連続性・子どもを取り巻く人々や社会の状況・各関係機関との連携の在り方などを総合的に捉える思考力を身につけ、学生自らが人間的成長を遂げることができる教育によって、子どもに深くかかわる専門家や、さまざまな立場から子どもの周囲にいる人々を支えることで社会に貢献する人材を送り出すことを目的としている。この教育目的の実現のために、保育・教育現場での実習では、大学で学んでいる子ども観や保育・教育観、講義で習得した知識・技能を実習という体験を通して、生きて働く知識・技能として身につけることを実習の目的としている。さらには、実習を通して、子どもの発達段階に応じた指導・支援の重要性を学び、子どもにかかわる多様な問題に対応する幅広い視野や創造的思考力を身に付けるとともに、自身の人生観やパーソナリティ、自己の資質・能力の限界を真剣に問い直す機会としたい。

### (2) 実習先の確保の状況

#### 1) 教育実習 (幼稚園・小学校)

幼稚園での教育実習受け入れについては、「北海道幼稚園教諭養成連絡協議会」の取り決めにより、実習の前年度12月に各幼稚園・認定こども園に直接実習受け入れ依頼の文書を送付し、承諾を得ることになっている。実習受け入れについては、資料に示した幼稚園から実習受け入れの承諾書を得ている。また、小学校での教育実習の受け入れについては、4市の教育委員会から実習受け入れの承諾書を得ている。なお、具体的な実習先と受入学生数については、各市の校長会の協議を経て配当されたものを基に、学生の希望を考慮し決定する。



《資料 10-2:教育実習（幼稚園・小学校）実習先一覧・実習受入承諾書》

## 2) 教育実習（特別支援学校）

実習先については「北海道特別支援学校教育実習連絡協議会」において、受け入れ人数に関する調整を行っている。実習の受け入れについては、資料に示した特別支援学校から実習受け入れの承諾書を得ている。

《添付資料 10-3:教育実習（特別支援学校）実習校一覧・実習受入承諾書》

## 3) 保育実習Ⅰ・Ⅱ（保育所）

学生の居住している地域にある認可保育園・認定こども園、本学の系列保育園、公立園の場合は各自治体に依頼し、実習園を決定する。「保育実習Ⅰ（保育所）」ならびに「保育実習Ⅱ（保育所）」については、資料に示した保育園、認定子ども園から承諾書を得ている。

《添付資料 10-4:保育実習Ⅰ・Ⅱ（保育所）実習園一覧・実習受入承諾書》

## 4) 保育実習Ⅰ・Ⅱ（福祉施設）

福祉施設の実習先については、北海道庁が公開している指定保育士養成施設一覧を基に、受け入れ先を選定し、実習先を決定する。「保育実習Ⅰ（福祉施設）」ならびに「保育実習Ⅱ（福祉施設）」については、資料に示した福祉施設から承諾書を得ている。

《添付資料 10-5:保育実習Ⅰ・Ⅱ（福祉施設）実習施設一覧・実習受入承諾書》

## 5) 保育実習（児童館）

児童厚生施設の実習先については、公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会が窓口となり、調整を行ったものを基に実習先を決定する。「児童館実習」「保育実習Ⅱ（児童館）」については、資料に示した児童館から承諾書を得ている。なお、児童館での実習は、履修者数に制限（15名程度）を設ける。

《添付資料 10-6:児童館実習・保育実習Ⅱ（児童館）実習施設一覧・実習受入承諾書》

## (3) 実習先との契約内容

実習依頼の際に、実習時期や時間数、実習施設の環境や業務内容、受け入れ態勢等の確認を経た上で、文書をもって正式な依頼を行う。なお、実習中の不測の事態に対処するた

めに、問題や事故等の発生時の対処法等について、事前に取り決めるとともに、事故発生時の緊急連絡・連携体制を明確に定めることとしている。

#### (4) 実習水準の確保の方策

子ども教育学科では、実習において、これまで大学で得た知識や技術を基盤とし、子どもの観察、指導計画の立案と実施、評価というサイクルを通して、実際の子どもの状況にあった保育・教育を構築していく力の養成を目指している。具体的には、子ども理解を深めていくこと、子どもの状況を把握する力、その状況にあった指導内容や方法を考える力、それらを実践する力、実践を評価する力などを習得していくことを期待する。加えて、子どもを取り巻く環境に触れ、現状の課題点や子どもの育ちとの関連を理解することも期待する。これらを達成するための実習水準確保には、教師・保育者としての使命や責任感及びそれらを遂行するための基本的な知識と職業能力を修得していることや、実習先で教職員や園児、児童、利用者及び保護者に対して不必要な負担をかけないように細心の配慮と綿密な準備をしておくことが極めて重要である。子ども教育学科では、「実習ガイドライン」「実習ノート」等を用いて、学生が実習のイメージをしっかりと持った上で準備ができるような事前指導を行うとともに、実習を履修するための必要条件を満たしているかを把握した上で、総合的に判断し実習の履修を認めることとする。教育実習、保育実習を履修する学生が満たしていなければならない基準は以下のとおりである。

##### ①教育実習（幼稚園・小学校）

3年前期までに開講されている学科専門科目のうち、幼稚園教諭一種免許状または、小学校教諭一種免許状取得にかかわる必修科目の未履修・不合格が2科目以内であることに加え、3年前期までのGPAが1.8以上であることを原則とする。幼稚園教育実習・小学校教育実習は4年次、4週間実施する。

##### ②教育実習（特別支援学校）

3年前期までに開講されている学科専門科目のうち、特別支援学校教諭一種免許状取得にかかわる必修科目の未履修・不合格が1科目以内であることに加え、3年前期までのGPAが1.8以上であることを原則とする。特別支援学校教育実習は4年次、2～3週間実施する。

##### ③保育実習Ⅰ（保育所・福祉施設）

2年前期までに開講される学科専門科目のうち、保育士資格にかかわる必修科目の未履修・不合格が2科目以内であることに加え、2年前期までのGPAが1.8以上であることを原則とする。保育所実習、福祉施設実習それぞれ3年次、10日間実施する。

#### ④保育実習Ⅱ（保育所・福祉施設）

3年前期までに開講される学科専門科目のうち、保育士資格にかかわる必修科目の未履修・不合格が2科目以内であり、3年前期までのGPAが1.8以上であること、また「保育実習Ⅰ（保育所）」ならびに「保育実習Ⅰ（福祉施設）」を修得済みであることを原則とする。保育実習Ⅱは4年次10日間実施する。

#### ⑤児童館実習

1年次に開講されている学科専門科目のうち、保育士資格にかかわる必修科目の未履修・不合格が2科目以内であることに加え、1年次のGPAが1.8以上あることを原則とする。児童館実習は2年次10日間実施する。

#### ⑥保育実習Ⅱ（児童館）

3年前期までに開講されている学科専門科目のうち、保育士資格にかかわる必修科目の未履修・不合格が2科目以内であり、3年前期までのGPAが1.8以上あること、また「児童館・放課後児童クラブの機能と運営」「児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法Ⅰ」「児童館実習Ⅰ」「児童館実習指導」「保育実習Ⅰ（保育所）」「保育実習Ⅰ（福祉施設）」を取得済みであることを原則とする。保育実習Ⅱ（児童館）は4年次10日間実施する。

実習に送り出す側として以上のような対応をしていくとともに、実習受入先に対しては、後進育成の観点から、十分な経験をもち、信頼できる教諭・保育士に指導していただけるよう要請する。実習は複数施設で行うため、一定水準の確保のために、実習の目的、希望する実習内容、望ましい経験内容などを、実習依頼の際に実習先に文書で伝える。

実習期間中には、教員による実習巡回指導を行う。巡回指導では、学生の現場での様子を実際に見ることや面談を通して、学生の体調確認、事前準備（教材研究、実習課題、記録等）に対する取組の様子、課題となっている点を確認し、指導・助言をする。また、現場実習指導者との情報交換や面談を通して、実習生の今後の指導の在り方について協議することで、実習の水準を確保していく。各巡回指導教員は巡回後に実習巡回報告書を作成し、実習科目担当教員に提出する。特に問題があると思われる記述に関しては、学生のプライバシーに十分配慮した上で、各実習科目担当教員間で情報を共有し、次の実習指導に活かしていく。

なお、本学部には「人間生活学部学外実習委員会」を設置している。この委員会は、人間生活学部の各学科専任教員2名、各学科実習担当助手等若干名、花川オフィス教務担当職員1名で構成しており、人間生活学部における資格・免許にかかわる学外実習が効果的かつ持続的に行われるよう学外実習教育を円滑に運営することを目的としている。任務は、

学外実習の運営にかかわる業務全般、学外実習の配属基準の確認と審査、緊急事態に対する迅速な対応等であり、必要に応じて委員会を開催する。子ども教育学科からも2名の教員・助手が参加しており、実習教育水準の確保に向けて様々な視点より検討する。

### **(5) 実習先との連携体制**

前身の保育学科では、実習受け入れ先の各種関係団体との打ち合わせを年に数回実施しており、実習受け入れの依頼と手続きをはじめ、実習の意義・目的、実施計画、実習内容等について共有している。子ども教育学科の実習も引き続き、この体制を維持していく。

また、各実習の科目担当教員は、現場実習指導者と緊密に連絡を取り合い、学生にとって実習の成果や課題を確認する。実習中は、実習巡回等により、直接実習受入先の声を聞く機会を活用して、問題点の解消を図る。巡回の際の個々の学生への指導には、巡回指導教員が現場実習指導者と協議した内容を、学生が自分の課題として自覚し、前向きに捉えられるよう配慮しながら面談の中で伝え、学びの多い実習になるよう導く。また、実習科目担当教員間でその内容を共有し、次の実習の際の学生への指導に活かすとともに、本学としての実習の改善を図っていく。

### **(6) 実習前の準備状況（感染予防対策・保険等の加入状況）**

実習に当たっては、実習先との間で実習における事故対策、感染症対策、個人情報保護にかかわる取り決めを以下のように行う。併せて学生に対しては、事前指導の中で教示し、徹底を図る。

#### **1) 事故対策（法的責任、事故発生時の対応、報告書等）**

実習保険として、全国保育士養成協議会実習総合保障制度の「施設賠償保険」「学校契約団体傷害保険特約付き」及び「学生教育研究災害障害保険」「学研災付帯賠償責任保険」に全員加入する。これらの保険は実習先において園児・児童・利用者等に怪我を負わせた場合や施設の物品等を破損し賠償責任が問われた場合、あるいは、自身がけがを負った場合に適用される保険である。また、緊急の対応を要する事故が発生した場合は、実習科目担当教員や巡回指導教員が迅速な対応ができるよう体制を整えるとともに、中長期的な対応が求められる場合は、学部の実習担当者等で組織されている「人間生活学部学外実習委員会」で協議し対応する。

本学科の場合、実習によっては、実習先が北海道全域となるため、学生の移動に当たっては、安全面での配慮（時間的な余裕をもって移動、現地までのアクセスの入念な調査等）を事前に指導する。

#### **2) 感染症対策（基本行動、予防対策、抗体検査、予防接種等）**

実習の学生には、麻疹の抗体検査及びワクチン接種を義務付ける。また、実習先からの

要望があった場合は、その他の予防接種、対策を実施する。

### 3) 個人情報保護対策

実習中に知り得た個人情報の守秘義務については、SNS の利用等の注意とともに事前指導の中で具体的な事例を基に指導し、実習先に対してもその指導内容を示し十分な確認を行う。

### (7) 事前・事後における指導計画

「教育実習指導」「保育実習指導Ⅰ」における事前指導では、教育実習や保育実習の意義や内容に関する学習を実施し、意欲と自覚を促す。各実習先との連絡方法、実習記録の考え方及び記載方法、指導計画の考え方と作成について指導し、課題意識をもって実習に向かわせる。「保育実習指導Ⅱ」においては、「保育実習Ⅰ」の実習体験をもとに自己課題の明確化を図り、課題意識をもって実習に向かえるようにする。

事後指導では実習記録の整理と反省を行うとともに、実践の場で自覚した内容や実習課題に沿った反省などを交流する実習報告会、グループディスカッション等を通して互いの体験を共有する。これらの反省や各教科を通しての学びを踏まえて、「履修カルテ」を活用した「保育・教職実践演習」をこれまでの学修の集大成として位置付け、自己課題の解決を目指しながら学びを深められるようにする。

### (8) 教員及び助手の配置並びに巡回指導計画

実習の巡回指導には、原則として専任教員があたる。各実習の巡回指導回数は原則1回である。巡回指導は、巡回指導教員が実習先と直接日程を調整して決定していくが、巡回指導に十分な時間を確保できるように、各専任教員が担当する巡回先数が適切なものとなるように配置計画を立てる。

各種実習のうち、教育実習（幼稚園・小学校）、教育実習（特別支援）、保育実習Ⅰ（福祉施設）は、授業期間に実施する。これらの巡回指導は以下のように行う。

#### ①教育実習（幼稚園・小学校）

前期の授業期間に4週間行うが、この期間に開講されている4年次開講科目については、学生のほとんどが実習で不在となるため、授業は行わず、実習期間以外に授業時間数を確保できるよう時間割を調整する。これにより実習期間中の巡回指導教員の担当授業数は、通常時より少なくなる。また実習先は、特別な事情がない限り、キャンパスがある石狩市近郊の幼稚園、小学校であり、1人の教員が担当する巡回先数も5か所程度となる見込みである。これらの措置により、授業を行いながら、公共の交通機関や自家用車による巡回指導訪問時間を確保することができる。

## ②教育実習（特別支援）

5月～12月にかけて実施され、同じ時期に巡回訪問日が集中することがないため、授業を行いながら、公共の交通機関や自家用車による巡回指導訪問時間を確保することができる。

## ③保育実習Ⅰ（福祉施設）

後期の授業期間に10日間行うが、この期間に開講されている3年次開講科目についても、学生のほとんどが実習で不在となるため、授業は行わず、同様に実習期間以外に授業時間数を確保できるよう時間割を調整する。これにより、実習期間中の巡回指導教員の担当授業数は、通常時より少なくなる。また、実習期間が10日間と短く、実習先が遠隔地にある場合もあるが、1人の教員が担当する巡回先数は3か所程度となる見込みであり、施設の特性上、週末の訪問も可能である。そのため授業を行いながら、公共の交通機関や自家用車による巡回指導訪問時間を確保することができる。

## （9）実習施設における指導者の配置計画

各実習施設には、実習生の指導にあたって、実習状況や評価にかかわる全体像を把握し、高い識見と十分な実務経験を有している人材を配置するよう要請する。福祉施設、児童館実習においては、保育士の資格を有している職員が指導にあたることを条件に施設の選定を行う。

## （10）成績評価体制及び単位認定方法

実習における成績評価及び単位認定については、実習先の実習評価票、実習記録、勤怠状況、実習終了後に提出されるレポート等で実習科目担当者が総合的に評価し、単位認定する。各評価の観点は以下のとおりである。

実習先の評価は、「実習の目的・課題の自覚」「自主性・積極性」「協調性・対人関係」「探究心・研究心」「仕事への責任感」などの実習態度、「子どもの実態把握・関わり」「指導計画・立案」「教材研究・準備」「指導の方法・技術」「実習記録の内容」などの指導能力の2つの側面から、実習生として適切かという観点で4～5段階で評価していただくよう依頼する。実習記録については、提出された実習日誌等の記述内容について、子ども理解、指導の内容や方法、保育者・教育者の仕事内容など、多岐にわたる視点で学んだことが深く考察されているかについて評価する。勤怠状況については、遅刻・早退・欠席などの状況で評価する。実習終了後には、各実習科目担当者が示した課題についてのレポート提出を課す。これに関しても、実習での学びや自己課題が、多岐にわたる視点で深く考察されているかについて評価する。

## 11. 管理運営

本学の管理運営組織については、学則に評議会及び学部教授会を定めている。

また評議会、教授会等の意見を学長が参酌する組織として「部長会議」を置いている。

### ①評議会

学長、副学長、各学部長、研究科長、教務部長、学生部長、入試部長、図書館長、各学科主任、各専攻主任、各学部教授会から推薦を受けた各3名の教授及び事務局長を構成員とし、以下を審議する。

- (1) 文学部、人間生活学部及び人間生活学研究科間の連絡調整に関する事項
- (2) 教務部長、学生部長、入試部長、図書館長の選考に関する事項
- (3) 入学試験に関する事項
- (4) 自己点検・評価に関する事項
- (5) その他大学の教育研究に関する重要な事項で、評議会の意見を聞くことが必要なものとして学長が定めるもの

### ②教授会

学部所属の教授、准教授、専任講師及び教授会が認めた特別任用教員を構成員とし、以下を審議する。

- (1) 学生の入学、卒業
- (2) 学位の授与
- (3) そのほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聞くことが必要なものとして学長が定めるもの

また、教授会自らは上記のほか、「学長がつかさどる教育研究に関する事項を審議し、及び学長の求めに応じ、意見を述べることができる」と規定している。

教授会は毎月1回定例で開催し、学部長が招集する。

### ③部長会議

学長、副学長、各学部長、研究科長、教務部長、学生部長、入試部長、図書館長及び事務局長を構成員とし、学長が決定する以下の事項について、協議し意見を述べる。

- (1) 理事会からの諮問事項及び理事会への提案に関すること
- (2) 評議会、教授会、研究科委員会、各種委員会に対する学長からの諮問事項及びそれらからの提案事項に関すること
- (3) 事務局に対する諮問事項及び事務局からの提案事項に関すること
- (4) その他、必要とする事項

部長会議は毎月2回定例で開催し、学長が招集する。

以上の会議のほか、それぞれの専門分野について協議する委員会として、教務部委員会をはじめ、国際交流センターなどのセンター組織の運営を協議する各委員会を組成し、それぞれの協議事項については、教授会、評議会の議を経て、部長会議において意見集約を図り、学長が決定している。



## 12. 自己点検・評価

本学では、学則第1章第2条に「本学は、教育研究水準の向上を図り、その目的及び社会的使命を達成するため、次の活動等を行う」とし同第1号として「教育研究活動等の状況について、自ら点検及び評価を行い、その結果を公表する。」と定めている。その学則の下に、「藤女子大学自己点検・評価規程」を定め、学長を委員長とする自己点検・評価委員会により毎年、本学の教育研究活動について点検・評価を実施している。

自己点検・評価委員会は、学長の他、副学長、各学部長、研究科長、教務部長、学生部長、入試部長、図書館長、事務局長、学部及大学院ファカルティ・ディベロップメント委員会委員長及び国際交流センター長で構成されており、以下を任務として活動している。

- (1) 内部質保証に必要な学内組織の設置と学内規程の整備
- (2) 自己点検・評価の実施サイクル及びスケジュールの策定
- (3) ファカルティ・ディベロップメントの推進
- (4) スタッフ・ディベロップメントの推進
- (5) 改善策の決定と推進
- (6) 自己点検・評価に必要な評価方法の組み立て
- (7) 内部質保証に必要な学内情報のデータベースの整備
- (8) 自己点検・評価結果の活用
- (9) 外部評価に関すること
- (10) 自己点検・評価の公表
- (11) その他、内部質保証に必要なこと

自己点検・評価の結果は、1998年に「藤女子大学・藤女子短期大学 現状と課題（第1号）」を発刊して以降、ほぼ3年間を取りまとめた結果として、「藤女子大学 現状と課題」第7号を2016年に刊行しており、また同書を刊行しない各年については、その成果を「自己点検評価報告書」として本学のWebサイトに公表している。

2004年度は、学校教育法に定められた認証評価として、大学基準協会に対し、同会への加盟判定申請と併せて認証評価を受審し、「大学基準に適合している」との認証を得ており、以降2009年度及び2016年度に同会に認証評価を申請し、いずれも「適合」と認定されている。

自己点検・評価項目は、大学基準協会の「大学基準」に副った項目で行なわれ、自己点検・評価委員会の構成員が長となっている部局を単位として、年度ごとに纏められた点検結果について、同委員会で評価し、報告書とするサイクルを繰り返している。2016年度には「藤女子大学未来共創ビジョン」を策定し、ビジョンを実現するための具体的な施策として掲げたアクションプランに基づき、それらの計画の達成状況について点検・評価し、大学改革に取り組んでいる。

### 13. 情報の公表

本学の情報は、公式 Web サイトのトップページに情報公開のバナーを設けて、学校教育法、学校教育法施行規則、私立学校法等の法令に定められた情報をはじめ、教育研究活動に関する情報について以下の通り公表している。

藤女子大学ホームページ：<http://www.fujijoshi.ac.jp/>

藤女子大学情報公開ページ：<http://www.fujijoshi.ac.jp/guide/financial/>

#### ①大学の教育研究上の目的に関すること

- ・建学の理念と教育目的

(<http://www.fujijoshi.ac.jp/guide/rinen>)

- ・学部学科の教育目的

(<http://www.fujijoshi.ac.jp/guide/financial/2354/>)

- ・大学院人間生活学研究科の理念・教育目的

(<http://www.fujijoshi.ac.jp/guide/financial/2353/>)

- ・卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

(<http://www.fujijoshi.ac.jp/guide/diploma/diploma>)

- ・教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）

(<http://www.fujijoshi.ac.jp/guide/financial/2351/>)

#### ②教育研究上の基本組織に関すること

- ・学部・学科・課程について

(<http://www.fujijoshi.ac.jp/dept/about>)

- ・大学院について

([http://www.fujijoshi.ac.jp/postgraduate/about\\_postgraduate/](http://www.fujijoshi.ac.jp/postgraduate/about_postgraduate/))

#### ③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

- ・教員組織・教員数

(<http://www.fujijoshi.ac.jp/guide/financial/2341/>)

- ・年齢別教員数

(<http://www.fujijoshi.ac.jp/guide/financial/2342/>)

- ・教員の教育・研究活動

(<http://www.fujijoshi.ac.jp/file/contents/810/27479/kyoin2017.pdf>)

④入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

- ・アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）  
(<http://www.fujijoshi.ac.jp/guide/admission>)
- ・入学者数及び入学者推移  
(<http://www.fujijoshi.ac.jp/guide/financial/2343/>)
- ・収容定員及び学生数  
(<http://www.fujijoshi.ac.jp/guide/financial/2344/>)
- ・教員一人当たりの学生数  
(<http://www.fujijoshi.ac.jp/guide/financial/2345/>)
- ・退学・除籍者数及び中退率  
(<http://www.fujijoshi.ac.jp/guide/financial/2346/>)
  - ・留年者数  
(<http://www.fujijoshi.ac.jp/guide/financial/2347/>)
- ・卒業・修了者数（学位授与数）  
(<http://www.fujijoshi.ac.jp/guide/financial/2349/>)
- ・進学及び就職状況  
([http://www.fujijoshi.ac.jp/career/affair/a\\_latest](http://www.fujijoshi.ac.jp/career/affair/a_latest))

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

- ・シラバス  
(<http://www.fujijoshi.ac.jp/dept/syllabus/>)

⑥学修の成果に関する評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

- ・履修ガイド 文学部  
([http://www.fujijoshi.ac.jp/koukai/kyomu/syllabus/syllabus\\_literature\\_2018.pdf](http://www.fujijoshi.ac.jp/koukai/kyomu/syllabus/syllabus_literature_2018.pdf))
- ・履修ガイド 人間生活学部  
([http://www.fujijoshi.ac.jp/koukai/kyomu/syllabus/syllabus\\_human\\_2018.pdf](http://www.fujijoshi.ac.jp/koukai/kyomu/syllabus/syllabus_human_2018.pdf))
- ・履修ガイド 大学院  
([http://www.fujijoshi.ac.jp/koukai/kyomu/syllabus/syllabus\\_graduate\\_school\\_2018.pdf](http://www.fujijoshi.ac.jp/koukai/kyomu/syllabus/syllabus_graduate_school_2018.pdf))
- ・大学学則  
([http://www.fujijoshi.ac.jp/file/contents/2337/25115/daigaku\\_gakusoku\\_2019.pdf](http://www.fujijoshi.ac.jp/file/contents/2337/25115/daigaku_gakusoku_2019.pdf))
- ・大学院学則  
([http://www.fujijoshi.ac.jp/file/contents/2337/25115/daigakuin\\_gakusoku\\_2019.pdf](http://www.fujijoshi.ac.jp/file/contents/2337/25115/daigakuin_gakusoku_2019.pdf))

⑦校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

- ・校地・校舎の面積等

(<http://www.fujijoshi.ac.jp/file/contents/2337/16173/premises.pdf>)

- ・ キャンパスの概要

([http://www.fujijoshi.ac.jp/special/startup\\_fuji/campus\\_life/campus\\_tour/](http://www.fujijoshi.ac.jp/special/startup_fuji/campus_life/campus_tour/))

- ・ 所在地、主な交通手段

(<http://www.fujijoshi.ac.jp/guide/access>)

⑧授業料、入学料その他大学が徴収する費用に関すること

- ・ 学費

(<http://www.fujijoshi.ac.jp/life/fee/receipt/index>)

⑨大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

- ・ 就職支援

(<http://www.fujijoshi.ac.jp/career/support>)

- ・ 就職先一覧

([http://www.fujijoshi.ac.jp/career/list/l\\_latest](http://www.fujijoshi.ac.jp/career/list/l_latest))

- ・ 奨学金制度

(<http://www.fujijoshi.ac.jp/life/fee/bursary>)

- ・ 学生相談室

(<http://www.fujijoshi.ac.jp/life/counseling>)

- ・ 保健センター

(<http://www.fujijoshi.ac.jp/life/healthcenter>)

- ・ 障がいのある学生支援

(<http://www.fujijoshi.ac.jp/life/attention/#paragraph6129>)

⑩その他(教育上の目的に応じて学生が修得すべき知識及び能力に関する情報、学則等各種規程、自己点検評価報告書、認証評価の結果等)

- ・ 自己点検・評価及び認証評価について

([http://www.fujijoshi.ac.jp/guide/jikotenken\\_hyoka/](http://www.fujijoshi.ac.jp/guide/jikotenken_hyoka/))

- ・ 教職課程に関する情報公開

(<http://www.fujijoshi.ac.jp/guide/financial/2338/>)

以上の情報等のほか、情報公開・財務情報のページには、本学の「ハラスメントガイドライン」「藤女子大学研究倫理規準」「藤女子大学における研究活動上の不正行為に関する規程」「藤女子大学公的研究費不正防止計画」「人を対象とする研究に関する倫理規程」など教育研究活動において発信が必要な情報、また各年度の「予算書」「決算計算書類」「事業報告書」とそれらの解説等、幅広く公表し、本学の情報発信に努めている。

#### 14. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

本学では、教育の質的向上を図るために組織的に取り組む活動の推進を目的として、文学部と人間生活学部それぞれにファカルティ・ディベロップメント委員会(以下 FD 委員会)を置いている。

人間生活学部 FD 委員会は、学部長と各学科 2 名の教員が委員となり、FD の推進のために、FD の企画、立案、実施を行っている。また文学部の FD 委員会と活動状況を共有し、FD に関する研修会を合同で開催するなどの連携を図っている。なお FD の進捗状況については、藤女子大学自己点検・評価委員会に適宜報告し、活動状況の全学的な把握に努めている。

人間生活学部の FD 委員会は、授業の内容及び方法の改善を図るために、主に以下を行っている。

- (1) 授業改善のためのアンケート調査の実施 (中間調査・期末調査)
- (2) 教員の授業相互参観
- (3) FD 研修会の実施

これらは新学科設置後も大学として継続的に実施していく計画である。

以上は大学全体としての取り組みであるが、子ども教育学科でも、新しい学科として、養成する人材像の共有と、それを実現するためにどの授業でどのような力をつけていくかについて、学科内 FD 研修会を実施し検討していく。

《資料 14-1：人間生活学部ファカルティ・ディベロップメント委員会規程》

##### (1) 授業改善のためのアンケート調査

授業改善のためのアンケート調査は、授業がより良いものになるために、学生と教員が授業内容や方法について両者の立場から意見を交換し合うためのツールとしての意味合いが含まれている。そのため、期末の調査だけでなく、授業の 7 回～9 回の間で、授業改善のための中間調査を行う。中間調査では、学生に授業に関して改善を望む点や教室環境などについて自由記述を求め、教員は翌週の授業の際に、学生の要望や意見に対する見解や改善方法などを提示する。このように中間調査は、学生に教員の考え方を伝える場ともなり、学生と教員相互の意見交換の機会を与え、授業内容や授業方法の改善や学生の授業への理解も深まることに繋がる。その上で、期末には最終的な調査を行う。

##### (2) 教員の授業相互参観

授業内容や方法の向上のためには、組織が授業内容や方法について日常的に検討し合う集団となる必要がある。そのための方策として、教員の授業相互参観を行う。具体的には、授業参観週間を設け、その間の専任教員の授業は基本的にはすべて公開とし、都合のあう時間帯の授業を必ず 1 度は参観するという方法をとる。参観後には、授業での良い点や改

善点などを付箋に記し、授業公開者に渡す。この取り組みを通して、日常的に授業に関する意見交換をする集団となる基盤を築く。

### **(3) FD 研修会**

文学部、人間生活学部 FD 委員会でそれぞれ年に 1 回程度、両学部の教職員対象の研修会を企画・実施する。研修のテーマは、アクティブ・ラーニングや ICT の活用による授業について、大学入試改革について、初年次教育について、ポートフォリオやルーブリックなどの評価に関する事など、今後の大学教職員に必要とされる知識や技術が修得できるような内容を、教職員の興味や関心に基づいて企画していく。

## 15. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

### (1) 教育課程内の取組について

本学では、学生の社会的・職業的自立に関して全学的な取組として、1年次に「女性とキャリアⅠ」を大学共通教養科目に必修科目として開講している。この科目は、学資の卒業後を見据え、社会的・職業的自立に向けての必要な基盤となる能力や態度等を確実に身につけていくための意識形成をめざすことを目的として、専任教員が毎回コーディネーターとして進行し、企業・団体等から実務経験のある講師を招いて、講義またグループワークによるディスカッション等を通じて学生のキャリア形成に関する意識向上を促している。

大学共通教養科目にはまた選択科目ではあるが、「女性と労働」を置き、女性と労働を取り巻く現状を、客観的・科学的な視点で総合的かつ複眼的に捉え、そのあり方についての理解を深め、女性労働をめぐる法律や諸制度を学び、自分の人生に向き合い、ライフステージごとに、自分らしい働き方・生き方を実践していく知恵を身につけることを目的としている。

これらの大学共通教養科目は、子ども教育学科にも同様に開講され、同学科の人材養成の目的である保育士、幼稚園・小学校教諭等にかかる専門科目とも併せて、教育課程内で学生の社会的・職業的自立に関する意識を涵養していく。

《添付資料 15-1: 「女性とキャリアⅠ」「女性と労働」シラバス》

### (2) 教育課程外の取組について

教育課程外における本学のキャリア支援は、初年次の早い段階から実施しており、新入生に対して行う「進路と学生生活セミナー」をはじめとして、4年次にいたるまで、各種就職関係のガイダンス・セミナー、企業説明会などを開催している。また、学生の個別指導は、専任教職員のほか、期間を設定して外部の経験豊富なキャリアカウンセラーによる個人相談を実施している。

子ども教育学科の固有のキャリア支援としては、公務員保育士を目指す学生に向けての模擬試験の実施や、乳児救急救命講習などの実施を予定している。

《添付資料 15-2: 就職支援行事》

### (3) 適切な体制の整備について

本学では、学生が自らの資質を向上させ、社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培うことが出来るよう、教育課程及び厚生補導等を通じて支援することを目的として、「キャリア支援センター」を開設している。キャリア支援センターには教員のセンター長を置き、事務局のキャリア支援課の職員と協働して業務を遂行している。また、同センターの企画・運営は、学生部長、教務部長、事務局長、教務・学生指導担当職員及び各学科

選出の専任教員から構成される「キャリア支援センター運営委員会」が担当し、教員と職員が協働して、また学内の教学組織が有機的に連携して学生のキャリア形成を支援している。



## 資 料 目 次

資料 1-1 : 石狩市教育委員会 SAT 事業関連の資料

資料 1-2 : いしかり子育てガイドブック

資料 5-1 : 藤女子大学特別任用教員規程

資料 5-2 : 藤女子大学就業規則 (定年について定めた部分の抜粋)

資料 6-1 : 履修モデル

資料 6-2 : 2019 年度単位互換履修生 募集要綱

資料 8-1 : 藤女子大学科目等履修生規程

資料 8-2 : 藤女子大学聴講生規程

資料 10-1 : 子ども教育学科実習一覧 (実習カレンダー)

資料 10-2 : 教育実習 (幼稚園・小学校) 実習先一覧・実習受入承諾書

資料 10-3 : 教育実習 (特別支援学校) 実習校一覧・実習受入承諾書

資料 10-4 : 保育実習 I・II (保育所) 実習園一覧・実習受入承諾書

資料 10-5 : 保育実習 I・II (福祉施設) 実習施設一覧・実習受入承諾書

資料 10-6 : 児童館実習・保育実習 II (児童館) 実習施設一覧・実習受入承諾書

資料 10-7 : 子ども教育学科時間割

資料 14-1 : 人間生活学部ファカルティ・ディベロップメント委員会規程

資料 15-1 : 「女性とキャリア I」「女性と労働」シラバス

資料 15-2 : 就職支援行事

## スクール・アシスタント・ティーチャー(SAT)実施要項

### 1. 基本的な考え方

#### (1) 背景

子どもたちの能力、適性は多様であり、発達段階や年齢に配慮した指導上の工夫や内容の精選を図るとともに、一人ひとりに応じた指導方法での指導や理解の進度の違いに配慮した指導が必要です。

そのため、これらを社会全体で支援する一方策として、学校教育に積極的な外部からの指導者の登用（活用）を推進・奨励するものです。

#### (2) ねらい

確かな学力の向上を目指し、個に応じたきめ細かな指導を図る。

- ・教科指導における基礎・基本の確実な定着を図る。
- ・学習の仕方や習熟度の違いに応じた、指導に対応する。

### 2. スクール・アシスタント・ティーチャー(SAT)について

#### (1) 役割

子どもの側に立って、子どもが主役となる授業を進めるため、教員（担任）の方針・指示に基づき、子どもの指導に当たる。

#### (2) 条件

教員免許を有しなくてもよいが、指導内容に適した専門的知識及び指導能力を有していると学校長が判断した者（※大学生等にあっては、学校の承諾を必要とする）。

#### (3) 登用（活用）

委嘱については、以下の手続を行うものとする。

- ① SATの活用を希望する学校長は、石狩市教育委員会（以下、「委員会」という。）に対し、SAT活用希望調査票（別記様式）を提出する。
- ② 委員会は、SATの活用を希望する学校長に対し、関係機関を通じた応募及び公募に応じたSAT活動希望者を紹介する。
- ③ 学校長は、委員会の紹介及び各学校による公募に応じたSAT活動希望者の中から、指導内容に適した専門的知識及び指導能力を有していると判断した者を委員会に対し推薦する。
- ④ 委員会は、学校長から推薦を受けた者をSATとして委嘱する。

#### (4) 実施上の留意点

- ① 原則として、継続的な登用（活用）を図る。
- ② 報酬（交通費相当）は、原則として1日1,000円とする（「3 予算及び必要経費について\_表1（報酬額等）」参照のこと）。

委員会は、謝金の支払に要する財源について、外部指導者活用事業交付金により交付する。

- ③ 委員会は、SAT委嘱者に対し、傷害及び賠償責任保険の加入の手続を行う。ただし、関

係機関を通じた応募者の中で、補償内容が委員会で加入する保険と同等以上の保険に加入している者については、その限りではない。

④ SAT委嘱者は、活動上知り得た情報について、守秘義務を負うものとする。

(5) 主な指導上の留意事項

① 教員（担任）の指導補助であることを自覚し、子どもの指導・援助に当たる。

② 事前打合せを綿密にし、常に一人一人の子どもに配慮した指導・援助をする。

③ 特別な場合を除いては、直接的に子供を叱ることはさけること。

④ 授業時間以外に指導する場合は、教員（担任）と相談し、承諾を受ける。

⑤ その他、子どもとの関わりは、全て教員（担任）の承諾を受けること。

(6) その他

各学校は、下記について考慮すること。

① SATの指導・援助に関わる内容は、別に各学校が定める。

② SATの報酬（交通費相当）は、各学校が支給する。

③ SATに関わる実績を記録する。（学校：活動日数など、SAT：活動状況）

④ 特に、大学生の登用（活用）にあつては、在籍する学校との連携を図る。

### 3 予算及び必要経費について

(1) SATに関する報酬額について

SATに関する報酬額については、表1のとおりする。

表1（報酬額等）

SATの種別		日 額
学生SAT	以下の学校へ派遣する者 石狩小学校、八幡小学校、生振小学校、 石狩中学校、厚田区浜益区の小中学校	1, 500円
	その他の小中学校へ派遣する者	1, 000円
地域SAT	派遣校の属する中学校区内に居住する者	500円
	その他に居住する者	1, 000円
スキーSAT	全地域一律	3, 500円

(2) 予算執行に当たって

①謝金については、活用実績に基づき各学校が遅滞の無いよう支給してください。

②事務費を計上されている場合はSATが使用する教科書も購入可能です。

## スクール・アシスタント・ティーチャー事業の実施に伴う個人情報の保護について

スクール・アシスタント・ティーチャー事業（以下、「SAT事業」という。）を円滑に推進するため、当該事業の実施に伴う個人情報の保護に関し、下記のとおり適正に取扱い願います。

### （1）個人情報の使用目的、方法について

児童生徒一人一人に応じたきめ細やかな指導を図るため、教科指導補助の人材を活用することを目的とし、情報は紙媒体とする。

### （2）用途や取扱者について

個人情報は、人材の把握と連絡以外の目的に使用しないこと。

また、個人情報の取扱いは、校長及び校長の指定する必要な教職員とすること。

### （3）使用後の取扱いについて

個人情報は、使用后、速やかに返却すること。

### （4）再提供の禁止等について

個人情報を取り扱う目的以外の目的で、学校内部または外部に提供しないこと。

また、個人情報を複写及び複製をしないこと。

### （5）個人情報の漏えい、滅失、損傷、その他事故の防止について

石狩市個人情報保護条例に基づき、個人情報の使用、管理について徹底すること。

# いしかり子育て ガイドブック



藤女子大学保育学科 子育て支援

## お手てつないで

### お問い合わせ先

保育学科教員・木脇 TEL 74-7521  
 助 手 ・濱岡 TEL 74-3243  
 E-mail kosodate@fujijoshi.ac.jp



### 内 容

藤女子大学保育学科の授業「子育て支援演習」に、地域の親子のみなさんが参加していただく場です。スタッフと20人の学生がお待ちしております。

### 登 録

0～3歳のお子さんのいるご家庭に家族単位で登録して頂きます（きょうだい祖父母の参加歓迎）。毎年4月に登録募集を開始し、定員（25家族）になり次第終了します。参加希望のご家庭は、ご家族の名前、お子さんの年齢、住所、メールアドレスを入力し上記のアドレスまでメールをお送りください。また、年度途中からの参加についてはお問い合わせください。

### 活動場所

藤女子大学花川校舎  
 石狩市花川南4条5丁目 保育実習室  
 駐車場 有

### 活動日時

5月から12月の授業期間中  
 水曜日 10:00～11:30

## いしかり 子育てガイドブック

平成29年4月発行

### 発行

いしかり子育てネット会議

事務局 〒061-3292 北海道石狩市花川北6条1丁目30番地2  
 石狩市 保健福祉部 子ども政策課内  
 TEL 0133-72-3631

## ○藤女子大学特別任用教員規程

2017年3月1日  
学 長 裁 定

### (目的)

第1条 この規程は、藤女子大学（以下「本学」という。）の教育体制の維持並びに教育研究の多様化を図るために、特に期間を付して任用される特別任用教員（以下「特任教員」という。）について定めることを目的とする。

### (定義)

第2条 特任教員とは、本学が特に必要と認め、任用期間に定めがあつて、次の各号の一に該当する者として任用する者をいう。

- (1) 本学専任教員として5年以上経過して、定年退職した者又は定年扱いで退職した者
- (2) 特定の分野において優れた業績を有すると認められる者で、本学の教育研究組織の維持向上のために必要と認められる者

### (身分)

第3条 特任教員の身分は、次の各号のいずれかとする。

- (1) 特任教授
- (2) 特任准教授
- (3) 特任講師

### (採用手続)

第4条 特任教員の採用の手続きは、藤女子大学教員人事規程第2章専任教員採用人事の各条に準じて行うものとする。

### (業務)

第5条 特任教員は、研究に携わり、学生を教授、指導するため次の業務のうち、本学が必要とするものに任用する。

- (1) 原則として、週5コマ以内の授業の担当及びその評価
- (2) 卒業研究指導及び審査
- (3) 大学院を兼務する特任教員は、修士論文指導及び審査
- (4) 学部、学科、研究科若しくは課程等の運営に関する事項
- (5) その他学生の個別指導等

2 特任教員は、前項に加え、入学試験の出題、監督及び採点を行うことがある。

3 特任教員は、必要に応じて教授会に陪席することができる。教授会が特に必要と認めた場合は、投票権を有するものとすることができる。

### (任用期間)

第6条 特任教員の任用期間は、5年以内として、藤女子大学教員人事規程第2章第6条に定める定数委員会で決定する。

2 前項にかかわらず、特任教員の任用期間は、特任教員が満70歳に達する日の属する年度末を限度とする。

### (研究費)

第7条 研究費については、所属する学科若しくはそれに代わる担当部署に配分する。

(研究室)

第 8 条 特任教員に、個人又は共同で使用する研究室を付与する。

(給与)

第 9 条 給与等は別に定める。

(服務)

第 1 0 条 特任教員の服務等の取り扱いは、藤女子大学就業規則及び関連規程を適用する。

(その他)

第 1 1 条 この規程に定めるもののほか、必要な事項については、学長が別に定める。

#### 附 則

- 1 この規程は、2017年3月1日から施行する。
- 2 本規程の施行日までに在職する者で、「藤女子大学特任教員に関する規程」又は「藤女子大学嘱託教員に関する規程」により任用されている者は、原則として、本規程によらず、なお従前の例による。



## ○藤女子大学就業規則

### 前 文

学校法人藤学園の設置する藤女子大学（以下「本学」という。）は、殉教者聖ゲオルギオのフランシスコ修道会を経営の母体とする。本学は、カトリック精神及び教育基本法に則り、全人格的な人間育成を行うことを目的とする。即ち、その教育・研究活動を通して、そこに学ぶ者が、人格の尊厳、真理の探究、愛と正義、自由と責任、奉仕の精神、人類共同体への貢献などの諸価値に目覚めた人間に成長するよう援助を行う。

教職員は、本学の建学の精神を重んじ、秩序を守り、職責を全うし、教育・研究目的の達成に努めるものとする。

### 第1章 総 則

#### （目的）

第1条 この規則は、学校法人藤学園の経営する藤女子大学の教職員の就業に関し、基本的事項を定めることを目的とする。

2 この規則に定める事項のほか、本学の教職員の就業に関しては、関係法令の定めるところによる。

#### （教職員）

第2条 この規則において教職員とは、所定の手続きにより採用された専任の教員及び職員をいう。

2 特任教員及び嘱託教員の基本的事項は、別に定める。

（略）

#### （定年）

第12条 教員は、満65歳に達した日の属する年度末をもって定年退職とする。

2 職員は、満60歳に達した日の属する年度末をもって定年退職とする。ただし、昭和62年4月1日以前に採用された職員については、内規に定めるところによる。

3 当分の間、本学の必要により課長職以上の職で採用された職員については、その都度定める。

4 殉教者聖ゲオルギオのフランシスコ修道会の会員である職員は、満70歳に達した日の属する年度末をもって定年退職とする。

5 教員が定年退職する年齢を自由に自ら選択できる選択定年制度は、別に定める。

（略）

### 後 文

本学は、前文に掲げた精神をもって以上の規則の運用に当り、教職員一体となって、本学の目的とする教育・研究活動に専念し、絶えず、よりよき学園を築くよう努力する。

### 附 則

（略）

附 則

- 1 この規則は、平成11年4月1日から施行する。
- 2 平成11年3月31日に在職する教員にかかる定年は、改正後の規定（第12条）にかかわらず、なお従前の例による。

※平成11年3月31日以前の規定

（定年）

- 第12条 教員は、満70歳に達した日の属する年度末をもって定年退職とする。
- 2 職員は、満60歳に達した日の属する年度末をもって定年退職とする。ただし、昭和62年4月1日以前に採用された職員については、内規に定めるところによる。
  - 3 当分の間、本学の必要により課長職以上の職で採用された職員については、その都度定める。
  - 4 殉教者聖ゲオルギオのフランシスコ修道会の会員である職員は、満70歳に達した日の属する年度末をもって定年退職とする。

附 則

（略）

## 履修モデル

モデル1:卒業+幼稚園教諭一種免許取得+保育士資格取得

		1年	2年	3年	4年													
大学 共通科目	教養科目	キリスト教概論 必修2単位 女性とキャリアⅠ 必修1単位																
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>選択必修</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人間と宗教</td> <td>選択必修2単位</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">人間形成</td> <td>国際理解</td> <td rowspan="2">選択必修2単位</td> </tr> <tr> <td>社会と文化</td> </tr> <tr> <td>歴史・思想</td> <td rowspan="2">選択必修2単位</td> </tr> <tr> <td>自然・科学</td> </tr> <tr> <td>健康</td> <td>選択必修2単位</td> </tr> <tr> <td>リテラシー</td> <td>選択必修2単位</td> </tr> </tbody> </table>	区分	選択必修	人間と宗教	選択必修2単位	人間形成	国際理解	選択必修2単位	社会と文化	歴史・思想	選択必修2単位	自然・科学	健康	選択必修2単位	リテラシー	選択必修2単位	
区分	選択必修																	
人間と宗教	選択必修2単位																	
人間形成	国際理解	選択必修2単位																
	社会と文化																	
	歴史・思想	選択必修2単位																
	自然・科学																	
健康	選択必修2単位																	
リテラシー	選択必修2単位																	
	外国語科目	教養科目・外国語科目から選択必修13単位以上 合計30単位以上																
		Academic CommunicationⅠ 必修1単位 Academic CommunicationⅡ 必修1単位 選択必修:4単位以上																
学科 専門科目		幼稚園教諭一種免許を取得するために定められた、「領域及び保育内容に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目等」を履修																
		保育士資格取得のための 必修:「告示による科目」71単位 選択必修:「告示による科目」のうち6単位以上、「保育実習Ⅱ」2単位、「保育実習指導Ⅱ」1単位																

モデル2:卒業+幼稚園教諭一種免許取得+特別支援学校教諭一種免許取得+保育士資格取得

		1年	2年	3年	4年													
大学 共通科目	教養科目	キリスト教概論 必修2単位 女性とキャリアⅠ 必修1単位																
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>選択必修</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人間と宗教</td> <td>選択必修2単位</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">人間形成</td> <td>国際理解</td> <td rowspan="2">選択必修2単位</td> </tr> <tr> <td>社会と文化</td> </tr> <tr> <td>歴史・思想</td> <td rowspan="2">選択必修2単位</td> </tr> <tr> <td>自然・科学</td> </tr> <tr> <td>健康</td> <td>選択必修2単位</td> </tr> <tr> <td>リテラシー</td> <td>選択必修2単位</td> </tr> </tbody> </table>	区分	選択必修	人間と宗教	選択必修2単位	人間形成	国際理解	選択必修2単位	社会と文化	歴史・思想	選択必修2単位	自然・科学	健康	選択必修2単位	リテラシー	選択必修2単位	
区分	選択必修																	
人間と宗教	選択必修2単位																	
人間形成	国際理解	選択必修2単位																
	社会と文化																	
	歴史・思想	選択必修2単位																
	自然・科学																	
健康	選択必修2単位																	
リテラシー	選択必修2単位																	
	外国語科目	教養科目・外国語科目から選択必修13単位以上 合計30単位以上																
		Academic CommunicationⅠ 必修1単位 Academic CommunicationⅡ 必修1単位 選択必修:4単位以上																
学科 専門科目		幼稚園教諭一種免許を取得するために定められた、「領域及び保育内容に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目等」を履修																
		特別支援学校教諭一種免許を取得するために定められた指定科目を履修 保育士資格取得のための 必修:「告示による科目」71単位 選択必修:「告示による科目」のうち6単位以上、「保育実習Ⅱ」2単位、「保育実習指導Ⅱ」1単位																

モデル3:卒業+幼稚園教諭一種免許取得+保育士資格+児童厚生一級指導員資格取得

		1年	2年	3年	4年													
大学 共通科目	教養科目	キリスト教概論 必修2単位 女性とキャリアⅠ 必修1単位																
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>選択必修</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人間と宗教</td> <td>選択必修2単位</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">人間形成</td> <td>国際理解</td> <td rowspan="2">選択必修2単位</td> </tr> <tr> <td>社会と文化</td> </tr> <tr> <td>歴史・思想</td> <td rowspan="2">選択必修2単位</td> </tr> <tr> <td>自然・科学</td> </tr> <tr> <td>健康</td> <td>選択必修2単位</td> </tr> <tr> <td>リテラシー</td> <td>選択必修2単位</td> </tr> </tbody> </table>	区分	選択必修	人間と宗教	選択必修2単位	人間形成	国際理解	選択必修2単位	社会と文化	歴史・思想	選択必修2単位	自然・科学	健康	選択必修2単位	リテラシー	選択必修2単位	
区分	選択必修																	
人間と宗教	選択必修2単位																	
人間形成	国際理解	選択必修2単位																
	社会と文化																	
	歴史・思想	選択必修2単位																
	自然・科学																	
健康	選択必修2単位																	
リテラシー	選択必修2単位																	
	外国語科目	教養科目・外国語科目から選択必修13単位以上 合計30単位以上																
		Academic CommunicationⅠ 必修1単位 Academic CommunicationⅡ 必修1単位 選択必修:4単位以上																
学科 専門科目		幼稚園教諭一種免許を取得するために定められた、「領域及び保育内容に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目等」を履修																
		保育士資格取得のための 必修:「告示による科目」71単位 選択必修:「告示による科目」のうち6単位以上、「保育実習Ⅱ」2単位、「保育実習指導Ⅱ」1単位																
		児童厚生一級指導員資格を取得するために定められた指定科目を履修																

モデル4: 卒業＋幼稚園教諭一種免許取得＋小学校教諭一種免許取得

		1年	2年	3年	4年															
大学 共通科目	教養科目	キリスト教概論 必修2単位 女性とキャリア I 必修1単位 <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>選択必修</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人間と宗教</td> <td>選択必修2単位</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">人間形成</td> <td>国際理解</td> <td rowspan="2">選択必修2単位</td> </tr> <tr> <td>社会と文化</td> </tr> <tr> <td>歴史・思想</td> <td rowspan="2">選択必修2単位</td> </tr> <tr> <td>自然・科学</td> </tr> <tr> <td>健康</td> <td>選択必修2単位</td> </tr> <tr> <td>リテラシー</td> <td>選択必修2単位</td> </tr> </tbody> </table>	区分	選択必修	人間と宗教	選択必修2単位	人間形成	国際理解	選択必修2単位	社会と文化	歴史・思想	選択必修2単位	自然・科学	健康	選択必修2単位	リテラシー	選択必修2単位			
	区分	選択必修																		
人間と宗教	選択必修2単位																			
人間形成	国際理解	選択必修2単位																		
	社会と文化																			
	歴史・思想	選択必修2単位																		
	自然・科学																			
健康	選択必修2単位																			
リテラシー	選択必修2単位																			
外国語科目	教養科目・外国語科目から選択必修13単位以上 合計30単位以上 Academic Comunication I 必修1単位 Academic Comunication II 必修1単位 選択必修:4単位以上																			
学科 専門科目		幼稚園教諭一種免許を取得するために定められた、「領域及び保育内容に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目等」を履修																		
		小学校教諭一種免許を取得するために定められた指定科目を履修																		

モデル5: 卒業＋幼稚園教諭一種免許取得＋小学校教諭一種免許取得＋特別支援学校教諭一種免許取得

		1年	2年	3年	4年															
大学 共通科目	教養科目	キリスト教概論 必修2単位 女性とキャリア I 必修1単位 <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>選択必修</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人間と宗教</td> <td>選択必修2単位</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">人間形成</td> <td>国際理解</td> <td rowspan="2">選択必修2単位</td> </tr> <tr> <td>社会と文化</td> </tr> <tr> <td>歴史・思想</td> <td rowspan="2">選択必修2単位</td> </tr> <tr> <td>自然・科学</td> </tr> <tr> <td>健康</td> <td>選択必修2単位</td> </tr> <tr> <td>リテラシー</td> <td>選択必修2単位</td> </tr> </tbody> </table>	区分	選択必修	人間と宗教	選択必修2単位	人間形成	国際理解	選択必修2単位	社会と文化	歴史・思想	選択必修2単位	自然・科学	健康	選択必修2単位	リテラシー	選択必修2単位			
	区分	選択必修																		
人間と宗教	選択必修2単位																			
人間形成	国際理解	選択必修2単位																		
	社会と文化																			
	歴史・思想	選択必修2単位																		
	自然・科学																			
健康	選択必修2単位																			
リテラシー	選択必修2単位																			
外国語科目	教養科目・外国語科目から選択必修13単位以上 合計30単位以上 Academic Comunication I 必修1単位 Academic Comunication II 必修1単位 選択必修:4単位以上																			
学科 専門科目		幼稚園教諭一種免許を取得するために定められた、「領域及び保育内容に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目等」を履修																		
		小学校教諭一種免許を取得するために定められた指定科目を履修																		
		特別支援学校教諭一種免許を取得するために定められた指定科目を履修																		

モデル6: 卒業＋幼稚園教諭一種免許取得＋小学校教諭一種免許取得＋保育士資格取得

		1年	2年	3年	4年															
大学 共通科目	教養科目	キリスト教概論 必修2単位 女性とキャリア I 必修1単位 <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>選択必修</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人間と宗教</td> <td>選択必修2単位</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">人間形成</td> <td>国際理解</td> <td rowspan="2">選択必修2単位</td> </tr> <tr> <td>社会と文化</td> </tr> <tr> <td>歴史・思想</td> <td rowspan="2">選択必修2単位</td> </tr> <tr> <td>自然・科学</td> </tr> <tr> <td>健康</td> <td>選択必修2単位</td> </tr> <tr> <td>リテラシー</td> <td>選択必修2単位</td> </tr> </tbody> </table>	区分	選択必修	人間と宗教	選択必修2単位	人間形成	国際理解	選択必修2単位	社会と文化	歴史・思想	選択必修2単位	自然・科学	健康	選択必修2単位	リテラシー	選択必修2単位			
	区分	選択必修																		
人間と宗教	選択必修2単位																			
人間形成	国際理解	選択必修2単位																		
	社会と文化																			
	歴史・思想	選択必修2単位																		
	自然・科学																			
健康	選択必修2単位																			
リテラシー	選択必修2単位																			
外国語科目	教養科目・外国語科目から選択必修13単位以上 合計30単位以上 Academic Comunication I 必修1単位 Academic Comunication II 必修1単位 選択必修:4単位以上																			
学科 専門科目		幼稚園教諭一種免許を取得するために定められた、「領域及び保育内容に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目等」を履修																		
		小学校教諭一種免許を取得するために定められた指定科目を履修																		
		保育士資格取得のための 必修:「告示による科目」71単位 選択必修:「告示による科目」のうち6単位以上、「保育実習Ⅱ」2単位、「保育実習指導Ⅱ」1単位																		

## ○藤女子大学科目等履修生規程

制定	1992年 4月 1日		
改正	1995年 4月 1日	2002年 4月 1日	2004年11月25日
	2011年 2月 2日	2016年 4月 1日	2019年 2月 1日

## (目的)

第1条 藤女子大学（以下「本学」という。）学則に定める科目等履修生（以下「履修生」という。）として本学の授業科目の履修を希望する者の取り扱いは、本規程による。

## (出願資格)

第2条 履修生の受講資格は、次の各号の一に該当し、本学で選考の上許可した者とする。

- (1) 本学学則第25条に定める資格を有する者
- (2) 本学大学院に在学する者及び修了した者
- (3) 教育職員免許状を取得するため必要な授業科目の履修は、教育職員免許法第5条第1項に定める基礎資格を有する女性

## (出願手続)

第3条 科目等履修を希望する者は、次の各号の書類に選考料を添え通年科目及び前期開講科目については3月20日まで、後期開講科目については7月10日までに学長に願出しなければならない。ただし、本学大学院に在学する者並びに前期及び前年度から引き続き履修を希望する者は第2号の書類は、省略することができる。

- (1) 願書（本学所定のもの）
  - (2) 最終学校の卒業証明書および成績証明書
- 2 選考料は8,000円とする。ただし、本学卒業生(藤女子短期大学卒業生を含む。以下同じ。)並びに本学大学院に在学する者及び大学院を修了した者については、これを免除する。

## (履修生の許可、在籍期間、履修制限)

第4条 履修の許可は、当該科目担当教員の承諾のもとに当該学部教授会の具申を経て学長が決定する。

- 2 履修生の在籍期間は、履修が許可された年度の4月1日から翌年の3月31日までの範囲内とする。
- 3 履修できる科目は当該学科が定める科目で、1年度内に16単位以内とする。ただし、本学大学院に在学する者は、10単位以内とする。

## (在籍期間の特例)

第5条 教員免許、資格取得の目的により科目等履修を許可された者が、継続履修の申し出をし在籍期間が終了する前に翌年度の科目等履修が許可された場合は、在籍期間を免許状取得等に必要科目の単位を修得し終える年度の3月31日まで延長することができる。

## (学費等)

第6条 履修生として履修を許可された者は、許可された日から10日以内に誓約書に入学金20,000円、及び受講料1単位につき10,000円を添え所要の手続きをしなければならない。ただし、本学卒業生、本学大学院在学学生、本学大学院修了生、前年度から引き続いて履修生となる者の入学金及び受講料は、次の各号により取扱うものとする。

- (1) 本学卒業生及び大学院修了生は、入学金を半額とする
  - (2) 本学大学院在学学生は、入学金を免除し、受講料は1単位につき5,000円とする
  - (3) 前年度から引き続いて履修生となる者は、2年目以降の入学金を免除する
- 2 実験、実習に要する費用はその都度徴収する。
  - 3 既納の受講料およびその他の納付金は、一切返還しない。

(身分証明書の交付)

第7条 履修生には身分証明書を交付する。

(履修の中止)

第8条 履修生が履修を中止しようとするときは、学長に願い出るものとする。

(単位取得証明書及び成績証明書の交付)

第9条 履修生が所定の履修を終え、試験に合格したときは単位取得（成績）証明書を交付する。

(懲戒)

第10条 履修生としてその本分に反する行為があったときは、当該学部教授会の具申を経て学長が許可を取り消すことがある。

附 則

- 1 この規程は、平成4年4月1日から施行する。
- 2 藤女子大学・藤女子短期大学聴講生規程（昭和53年6月7日）及び藤女子大学・藤女子短期大学聴講生規程の教育職員免許状取得希望者に関する細則（昭和54年4月1日）は、これを廃止する。

附 則

この規程は、平成7年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、2002年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、2004年11月25日から施行する。

附 則

この規程は、2011年2月2日から施行する。

附 則

この規程は、2016年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、2019年2月1日から施行する。

## ○藤女子大学聴講生規程

制定 2002年 4月 1日  
改正 2003年 4月 1日      2004年11月25日      2011年 2月 2日  
2016年 4月 1日      2019年 4月 1日

### (目的)

第1条 藤女子大学（以下「本学」という。）学則に定める聴講生として本学授業科目の聴講を希望する者の取り扱いは、本規程による。

### (出願資格)

第2条 聴講生の受講資格は、本学学則第25条に定める資格を有する者とする。

### (出願手続)

第3条 聴講を希望する者は、次の各号の書類に選考料を添え通年科目及び前期開講科目については3月20日まで、後期開講科目については7月10日までに学長に願い出なければならない。ただし、前期及び前年度から引き続き聴講する場合には第2号の書類を省略することができる。

- (1) 願 書（本学所定のもの）
- (2) 最終学校の卒業証明書

2 選考料は4,000円とする。

### (聴講生の許可、聴講期間、履修制限)

第4条 聴講の許可は、当該科目担当教員の承諾のもとに当該学部教授会の具申を経て学長が決定する。

- 2 聴講生の在籍期間は、聴講が許可された年度の4月1日から翌年の3月31日までの範囲内とする。
- 3 聴講できる科目は本学が定める科目で、1年度内に16単位以内とする。

### (学費等)

第5条 聴講を許可された者は、許可された日から10日以内に誓約書に受講料1単位につき5,000円を添え所定の手続きを行わなければならない。

- 2 実験、実習に要する費用はその都度徴収する。
- 3 既納の受講料およびその他の納付金は、一切返還しない。

### (身分証明書の交付)

第6条 聴講生には身分証明書を交付する。

### (聴講の中止)

第7条 聴講生が聴講を中止しようとするときは、学長に願い出るものとする。

### (懲戒)

第8条 聴講生としてその本分に反する行為があったときは、当該学部教授会の具申を経て学長が許可を取り消すことがある。

### 附 則

この規程は、2002年4月1日から施行する。

### 附 則

この規程は、2003年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、2004年11月25日から施行する。

附 則

この規程は、2011年2月2日から施行する。

附 則

この規程は、2016年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、2019年4月1日から施行する。



## 子ども教育学科実習一覧(実習カレンダー)

実習	学年	1年		2年		3年		4年		備考	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
① 教育実習	①-1 幼稚園・小学校	実施						○		6月	
		期間						4週間		4年次科目休講	
①-2 特別支援学校	実施							○		5月および	
	期間							2~3週間		7月~12月の間	
② 保育実習	②-1 保育実習Ⅰ(保育所)	実施				○	○			夏季休業中	
		期間					10日間				
	②-2 保育実習Ⅰ(福祉施設)	実施						○		11月中旬~	
		期間					10日間			3年次科目休講	
	②-3 保育実習Ⅱ(保育所)	実施							○		夏季休業中
		期間							10日間		
②-4 保育実習Ⅱ(福祉施設)	実施							○		夏季休業中	
	期間							10日間			
②-5 児童館実習	実施				○					春季休業中	
	期間			10日間							
②-6 保育実習Ⅱ(児童館)	実施							○		夏季休業中	
	期間							10日間			

## ◆幼稚園実習校一覧

札幌市内幼稚園(6園)

	学校名	所在地	学級数	児童数	受入人数
札幌市	大通幼稚園	中央区大通西16丁目	10	229	80名
	認定こども園 カトリック聖園こどもの家	中央区北1条東6丁目10-41	6	127	
	琴似教会幼稚園	西区八軒2条西1丁目3-1	3	88	
	札幌ゆたか幼稚園	豊平区豊平1条4丁目2番19	8	183	
	しろいし幼稚園	白石区平和通1丁目南6-1	8	232	
	藤幼稚園	北区北16条西3丁目2番1号	3	95	

## ◆小学校実習校一覧

札幌市教育委員会(市立小学校 203校)

	学校名	所在地	学級数	児童数	受入人数
中央区	中央	大通東6丁目	23	620	1~2名
	山鼻	南14条西10丁目	18	510	1~2名
	幌西	南10条西17丁目	30	970	1~2名
	桑園	北8条西17丁目	31	965	1~2名
	幌南	南21条西5丁目	20	574	1~2名
	円山	北1条西25丁目	30	912	1~2名
	二条	南2条西15丁目	17	514	1~2名
	日新	北8条西25丁目	21	625	1~2名
	緑丘	南10条西22丁目	30	920	1~2名
	盤溪	盤溪226番地4	6	119	1~2名
	宮の森	宮の森4条6丁目	21	684	1~2名
	伏見	南18条西15丁目	25	771	1~2名
	大倉山	宮の森3条13丁目	13	341	1~2名
	三角山	宮の森4条11丁目	12	254	1~2名
	山鼻南	南29条西12丁目	14	294	1~2名
	資生館	南3条西7丁目	25	586	1~2名
北区	北九条	北9条西1丁目	19	524	1~2名
	幌北	北19条西2丁目	12	306	1~2名
	白楊	北24条西7丁目	17	462	1~2名
	新琴似	新琴似7条3丁目	20	605	1~2名
	屯田	屯田7条6丁目	23	710	1~2名
	新川	新川5条15丁目	20	638	1~2名
	篠路	篠路4条9丁目	20	545	1~2名
	茨戸	東茨戸1条2丁目	6	128	1~2名
	鴻城	あいの里3条6丁目	21	601	1~2名
	和光	北34条西7丁目	17	447	1~2名
	光陽	新琴似5条11丁目	16	474	1~2名
	新陽	北27条西14丁目	17	477	1~2名
	新琴似北	新琴似11条6丁目	14	400	1~2名
	新川中央	新川3条3丁目	16	446	1~2名

	新琴似西	新琴似11条15丁目	15	381	1~2名	
	太平	篠路1条2丁目	17	486	1~2名	
	新琴似南	新琴似1条3丁目	15	394	1~2名	
	篠路西	篠路5条2丁目	24	763	1~2名	
	新光	新琴似1条12丁目	21	605	1~2名	
	拓北	あいの里2条1丁目	15	412	1~2名	
	屯田南	屯田5条4丁目	15	438	1~2名	
	北陽	北31条西9丁目	14	342	1~2名	
	新琴似緑	新琴似10条11丁目	16	440	1~2名	
	太平南	太平1条1丁目	14	346	1~2名	
	あいの里西	あいの里2条3丁目	21	480	1~2名	
	屯田西	屯田6条10丁目	25	804	1~2名	
	あいの里東	あいの里3条7丁目	18	548	1~2名	
	百合が原	百合が原6丁目	21	564	1~2名	
	屯田北	屯田9条3丁目	17	471	1~2名	
	ひまわり分校	北14条西5丁目	1	4	1~2名	
		北大病院内				
東区	苗穂	北9条東13丁目	13	339	1~2名	
	北光	北12条東6丁目	14	319	1~2名	
	美香保	北18条東6丁目	16	446	1~2名	
	札幌	伏古1条2丁目	12	266	1~2名	
	丘珠	丘珠町593番地3	12	256	1~2名	
	札幌	東苗穂7条2丁目	14	399	1~2名	
	栄	北42条東10丁目	14	352	1~2名	
	福移	中沼町240番地	6	84	1~2名	
	中沼	中沼町73番地10	8	143	1~2名	
	北園	北25条東4丁目	15	435	1~2名	
	元町	北25条東17丁目	22	680	1~2名	
	北	北33条東4丁目	14	291	1~2名	
	明園	北19条東14丁目	17	435	1~2名	
	本町	本町2条7丁目	15	330	1~2名	
	栄西	北39条東4丁目	15	421	1~2名	
	栄北	北47条東6丁目	19	531	1~2名	
	元町北	北31条東14丁目	22	700	1~2名	
	栄東	北46条東13丁目	18	544	1~2名	
	札幌北	東苗穂9条3丁目	31	967	1~2名	
	東光	本町2条1丁目	15	385	1~2名	
	栄南	北37条東20丁目	20	564	1~2名	
	伏古	伏古8条5丁目	16	410	1~2名	
	開成	北21条東21丁目	19	560	1~2名	
	栄町	北36条東13丁目	18	436	1~2名	
	栄緑	北51条東10丁目	12	279	1~2名	
	東苗穂	東苗穂5条2丁目	12	242	1~2名	
	伏古北	伏古11条1丁目	14	420	1~2名	
	札幌緑	東苗穂13条4丁目	29	923	1~2名	
	白石区	東橋	菊水8条1丁目	15	324	1~2名
		白石	本通1丁目北	19	520	1~2名
		上白石	菊水上町1条3丁目	8	221	1~2名
大谷地		本通18丁目南	18	523	1~2名	
本郷		南郷通10丁目南	16	318	1~2名	
南郷		本郷通4丁目南	18	464	1~2名	
本通		平和通9丁目南	18	483	1~2名	
東札幌		東札幌4条5丁目	20	552	1~2名	

	北郷	北郷4条5丁目	24	699	1~2名	
	東白石	本通14丁目南	16	436	1~2名	
	北白石	北郷6条3丁目	20	529	1~2名	
	西白石	中央3条5丁目	7	185	1~2名	
	北都	北郷3条11丁目	16	434	1~2名	
	幌東	菊水6条3丁目	18	479	1~2名	
	平和通	本通15丁目北	15	390	1~2名	
	南白石	南郷通2丁目南	8	182	1~2名	
	菊水	菊水元町2条3丁目	14	393	1~2名	
	川北	川北4条2丁目	23	731	1~2名	
	東川下	川下4条3丁目	13	282	1~2名	
	米里	米里1条3丁目	18	494	1~2名	
厚別区	信濃	厚別中央4条3丁目	21	592	1~2名	
	小野幌	厚別東2条4丁目	20	582	1~2名	
	上野幌	厚別南7丁目	7	184	1~2名	
	青葉	青葉町6丁目	11	240	1~2名	
	共栄	厚別南2丁目	19	506	1~2名	
	ひばりが丘	厚別中央2条4丁目	13	311	1~2名	
	厚別西	厚別西3条1丁目	12	266	1~2名	
	厚別北	厚別北2条3丁目	22	704	1~2名	
	大谷地東	大谷地東5丁目	15	437	1~2名	
	上野幌西	上野幌1条2丁目	7	171	1~2名	
	厚別通	厚別西4条3丁目	16	427	1~2名	
	上野幌東	上野幌2条4丁目	14	321	1~2名	
	厚別東	厚別東4条8丁目	14	308	1~2名	
	もみじの丘	もみじ台東4丁目	14	277	1~2名	
	もみじの森	もみじ台西3丁目	15	342	1~2名	
	豊平区	豊平	豊平5条7丁目	16	413	1~2名
東園		豊平1条12丁目	16	445	1~2名	
旭		水車町3丁目	10	246	1~2名	
月寒		月寒西2条5丁目	20	593	1~2名	
平岸		平岸2条14丁目	22	588	1~2名	
美園		平岸5条7丁目	16	467	1~2名	
豊園		美園1条4丁目	20	540	1~2名	
西岡		西岡2条9丁目	14	437	1~2名	
中の島		中の島2条1丁目	18	505	1~2名	
月寒東		月寒東3条10丁目	20	562	1~2名	
羊丘		月寒東1条16丁目	16	445	1~2名	
東山		平岸4条11丁目	18	482	1~2名	
平岸西		平岸1条15丁目	17	446	1~2名	
しらかば台		月寒東4条18丁目	18	496	1~2名	
南月寒		月寒西4条8丁目	24	693	1~2名	
みどり		美園5条2丁目	14	350	1~2名	
福住		福住3条5丁目	23	713	1~2名	
西岡南		西岡4条12丁目	23	697	1~2名	
平岸高台		平岸5条18丁目	8	207	1~2名	
あやめ野		月寒東1条11丁目	8	169	1~2名	
西岡北		西岡3条6丁目	13	324	1~2名	
		のぞみ分校	平岸4条18丁目 子ども発達支援総合センター内	3	6	1~2名
清田区		清田	清田1条4丁目	15	373	1~2名
		有明	有明141番地2	6	98	1~2名

	三里塚	里塚2条6丁目	14	392	1~2名	
	北野	北野3条2丁目	14	406	1~2名	
	清田南	清田5条2丁目	20	512	1~2名	
	北野台	北野4条5丁目	18	486	1~2名	
	北野平	北野2条3丁目	13	315	1~2名	
	清田緑	清田7条3丁目	25	821	1~2名	
	平岡	平岡9条2丁目	14	334	1~2名	
	真栄	美しが丘1条1丁目	20	491	1~2名	
	平岡南	平岡2条6丁目	21	640	1~2名	
	平岡中央	平岡5条3丁目	20	582	1~2名	
	美しが丘	美しが丘2条5丁目	11	255	1~2名	
	平岡公園	平岡公園東5丁目	23	681	1~2名	
	美しが丘緑	美しが丘4条5丁目	9	178	1~2名	
西区	琴似	琴似2条7丁目	19	511	1~2名	
	琴似中央	八軒7条東1丁目	17	441	1~2名	
	西園	西野1条7丁目	21	567	1~2名	
	手稲東	西野4条3丁目	22	598	1~2名	
	手稲宮丘	宮の沢3条2丁目	19	641	1~2名	
	西	発寒7条13丁目	25	864	1~2名	
	西野	西野8条4丁目	14	317	1~2名	
	西野第二	西野8条7丁目	21	660	1~2名	
	二十四軒	二十四軒2条3丁目	16	424	1~2名	
	八軒	八軒4条西1丁目	18	496	1~2名	
	八軒北	八軒8条西6丁目	14	375	1~2名	
	八軒西	八軒3条西5丁目	13	285	1~2名	
	発寒	発寒10条4丁目	21	529	1~2名	
	発寒西	発寒5条7丁目	25	842	1~2名	
	発寒東	発寒15条2丁目	16	394	1~2名	
	発寒南	発寒2条4丁目	14	346	1~2名	
	福井野	福井6丁目	16	341	1~2名	
	平和	平和3条8丁目	14	339	1~2名	
	山の手	山の手5条6丁目	21	573	1~2名	
	山の手南	山の手1条9丁目	17	447	1~2名	
	手稲区	手稲中央	手稲本町3条2丁目	23	662	1~2名
		手稲西	金山3条2丁目	13	283	1~2名
		手稲北	手稲山口653番地2	15	384	1~2名
手稲鉄北		前田2条12丁目	19	554	1~2名	
手稲山口		曙11条2丁目	27	828	1~2名	
富丘		富丘1条6丁目	17	497	1~2名	
前田		前田6条11丁目	13	286	1~2名	
前田北		前田10条18丁目	13	306	1~2名	
新陵		新発寒6条6丁目	15	382	1~2名	
稲穂		稲穂4条5丁目	19	511	1~2名	
前田中央		前田8条12丁目	18	574	1~2名	
稲積		前田5条7丁目	14	312	1~2名	
新発寒		新発寒2条2丁目	16	419	1~2名	
西宮の沢		西宮の沢2条4丁目	18	520	1~2名	
新陵東		新発寒5条4丁目	11	252	1~2名	
星置東		星置2条1丁目	24	700	1~2名	

## 石狩市教育委員会(市立小学校 13校)

	学校名	所在地	学級数	児童数	受入人数
石狩市	石狩小学校	横町39番地	7	66	1~2名
	花川小学校	花畔1条1丁目7番地	14	285	1~2名
	生振小学校	生振375番地1	6	78	1~2名
	南線小学校	花川南3条1丁目18番地	34	923	1~2名
	花川南小学校	花川南6条5丁目1番地	21	581	1~2名
	紅南小学校	花川北1条6丁目1番地	16	392	1~2名
	八幡小学校	八幡4丁目167番地	7	48	1~2名
	緑苑台小学校	緑苑台中央3丁目603番地	17	414	1~2名
	双葉小学校	花川北4条3丁目1番地	12	269	1~2名
	厚田小学校	厚田区厚田109番地2	5	25	1~2名
	望来小学校	厚田区望来105番地9	2	5	1~2名
	聚富小学校	厚田区聚富256番地8	4	14	1~2名
	浜益小学校	浜益区柏木1番地17	4	32	1~2名

## 小樽市教育委員会(市立小学校 18校)

	学校名	所在地	学級数	児童数	受入人数
小樽市	忍路中央小学校	忍路1丁目171番地	3	17	1~2名
	塩谷小学校	塩谷2丁目18番1号	9	97	1~2名
	高島小学校	高島5丁目6番1号	13	250	1~2名
	幸小学校	幸4丁目21番1号	12	235	1~2名
	長橋小学校	長橋4丁目5番1号	14	293	1~2名
	手宮中央小学校	末広町13番5号	12	229	1~2名
	稲穂小学校	富岡1丁目5番1号	18	454	1~2名
	花園小学校	花園5丁目4番1号	14	255	1~2名
	山の手小学校	花園5丁目2番20号	21	473	1~2名
	奥沢小学校	奥沢2丁目5番1号	9	151	1~2名
	潮見台小学校	新富町9番13号	14	282	1~2名
	桜小学校	桜1丁目16番1号	15	406	1~2名
	望洋台小学校	望洋台1丁目8番25号	13	292	1~2名
	豊倉小学校	朝里川温泉1丁目231番地	2	12	1~2名
	朝里小学校	新光2丁目6番1号	19	493	1~2名
	張碓小学校	春香町215番地	7	47	1~2名
	桂岡小学校	桂岡町23番1号	10	85	1~2名
	銭函小学校	見晴町5番2号	15	277	1~2名

## 江別市教育委員会(市立小学校 17校)

	学校名	所在地	学級数	児童数	受入人数
江別市	江別第一小学校	緑町西1丁目37	16	449	1～2名
	江別第二小学校	野幌代々木町39	22	566	1～2名
	豊幌小学校	豊幌419	8	107	1～2名
	江別太小学校	朝日町25-2	20	437	1～2名
	大麻小学校	大麻宮町2	16	326	1～2名
	対雁小学校	見晴台17-1	23	679	1～2名
	野幌小学校(特認校)	西野幌252	5	65	1～2名
	東野幌小学校	東野幌町48	16	381	1～2名
	大麻東小学校	大麻東町32	14	351	1～2名
	大麻西小学校	大麻扇町1	15	324	1～2名
	中央小学校	向ヶ丘54	18	412	1～2名
	大麻泉小学校	大麻泉町27	10	228	1～2名
	野幌若葉小学校	野幌若葉町5-3	15	314	1～2名
	北光小学校	篠津805-3	6	24	1～2名
	文京台小学校	文京台70	9	177	1～2名
	いずみ野小学校	対雁113-1	9	158	1～2名
	上江別小学校	ゆめみ野南町9-3	24	702	1～2名

## 教育実習（特別支援学校）実習校一覧

	学校名	校長名	所在地	学級数	受入人数
1	北海道札幌視覚支援学校	木村 浩紀	064-8629 札幌市中央区南14条西12丁目1-1	幼2、小5、中5、高8	5名程度
2	北海道札幌養護学校	堀川 厚志	004-0069 札幌市厚別区厚別町山本751-206	小26、中16、高17	5名程度
3	北海道星置養護学校	伊藤 友紀	006-0853 札幌市手稲区星置3条8丁目2-1	小22、中12	5名程度
4	北海道札幌伏見支援学校	山下 秀樹	064-8514 札幌市中央区伏見4丁目4-21	小14、中6、高7	5名程度
5	北海道手稲養護学校	松井 由紀夫	006-0033 札幌市手稲区稲穂3条7丁目6-1	幼3、小7、中4、高4	5名程度
6	北海道拓北養護学校	秋保 雅浩	002-8091 札幌市北区南あいの里3丁目1-10	小21、中11、高13	5名程度
7	北海道美瑛養護学校	小原 雅浩	072-0811 美瑛市東7条南3丁目1-1	小7、中4、高8	5名程度
8	北海道帯広養護学校	竹内 哲	080-2475 帯広市西25条南2丁目7-3	小22、中14、高16	5名程度
9	北海道北見支援学校	西牧 孝徳	090-0807 北見市川東229番地1	小9、中8、高6	5名程度
10	北海道室蘭養護学校	浅井 謙作	050-0061 室蘭市八丁平3丁目7-27	小11、中10、高12	5名程度
11	北海道函館養護学校	櫻田なおみ	042-0916 函館市旭岡町2	小5、中4、高13	5名程度
12	北海道夕張高等養護学校	外山 正一	068-0424 夕張市千代田7-1	高9	5名程度
13	北海道札幌高等養護学校	高橋 勝利	006-0829 札幌市手稲区手稲前田485-3	高20	5名程度
14	札幌市立山の手養護学校	沼口 明夫	063-0005 札幌市西区山の手5条8丁目1-38	小3、中2、高6	5名程度
15	札幌市立北翔養護学校	川瀬 雅之	063-0831 札幌市西区発寒11条6丁目2-1	小4、中3、高4	5名程度
16	札幌市立豊成養護学校	春田 和之	005-0030 札幌市南区南30条西8丁目1-50	小6、中2	5名程度
17	市立札幌豊明高等支援学校	村岡 章子	002-8034 札幌市北区西茨戸4条1丁目1-1	高16	5名程度
18	市立札幌みなみの杜高等支援学校	宮田 佳幸	005-0012 札幌市南区真駒内上町4丁目7-1	高14	5名程度
合計					80名程度



## 保育実習Ⅰ・Ⅱ(保育所)実習園一覧

整理番号	施設名	施設種別	設置年月日	所在地	入所定員	実習人員	保育実習Ⅰ受入人数	保育実習Ⅱ受入人数
1	札幌市あけぼの保育園	保育所	S35.3.1	札幌市中央区南11条西10丁目1-3	90	2		2
2	札幌市新川保育園	保育所	S40.12.1	札幌市北区新川1条5丁目1-23	120	2		2
3	札幌市新琴似保育園	保育所	S40.12.1	札幌市北区新琴似8条3丁目1-40	90	2		2
4	札幌市北区保育・子育て支援センター	保育所	H24.4.1	札幌市北区北25条西3丁目3-3	120	2		2
5	札幌市東区保育・子育て支援センター	保育所	S28.6.1	札幌市東区北9条東7丁目1-25	120	2	2	
6	札幌市みかほ保育園	保育所	S31.12.1	札幌市東区北19条東5丁目1-24	110	2	2	
7	札幌市青葉保育園	保育所	S24.3.1	札幌市白石区菊水5条2丁目1-4	100	2	2	
8	札幌市白石区保育・子育て支援センター	保育所	H22.4.1	札幌市白石区南郷通1丁目南8-1	120	2	2	
9	札幌市東札幌保育園	保育所	S38.11.1	札幌市白石区東札幌3条3丁目5-15	90	2	2	
10	札幌市東白石保育園	保育所	S40.9.1	札幌市白石区南郷通8丁目北4-1	90	2	2	
11	札幌市菊水乳児保育園	保育所	S45.9.1	札幌市白石区菊水5条1丁目8-14	30	2		2
12	札幌市厚別区保育・子育て支援センター	保育所	H31.4.1	札幌市厚別区厚別中央1条6丁目1番10号	60	2	2	
13	札幌市豊平区保育・子育て支援センター	保育所	H18.4.1	札幌市豊平区回寒東1条4丁目2-11	120	2		2
14	札幌市美園保育園	保育所	S30.5.1	札幌市豊平区美園5条7丁目7-1	100	2	2	
15	札幌市豊園保育園	保育所	S51.11.1	札幌市豊平区美園5条1丁目2-5	90	2		2
16	札幌市西区保育・子育て支援センター	保育所	H18.4.1	札幌市西区口十四軒3条5丁目6-1-101	120	2		2
17	札幌市山の手保育園	保育所	S41.10.1	札幌市西区山の手4条8丁目1-6	120	2		2
18	札幌市手稲区保育・子育て支援センター	保育所	H18.4.1	札幌市手稲区田稲本町3条2丁目4-15	120	2	2	
19	駒鳥保育所	保育所	S30.4.1	札幌市中央区北1条東8丁目1-41	90	4	2	2
20	札幌市大通夜間保育園	保育所	S62.1.1	札幌市中央区大通東4丁目5-1	60	2	1	1
21	札幌市しせいかん保育園	保育所	H16.4.1	札幌市中央区南3条西7丁目1-1	120	2	1	1
22	さより保育園	保育所	S59.3.1	札幌市中央区南4条西15丁目1-35	60	4	2	2
23	吉田学園くりの木保育園	保育所	H22.4.1	札幌市中央区北11条西17丁目36-122	120	4	4	
24	エンジェル保育園	保育所	H24.4.1	札幌市北区北36条西2丁目1-3	60	2	2	
25	札幌北保育園	保育所	S55.12.1	札幌市北区北32条西9丁目2-12	120	2	1	1
26	太平保育園	保育所	S57.2.1	札幌市北区太平11条1丁目1-20	120	4	2	2
27	はぐくみ保育園	保育所	S49.5.1	札幌市北区北26条西3丁目2-20	70	4	2	2
28	幌北ゆりかご保育園	保育所	H15.4.1	札幌市北区北18条西7丁目1-3	110	4	2	2
29	丘珠マスカット保育園	保育所	S48.10.1	札幌市東区北36条東29丁目3-3	90	2	1	1
30	札幌第2福ちゃん保育園	保育所	S53.2.17	札幌市東区北18条東16丁目2-13	90	4	2	2
31	東苗穂保育園	保育所	S45.4.1	札幌市東区本町2条6丁目3-7	90	1	1	
32	明園保育園	保育所	S47.9.1	札幌市東区北23条東14丁目1-5	120	2	2	
33	まこと保育所	保育所	S52.11.1	札幌市白石区菊水8条3丁目3-18	80	2	1	1
34	青葉興正保育園	保育所	S46.12.1	札幌市厚別区青葉町2丁目7-25	150	4	2	2
35	ひばりが丘保育園	保育所	S45.8.1	札幌市厚別区厚別中央2条4丁目11-1	150	2	2	
36	札幌第1福ちゃん保育園	保育所	S53.2.17	札幌市豊平区豊平1条13丁目1-20	90	1	1	
37	羊丘藤保育園	保育所	S50.3.1	札幌市豊平区福住1条3丁目9-30	120	2	1	1
38	札幌杉の子保育園	保育所	H23.4.1	札幌市清田区北野4条3丁目1-8	90	2	2	
39	西発寒保育園	保育所	S46.1.1	札幌市西区回寒9条11丁目1-20	90	2	1	1
40	吉田学園さくら保育園	保育所	H18.7.1	札幌市西区回寒7条西2丁目2-15	120	4	2	2
41	江別市よつば保育園	保育所	H28.11.1	江別市野幌住吉町37-7	150	4	2	2
42	東保育園	保育所	S57.2.18	岩見沢市東町1条8丁目932番地67	60	2	2	
43	中央保育所	保育所	H17.3.31	小樽市磯町2-9	120	2	2	
44	どんぐり保育園	保育所	H16.4.1	更別村宇更別南1線97番地17	40	1	1	
45	札幌市立認定こども園にじいろ	幼保連携型認定こども園	H27.4.1	札幌市清田区真栄2条1丁目11-20	60	2	2	
46	しんことに清香こども園	幼保連携型認定こども園	H30.4.1	札幌市北区新琴似11条5丁目1-30	105	4	2	2
47	認定こども園厚別さくら木保育園	幼保連携型認定こども園	H28.4.1	札幌市厚別区厚別東3条1丁目2-8	105	3	3	
48	認定こども園東月寒にれこども園	幼保連携型認定こども園	S51.11.1	札幌市豊平区回寒東3条16丁目2-36	120	2	2	
49	花山認定こども園	幼保連携型認定こども園	H30.4.1	札幌市清田区里塚緑ヶ丘3丁目8-1	122	4	2	2
50	まえた認定こども園	幼保連携型認定こども園	H30.4.1	札幌市手稲区前田5条7丁目2-15	105	4	2	2
51	千歳市立認定こども園ひまわり	幼保連携型認定こども園	H27.4.1	千歳市南富2丁目4-60	110	2	2	
52	千歳市立認定こども園つばき	幼保連携型認定こども園	H27.4.1	千歳市花園4丁目3-1	110	1		1
53	えるむの森認定こども園	幼保連携型認定こども園	H28.4.1	石狩市花川東93番地5	105	2	2	
54	函館大谷短期大学附属港認定こども園	保育所型認定こども園	H29.4.1	函館市磯町1丁目25番1号	60	1	1	
					計	130	80	50

## 保育実習Ⅰ・Ⅱ(福祉施設) 実習施設一覧

整理番号	施設名	施設種別	設置年月日	所在地	入所定員	実習人員	保育実習Ⅰ受入人数	保育実習Ⅱ受入人数
55	札幌乳児院	乳児院	H21.3.1	札幌市白石区川北2254-1	40	1	1	
56	すずらん	母子生活支援施設	S49.4.1	札幌市中央区北1条東8丁目1-39	20	4	2	2
57	伏見寮	母子生活支援施設	S47.7.1	札幌市中央区伏見2丁目2-79	20	3	3	
58	もいわ荘	母子生活支援施設	S54.9.1	札幌市南区川沿5条4丁目2番5号	20	2	2	
59	もなみ学園	福祉型障害児入所施設	H18.4.1	札幌市南区石山東3丁目5番1号	60	4	4	
60	ナビロ学園	福祉型障害児入所施設	S44.11.1	札幌市清田区真栄483番地4	45	4	2	2
61	太陽の園ひまわり学園	福祉型障害児入所施設	S45.4.1	伊達市幌美内町36番地58	30	2	2	
62	しりべし学園	福祉型障害児入所施設	S41.8.1	黒松内町字黒松内565番地2	30	2	2	
63	美唄学園	福祉型障害児入所施設	S42.9.1	美唄市東7条南2丁目2-4	30	2	2	
64	つつじヶ丘学園	福祉型障害児入所施設	S39.3.1	帯広市西25条南4丁目10番地	30	1	1	
65	白糠学園	福祉型障害児入所施設	S55.9.1	白糠町和天別155-1	30	2	2	
66	室蘭言泉学園	福祉型障害児入所施設	S24.6.1	室蘭市母恋南町5丁目5-39	30	2	2	
67	札幌あゆみの園	医療型障害児入所施設	S61.9.9	札幌市白石区川北2254番地1	184	1	1	
68	北海道済生会西小樽病院 みどりの里	医療型障害児入所施設	S27.5.22	小樽市長橋3丁目24番1号	120	1	1	
69	北海道立旭川肢体不自由児総合療育センター	医療型障害児入所施設	S37.12.26	旭川市春光台2条1丁目1番43号	80	2	2	
70	札幌市かしわ学園	福祉型児童発達支援センター	S35.4	札幌市豊平区平岸4条18丁目1-21	40	2	2	
71	札幌市はるにれ学園	福祉型児童発達支援センター	H6.4	札幌市中央区北7条西26丁目1-1	30	1	1	
72	楡の会 きらめきの里	福祉型児童発達支援センター	H4.12.21	札幌市厚別区厚別町下野幌49番地	40	1	1	
73	むぎのこ児童発達支援センター	福祉型児童発達支援センター	H8.4.1	札幌市東区北36条東8丁目1-30	47	4	2	2
74	小樽市さくら学園	福祉型児童発達支援センター	S32.12.10	小樽市桜2丁目11-16	20	4	2	2
75	札幌育児園	児童養護施設	M39.1.15	札幌市南区藤野6条2丁目427-4	63	2	2	
76	興正学園	児童養護施設	S20.7.1	札幌市北区新琴似4条9丁目1番1号	69	2	2	
77	羊ヶ丘養護園	児童養護施設	S32.1.1	札幌市豊平区月寒東1条17丁目4-33	51	3	3	
78	札幌南藻園	児童養護施設	S27.12.1	札幌市中央区界川1丁目6番14号	48	2	2	
79	岩内厚生園	児童養護施設	M41.5.2	岩内町字宮園1番地2	55	8	4	4
80	歌葉洗心学園	児童養護施設	S26.1.1	寿都町字歌葉町歌葉270	76	2	2	
81	櫻ヶ丘学園	児童養護施設	S26.1.1	仁木町銀山2-247	90	2	2	
82	天使の園	児童養護施設	T12.3.20	北広島市中央4丁目5-7	45	4	4	
83	北光学園	児童養護施設	S27.7.16	遠軽町生田原伊吹46-3	51	3	3	
84	美深育成園	児童養護施設	S34.7.10	美深町字敷島283	50	4	2	2
85	函館国の子寮	児童養護施設	S28.4.1	函館市鈴蘭丘町 38番地の7	60	2	2	
86	富良野国の子寮	児童養護施設	S27.5.30	富良野市東鳥沼1	75	5	3	2
87	くるみ学園	児童養護施設	M33.3.6	函館市亀田中野町38番地11	75	2	2	
88	わかすぎ学園	児童養護施設	S48.7.1	室蘭市母恋南町5丁目5-39	28	2	2	
89	十勝学園	児童養護施設	S38.4.1	帯広市東9条南21丁目1-9	45	2	2	
90	光が丘学園	児童養護施設	S39.4.9	岩見沢市春日町2丁目3番7号	30	2	2	
91	札幌市立児童心理治療センター こころぼ	児童心理治療施設	H27.4.1	札幌市豊平区平岸4条18丁目1-21	23	2	2	
92	北海道立向陽学院	児童自立支援施設	S26.9.29	北広島市西の里1015番地	48	2	2	
					計	96	80	16

## 児童館実習、保育実習Ⅱ（児童館） 実習施設一覧

整理 番号	施設名	施設種別	設置年月 日	所在地	入所 定員	実習 人員	児童館 実習 受入人数	保育 実習Ⅱ 受入人数
93	円山児童会館	児童厚生施設	S38. 5	札幌市中央区北1条西23丁目	160	4	2	2
94	麻生児童会館	児童厚生施設	S61. 11	札幌市北区北39条西5丁目	34	4	2	2
95	東苗穂児童会館	児童厚生施設	H5. 12	札幌市東区東苗穂5-2	59	4	2	2
96	厚別東児童会館	児童厚生施設	H2. 1	札幌市厚別区厚別東3-4	113	4	2	2
97	福住児童会館	児童厚生施設	S 62. 1	札幌市豊平区福住1-1	113	2		2
98	山の手児童会館	児童厚生施設	S61. 12	札幌市西区山の手6-5	136	4	2	2
99	手稲前田児童会館	児童厚生施設	S53. 12	札幌市手稲区前田2-12	140	4	2	2
100	菊水元町児童会館	児童厚生施設	H1. 1	札幌市白石区菊水元町8-2	73	4	2	
101	中の島児童会館	児童厚生施設	S63. 4	札幌市豊平区中の島2-3	156	4	2	
102	美しが丘児童会館	児童厚生施設	H7. 12	札幌市清田区美しが丘5-6	50	4	2	
103	真駒内五輪児童会館	児童厚生施設	H6. 3	札幌市南区真駒内泉町3	187	4	2	
					計	42	20	14

# 子ども教育学科 時間割

曜日		月									
学年		1年生		2年生		3年生		4年生			
時間		aクラス	bクラス	aクラス	bクラス	aクラス	bクラス	aクラス	bクラス	aクラス	bクラス
I	1 9:00 ~ 9:45	▽ 02412 文化人類学 ▽ 03042 生命科学 ▽ 03052 数学 ▽ 07902 情報処理の基礎	岡庭義行 273 増田隆一 271 木村信 272 中山理智恵 457	▽ 70831 児童館・放課後児童クラブの機能と運営	柴田・高森 321	▽ 76651 国語(書写含む) ▽ 06481 上級ドイツ語 I ▽ 06581 上級フランス語 I	駒形武志 349 清水誠 北16条 小澤卓哉 北16条	▽ 70881 現代社会と教育	稲貫・小山・松村 322		
	2 9:45 ~ 10:30	▼ 00942 聖書概論A ▼ 02322 英語圏文学 ▼ 02352 子ども学 ▼ 02712 日本史A	阿部包 441 英美由紀 274 庄井良信 321 平井上総 273	▼ 77361 図画工作科教育法	稲貫順 341	▼ 75851 重複・発達障害児の心理・生理・病理 ▼ 06491 上級ドイツ語 II ▼ 06591 上級フランス語 II	鈴木真知子 322 清水誠 北16条 小澤卓哉 北16条				
II	3 10:40 ~ 11:25	▽ 02112 経済学 ▽ 02144 心理学 ▽ 02722 日本史B ▽ 07802 統計学	神山義治 273 今泉明子 441 松本あづさ 274 原林滋子 456	▽ 76771 保育内容(表現) 新海・稲貫 361		▽ 70851 教育課程総論(全体的な計画を含む) ▽ 06821 上級韓国語 I	吉田・大室 272 金品九 北16条	▽ 70821 保幼小連携特論	庄井良信 322		
	4 11:25 ~ 12:10	▼ 00952 聖書概論B ▼ 00962 宗教と文化 ▼ 02432 国際関係論	阿部包 441 岡本亮輔 442 上原賢司 274	▼ 77381 体育科教育法 木本理可 271	▼ 77381 体育科教育法 木本理可 271	▼ 75871 重複・発達障害児教育総論 ▼ 79061 臨床発達検査法 ▼ 06631 上級韓国語 II	今野邦彦 322 小山和利 321 金品九 北16条				
III	5 13:00 ~ 13:45		▽ 0802c 情報リテラシーA 中山理智恵 457		▽ 76772 保育内容(表現) 新海・稲貫 361	▽ 76661 社会	新保元康 272	76761 保育実習指導 II (保育所) 吉田富士子 321	▽ 78862 教育実習指導(幼稚園・小学校) 駒形・大室・高橋 322		
	6 13:45 ~ 14:30	▼ 07023 運動の科学 木本理可 273	▼ 07023 運動の科学 木本理可 273	▼ 77421 保育内容の指導法(人間関係) 川端美穂 271	▼ 77421 保育内容の指導法(人間関係) 川端美穂 271	▼ 77301 国語科教育法	駒形武志 272				
IV	7 14:40 ~ 15:25	▽ 70441 社会福祉論	鈴木幸雄 273	▽ 75751 知的障害児の心理・生理・病理	原田公人 272	▽ 75791 肢体不自由児教育	今野邦彦 349・卓球室	▽ 78861 教育実習指導(幼稚園・小学校) 駒形・大室・高橋 322	76762 保育実習指導 II (保育所) 吉田富士子 321		
	8 15:25 ~ 16:10	▼ 75812 知的障害児教育総論	渡辺隼人 322	▼ 75761 肢体不自由児の心理・生理・病理	鈴木真知子 349	▼ 70281 教育相談の理論と方法	小山和利 271				
V	9 16:20 ~ 17:05	▽ 47221 Essential Vocabulary & Grammar	山田晃子 222	▽ 75821 肢体不自由児教育総論	今野邦彦 349・卓球室			79091 卒業研究演習 79092 卒業研究演習 79093 卒業研究演習 79094 卒業研究演習 79095 卒業研究演習 79096 卒業研究演習 79097 卒業研究演習 79098 卒業研究演習 7909a 卒業研究演習 7909b 卒業研究演習 7909c 卒業研究演習 7909d 卒業研究演習 7909e 卒業研究演習	青木直子 323 吉田富士子 324 稲貫順 423 大室達夫 424 小川恭子 277 木本理可 276 駒形武志 143 小山和利 182 新海節 183 庄井良信 321 高橋真由美 360 原田公人 453 松村聡 123		
	10 17:05 ~ 17:50			▼ 76621 乳児保育 I	小林美花 349						

▽：前期開講科目 ▼：後期開講科目 ☆：前期または後期の前半開講科目

曜日		火									
学年		1年生		2年生		3年生		4年生			
時間		aクラス	bクラス	aクラス	bクラス	aクラス	bクラス	aクラス	bクラス	aクラス	bクラス
I	1	▽ 02134 日本国憲法 菅原享格 441	▽ 02134 日本国憲法 菅原享格 441	▽ 47231 Interactive English A ▽ 47232 Interactive English A ▽ 47233 Interactive English A ▽ 47234 Interactive English A ▽ 47331 English for Global Communication ▽ 06701 中国語実践演習A ▽ 06841 韓国語実践演習A	K. Litton 271-456 C. W. Gartney 222 R. Atkins 321 C. B. Simons 421 D. W. Quinn 322 森若裕子 北16条 宋美蘭 北16条						
	2		▼ 77402 保育内容総論 高橋真由美 273	▽ 47241 Interactive English B ▼ 47242 Interactive English B ▼ 47243 Interactive English B ▼ 47244 Interactive English B ▼ 47341 CLIL English ▼ 06711 中国語実践演習B ▼ 06851 韓国語実践演習B	▽ 47241 Interactive English B ▼ 47242 Interactive English B ▼ 47243 Interactive English B ▼ 47244 Interactive English B ▼ 47341 CLIL English ▼ 06711 中国語実践演習B ▼ 06851 韓国語実践演習B						
II	3	▽ 47201・▼47211 Academic Communication I-II ▽ 47202・▼47212 Academic Communication I-II ▽ 47203・▼47213 Academic Communication I-II ▽ 47204・▼47214 Academic Communication I-II ▽ 47205・▼47215 Academic Communication I-II ▽ 47206・▼47216 Academic Communication I-II ▽ 47207・▼47217 Academic Communication I-II ▽ 47208・▼47218 Academic Communication I-II ▽ 47209・▼47219 Academic Communication I-II	K. Litton 271 C. W. Gartney 222 R. Atkins 321 C. B. Simons 421 D. W. Quinn 322 北間紗織 272 湯浅恭子 223 高橋博 456 山田晃子 221	▽ 70611 道徳教育の理論と実践	長瀬英生 349	▽ 76671 算数	松村聡 422				
	4			▼ 70621 特別活動・総合的な学習の時間の指導法	大室道夫 349	▼ 77311 社会科教育法	新保元康 422				
III	5	▽ 70231 保育原理 吾田富士子 273	▽ 70231 保育原理 吾田富士子 273	76371 音楽 新海・相原啓・相原真・石橋・大高・小杉・佐藤 奈・須藤・鹿木・辻・若狭玲 ヒアレッスン室	▽ 76322 総合表現 金田一仁志 341	▽ 76561 社会的養護内容 小山和利 271	▽ 76632 乳児保育Ⅱ 小林美花 272	▽ 75371 学校教育心理学 青木直子 223 ▽ 75601 特別支援教育実践論 今野・原田 222	▽ 75371 学校教育心理学 青木直子 223 ▽ 75601 特別支援教育実践論 今野・原田 222		
	6	▼ 77401 保育内容総論 高橋真由美 273				▼ 75841 視覚・聴覚障害児の心理・生理・病理 原田公人 441 ▼ 75861 視覚・聴覚障害児教育総論 原田公人 441	▼ 75841 視覚・聴覚障害児の心理・生理・病理 原田公人 441 ▼ 75861 視覚・聴覚障害児教育総論 原田公人 441		▼ 75402 子どもの理解と発達援助 吾田富士子 272		
IV	7	▽ 0750e 文章表現 Skills for the TOEFL I	山本貴昭 321 高橋博 456	▽ 76321 総合表現 金田一仁志 341	76372 音楽 新海・相原啓・相原真・石橋・大高・小杉・佐藤 奈・須藤・鹿木・辻・若狭玲 ヒアレッスン室	▽ 76631 乳児保育Ⅱ 小林美花 272	▽ 76562 社会的養護内容 小山和利 271	▽ 77251 児童生徒指導・進路指導 庄井良信 349	▽ 77251 児童生徒指導・進路指導 庄井良信 349		
	8	▼ 0750f 文章表現	山本貴昭 321						▼ 75401 子どもの理解と発達援助 吾田富士子 272		
V	9	▽ 79001 スタートアップセミナー 大室・稲貫・駒形・小山・今野・新海・高橋・原田・松村 349・321・322・323・324				▽ 75391 児童期以降の発達と心理	青木直子 223				
	10	▼ 47321 Skills for the TOEFL II	高橋博 456	▼ 78701 児童館実習指導	小川恭子 322						



曜日		木									
学年	時間	1年生		2年生		3年生		4年生			
		aクラス	bクラス	aクラス	bクラス	aクラス	bクラス	aクラス	bクラス		
I	1 9:00 ~ 9:45	▽ 08372 女性と労働 金仁子 274 ▽ 07012 健康の科学 藤井義博 441 ▽ 0750c 文章表現 高木維 223 ▽ 0802b 情報リテラシーA 平井孝典 456	▽ 08372 女性と労働 金仁子 274 ▽ 07012 健康の科学 藤井義博 441 ▽ 0750c 文章表現 高木維 223	▽ 70721 社会的養護	小川恭子 273	▽ 71771 子どもの食と栄養 隈元・石田し 271	▽ 72202 子どもの健康と安全 佐藤洋子 272				
	2 9:45 ~ 10:30	▽ 02342 言語学 対馬康博 441 ▽ 03062 物理学 木村信行 272 ▽ 0750d 文章表現 高木維 223	▽ 02342 言語学 対馬康博 441 ▽ 03062 物理学 木村信行 272 ▽ 0750d 文章表現 高木維 223	▽ 71981 家庭支援論	小山和利 274						
II	3 10:40 ~ 11:25	▽ 02222 美術論 ▽ 02812 東洋史 ▽ 02852 哲学 ▽ 03022 環境科学	仲嶋貴将 421 川口琢司 274 多田圭介 124 江口久登 442	▽ 77411 保育内容の指導法(健康)	木本理可 273	▽ 72201 子どもの健康と安全 佐藤洋子 272	▽ 71772 子どもの食と栄養 隈元・石田し 271	78821 教育実習指導(特別支援)	今野・原田・矢野 349		
	4 11:25 ~ 12:10	▽ 02442 国際理解教育 ▽ 02212 音楽 ▽ 03032 自然と化学 ▽ 08055 情報リテラシーB ▽ 08056 情報リテラシーB	李綱直 273 相原啓寿 124 江口久登 442 平井孝典 456 谷川靖郎 457	▽ 77441 保育内容の指導法(音楽)	青木・清水 274	▽ 70861 学級経営論 稲實・松村 272	▽ 70861 学級経営論 稲實・松村 272				
III	5 13:00 ~ 13:45	▽ 00906 キリスト教概論	阿部包 442	▽ 77431 保育内容の指導法(環境)	高橋真由美 272	▽ 76681 理科	太田俊一 321	▽ 76391 音楽表現演習 新海・石橋・大高・佐藤奈・須藤・辻千・若狭玲 ピアレスン室			
	6 13:45 ~ 14:30	▽ 70451 教師・保育者論	香田・松村・庄井 274・体育館	▽ 77451 保育内容の指導法(表現)	新海・稲實 273	▽ 77341 生活科教育法	大室進夫 321				
IV	7 14:40 ~ 15:25			▽ 76581 子ども文化論	駒形武志 272	▽ 77221 子ども家庭支援の心理学	青木・小山 349	▽ 76392 音楽表現演習 新海・石橋・大高・佐藤奈・須藤・辻千・若狭玲 ピアレスン室			
	8 15:25 ~ 16:10			▽ 70741 教育方法論	庄井良信 349・456・457	▽ 77351 音楽科教育法	石出和也 321	▽ 79131 保育・教職実践演習(幼稚園・小学校) 香田・高橋・駒形・松村 421・422			
V	9 16:20 ~ 17:05			▽ 70871 地域社会と学校	大室・駒形 272						
	10 17:05 ~ 17:50			▽ 79111 研究調査法	青木直子 322	▽ 75801 病弱児教育	永根道史 274	▽ 79132 保育・教職実践演習(幼稚園・小学校) 香田・高橋・駒形・松村 221・222			

曜日		金															
時間	学年	1年生				2年生				3年生				4年生			
		aクラス		bクラス		aクラス		bクラス		aクラス		bクラス		aクラス	bクラス		
I	1	▽ 02122 社会学 ▽ 02612 西洋史 ▽ 02862 倫理学	清水香基 441 渡邊浩 274 宮野晃一郎 442	▽ 76691 家庭	佐々木貴子 321	▽ 76341 生活	大室達夫 221		▽ 77211 児童・放課後児童クラブの活動内容と指導法Ⅱ	工藤・吉原 322							
	2	▼ 00922 キリスト教人間学A ▼ 08392 ジェンダー論 ▼ 02332 アジア圏文学	木村晶子 441 木脇奈智子 274 名畑嘉則 442	▼ 75361 教育心理学	青木直子 349	▼ 77391 英語科教育法	工藤雅之 322										
II	3	▽ 08382 女性と法律 ▽ 02312 日本語文学 ▽ 0750a 文章表現	李妍淑 441 関谷博 274 田代早矢人 223	▽ 76741 保育内容(人間関係) 庄井・増山 321	▽ 76452 初等体育 木本理可 322・体育館	▽ 70841 特別支援教育と福祉 小川・吉田 349 ▽ 06681 上級中国語Ⅰ 胡慧君 北16条	▽ 70841 特別支援教育と福祉 小川・吉田 349 ▽ 06681 上級中国語Ⅰ 胡慧君 北16条	▽ 76441 造形表現法	稲實順 341								
	4	▼ 00932 キリスト教人間学B	木村晶子 441	▼ 76721 英語 工藤雅之 321	▼ 76721 英語 工藤雅之 321	▼ 78741 保育実習指導Ⅰ(福祉施設) 小川・森子 272 ▼ 06691 上級中国語Ⅱ 胡慧君 北16条	▼ 77232 子育て支援(演習) 小野実佐 271 ▼ 06691 上級中国語Ⅱ 胡慧君 北16条	▼ 77241 子育て支援(講義)	品川ひろみ 322								
III	5	▽ 0750b 文章表現 ▽ 75381 発達心理学	田代早矢人 223 青木直子 349	▽ 76451 初等体育 木本理可 322・体育館	▽ 76742 保育内容(人間関係) 庄井・増山 321	▽ 75432 特別な教育的ニーズに対する理解と支援 小山・原田 271											
	6	▼ 08286 女性とキャリアⅠ	松村聡 349	▼ 76731 保育内容(健康) 木本理可 322	▼ 76752 保育内容(環境) 高橋真由美 321	▼ 77231 子育て支援(演習) 小野実佐 271	▼ 78742 保育実習指導Ⅰ(福祉施設) 小川・森子 272										
IV	7	▽ 76651 特別支援教育総論	今野邦彦 349			▽ 75431 特別な教育的ニーズに対する理解と支援 小山・原田 271			78801 保育実習指導Ⅱ(児童館)		小川・森子 272						
	8			▼ 76751 保育内容(環境) 高橋真由美 321	▼ 76732 保育内容(健康) 木本理可 322												
V	9					79121 専門演習	青木直子 323										
						79122 専門演習	香田富士子 324										
						79123 専門演習	稲實順 423										
						79124 専門演習	大室達夫 424										
						79125 専門演習	小川・森子 277										
						79126 専門演習	木本理可 276										
						79127 専門演習	駒形武志 143										
						79128 専門演習	小山和利 182										
						79129 専門演習	今野邦彦 322										
						7912a 専門演習	新海節 183										
					7912b 専門演習	庄井良信 321											
					7912c 専門演習	高橋真由美 360											
					7912d 専門演習	原田公人 453											
					7912e 専門演習	松村聡 123											



曜日		土															
時間	学年	1年生				2年生				3年生				4年生			
		aクラス		bクラス		aクラス		bクラス		aクラス		bクラス		aクラス		bクラス	
I	1	▼07002 ライフステージ栄養学 ☆ 隈元・池田・菊地・三田村・村田 北16条															
	2																
II	3	▼07002 ライフステージ栄養学 ☆ 隈元・池田・菊地・三田村・村田 北16条															
	4																
III	5																
	6																
IV	7																
	8																
V	9																
	10																

## ○藤女子大学人間生活学部

### ファカルティ・ディベロップメント委員会規程

#### (設置)

第1条 藤女子大学人間生活学部にファカルティ・ディベロップメント委員会（以下「委員会」という。）を置く。

#### (目的)

第2条 委員会は、人間生活学部におけるファカルティ・ディベロップメント（教員が教育の質的向上を図るために組織的に取り組む活動をいう。以下「FD」という。）を推進することを目的とする。

#### (任務)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる事項を任務とする。

- (1) FDの企画、立案、実施に関すること。
- (2) その他FDの推進に関すること。

2 委員会は、FDの推進状況について、藤女子大学自己点検・評価委員会に適宜報告するものとする。

#### (組織)

第4条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 学部長
- (2) 学科から選出された者 各学科2名

#### (任期)

第5条 前条第2号委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

#### (委員長等)

第6条 委員会に委員長を置き、委員の互選により選出する。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

#### (会議)

第7条 委員会は、委員の3分の2以上の出席がなければ会議を開くことができない。

2 議決を要する事項については、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

3 委員長が必要と認めた場合には、委員以外の教職員の出席を求め、意見を聴取することができる。

#### (補則)

第8条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営等に関し必要な事項は、委員会が定める。

#### (規程の改廃)

第9条 この規程の改廃は、評議会の議を経るものとする。

附 則

- 1 この規程は、2009年3月12日から施行する。
- 2 この規程の施行後、最初に任命されたファカルティ・ディベロップメント委員の任期は、第5条本文にかかわらず、2011年3月31までとする。

附 則

この規程は、2013年9月17日から施行する。

## 【資料 15-1】

### 1.資料名称等

藤女子大学 シラバス

### 2.出典

藤女子大学

[https://portal.fujijoshi.ac.jp/campusweb/slbssbdr.do?value\(risyunen\)=2019&value\(semester\)=1&value\(kougicd\)=08286&value\(crclumcd\)=1920230](https://portal.fujijoshi.ac.jp/campusweb/slbssbdr.do?value(risyunen)=2019&value(semester)=1&value(kougicd)=08286&value(crclumcd)=1920230) (女性とキャリア I)

[https://portal.fujijoshi.ac.jp/campusweb/slbssbdr.do?value\(risyunen\)=2019&value\(semester\)=1&value\(kougicd\)=08372&value\(crclumcd\)=1920230](https://portal.fujijoshi.ac.jp/campusweb/slbssbdr.do?value(risyunen)=2019&value(semester)=1&value(kougicd)=08372&value(crclumcd)=1920230) (女性と労働)

### 3.利用範囲

2019 年度シラバスから「女性とキャリア I」、「女性と労働」を参照

2019年度 人間生活学部 4年生・大学院 2年生 (2020年3月卒業・修了予定者)対象  
就職支援行事 (2018年4月～2019年4月現在決定分)

※「No.」欄の数字に英字が付いているのは同一内容。いずれか一日参加すれば可。例)3A、3Bは同一内容

2019/4/5現在

月	月日	曜日	時間	教室	対象	No.	テーマ	内容	備考	
4月	4月6日	金	I	273・274	人・食・保3年	1	就職オープニングセミナー (在学生ガイダンス内)	【講師】渡邊 剛氏 就職候補の内、内定を得る学生とそうでない学生の差、 今後何をすべきかなど、採用コンサルタントとして企業の実情を よく知る講師からの貴重なアドバイス。		
	4月16日	月	V	124	全学年対象	2	学内業界研究会<公務・警察>	北海道警察の方による説明	4/6 在学生ガイダンス	
	4月17日	火	V	273	食3年	3A	就職説明会①	就職活動の準備について (働く意味・学科別の就職環境・就職活動の流れ・自己分析・ 就職活動の情報源など)	4/9 前期授業開始	
	4月18日	水	IV	273	人3年	3B				
	4月24日	火	V	273	保3年	3C				
4月25日	水	V	273	人・食・保1～3 年院1年	4	【資格取得支援講座】 ガイダンス	【担当】大原学園講師 簿記、ITサポート、フィナンシャル・プランナー (FP)、 医療事務、介護職員初任者研修など、 藤女子大学特別割引資格で受講できる講座を紹介 公務員を目指すための説明会。 公務員試験の概要説明、特別割引価格で受講できる 講座紹介あり。【担当】大原学園講師			
5月	5月8日	火	V	273	人・食・保1～3 年院1年	5	公務員の仕事とは？ 公務員対策講座ガイダンス			
	5月10日	木	II	457	食3年 a クラス 院食1年	6A	F-NAVI 登録説明会	藤女子大学専用の就職支援サイト「キャリアナビ(通称 F-NAVI)」の登録・活用方法を説明 ※学生証持参	5/1休講	
	5月11日	金	II	457	保3年 a クラス	6B				
	5月14日	月	II	456	保3年 b クラス	6C				
	5月15日	火	III	456	食3年 b クラス 院食1年	6D				
	5月15日	火	V	273	人・食・保3年 院1年	7A	インターンシップに関する説明会 5/15又は5/23に参加すること	夏休み中に企業が実施するインターンシップ (就業体験)の説明。6月から参加受付予定。 申込みの注意、就職活動へのメリットなど	5/16休講	
	5月16日	水	IV	456	人3年 院1年	6E	F-NAVI 登録説明会			
	5月22日	火	V	273	人・食・保3年 院1年	8	就職講演会① 自己分析編	【講師】福島 直樹氏 自己分析対策講座 人・食・保3年生 全員参加すること		
5月23日	水	V	273	人・食・保3年 院1年	7B	インターンシップに関する説明会 5/15又は5/23に参加すること	夏休み中に企業が実施するインターンシップ (就業体験)の説明。6月から参加受付予定。 申込みの注意、就職活動へのメリットなど			
5月29日	火	16:20～ 18:20	273	人・食・保3年 院1年	9A	ビジネスマナー対策講座	【講師】井島 恵子氏 インターンシップ参加予定者は必ず参加すること。 学外実習予定者も必ず受講して下さい。2時間の講座です			
6月	6月11日	月	17:00～ 19:00	北16 755-756	両学部3年 院1年	10	就職講演会② GD編	【講師】姜 雅人氏 グループディスカッションのポイントと学生 のリアルな声 【講師】マイナビ いよいよ募集が始まるインターンシップ、 企業研究などどう役立てる？就活の失敗例から何を学ぶ？ リアルな動画でイメージしよう。		
	6月14日	金	V	273	人・食・保3年 院1年	11	動画で学ぶ 「インターンシップを最大限活用する方法」			
	6月19日	火	16:20～ 18:20	273	人・食・保3年 院1年	9B	ビジネスマナー対策講座	【講師】井島 恵子氏 インターンシップ参加予定者は必ず参加すること。 学外実習予定者も必ず受講して下さい。2時間の講座です		
7月	7月3日	火	16:20～ 18:20	273	人・食・保3年 院1年	9C	ビジネスマナー対策講座	【講師】井島 恵子氏 インターンシップ参加予定者は必ず参加すること。 学外実習予定者も必ず受講して下さい。2時間の講座です		
	7月10日	火	V	273	人・食・保3年 院1年	12	インターンシップ参加者対象説明会	インターンシップ参加者対象の事前準備講座 ※大学窓口/インターンシップ申込者は必ず参加すること。 ※2時間の講座です	7/16 通常授業	
	7月17日	火	V	273	人・食・保3年 院1年	13	SPI・公務員対策講座ガイダンス	就職筆記試験及び公務員試験対策講座に関する説明会 【担当】大原学園講師	7/30～8/4 補講期間	
	7月25日	水	16:30～ 18:00	北16 755-756	両学部3年 院1年	14	就活に向けた 「しゃべりのプロの失敗しないコツ」	【講師】山田美寿アナウンサー(UHB) ※内容は予定 マスコミアウンサーの仕草紹介に加え、就活で自分の 魅力をPRするために必要な心構えとコツを学ぶ。 ※マスコミアウンサー志望者以外も対象。 ※1・2年生の希望者も参加可(1・2年生予約不要)	8/6 夏季休業開始	
9月	9月12日	水	9:00～ 18:00	北16 755-756	両学部3年 院1年	15	就職講演会② ES編	【エントリーシート対策講座】【講師】櫻井 照士 氏 ES作成のポイントを学び、実際に書く。丸一日かけた集中講座。 ※学外実習・インターンシップのため参加できない方を対象に、 10月以降フォロー講座を予定しています (花川校舎)	9/15 後期授業開始	
	9月25日	火	V	273	人3年 院1年	16A	就職説明会	後期から本格化する就職活動の準備についての活動の注意点、 総括、「進路就職調査票」配布ほか。	9/17通常授業 9/24通常授業	
10月	10月2日	火	V	273	人・食・保3年 院1年	17	学内SPI対策講座(A日程) 初回授業	10/13スタートのSPI対策講座を体験できます。(自由参加) お試し講座はこの1回限りです。 ※講座申込締切:10/10(水)まで		
	10月9日	火	V	273	保3年	16B	就職説明会	後期から本格化する就職活動の準備についての活動の注意点、 総括、「進路就職調査票」配布ほか。	10～11月 全員個別 面談実施 「進路就職 調査票」 提出	
	10月12日	金	V	273	人・保3年 院1年	17	就職説明会・ES対策①(前編)	9/12ES対策講座 欠席者対象フォロー講座(前編) 当日配付した資料を基に解説。 自分の職業への興味関心や心理傾向などを把握し、 職業選択のヒントにする検査。未経験の方は、ぜひお試しを。 【講師】新卒応援ハローワーク 予約締切:11/12(月)		
	10月16日	火	V	273	人・食・保3年 院1年	18A	VPI職業興味検査 (10/16又は11/13に参加すること)	9/12ES対策講座 欠席者対象フォロー講座(後編) 当日配付した資料を基に解説。 自分の職業への興味関心や心理傾向などを把握し、 職業選択のヒントにする検査。未経験の方は、ぜひお試しを。 【講師】新卒応援ハローワーク 予約締切:11/12(月)		
	10月19日	金	V	273	人・保3年 院1年	19	就職説明会・ES対策②(後編)	9/12ES対策講座 欠席者対象フォロー講座(後編) 当日配付した資料を基に解説。		
	10月22日	月	16:30～ 18:00	北16 755-756	両学部3年 院1年	20	業界研究会 <ANAグループ1>	講師:ANAエアラインスクール 現役ANA客室乗務員の方による、ANAグループビジョン ほかについてのお話。		
	10月30日	火	V	273	人・食・保3年 院1年	21	就活メイク講座	講師:株式会社サッポロドラッグストアー		
11月	11月5日	月	17:00～ 19:00	北16 755-756	両学部3年 院1年	22	就職講演会③ GD編<第2弾>	【講師】姜 雅人氏「グループディスカッション対策講座2」 6月に続くGD編第2弾>夏インターンでGDを体験し、 「こんな時はどうしたら?」など、迷うこともあったのでは? 今回は臨場感がかならずとも盛り込み、より実用的な動画です。 本学履修書の書き方 来年1・2月開催の学内企業セミナーの概要・注意点ほか 本学履修書の書き方 来年1・2月開催の学内企業セミナーの概要・注意点ほか		
	11月6日	火	V	273	人・保3年 院1年	23A	就職説明会 (11/6又は11/8に参加すること)			
	11月8日	木	V	273	人・保3年 院1年	23B	就職説明会 (11/6又は11/8に参加すること)			
	11月9日	金	V	273	人・食・保3年 院1年	24	就活戦略ガイダンス 後悔しない内定に向けた準備 ～就活成功に必要なスケジュール能力を高める～	【講師】マイナビ ・<動画視聴> 就職活動の失敗例から学ぶ、これからの準備 ・秋・インターンシップ準備や企業研究につなげる方法 ・就活の流れの確認、具体的な行動計画 予約締切:11/7(水)		
	11月9日	金	16:30～ 18:00	北16 656	両学部 全学年	25	室蘭市職員業務説明会 <公務員>	室蘭市役所の方による業務説明会。 地方公務員に興味のある方向け。 ※全学年対象 予約締切:11/7(水)	10～11月 全員個別 面談実施 「進路就職 調査票」 提出	
	11月12日	月	II	273	食3年 院1年	26	【食采】就職説明会①	<食采3年生対象フォロー説明会> ・就職活動の準備について ・「進路就職調査票」配布 ※学外実習 ・2019年1月開催学内企業セミナーの時間割配布		
	11月13日	火	V	花273	人・食・保2・3年 院1年	18B	VPI職業興味検査 (10/16又は11/13に参加すること)	自分の職業への興味関心や心理傾向などを把握し、 職業選択のヒントにする検査。未経験の方は、ぜひお試しを。 【講師】新卒応援ハローワーク 予約締切:11/12(月)		
	11月14日	水	16:30～ 18:00	北16 755-756	両学部3年 院1年	27	業界研究会<JALグループ>	株式会社JALスカイ礼儀、株式会社JALナビア 2社合同の説明会 予約締切:11/13(水)		
	11月16日	金	V	273	人・食・保3年 院1年	28	日経 就活対策講座	【講師】日経メディアプロモーション 業界・企業情報の集め方、選ばれる面接・書類とは? 予約締切:11/11(日)		
	11月16日	金	16:30～ 18:00	北16 755-756	両学部 全学年	29	業界研究会<日本郵政グループ>	日本郵便株式会社、株式会社ゆうちょ銀行、 株式会社かんぽ生命生保の3社合同の説明会。 予約締切:11/14(水)		
11月19日	月	II	273	食3年 院1年	30	【食采】就職説明会② ES・履修書対策編	<食采3年生対象フォロー説明会> 9/12ES対策講座 欠席者対象フォロー講座 当日配付した資料を基に解説。 藤女子大学指定履修書の書き方(記入例配布) ※学外実習			
12月	12月6日	木	16:30～ 18:00	北16 656	両学部 全学年	31	裁判所業務説明会 <公務員>	札幌地方裁判所事務の方による説明。 裁判所事務官、家庭裁判所調査官の仕事等について。 予約締切:12/3(月)		
	12月7日	金	V	273	人・食・保3年 院1年	32	「道新就活講座」① ※全2回連続講座(①12/7、②12/14) 2回とも参加して下さい。	【講師】北海道新聞社、北海道大学 佐藤大輔教授 ※内容は予定 2回連続講座の1回目。新聞の読み方、使い方を学び、 自らの意見を作り提案する。 今、社会で求められている力の育成を目指す講座です。		
	12月10日	月	16:30～ 18:00	北16 755-756	両学部3年 院1年	33	業界研究会 <ANAグループ2>	ANA新千歳空港ターミナルスタッフの方、 AIRDOの客室乗務員の方のお話 ※内容は予定 【講師】ANAエアラインスクール		
	12月14日	金	V	273	人・食・保3年 院1年	34	「道新就活講座」② ※全2回連続講座(①12/7、②12/14) 2回とも参加して下さい。	【講師】北海道新聞社 ※内容は予定 今後社会に出るうえで新聞はどう活かせるか。 グループワークも体験。2回連続講座の2回目。		
	1月6日 7日 8日 9日	日 月 火 水	当日公開		両学部3年 院1年	35	学内企業セミナー<1月>	◎本学最大の就活イベント 数十社の企業等の人事担当者によるセミナー<第1弾> 本学O5館企業も多数。 7～9日のセミナーは、F-NAVIで情報公開・参加予約受付		
1月6日	日	10:30～ 12:30	北16 755-756	両学部3年 院1年	36	就職講演会⑤ おさらい編	講師:櫻井照士 氏 学内企業セミナー初日。企業の採用活動解禁目前の今、 意識面・準備面、両方の最重要ポイントをしっかりと押さえよう!			

1月	1月6日	日	15:50~18:10	北16 食堂	両学部3年 院1年	37	OGと話そう！(懇談会) 窓茶菓つき	学内企業セミナー初日。社会の多方面で活躍中の卒業生が皆さんの応援に集合！質問タイムを挟む「はばOG訪問」先着1名と抽籤(話せ、寝ろ、不安解消)。後日、F-NAVIにて情報公開、参加予約受付	1/10 冬季休業終了
	1月15日	火	V	272 273 274	人・食・保3年 院1年	38	一般常識模試(無料)	※学校推薦希望者は必ず申込み・受験すること！(学校推薦の必要条件)	1/11 授業再開
	1月22日	火	V	273	人・食・保3年 院1年	39	就職講演会⑤ 面接編	面接対策講座 全員が必ず経験する「面接試験」についての講演と、モデル学生による模擬面接から学ぶ 【講師】堤井 剛士 氏	1/22~2/4 補講期間
	1月23日	水	16:30~18:00	北16 354	両学部3年 院1年	40	業界研究会 <アパレル2社>	株式会社リリアンと株式会社レナウンの採用担当の方による2社合同の説明会 予約締切:1/20(日)	
	1月24日	木	V	442	保3年	41	公務員講座・SPI講座(B日程)の説明会 公務員合格者による就職活動報告会	SPI講座(B日程)と、公務員対策講座について説明。 後半は公務員試験合格者(保育4年生)による就職活動報告。 予約締切:1/22(火)	
	1月29日	火	IV	272	食3年	42	公務員講座・SPI講座(B日程)の説明会 公務員合格者による就職活動報告会	SPI講座(B日程)と、公務員対策講座について説明。 後半は公務員試験合格者(食采4年生)による就職活動報告。 予約締切:1/22(火)	
	1月31日	木	16:30~18:00	北16 354	両学部3年 院1年	43	国税専門官セミナー <公務員>	札幌国税局の方による業務説明会。 ※全学年対象 予約締切:1/22(火)	
2月	2月1日 16:20~17:50	金	V	北16 755・756	両学部3年 院1年	44	就職講演会⑥ 面接対策編2	講師:福島直樹氏 面接官の視点と理解し、評価に繋がる自己PRを考える。 【A】福島直樹氏 模擬面接会(グループディスカッション編)	
	2月2日	土	[A] 9:00~15:00 [B] 16:20~17:50	北16 [A] 集合 567 [B] 755 756	両学部3年 院1年	45 46	[A] 模擬面接会(GD編) ※企業就職希望者対象(定員あり) [B] 就職講演会⑦ 総括編	①9:00~10:00 ②10:15~11:15 ③12:45~13:45 ④14:00~15:00 ※①~④の各回定員6名(両学部) F-NAVI就職ガイダンス「画面掲載PDFを読むこと」 先着順で決定・予約は一人1回・定員充足次第受付終了	
	2月5日	火	9:15~11:15	123	人・食・保3年 院1年	47	【対象者限定】予備日「一般常識模試」 ※既にキャリア支援課に事情を申し出、受験許可されている学生のみ	【重要】対象者は、診断書コピーや参加証明書など、キャリア支援課から事前に指示された「証明書類」を忘れず持参して受験を。(提出済みの学生除く) ◎本学最大の就活イベント 数十社の企業等の人事担当者によるセミナー<第2弾> 本学OG参加企業も多数。	
	2月6日 7日 8日	水 木 金			両学部3年 院1年	48	学内企業セミナー<2月>	3日間の詳細は、F-NAVIにて公開 旭川市役所の方による説明会。仕事や採用試験について。 ※全学年対象	
	2月20日	水	10:00~11:30	北16 458	両学部3年 院1年	49	旭川市職員説明会 <公務員>	防衛省の方による説明会。仕事や採用試験について。 ※事務官(自衛官とは採用別) ※全学年対象	
	2月21日	木	10:00~11:30	北16 458	両学部3年 院1年	50	防衛省職員説明会 <公務員>	就職・採用コンサルタントの妻 雅人氏・福島直樹氏・渡邊 剛氏 人気講師3名による模擬面接会 グループで、集団面接と個人面接を両方体験します。 ※A~Lの各グループ定員5名(両学部) F-NAVI就職ガイダンス「画面掲載情報をよく読むこと」 予約先着順で決定・予約は一人1回・申込条件・注意あり	
	2月22日 23日 24日 25日	金 土 日 月		集合 北16 557	両学部3年 院1年	51 52 53 54	人気講師3名による 模擬面接会(集団・個人編) ※定員あり	●2/22(金) 集団:福島氏 個人:福島氏 A)12:30~15:15 (集団:12:30~13:45, 個人:14:00~15:15) B)15:30~18:15 (集団:15:30~16:45, 個人:17:00~18:15) ●2/23(土) 集団:妻氏 個人:福島氏 C)12:30~15:15 (集団:12:30~13:45, 個人:14:00~15:15) D)12:30~15:15 (個人:12:30~13:45, 集団:14:00~15:15) E)15:30~18:15 (集団:15:30~16:45, 個人:17:00~18:15) F)15:30~18:15 (個人:15:30~16:45, 集団:17:00~18:15) ●2/24(日) 集団:妻氏 個人:渡邊氏 G)12:30~15:15 (集団:12:30~13:45, 個人:14:00~15:15) H)12:30~15:15 (個人:12:30~13:45, 集団:14:00~15:15) I)15:30~18:15 (集団:15:30~16:45, 個人:17:00~18:15) J)15:30~18:15 (個人:15:30~16:45, 集団:17:00~18:15) ●2/25(月) 集団:渡邊氏 個人:渡邊氏 K)9:00~11:45 (集団:9:00~10:15, 個人:10:30~11:45) L)12:30~15:15 (集団:12:30~13:45, 個人:14:00~15:15)	
	2月26日	火	10:00~11:30	北16 354	両学部3年 院1年	55	業界研究会 <あおぞら銀行>	株式会社あおぞら銀行の採用担当の方による説明会。	
	2月26日	火	13:00~14:30	北16 655	両学部3年 院1年	56	業界研究会 <AIRDO>	株式会社AIRDO(総合職)採用担当の方による説明会。	
	2月27日	水	15:00~16:00	北16 458	両学部3年 院1年	57	業界研究会 <戸田建設>	戸田建設株式会社(事務系総合職)採用担当の方による説明会。	
	3月7日	木	10:00~11:30	北16 354	両学部3年 院1年	58	企業説明会 <岡三証券>	岡三証券株式会社の採用担当の方による説明会。 本学OG参加予定あり。	
	3月7日	木	13:00~14:30	北16 354	両学部3年 院1年	59	企業説明会 <東京海上日動事務アウトソーシング>	東京海上日動事務アウトソーシング株式会社の採用担当の方による説明会。	
	3月7日	木	15:00~16:30	北16 354	両学部3年 院1年	60	企業説明会 <東京海上日動火災保険>	東京海上日動火災保険株式会社の採用担当の方による説明会。	
	3月11日	月	10:00~11:30	北16 354	両学部3年 院1年	61	企業説明会 <JCB>	株式会社ジェーシービーの採用担当の方による説明会。	
	3月11日	月	13:00~14:30	北16 354	両学部3年 院1年	62	企業説明会 <京王プラザホテル札幌>	株式会社 京王プラザホテル札幌の採用担当の方による説明会。	
	3月12日	火	10:00~11:30	北16 755・756	両学部3年 院1年	63	企業説明会 <ANA・CA>	全日本空輸株式会社(客室乗務員)採用担当の方による説明会。	
	3月12日	火	13:00~14:30	北16 755・756	両学部3年 院1年	64	企業説明会 <AIRDO・CA>	株式会社AIRDO(客室乗務員)採用担当の方による説明会。	
	3月13日	水	13:30~15:00	北16 354	両学部3年 院1年	65	企業説明会 <共栄火災海上保険>	共栄火災海上保険株式会社の採用担当の方による説明会。	
	3月15日	金	15:00~16:30	北16 354	両学部3年 院1年	66	企業説明会 <グランビスタホテル&リゾート>	株式会社グランビスタ ホテル&リゾートが運営する。札幌グランドホテル・札幌パークホテルの採用担当の方による説明会。 日本航空株式会社(客室乗務員)、株式会社ジャルセールス、株式会社JALスカイ札幌、株式会社JALシアターの採用担当者の方による合同説明会。	
	3月20日	月	13:00~18:00	北16 755・756	両学部3年 院1年	67	企業説明会 <JALグループ4社>	日本銀行 札幌支店の採用担当の方による説明会。 札幌支店一般職採用関係。本学OG参加予定あり。	
3月25日	月	13:00~14:00	北16 352	両学部3年 院1年	68	企業説明会 <日本銀行 札幌支店>	講師:渡邊 剛氏 就活真っ只中の今、企業の採用担当も動いている講師による 「就職ガイダンス」 北海道警察(警察官)採用説明会 北海道警察の方による説明。警察官の仕事・採用試験等について。 ※全学年対象		
4月4日	木	15:00~16:30	北16 655	両学部4年 院2年	69	就職講演会⑧ ※文学部「在学ガイダンス」内「就職ガイダンス」	クリナップ株式会社の採用担当の方による説明会。		
4月10日	水	16:30~18:00	北16 354	両学部4年 院2年	70	北海道警察(警察官)採用説明会	株式会社サビエントの採用担当の方による説明会。 「自産PRスペシャリスト」の採用に関する説明会。		
4月12日	金	16:30~18:00	北16 354	両学部4年 院2年	71	企業説明会 <クリナップ>	専門職就職活動の準備について (学科別の就職環境・専門職就活の流れ・学校求人への探し方など) 予約不要		
4月15日	月	16:30~18:00	北16 354	両学部4年 院2年	72	企業説明会 <サビエント>	専門職就職活動の準備について (学科別の就職環境・専門職就活の流れ・学校求人への探し方など) 予約不要		
4月16日	火	V	273	食4年	73A	食采4年 就職説明会 (栄養士職希望者対象)	専門職就職活動の準備について (履歴書の書き方・面接を見据えた記入方法など) 予約不要		
4月17日	水	III 13:00~	124	人4年	73B	人生4年 就職説明会 (福祉職希望者対象)	専門職就職活動の準備について (履歴書の書き方・面接を見据えた記入方法など) 予約不要		
4月17日	水	V	273	保4年	73C	保育4年 就職説明会 (保育職希望者対象)	専門職就職活動の準備について (履歴書の書き方・面接を見据えた記入方法など) 予約不要		
5月	5月13日	月	16:30~18:00	北16 354	両学部4年 院2年	74	企業説明会 <JTB札幌ビジネスセンター>	株式会社JTB札幌ビジネスセンターの採用担当の方による説明会。	
	5月21日	火	V	花川 未定	人食保4年 院2年	75	就職講演会⑨ (一般企業就職希望者対象)	講師:福島直樹氏 一般企業就活のポイントおさらいと、これからの求人への探し方 事前予約必要	
	5月29日	水	16:30~18:00	北16 354	両学部4年 院2年	76	企業説明会 <ハムレー>	ハムレー株式会社の採用担当の方による説明会。	
6月	6月4日	火	V	花川 未定	食4年	77A	食采4年 就職説明会 (栄養士職希望者対象)	専門職就職活動の準備について (履歴書の書き方・面接を見据えた記入方法など) 予約不要	
	6月5日	水	III	花川 未定	人4年	77B	人生4年 就職説明会 (福祉職希望者対象)	専門職就職活動の準備について (履歴書の書き方・面接を見据えた記入方法など) 予約不要	
	6月5日	水	V	花川 未定	保4年	77C	保育4年 就職説明会 (保育職希望者対象)	専門職就職活動の準備について (履歴書の書き方・面接を見据えた記入方法など) 予約不要	
10月	10月8日	火	V	花川 未定	人・食・保4年 院2年	78	就職講演会⑩ (専門職希望者対象)	講師:妻 雅人 氏 福祉・栄養・保育など専門職就職希望者対象の就職活動アドバイス	

■ 行事実施回数: 96回 (78種類) ※2019年4月5日までに実施・決定した分のみ

■ その他の主な取組み

- ◎インターンシップ参加学生募集・派遣 (派遣期間は夏期休業期間中)
- ◎2020年3月卒業予定者 全員個別面談 (10~11月の2ヶ月間で実施)
- ◎SPI対策集中講座 (有料・希望者対象)
- ◎公務員資格対策講座 (有料・希望者対象)
- ◎教職課程受講者対象「北海道・札幌市 公立学校教員採用試験」出願手続に関する説明

## 目 次

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況	… p	1
(1) 学生の確保の見通し	… p	1
1) 定員充足の見込み	… p	1
入学定員設定の考え方		
北海道内の今後の大学進学者数・進学率の動向		
教育・保育学分野及び小学校教員養成課程の志願者推移		
北海道内の同系分野を持つ大学の定員充足状況		
第三者機関が実施した入学意向アンケート調査の主な結果		
2) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要	… p	2
第三者機関が実施したアンケート調査の対象高校及び対象者数		
1) 回答者の高校卒業後の希望進路		
2) 回答者の興味のある学問系統		
3) 子ども教育学科の特色に対する魅力度		
4) 子ども教育学科への受験意向と入学意向		
3) 学生納付金の設定の考え方	… p	3
学生納付金設定の考え方と子ども教育学科の学生納付金		
同系分野を持つ他大学の学生納付金		
(2) 学生確保に向けた具体的な取り組み状況	… p	5
2. 人材需要の動向等社会の要請	… p	5
(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）	… p	5
(2) 上記（1）が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたもので あることの客観的な根拠	… p	5
北海道における小学校教員の採用者数の推移		
北海道における今後の小学校教員の採用者予測		
北海道における幼稚園・認定子ども園の園数及び採用動向		
人間生活学部保育学科の求人数・就職者数		

## 1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

### (1) 学生の確保の見通し

#### 1) 定員充足の見込み

こども教育学科は、乳児期から児童期の子どもの成長や子どもにかかわる人びとを支えるために必要な学びを身に付け、地域社会に貢献するための幅広い視野を持ち、乳幼児期の子どもと就学後の子どもの教育を連続的に捉えることができる教育者の養成を目的としている。そのため国家資格として、保育士資格、幼稚園教諭一種免許、小学校教諭一種免許及び特別支援学校教諭一種免許の資格取得を可能とする教育課程を編成している。

こども教育学科の前身である保育学科は、小学校教員一種免許を除いた上記国家資格を付与する学科として、後述するが、高い就職率に顕著なように、多くの保育士・幼稚園教諭を輩出することで目指す人材養成の目的を達成してきた。これは、保育学科の教育課程がそれぞれの資格に係る編成要件を充足し、講義・演習・実験実習等において適切な学生定員のもとで行われてきた結果ともいえる。こうしたことから、こども教育学科の入学定員は、前身の保育学科の入学定員と同じ 80 名として設定し、それまでの教育水準の維持・向上を図ることとした。

本学の入学者は北海道内の高校出身者が 98% (2018 年度以前 5 ヶ年の平均) を占めている。北海道の今後の 18 歳人口は、民間調査機関の予測によれば、2018 年度の 45,961 名から 2025 年度には 41,934 名となり、女子に限ると 22,466 名から 20,375 名と、おおよそ 10% 程度の減少が見込まれている。

一方で、北海道の大学進学率は、全国平均からは下位にあるが、現役女子の大学進学率は 2014 年度の 30.6% から 2015 年度 31.8%、2016 年度 33.3%、2017 年度 34.8% と漸増傾向にある (資料 1)。

また、日本私立学校振興・共済事業団の「私立大学・短期大学等入学志願状況」における教育学の分野への志願者の推移を見ると、平成 26 年度は 105,075 人、同 27 年度 104,551 人、同 28 年度 105,310 人、同 29 年度 104,972 人、同 30 年度 108,370 人と過去の数値ではあるが比較的安定した志願状況であることが伺える (資料 2)。さらに、文部科学省の学校基本調査の関係学科別 大学入学状況 (3-1) によれば、教育のうち小学校課程の女子の志願者は、平成 27 年度 5,063 人、同 28 年度 5,280 人、同 29 年度 5,660 人、同 30 年度 5,580 人となっていることから、特に女子の小学校課程に対する志願者は漸増傾向にあると考えられる (資料 3)。こうしたことなどから、前身の保育学科が付与した資格に小学校教諭一種免許を加えたこども教育学科の定員充足は見通せると判断した。

また北海道内で上記の国家資格 (保育士資格・幼稚園教諭一種免許・小学校教諭一種免許・特別支援学校教諭一種免許) を全て付与している他の大学としては、私立大学が 2 校のみでその入学定員は合計で 220 名であり、2018 年度の入学定員充足率は 2 校の合計で 98.6% となっている。また保育士を除いた資格を付与する教員養成系の国立大学が 1 校 765



名、入学定員充足率は103.6%であり、保育士資格と幼稚園教諭一種免許、特別支援学校教諭一種免許の資格を付与する公立大学が1校、入学定員充足率100%となっている。また他に保育士資格、小学校教諭一種免許と特別支援学校教諭一種免許を付与する私立大学が1校で、50名の入学定員に対し2018年度入学定員充足率78%となっている(資料4)。このように北海道内で保育・初等教育を分野とする他大学の入学定員の充足状況からみても、保育士資格、幼稚園教諭一種免許、小学校教諭一種免許の全てを付与する大学が、特に私立大学では比較的堅調な入学定員の充足状況であることから、子ども教育学科の定員の充足は見込まれる。

さらに、第三者機関によって実施された入学意向調査の結果からも、子ども教育学科に対する関心の高さが示されており、アンケートに回答した2,347名のうち、子ども教育学科を「受検したいと思う」と答えた人数は391名で回答者全体の16.7%を占め、そのうち「入学したいと思う」と答えた割合は85.9%の336名と、入学定員を大きく上回っており、子ども教育学科の入学定員80名については十分な定員充足が見通せるものと判断した。

## 2) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

子ども教育学科に対する高校生を対象とした入学意向に関するアンケート調査は、第三者的な機関として、株式会社進研アドに実施を依頼した。この調査は、本学の主な学生募集エリアである北海道に所在し本学に進学の実績がある高等学校の高校2年生女子(設置年度に入学対象の学年)を対象として行い、27校2,347人から回答を得た。

アンケートの内容は、「高校卒業後の進路や、興味のある学びについての質問と、子ども教育学科の教育内容の関心度合いから受検の意向の有無、合格後の入学の意向の有無について質問し、以下の通りの回答となっている(資料5)。

1. 回答者の高校卒業後の希望進路については、「国公立大学に進学」が61.8%、「私立大学に進学」が42.9%となっている(複数回答)。
2. 子ども教育学科に関連する学問系統に興味があると答えたのは「教員養成・教育学」が20.1%、「生活科学(食物・栄養学・被服学・児童学)」が14.1%であった(複数回答)。
3. 子ども教育学科の特色に対する魅力度は、学科の特色として掲げた5項目のうち、とても魅力を感じると答えた割合が最も多かったのは、「保育士、幼稚園教諭、小学校教諭のトリプル免許が取得可能。将来の選択肢や活躍の場が広がります。」が45.5%であり、ある程度魅力を感じると答えた36.5%と合わせて8割以上が魅力を感じるとの回答であった。
4. 子ども教育学科への受験意向と入学意向について、「受検したいと思う」と答えたのは391名16.7%であり、そのうち「入学したいと思う」と答えたのは336名85.9%と入学定員の4倍以上が入学の意向を示している。また卒業後の希望進路が「国公立大学に進学」と答えたうち、子ども教育学科に「入学したいと思う」と回答したのは207名14.3%、「私立大学に進学」と答えたうちで、子ども教育学科に「入学したいと思う」と回答したのは178名17.7%と、それぞれ入学定員の2倍以上となっている。

こうした結果から、子ども教育学科が特色のひとつとして掲げた、保育士資格・幼稚園教諭一種免許・小学校教諭一種免許の全ての資格取得を可能としていることなどが、入学の意向を示した回答者数に繋がっていると思われ、入学定員充足は十分に見込まれる。

### 3) 学生納付金の設定の考え方

本学はカトリックキリスト教女子修道会が設立母体であり、奉仕の精神のもとに、北海道内の私立大学のなかでは、比較的低廉な学生納付金を設定してきている。子ども教育学科についても、前身の保育学科の施設・設備を基盤として、あらたに開設予定の小学校教諭一種免許課程に必要な図書・実習実験設備等を整備し、また教員組織についても充実しながら、学生納付金については従前と同額として以下のとおり設定した。

藤女子大学人間生活学部子ども教育学科 学生納付金 (2020年度) (単位:円)

	入学金	授業料	教育充実費	合計
初年次生	210,000	750,000	200,000	1,160,000
2～4年次生	-	780,000	200,000	980,000
4年間合計	210,000	3,090,000	800,000	4,100,000

※上記の他、履修科目により実験実習費(年額7,000円～55,000円)を徴収します。

北海道内で、子ども教育学科と同様な学問分野で同じ資格付与を行う私立大学の学生納付金は以下の通りとなっている。

北翔大学教育文化学部教育学科 学生納付金 (2019年度) (単位:円)

	入学金	授業料	施設設備費	合計
初年次生	310,000	850,000	250,000	1,410,000
2～4年次生	-	850,000	250,000	1,100,000
4年間合計	310,000	3,400,000	1,000,000	4,710,000

北海道文教大学人間科学部こども発達学科 (2019年度) (単位:円)

	入学金	授業料	教育充実費・実験実習費	合計
初年次生	200,000	800,000	250,000	1,250,000
2～4年次生	-	800,000	250,000	1,050,000
4年間合計	200,000	3,200,000	1,000,000	4,400,000

上記のように、北海道内の同様な学問分野の私立大学との比較からも、低廉な水準となっており、子ども教育学科の学生納付金は適正であると考えられる。

## (2) 学生確保に向けた具体的な取り組み状況

本学の学生確保に向けた取り組みは、例年入学試験終了時から本格的に取り組むこととしており、まずは3月下旬に開催するオープンキャンパスからスタートする。この取り組みは高校の学年末終業の後に毎年開催しており、文学部と人間生活学部とで両日実施している。学部・学科紹介や模擬授業また入試制度、奨学金、学生生活等の個別相談を教職員と在学生のスタッフにより運営しており、本学の教育を直接体感できるようなプログラム構成となっている。2019年3月24日に実施した人間生活学部オープンキャンパスでは、保護者を含めて160名の参加があり、子ども教育学科については、届出前であることから学科開設については「設置構想中」として、教職課程等の資格取得については、「開設時期の変更もあり得る」等を明示して広報活動を行った。

オープンキャンパスは6月の進学説明会、7月開催の一日を通した夏のオープンキャンパス、9月開催の、主に公募推薦受験生を対象とした秋のオープンキャンパスと年間で4回行っており、それぞれの開催時期に合わせて、定められた範囲で積極的な発信を行っていく予定である。

高等学校の進路指導者等への訪問による広報活動は、本学入試課職員が毎年定期的に行っているが、2019年度は子ども教育学科の学生募集が可能となる時期以降、特に教職員合同の専従班を組成して、本学への進学実績のある高等学校を中心として訪問する予定である。

子ども教育学科に関しての専用パンフレットやWebサイトによる発信についても、学生募集が可能となる時期に合わせて製作、立ち上げる予定であり、上記のオープンキャンパスや高等学校訪問等での情報ツールとして広く発信して行く。また、北海道内の各高等学校や公共施設等で行われている進学説明会等にも積極的に参加する予定であり、様々な機会を捉えて子ども教育学科の魅力を発信し広めて行くことを予定している。

なお、2018年度のオープンキャンパスの来場者数は、文学部・人間生活学部で1,241名(7日間延べ人数)、進学説明会等は34市町で開催された101回に参加し、相談者の延べ人数は1,436名であり、高等学校への訪問は63校となっているが、2019年度については、さらに参加・訪問回数等を強化することで学生確保に取り組んで行く。

## 2. 人材需要の動向等社会の要請

### (1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

子ども教育学科は、人として成長していくための基礎を築き上げる時期である乳児期から児童期の子どもの成長とそれにかかわる人びとを支えるために必要な学びを得て、地域社会に貢献できる幅広い視野を持ちながら、乳児期の子どもと就学後の子どもの教育を連続的に捉えることのできる教育者の養成を目的としている。

平成 30 年から施行されている幼稚園教育要領、保育所保育指針をはじめ、平成 32 年度から全面実施される小学校学習指導要領等では、「0 歳児から 18 歳までの教育を連続的に捉える」ことの重要性が示されている。また、教育に関する世界の動向でも、OECD（経済協力開発機構）の ECEC（Early Childhood Education and Care）に関する調査において、「誕生からおおよそ 8 歳までの子どもに対する明瞭で一貫性のある総合的な政策枠組みを構築」、「学校教育制度と強固で対等な連携をとり、子どもの誕生期から生涯にわたる学びの支援」をすることの重要性が示されている。

こうした国内外の様々な子どもを取り巻く社会的要請と、本学の建学の理念を踏まえて子ども教育学科が養成したい保育・教育者は次の通りである。

- ・ 人格形成の重要な時期にあたる幼児期から青年前期の子どもの心身の発達を連続した一つの発達過程と捉え、「保幼小連携」において活躍できる優れた教育を担う人材
- ・ 現代の子どもを取り巻く社会的な状況を理解し、様々な課題を持つ子どもや家族と向き合い、それらの課題を解決するための専門的な知識と技能を修得し、専門機関や保護者等と連携して、具体的かつ効果的な指導や援助ができる実践的指導力を身につけた人材
- ・ 知識・技術のみならず人間性を兼ね備えた保育・教育者としての使命感や倫理観を備え、自己啓発、自己研鑽に努め、豊かな人間性を身につけた人材

学生の卒業後のキャリアとしては、幼稚園・小学校、特別支援学校の教諭、また保育園、認定子ども園等の保育士のほか、児童福祉施設、児童館等の学校外施設、子どもに関わる公的施設・企業等が主となる。

### (2) 上記(1)が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

子ども教育学科の人材養成の目的としてあらたに資格取得を予定しているのが小学校教員であることから、北海道における小学校教員の近年の採用状況について概説する。

平成 26 年度以降の北海道・札幌市公立学校教員採用候補者選考検査の志願者数と登録者数の状況によれば、登録者（採用候補者）は、平成 27 年度 327 名、同 28 年度 436 名、同 29 年度 502 名、同 30 年度 594 名、同 31 年度 837 名と 5 年間で倍増している（資料 6）。同時期における北海道の小学校教員の総数は、文部科学省の学校基本調査によれば、平成 26 年度 19,335 名、同 27 年度 19,258 名、同 28 年度 19,066 名、同 29 年度 19,078 名、同 30 年度 19,108 名（資料 7）と、ほぼ横ばいであることから、近年の採用者数の増加について

ては、退職者の補充が主な要因であることが伺える。

今後の北海道内の小学校教員の採用予定について公的に纏められた資料ではないが、平成 28 年 9 月 13 日開催「国立教員養成大学・学部、大学院、附属学校の改革に関する有識者会議(第 1 回)」の文科省有識者会議発表資料「今後の小中学校教員需要の動向について(山崎博敏広島大学大学院教育学研究科教授)」(資料 8)における、地域別公立学校教員採用数(2014,15)と需要推計値(2016-25)の北海道の需要推計数は、2020 年 449 名、2021 年 453 名、2022 年 431 名、2023 年 468 名、2024 年 433 名、2025 年 439 名と予測されている。同資料の 2015 年(平成 27 年度)から 2018 年(平成 30 年度)までの数値と上記の登録者数には大きな乖離がなく、2019 年(平成 31 年度)の 837 名は大きく増加に振れているものの、平成 32 年度以降の北海道内の小学校教員の採用予定数については、概ね 500 名程度の需要があるものと思われる。

また、小学校教諭一種免許と併せて特別支援学校教諭一種免許も取得可能なことから、北海道内の特別支援学校小学部への採用をも見通すことができる。当該の学校の登録者の実績は、平成 27 年度 82 名、同 28 年度 137 名、同 29 年度 88 名、同 30 年度 103 名、同 31 年度 79 名(資料 7)となっており、今後の採用予定数に関する具体的な資料はないものの、上記の小学校教員の需要状況を踏まえれば近年と同様な需要が見込まれる。

これらのことから、子ども教育学科の人材養成の目的のひとつである小学校教員及び特別支援学校教員の養成は、社会的・地域的な人材需要の動向を踏まえたものであると考えている。

幼稚園教諭一種免許及び保育士資格についての地域的な人材需要の動向について、北海道内の幼稚園及び幼保連携型認定こども園の設置状況は、北海道総務部法務・法人局学事課の資料によれば平成 27 年度幼稚園 490 園、幼保連携型認定こども園 61 園から、幼稚園数は漸減し、幼保連携型認定こども園数は幼稚園からの移行及び新設と併せて増加してきている。平成 30 年度の設置数は幼稚園 422 園、幼保連携型認定こども園 191 園となっており、同年度の本務教員数は幼稚園 4,495 人、幼保連携型認定こども園の本務教育・保育職員数は 4,134 人となっている(資料 9)。

幼稚園、幼保連携型認定こども園の採用状況について公的に纏められたものではないが、公益社団法人北海道私立幼稚園協会に依頼して当該園(私立)の採用者数を推計した資料によれば、幼稚園のみであった平成 26 年度は 488 人(内大卒者 79 人)、幼保連携型認定こども園が開設した平成 27 年度は両方合計で 580 人(内大卒者 123 人)、同 28 年度 691 人(内大卒者 128 人)、同 29 年度 702 人(内大卒者 138 人)、同 30 年度 724 人(内大卒者 144 人)となっており、私立園の推計値ではあるが、人材需要は増加傾向にある(資料 10)。

幼稚園教諭及び保育士に関する社会的・地域的な人材需要については、前身の保育学科の求人・就職状況からも類推できる。

保育学科の求人数及び就職者数は下表の通り、平成 27 年度から同学科固有の求人件数は増加してきており、特に保育園等を運営する社会福祉法人及び認定こども園の増加が顕著

となっている。このように高い求人倍率のもとで、保育学科の卒業生の就職率は、毎年ほぼ 100%を保ってきている。

人間生活学部保育学科 求人数・就職者数

	2018 年度 (就職希望者数:73名)		2017 年度 (就職希望者数:83名)		2016 年度 (就職希望者数:87名)		2015 年度 (就職希望者数:77名)	
	求人件数	就職者数	求人件数	就職者数	求人件数	就職者数	求人件数	就職者数
保育園(社会福祉法人)	156	8	164	22	146	17	124	16
幼稚園(学校法人)	113	9	127	12	116	14	116	19
認定こども園	63	17	45	9	25	6	2	3
企業内保育施設等	62	9	48	11	38	9	43	5
児童館等(NGO 法人等)	27	0	19	1	18	0	14	1
国公立幼稚園・保育園	65	10	62	13	52	23	45	18
保育学科固有求人計	486	53	465	68	395	69	344	62
他学部共通求人件数	640	19	656	15	588	18	607	14
保育学科 就職者合計	-	72	-	83	-	87	-	76
就職決定率	98.6%		100%		100%		98.7%	

保育所・幼稚園・小学校の連携については、平成 10 年 6 月の中央教育審議会答申「新しい時代を拓く心を育てるために」、平成 17 年 1 月の同審議会答申「子どもを取り巻く環境の変化を踏まえた幼児教育の在り方について」、及び平成 20 年 7 月の教育振興基本計画のなかの「幼児教育全体の質の向上」をはじめとして度々その重要性が指摘されてきたところであり、そうした取組のひとつとして幼稚園教員と小学校教員の免許併有の促進も予てより要請されてきている。また、近年の待機児童解消に向けての動向や、幼児教育の無償化等、子どもを取り巻く様々な社会的要請に応えることが、子ども教育学科の目指す人材養成に適うものと考えている。

## 資 料 目 次

- 資料 1 「18歳人口予測大学・短期大学・専門学校進学率地元残留率の動向 北海道版」  
(リクルート進学総研マーケットリポート)  
(<http://souken.shingakunet.com/research/2019/01/182018-01bd.html>)
- 資料 2 「私立大学・短期大学等入学志願動向 4.学部系統別の動向(大学)」  
(日本私立学校振興・共済事業団)  
([https://www.shigaku.go.jp/s\\_center\\_d\\_shigandoukou.htm](https://www.shigaku.go.jp/s_center_d_shigandoukou.htm))
- 資料 3 「学校基本調査 15 大学入学状況 平成 27 年度～同 30 年度」  
(文部科学省)
- 資料 4 「北海道教育大学・北翔大学・北海道文教大学・名寄市立大学・札幌学院大学  
各校 Web サイト」  
(<https://www.hokkyodai.ac.jp/>)・(<http://www.hokusho-u.ac.jp/>)  
(<http://www.do-bunkyodai.ac.jp/>)・(<http://www.sgu.ac.jp/>)
- 資料 5 「藤女子大学人間生活学部子ども教育学科改組に関するニーズ調査・高校生対象  
結果報告書・調査票・設置構想資料」  
(株式会社 進研アド)
- 資料 6 「平成 26～31 年度北海道・札幌市公立学校教員採用候補者選考検査実施要領」  
(北海道教育委員会・札幌市教育委員会)  
(<http://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/ksi/shochujinji/H32jissiyouryou.pdf>)
- 資料 7 「学校基本調査 小学校 54 職名別教員数 (本務者) 4-1」  
(文部科学省、e - S t a t 政府統計の総合窓口)
- 資料 8 「国立教員養成大学・学部、大学院、附属学校の改革に関する有識者会議  
第 1 回) H28.9.13」文科省有識者会議発表資料  
(広島大学大学院教育学研究科教授 山崎 博敏)
- 資料 9 「学校数の推移<幼稚園>、<幼保連携型認定子ども園>」  
(北海道 総合政策部 情報統計局統計課)  
(<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/tuk/013sbs/18.htm>)
- 資料 1 0 「道内新卒者推計値」  
(公益財団法人北海道私立幼稚園協会 ※注・左記協会退職金制度加入者より  
推計した数値)

## 【資料 1】

### 1.資料名称等

「18歳人口予測大学・短期大学・専門学校進学率地元残留率の動向 北海道版」

### 2.出典

リクルート進学総研マーケットレポート

<http://souken.shingakunet.com/research/2019/01/182018-01bd.html>

### 3.利用範囲

当該レポート北海道版の「18歳人口予測、進学者数・進学率・残留率」を参照



## 【資料 2】

### 1.資料名称等

「私立大学・短期大学等入学志願動向 4.学部系統別の動向（大学）」

### 2.出典

日本私立学校振興・共済事業団

<https://www.shigaku.go.jp/files/shigandoukou26.pdf> （平成 26 年度）

<https://www.shigaku.go.jp/files/shigandoukou271.pdf> （平成 27 年度）

<https://www.shigaku.go.jp/files/shigandoukouH28.pdf> （平成 28 年度）

<https://www.shigaku.go.jp/files/shigandoukouH29.pdf> （平成 29 年度）

<https://www.shigaku.go.jp/files/shigandoukouH30.pdf> （平成 30 年度）

### 3.利用範囲

各年度報告書から「学部系統別の動向（大学）」を参照

### 【資料 3】

#### 1.資料名称等

「学校基本調査 15 大学入学状況 平成 27 年度～平成 30 年度」

#### 2.出典

文部科学省

<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00400001&tstat=00001011528>

#### 3.利用範囲

各年度の「高等教育機関、学校調査、大学・大学院＞15 関係学科別大学入学状況」を参照

## 【資料 4】

### 1.資料名称等

「北海道教育大学・北翔大学・北海道文教大学・名寄市立大学・札幌学院大学  
各校 Web サイト」

### 2.出典

北海道教育大学 <https://www.hokkyodai.ac.jp/>

北翔大学 <http://www.hokusho-u.ac.jp/>

北海道文教大学 <http://www.do-bunkyo-dai.ac.jp/>

名寄市立大学 <https://www.nayoro.ac.jp/>

札幌学院大学 <http://www.sgu.ac.jp/>

### 3.利用範囲

各大学のHPより、2018年度の「入学定員・入学者」及び「学生等納付金」（北翔大学、北海道文教大学）の情報を参照

---

---

藤女子大学  
「人間生活学部 子ども教育学科」  
改組に関するニーズ調査  
【高校生対象調査】  
結果報告書

---

---

平成31年3月  
株式会社 進研アド

# 高校生対象 調査概要

## 1. 調査目的

2020年4月に改組予定の藤女子大学「人間生活学部 子ども教育学科」に関して、高校生のニーズを把握する。

## 2. 調査概要

		高校生対象調査
調査対象		高校2年生女子
調査エリア		北海道
調査方法		高校留め置き調査
調査対象数	依頼数 (依頼校)	3,623 (29校)
	回収数 (回収率)	2,347 (27校) (64.8%)
調査時期		2018年12月11日(火)～2019年1月25日(金)
調査実施機関		株式会社 進研アド

## 3. 調査項目

高校生対象調査
・性別 ・高校種別 ・高校所在地 ・所属クラス ・高校卒業後の希望進路 ・興味のある学問系統 ・「人間生活学部 子ども教育学科」の特色に対する魅力度 ・「人間生活学部 子ども教育学科」への受験意向 ・「人間生活学部 子ども教育学科」への入学意向

## 高校生対象 調査結果まとめ



## 高校生対象 調査結果まとめ

---

### 回答者の属性

※ 本調査は、藤女子大学が「人間生活学部 保育学科」を改組して開設予定の「人間生活学部 子ども教育学科」に対する需要を確認する目的の調査として設計した。そのため、藤女子大学の主な学生募集エリアである北海道に所在する高校の高校2年生女子(設置年度に入学対象の学年)に調査を実施し、2,347人から回答を得た。

- 回答者の性別は、「女性」が100.0%。
- 回答者の在籍高校種別は、「公立」が87.5%、「私立」が12.5%。
- 回答者の在籍高校所在地は、藤女子大学の学生募集の中心である「北海道」が100.0%。
- 回答者の所属クラスは、「文系クラス(文系コース)」が59.1%で最も多く、次いで「理系クラス(理系コース)」が20.6%と続く。

### 高校卒業後の希望進路や興味のある学問系統

- 回答者の高校卒業後の希望進路を複数回答で聴取したところ、「国公立大学に進学」が61.8%で最も高い。次いで、「私立大学に進学」が42.9%と続く。
- 回答者の興味のある学問系統は、「文学(心理学、考古学、地理学、歴史学、哲学など含む)」が26.7%で最も高い。次いで、「看護・保健学」(23.1%)、「語学(言語学など含む)」(20.5%)と続く。「人間生活学部 子ども教育学科」と関連のある「教員養成・教育学」「生活科学(食物・栄養学、被服学、児童学など含む)」は、それぞれ20.1%、14.1%である。

## 高校生対象 調査結果まとめ

### 「人間生活学部 子ども教育学科」の特色に対する魅力度

- 「人間生活学部 子ども教育学科」の特色に対する魅力度(※)は、5項目中3項目において8割を超える。
- 中でも、「協働力やコミュニケーション力が身につけられ、保育所や幼稚園のほか、一般企業での活躍もめざすことができます。」(82.4%)、「保育士、幼稚園教諭、小学校教諭のトリプル免許が取得可能。将来の選択肢や活躍の幅が広がります。」(82.1%)が高い。
- 次いで、「幅広い資格にチャレンジできる環境で、特別支援学校教諭1種や児童厚生1級指導員なども取得可能。特別支援学校教諭や学童保育などへの道も拓けます。」(80.5%)と続く。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

### 「人間生活学部 子ども教育学科」への 受験意向・入学意向

- 「人間生活学部 子ども教育学科」を「受験したいと思う」と答えた人は16.7% (391人)である。
- 「人間生活学部 子ども教育学科」を「受験したいと思う」と答えた391人のうち、「入学したいと思う」と答えた人は85.9% (336人)で、予定している入学定員(80人)の4倍以上である。



## 高校生対象 調査結果まとめ

---

### 受験意向別入学意向 属性別傾向

#### ◇在籍コース別

- 「人間生活学部 子ども教育学科」を「受験したいと思う」かつ「入学したいと思う」と答えた人(以降下線部を本頁内では「入学意向者」と表す)は、「文系クラス(文系コース)」在籍者では16.3% (226人)であり、予定している入学定員(80人)の2倍以上である。

#### ◇高校卒業後の希望進路別

- 「国公立大学に進学」希望者からの入学意向者は14.3% (207人)、藤女子大学を受験・入学する可能性が高い「私立大学に進学」希望者からの入学意向者は17.7% (178人)と、それぞれ予定している入学定員(80人)の2倍以上である。

#### ◇興味のある学問系統別

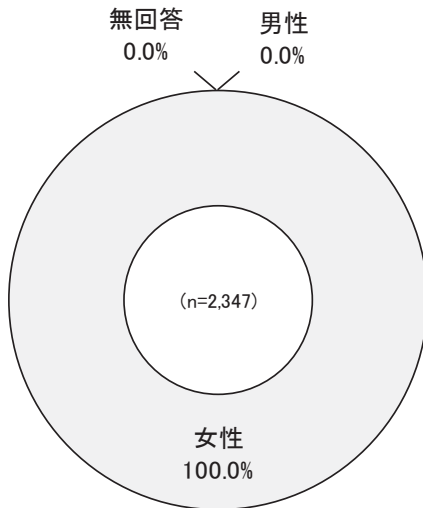
- 「人間生活学部 子ども教育学科」と関連のある「教員養成・教育学」「生活科学(食物・栄養学、被服学、児童学など含む)」関心者からの入学意向者は、それぞれ35.0% (165人)、30.3% (100人)と、いずれも予定している入学定員(80人)を上回り、「教員養成・教育学」関心者では予定している入学定員(80人)の約2倍である。
- 「文学(心理学、考古学、地理学、歴史学、哲学など含む)」関心者からの入学意向者は15.3% (96人)と、予定している入学定員(80人)を上回る。

## 高校生対象 調査結果

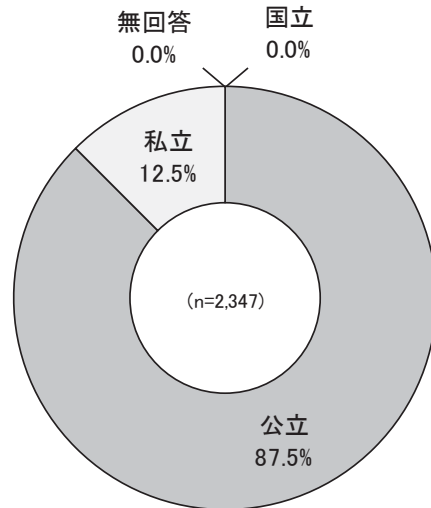


## 回答者の属性(性別/高校種別/高校所在地/所属クラス)

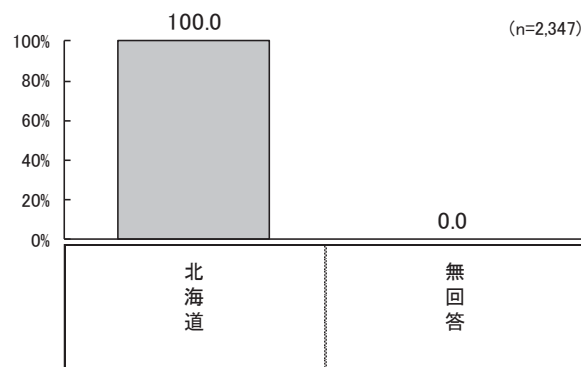
### ■性別



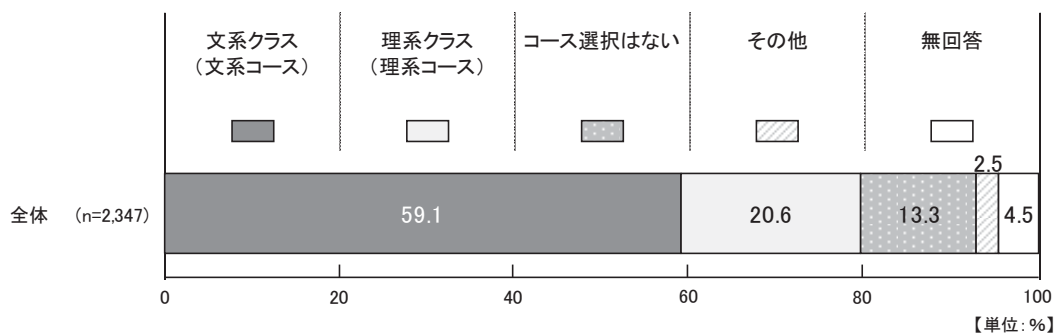
### ■高校種別



### ■高校所在地



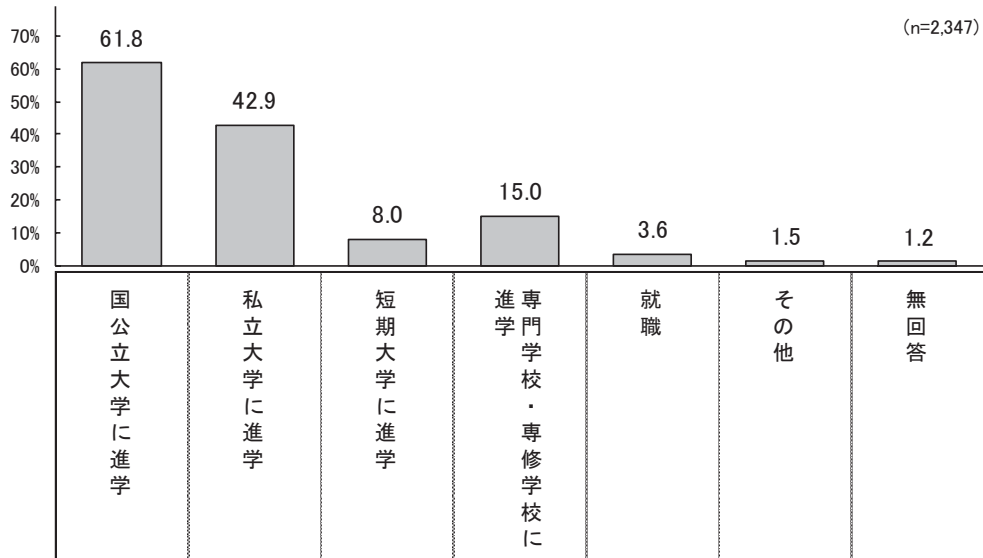
### ■所属クラス



# 高校卒業後の希望進路／興味のある学問系統

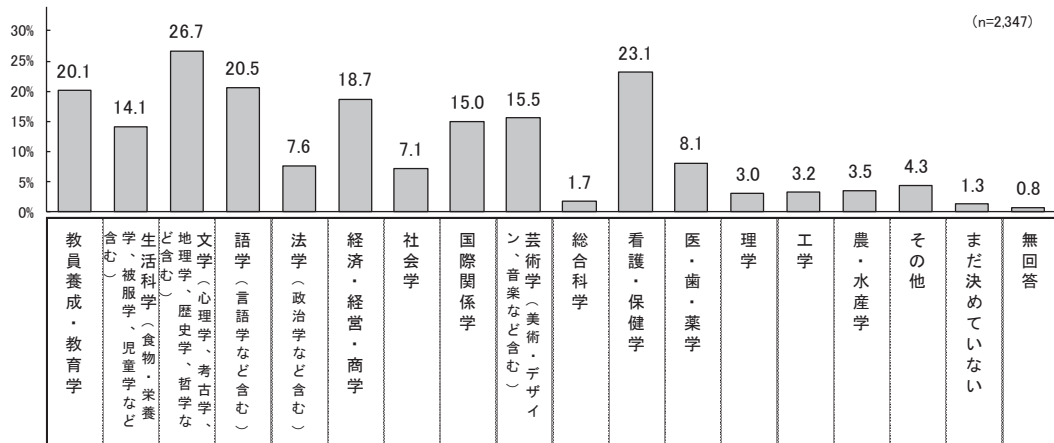
## ■高校卒業後の希望進路

Q1. あなたは、高校卒業後の進路について、現時点ではどのように考えていますか。  
以下の項目から、あてはまるものすべてをお選びください。(いくつでも)



## ■興味のある学問系統

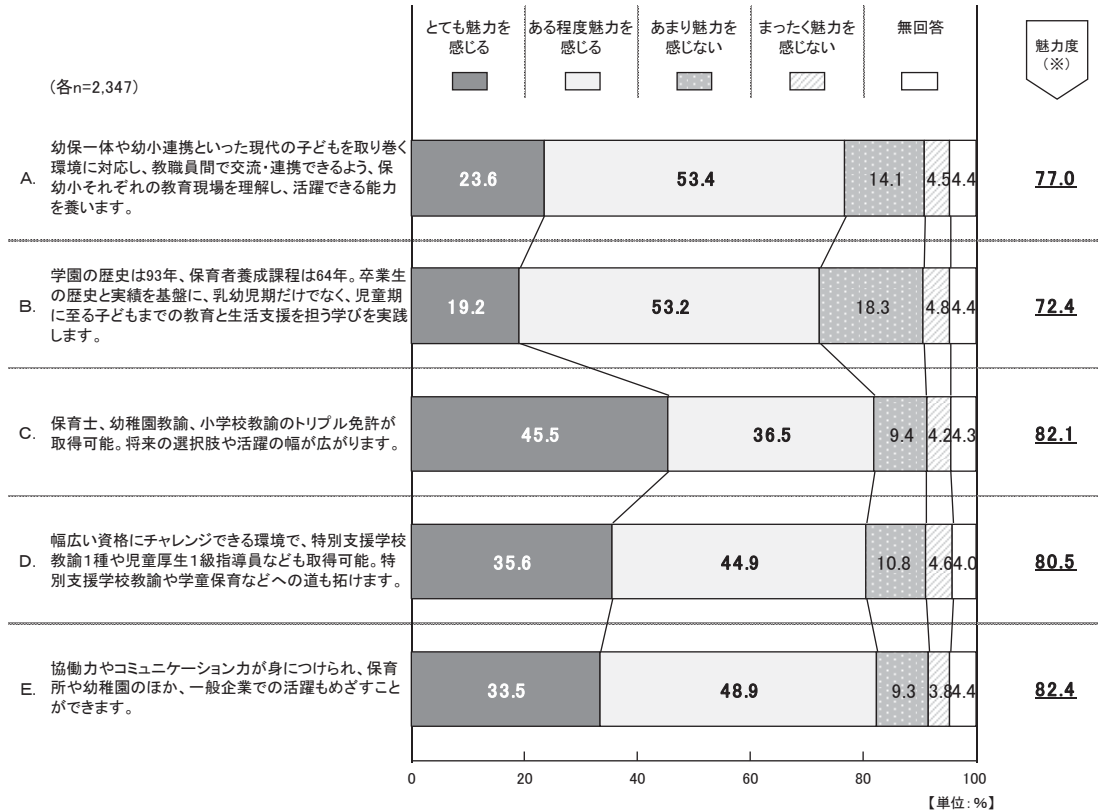
Q2. あなたは、どのような学問に興味がありますか。  
以下の項目から、興味のある学問系統すべてをお選びください。(いくつでも)  
(現時点で進学を希望されていない方も、進学する場合を想像してお答えください。)



# 「人間生活学部 子ども教育学科」の特色に対する魅力度

## ■「人間生活学部 子ども教育学科」の特色に対する魅力度

Q3. 藤女子大学「人間生活学部 子ども教育学科」(設置構想中)には、以下のような特色があります。  
それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。(それぞれ、あてはまるものを1つだけ)



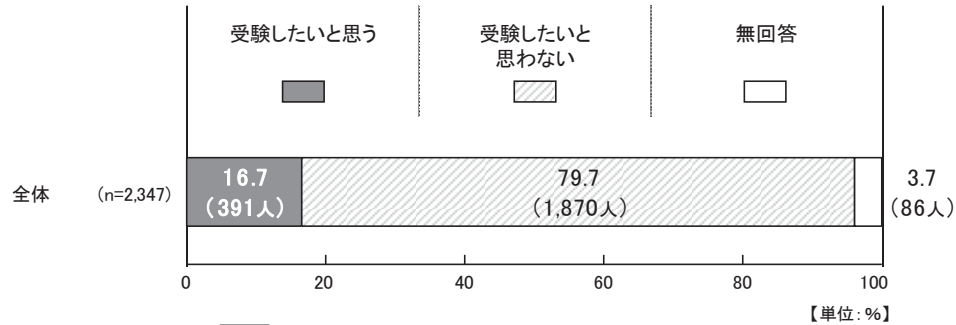
※魅力度=「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

※魅力度は、人数をもとに%を算出し、小数点第二位を四捨五入しているため、「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」の合計値と必ずしも一致しない

## 「人間生活学部 子ども教育学科」への受験意向／入学意向

### ■「人間生活学部 子ども教育学科」への受験意向

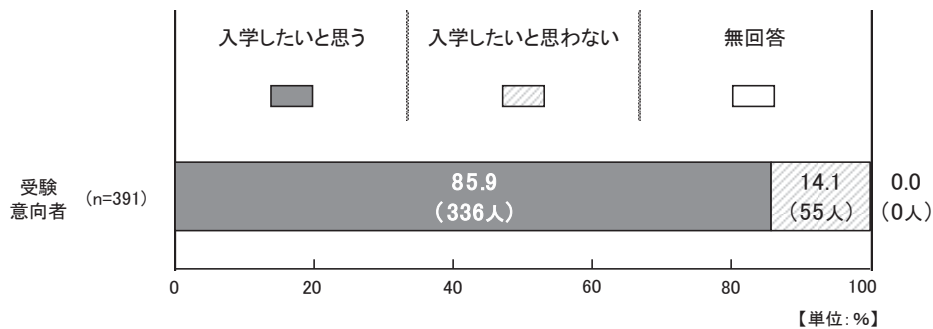
Q4. あなたは、藤女子大学「人間生活学部 子ども教育学科」(設置構想中)を受験してみたいと思いますか。  
あなたの気持ちに近いもの1つをお選びください。(1つだけ)



「受験したいと思う」と答えた391人のみ抽出

### ■「人間生活学部 子ども教育学科」への入学意向

Q5. あなたは藤女子大学「人間生活学部 子ども教育学科」(設置構想中)を受験して合格したら、入学したいと思いますか。  
あなたの気持ちに近いもの1つをお選びください。(1つだけ)

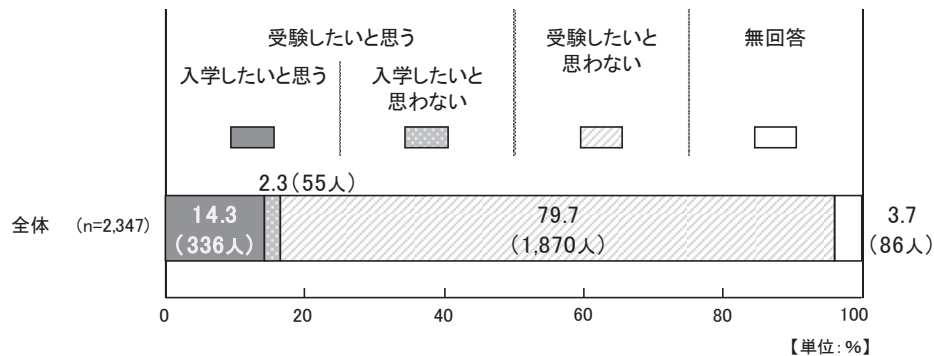


※ Q4で「受験したいと思う」と答えた391人の回答



「受験意向(Q4)」と「入学意向(Q5)」を  
かけあわせて集計(母数は全回答者)

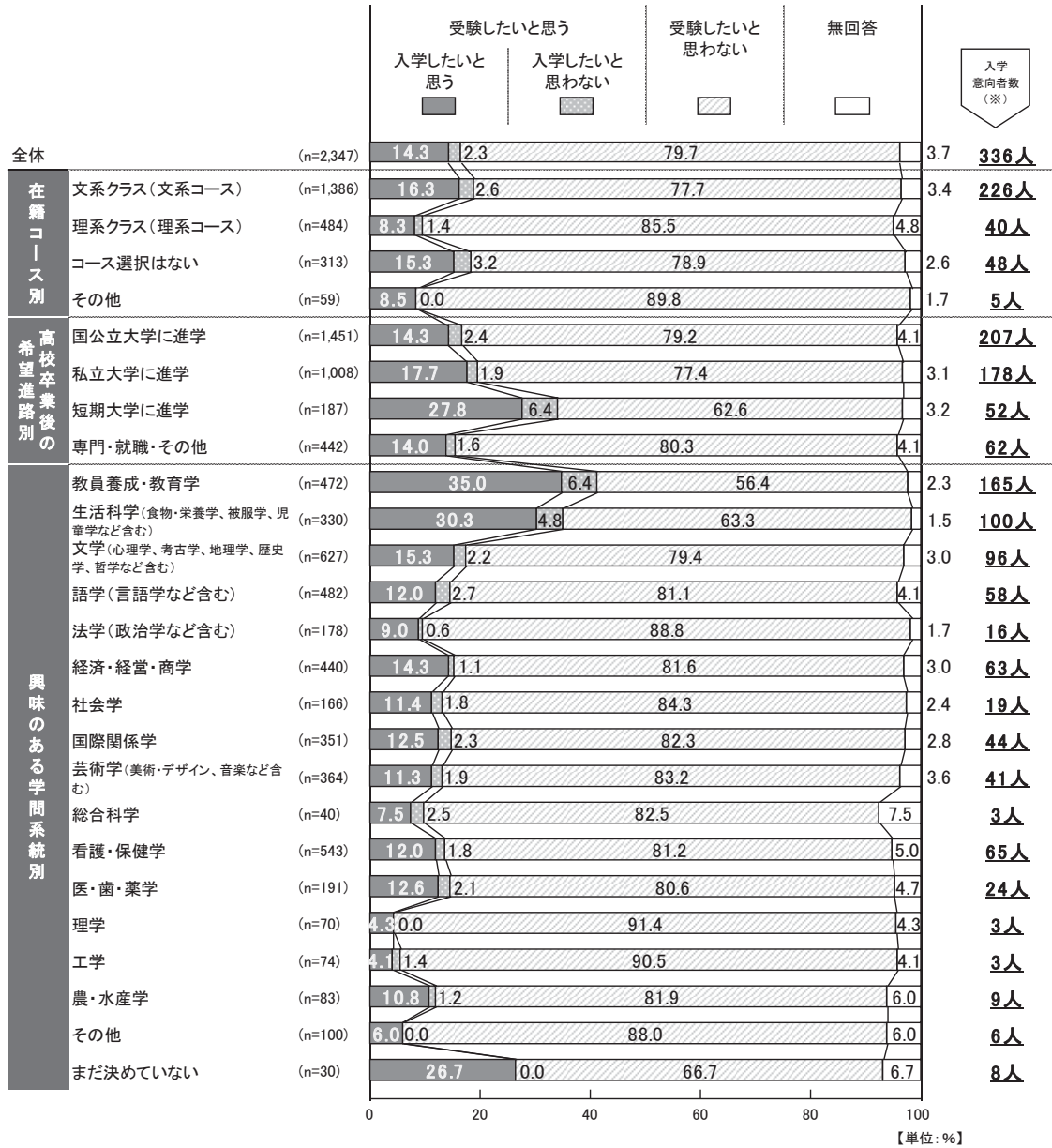
### ■「人間生活学部 子ども教育学科」への受験意向別入学意向



# <属性別>

## ■「人間生活学部 子ども教育学科」への受験意向別入学意向

### <属性別>



※入学意向者数=「受験したいと思う」かつ「入学したいと思う」と回答した人の人数

## 卷末資料 調查票







# 高校生対象 調査票

18036

◆藤女子大学「人間生活学部 子ども教育学科」(設置構想中)についてお聞きます。

藤女子大学では、現在高校2年生のみなさんが大学生となる2020年4月に、「人間生活学部 保育学科」を「人間生活学部 子ども教育学科」へ改組することを構想しています。

※ ここからは、アンケートに同封している資料を見てからお答えください ※

Q3. 藤女子大学「人間生活学部 子ども教育学科」(設置構想中)には、以下のような特色があります。それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。(それぞれ、あてはまるものを1つだけ)

		とても魅力を感じる	ある程度魅力を感じる	あまり魅力を感じない	まったく魅力を感じない
例.	〇〇が身につきます。	→ <input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
A.	幼保一体や幼小連携といった現代の子どもを取り巻く環境に対応し、教職員間で交流・連携できるよう、保幼小それぞれの教育現場を理解し、活躍できる能力を養います。	→ <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
B.	学園の歴史は93年、保育者養成課程は64年。卒業生の歴史と実績を基盤に、乳幼児期だけでなく、児童期に至る子どもまでの教育と生活支援を担う学びを実践します。	→ <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
C.	保育士、幼稚園教諭、小学校教諭のトリプル免許が取得可能。将来の選択肢や活躍の幅が広がります。	→ <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
D.	幅広い資格にチャレンジできる環境で、特別支援学校教諭1種や児童厚生1級指導員なども取得可能。特別支援学校教諭や学童保育などへの道も拓けます。	→ <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
E.	協働力やコミュニケーション力が身につけられ、保育所や幼稚園のほか、一般企業での活躍もめざすことができます。	→ <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

Q4. あなたは、藤女子大学「人間生活学部 子ども教育学科」(設置構想中)を受験してみたいと思いますか。あなたの気持ちに近いもの1つをお選びください。(1つだけ)

受験したいと思う       受験したいと思わない

Q5. あなたは藤女子大学「人間生活学部 子ども教育学科」(設置構想中)を受験して合格したら、入学したいと思いますか。あなたの気持ちに近いもの1つをお選びください。(1つだけ)

入学したいと思う       入学したいと思わない

\*\*\*質問は以上です。ご協力ありがとうございました。\*\*\*

## 【資料 6】

### 1.資料名称等

「平成 26～31 年度北海道・札幌市公立学校教員採用候補者選考検査実施要領」

### 2.出典

北海道教育委員会、札幌市教育委員会

<http://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/ksi/H31tokusenyouryou.pdf>

### 3.利用範囲

各年度の「北海道・札幌市公立学校教員採用候補者選考検査の志願者数と登録者数の状況」を参照

## 【資料 7】

### 1.資料名称等

「学校基本調査 小学校 54 職名別教員数（本務者）4-1」

### 2.出典

文部科学省

[https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00400001&tstat=000001011528&cycle=0&tclass1=000001123176&tclass2=00001123177&tclass3=000001123178&tclass4=000001123182&stat\\_infid=000031776369](https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00400001&tstat=000001011528&cycle=0&tclass1=000001123176&tclass2=00001123177&tclass3=000001123178&tclass4=000001123182&stat_infid=000031776369)

### 3.利用範囲

平成 30 年度「初等中等教育機関・専修学校・各種学校＞学校調査・学校通信教育調査（高等学校）＞小学校＞職名別教員数（本務者）」を参照

## 【資料 8】

### 1.資料名称等

「国立教員養成大学・学部、大学院、附属学校の改革に関する有識者会議第 1 回（平成 28 年 9 月 13 日）」有識者会議資料（広島大学大学院教育学研究科教授 山崎 博敏）

### 2.出典

.文部科学省

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/koutou/077/gijiroku/\\_\\_icsFiles/afieldfile/2016/09/21/1377405\\_1\\_3.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/077/gijiroku/__icsFiles/afieldfile/2016/09/21/1377405_1_3.pdf)

### 3.利用範囲

会議資料 2「今後の小中学校教員需要の動向について（山崎委員ヒアリング資料）」を参照

## 【資料 9】

### 1.資料名称等

「学校数の推移<幼稚園>，<幼保連携型認定子ども園>

### 2.出典

北海道 総合政策局 情報統計局統計課

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/tuk/013sbs/index.htm>

### 3.利用範囲

「学校基本調査<幼稚園>、<幼保連携型認定子ども園> (Excel ファイル)」  
を参照

### 4.その他

著作権者の許諾を得られていない書類等

## 【資料 10】

### 1.資料名称等

「道内新卒者推計値」

### 2.出典

公益財団法人北海道私立幼稚園協会

### 3.利用範囲

上記法人の内部資料である退職金制度加入者より、北海道内の私立幼稚園の大学新卒者の採用数を推計した数値を、「学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況」本文の6ページで引用

### 4.その他

著作権者の許諾を得られていない書類等（資料添付せず）

## 教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
—	学長	ハンス ユーゲン・マルクス ハンス ユーゲン・マルクス <平成29年4月>		Sacrae Theologiae Doctor (イタリア)		藤女子大学学長 (平成29年4月)

（注） 高等専門学校にあっては校長について記入すること。



教 員 の 氏 名 等												
(人間生活学部保育学科)												
調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等の職務に 従事する 適当なり平均日数
1	専	教授 (学科 主任)	タカハシ マユミ 高橋 真由美 <平成32年4月>		修士 (教育学)		幼児理解と援助 保育内容(環境) 保育内容総論 保育内容の指導法(環 境) 教育実習指導(幼稚園・ 小学校) 教育実習(幼稚園・小学 校) スタートアップセミナー ※ 保育・教職実践演習(幼 稚園・小学校)※ 専門演習 卒業研究演習 卒業研究	2後 2後 1後 2前 4前 4前 1前 4後 3通 4通 4通	2 2 2 2 2 4 0.1 4 2 2 2	1 2 2 1 2 1 1 4 1 1 1	藤女子大学 人間生活学部 保育学科 教授 (平17.4)	5日
2	専	教授	オガワ キョウコ 小川 恭子 <平成32年4月>		修士※ (教育学)		子ども家庭福祉論 社会的養護 特別支援教育と福祉 児童館実習指導 児童館実習 保育実習指導I(福祉施 設) 保育実習I(福祉施設) 保育実習指導II(福祉施 設) 保育実習II(福祉施設) 保育実習指導II(児童 館) 保育実習II(児童館) 専門演習 卒業研究演習 卒業研究	1後 2前 3前 2後 2後 3後 3後 4通 4通 4通 4通 3通 4通 4通	2 1 2 1 2 2 2 1 2 1 2 2 2	1 1 1 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1	藤女子大学 人間生活学部 保育学科 教授 (平26.4)	5日
3	専	教授	アズタ フジコ 吾田 富士子 <平成32年4月>		修士 (教育学)		保育原理 教師・保育者論※ 教育課程総論(全体的な 計画を含む)※ 子どもの理解と発達援助 保育実習指導I(保育 所) 保育実習I(保育所) 保育実習指導II(保育 所) 保育実習II(保育所) 保育・教職実践演習(幼 稚園・小学校)※ 専門演習 卒業研究演習 卒業研究	1前 1後 3前 4後 3通 3通 4通 4通 4通 4後 3通 4通 4通	2 0.8 1.1 4 2 2 2 2 2 4 2 2 2	1 1 1 2 2 1 2 1 1 4 1 1 1	藤女子大学 人間生活学部 保育学科 教授 (平11.4)	5日
4	専	教授	ハツダ キミヒト 原田 公人 <平成32年4月>		博士 (生涯発 達科学)		特別支援教育実践論※ 特別な教育的ニーズに対 する理解と支援※ 知的障害児の心理・生 理・病理 視覚・聴覚障害児の心 理・生理・病理 視覚・聴覚障害児教育総 論 教育実習指導(特別支 援) 教育実習(特別支援) スタートアップセミナー 専門演習 卒業研究演習 卒業研究	4前 3前 2前 3後 3後 4通 4通 1前 3通 4通 4通	1 3.0 2 2 1 1 1 2 2 2 2	1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1	藤女子大学 人間生活学部 保育学科 教授 (平30.4)	5日

5	専	教授	コヤマ カズトシ 小山 和利 <平成32年4月>	修士 (経営学)	現代社会と教育※ 特別な教育的ニーズに対する理解と支援※ 教育相談の理論と方法 家庭支援論 子ども家庭支援の心理学※ 臨床発達検査法 専門演習 卒業研究演習 卒業研究 社会的養護内容 スタートアップセミナー※	4前 3前 3後 2後 3前 3後 3通 4通 4通 3前 1前	0.9 1.2 2 2 1.5 2 2 2 4 0.1	1 2 1 1 1 1 1 1 2 1	藤女子大学 人間生活学部 保育学科 教授 (平30.4)	5日
6	専	教授	ショウイ ロシノブ 庄井 良信 <平成32年4月>	博士 (教育学)	教師・保育者論※ 教育方法論 保幼小連携特論 保育内容（人間関係）※ 子どもの遊びと学び 児童生徒指導・進路指導 専門演習 卒業研究演習 卒業研究 子ども学	1後 2後 4前 2前 3後 4前 3通 4通 4通 1後	0.6 1 2 1 2 2 2 2 2 2	1 1 1 2 1 1 1 1 1 1	北海道教育大学 大学院教育学研究科 教授 (平14.4)	5日
7	専	教授	コマガタ タケシ 駒形 武志 <平成32年4月>	教育学士	地域社会と学校※ 国語（書写含む） 国語科教育法 子ども文化論 教育実習指導（幼稚園・小学校） 教育実習（幼稚園・小学校） スタートアップセミナー 保育・教職実践演習（幼稚園・小学校）※ 専門演習 卒業研究演習 卒業研究	2前 3前 3後 2前 4前 4前 1前 4後 3通 4通 4通	1.0 2 2 2 2 4 2 4 2 2 2	1 1 1 1 2 1 1 4 1 1 1	藤女子大学 人間生活学部 保育学科 教授 (平29.4)	5日
8	専	教授	イナミ ジュン 稲貫 順 <平成32年4月>	教育学士	学級経営論※ 現代社会と教育※ 図画工作 造形表現法 保育内容（表現）※ 図画工作科教育法 保育内容の指導法（表現）※ 専門演習 卒業研究演習 卒業研究 スタートアップセミナー※	3後 4前 2前 4前 2前 2後 2後 3通 4通 4通 1前	1.2 0.8 4 2 1 2 1 2 2 2 0.1	1 1 2 1 2 1 1 1 1 1 1	藤女子大学 人間生活学部 保育学科 教授 (平30.4)	5日
9	専	教授	オオムロ ミチオ 大室 道夫 <平成32年4月>	教育学士	教育課程総論（全体的な計画を含む）※ 特別活動・総合的な学習の時間の指導法 地域社会と学校※ 生活 生活科教育法 教育実習指導（幼稚園・小学校） 教育実習（幼稚園・小学校） スタートアップセミナー 専門演習 卒業研究演習 卒業研究	3前 2後 2前 3前 3後 4前 4前 1前 3通 4通 4通	0.9 2 1.3 2 2 2 4 2 2 2 2	1 1 1 1 1 2 1 1 1 1 1	藤女子大学 人間生活学部 保育学科 教授 (平30.4)	5日
10	専	教授	マツムラ サトシ 松村 聡 <平成32年4月>	教育学士	学級経営論※ 教師・保育者論※ 現代社会と教育※ 算数 算数科教育法 スタートアップセミナー 保育・教職実践演習（幼稚園・小学校）※ 専門演習 卒業研究演習 卒業研究 女性とキャリアI	3後 1後 4前 3前 3後 1前 4後 3通 4通 4通 1後	1.1 0.6 0.8 2 2 2 4 2 2 2 1	1 1 1 1 1 1 4 1 1 1 1	藤女子大学 人間生活学部 保育学科 教授 (平31.4)	5日

11	専	准教授	アオキ ナオコ 青木 直子 <平成32年4月>	博士 (心理学)	教育心理学 学校教育心理学 発達心理学 児童期以降の発達と心理 保育内容(言葉)※ 保育内容の指導法(言葉)※ 子ども家庭支援の心理学※ 研究調査法 専門演習 卒業研究演習 卒業研究	2後 4前 1前 3前 2前 2後 3前 2後 3通 4通 4通	2 2 2 2 1 1.1 0.5 2 2 2 2	1 1 1 1 2 1 1 1 1 1 1	藤女子大学 人間生活学部 保育学科 准教授 (平19.4)	5日
12	専	准教授	シンカイ マコト 新海 節 <平成32年4月>	修士 (教育学)	音楽 音楽表現法 音楽表現演習 保育内容(表現)※ 保育内容の指導法(表現)※ 専門演習 卒業研究演習 卒業研究 スタートアップセミナー	2通 3通 4前 2前 2後 3通 4通 4通 1前	4 4 2 1 1.1 2 2 2 2	2 2 2 2 1 1 1 1 1	藤女子大学 人間生活学部 保育学科 准教授 (平20.4)	5日
13	専	准教授	コンノ タニヒコ 今野 邦彦 <平成32年4月>	修士 (教育学)	特別支援教育総論 特別支援教育実践論※ 肢体不自由児教育 肢体不自由児教育総論 重複・発達障害児教育総論 教育実習指導(特別支援) 教育実習(特別支援) スタートアップセミナー 専門演習 卒業研究演習 卒業研究	1前 4前 3前 2前 3後 4通 4通 1前 3通 4通 4通	2 1.1 2 2 2 1 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	藤女子大学 人間生活学部 保育学科 准教授 (平25.4)	5日
14	専	准教授	キモト リカ 木本 理可 <平成32年4月>	修士 (教育学)	初等体育 スポーツ実技A(水泳) スポーツ実技B(スキー) 保育内容(健康) 体育科教育法 保育内容の指導法(健康) 専門演習 卒業研究演習 卒業研究 運動の科学 運動の実践A 運動の実践B	2前 2通 2後 2後 2後 2前 3通 4通 4通 1後 1前 1後	4 1 1 2 2 2 2 2 2 2 1 1	2 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1	藤女子大学 人間生活学部 保育学科 准教授 (平30.4)	5日
15	兼任	教授	タドウ マサユキ 工藤 雅之 <平成33年4月>	博士 (教育学)	英語 英語科教育法	2後 3後	2 2	1 1	藤女子大学 文学部 英語文化学科 教授 (平28.4)	
16	兼任	教授	キムラ アキコ 木村 晶子 <平成32年4月>	Master of Arts (米国)	キリスト教と藤女子大学※ キリスト教人間学A キリスト教人間学B	1通 1後 1後	0.5 2 2	1 1 1	藤女子大学 人間生活学部 人間生活学科 教授 (平9.4)	
17	兼任	教授	アベ クルミ 阿部 包 <平成32年4月>	※ 文学修士	キリスト教概論 キリスト教と藤女子大学※ 聖書概論A 聖書概論B	1前 1通 1後 1後	2 0.1 2 2	1 1 1 1	藤女子大学 人間生活学部 人間生活学科 教授 (平12.4)	
	兼任	教授	アベ クルミ 阿部 包 <平成33年4月>	※ 文学修士	キリスト教概論 キリスト教と藤女子大学※ 聖書概論A 聖書概論B	1前 1通 1後 1後	2 0.1 2 2	1 1 1 1		
18	兼任	教授	キワキ ナチコ 木脇 奈智子 <平成32年4月>	博士 (比較文化)	ジェンダー論	1後	2	1	藤女子大学 人間生活学部 人間生活学科 教授 (平21.4)	
19	兼任	教授	マナヅル トシキ 真鶴 俊喜 <平成32年4月>	※ 法学修士	日本国憲法	1前	2	1	藤女子大学 文学部 文化総合学科 教授 (平9.4)	

20	兼担	教授	ウシイダ マサト 漆崎 正人 <平成32年4月>		※ 文学修士	キリスト教と藤女子大学 ※	1通	0.4	1	藤女子大学 文学部 日本語・日本文 学科 教授 (平2.4)
21	兼担	教授	ワタナベ ヒロシ 渡邊 浩 <平成32年4月>		※ 文学修士	キリスト教と藤女子大学 ※ 西洋史	1通 1前	0.4 2	1 1	藤女子大学 文学部 文化総合学科 教授 (平12.4)
22	兼担	教授	イケダ タカユキ 池田 隆幸 <平成32年4月>		博士 (農学)	ライフステージ栄養学※	1後	0.2	1	藤女子大学 人間生活学部 食物栄養学科 教授 (平14.4)
23	兼担	教授	キクチ カズミ 菊地 和美 <平成32年4月>		博士 (農学)	ライフステージ栄養学※	1後	0.1	1	藤女子大学 人間生活学部 食物栄養学科 教授 (平21.4)
24	兼担	教授	フジイ ヨシヒロ 藤井 義博 <平成32年4月>		医学博士	健康の科学	1前	2	1	藤女子大学 人間生活学部 食物栄養学科 教授 (平8.4)
	兼任	教授	フジイ ヨシヒロ 藤井 義博 <平成33年4月>		医学博士	健康の科学	1前	2	1	
25	兼担	教授	ミタムラ リエコ 三田村 理恵子 <平成32年4月>		博士 (農学)	ライフステージ栄養学※	1後	0.2	1	藤女子大学 人間生活学部 食物栄養学科 教授 (平17.4)
26	兼担	教授	ムラタ マリコ 村田 まり子 <平成32年4月>		博士 (農学)	ライフステージ栄養学※	1後	0.5	1	藤女子大学 人間生活学部 食物栄養学科 教授 (平23.4)
27	兼担	教授	タカハシ ヒロシ 高橋 博 <平成32年4月>		Master of Arts (App lied Linguist ics) (米国)	Academic Communication I	1前	1	1	藤女子大学 人間生活学部 食物栄養学科 教授 (平25.4)
						Academic Communication II	1後	1	1	
						Skills for the TOEFL I	1前	1	1	
						Skills for the TOEFL II	1後	1	1	
						English for Global Communication	2前	1	1	
						CLIL English	2後	1	1	
28	兼担	教授	セキヤ ヒロシ 関谷 博 <平成32年4月>		文学修士	日本語文学 アジア圏文学	1前 1後	2 2	1 1	藤女子大学 文学部 日本語・日本文 学科 教授 (平12.4)
29	兼担	教授	タネダ ワカコ 種田 和加子 <平成32年4月>		博士 (文学)	日本語文学	1前	2	1	藤女子大学 文学部 日本語・日本文 学科 教授 (平8.4)
30	兼担	教授	ヤマモト スイコ (スイコ) 山本 綏子(すい子) <平成32年4月>		博士 (文学)	アジア圏文学	1後	2	1	藤女子大学 文学部 日本語・日本文 学科 教授 (平18.4)
31	兼担	准教授	ハナブサ ミユキ 英 美由紀 <平成32年4月>		博士 (人文科学)	英語圏文学	1後	2	1	藤女子大学 文学部 英語文化学科 准教授 (平27.4)
32	兼担	准教授	ツシマ ヤスヒロ 對馬 康博 <平成32年4月>		博士 (文学)	言語学	1後	2	1	藤女子大学 文学部 英語文化学科 准教授 (平28.4)

33	兼任	准教授	クマモト ハルコ 隈元 晴子 <平成32年4月>	博士 (医学)		子どもの食と栄養※ ライフステージ栄養学※	3前 1後	1.2 1.3	2 1	藤女子大学 人間生活学部 食物栄養学科 准教授 (平23.4)
34	兼任	准教授	マツモト アツサ 松本 あづさ <平成32年4月>	博士 (文学)		キリスト教と藤女子大学 ※ 日本史B	1通 1前	0.1 2	1 1	藤女子大学 文学部 文化総合学科 准教授 (平20.4)
35	兼任	准教授	シモダ タカヒサ 下田 尊久 <平成32年4月>	Master of Philosophy (英国)		キリスト教と藤女子大学 ※	1通	0.1	1	藤女子大学 図書館情報学課程 准教授 (平13.4)
	兼任	准教授	シモダ タカヒサ 下田 尊久 <平成34年4月>	Master of Philosophy (英国)		キリスト教と藤女子大学 ※	1通	0.1	1	
36	兼任	准教授	ヒライ カズサ 平井 上総 <平成32年4月>	博士 (文学)		日本史A	1後	2	1	花園大学 文学部 日本史学科 准教授 (平27.4)
37	兼任	准教授	ヒライ(ナカムラ) タカノリ 平井(中村) 孝典 <平成32年4月>	修士 (社会学)		情報リテラシーA 情報リテラシーB	1前・ 1後	6 2	3 1	藤女子大学 文学部 文化総合学科 准教授 (平28.4)
38	兼任	講師	ウエハラ ケンジ 上原 賢司 <平成32年4月>	博士 (政治学)		国際関係論	1後	2	1	藤女子大学 文学部 文化総合学科 講師 (平30.4)
39	兼任	教授	ササキ タカコ 佐々木 貴子 <平成33年4月>	修士 (教育学)		家庭 家庭科教育法	2前 2後	2 2	1 1	北海道教育大学 教育学部 札幌校 教授 (平24.4)
40	兼任	教授	スズキ ユキオ 鈴木 幸雄 <平成32年4月>	社会学 修士		社会福祉論	1前	2	1	北海道医療大学 大学院看護福祉 学研究科 教授 (平21.4)
41	兼任	教授	サトウ ヨウコ 佐藤 洋子 <平成34年4月>	修士 (法学)		子どもの健康と安全	3前	4	2	北海道大学大学院 保健科学研究 院 教授 (平20.4)
42	兼任	教授	シナガワ ヒロミ 品川 ひろみ <平成35年4月>	修士 (教育学)		子育て支援(講義)	4後	2	1	札幌国際大学 短期大学部 教授 (平24.4)
43	兼任	教授	オオタ シュンイチ 太田 俊一 <平成34年4月>	教育学士		理科 理科教育法	3前 3後	2 2	1 1	北翔大学 短期大学部 こども学科 教授 (平27.4)
44	兼任	教授	カラムラ シンゾウ 川村 信三 <平成32年4月>	Ph. D. (歴史学) (米国)		キリスト教と藤女子大学 ※	1通	0.4	1	上智大学 文学部 史学科 教授 (平23.4)
45	兼任	教授	オカニワ ヨシユキ 岡庭 義行 <平成32年4月>	修士※ (政治学)		文化人類学	1前	2	1	帯広大谷短期大 学 教授 (平15.4)

46	兼任	教授	カミヤマ ヨシハル 神山 義治 <平成32年4月>		博士 (経済学)	経済学	1前	2	1	北海学園大学 経済学部 教授 (平15.4)
47	兼任	教授	スガワラ ヤスノリ 菅原 寧格 <平成32年4月>		博士 (法学)	日本国憲法	1前	2	1	北海学園大学 法学部 教授
48	兼任	教授	エダチ ヒサト 江口 久登 <平成32年4月>		衛生工学 修士	環境科学 自然と化学	1前 1後	2 2	1 1	よつ葉乳業株式 会社経営企画室 参与 (平20.11)
49	兼任	教授	マスタ リュウイチ 増田 隆一 <平成32年4月>		理学博士	生命科学	1前	2	1	北海道大学 大学院理学研究 院 教授 (平3.1)
50	兼任	教授	キムラ ノブユキ 木村 信行 <平成32年4月>		理学博士	数学 物理学	1前 1後	2 2	1 1	藤女子大学 非常勤講師 (平29.4)
51	兼任	教授	カンバヤシ イサオ 神林 勲 <平成32年4月>		博士 (理学療 法学)	運動の実践A 運動の実践B	1前 1後	3 3	3 3	北海道教育大学 札幌校 教授 (平6.4)
52	兼任	教授	タナカ アキノリ 田中 昭憲 <平成32年4月>		修士 (教育学)	運動の実践A 運動の実践B	1前 1後	2 2	2 2	北海学園大学 経営学部 教授 (平11.4)
53	兼任	教授	タナカ カズノリ 田中 一徳 <平成32年4月>		修士 (教育学)	運動の実践A	1前	2	2	國學院大學北海 道短期大学部 幼児・児童教育 学科 教授 (平21.4)
54	兼任	教授	シミズ マコト 清水 誠 <平成34年4月>		文学修士	上級ドイツ語I 上級ドイツ語II	3前 3後	1 1	1 1	北海道大学 文学研究科 教授 (昭62.4)
55	兼任	教授	アサミ シロウ 浅見 吏郎 <平成32年4月>		修士 (英語学)	異文化コミュニケーショ ン	1前	2	1	札幌大学 地域共創学群異 文化コミュニ ケーション専攻 教授 (平17.4)
56	兼任	教授	スズキ マチコ 鈴木 真知子 <平成33年4月>		修士 (教育学)	肢体不自由児の心理・生 理・病理 重複・発達障害児の心 理・生理・病理	2後 3後	2 2	1 1	藤女子大学 非常勤講師 (平30.4)
57	兼任	准教授	シロウス ヒロノブ 白水 浩信 <平成32年4月>		博士 (教育学)	教育原理	1前	2	1	北海道大学 大学院教育学研 究院 准教授 (平25.4)

58	兼任	准教授	オカベ アツシ 岡部 敦 <平成34年4月>		博士 (教育学)		教育制度論	3前	2	1	札幌大谷大学 社会学部 地域社会学科 専任講師 (平24.4)
59	兼任	准教授	イシダ カズヤ 石出 和也 <平成34年4月>		修士 (教育学)		音楽科教育法	3後	2	1	北海道教育大学 教育学部 札幌校 准教授 (平26.4)
60	兼任	准教授	カワバタ ミホ 川端 美穂 <平成33年4月>		修士 (文学)		保育内容の指導法(人間 関係)	2後	2	1	北海道教育大学 旭川校 教育発達専攻 准教授 (平25.4)
61	兼任	准教授	イチカワ マサト 市川 正人 <平成33年4月>		修士 (看護学)		子どもの保健	2前	2	1	北海道科学大学 保健医療学部 看護学科 准教授 (平26.4)
62	兼任	准教授	イー ヒョンジク 李 炯直 <平成32年4月>		博士 (経済学)		国際理解教育	1後	2	1	北海商科大学 商学部 准教授 (平23.4)
63	兼任	准教授	オカモト リョウスケ 岡本 亮輔 <平成32年4月>		博士 (文学)		宗教と文化	1後	2	1	北海道大学 メディア・コ ミュニケーション 研究院 准教授 (平27.4)
64	兼任	准教授	ユアサ キョウコ 湯浅 恭子 <平成32年4月>		博士 (文学)		Academic Communication I Academic Communication II	1前 1後	1 1	1 1	藤女子大学 非常勤講師 (平17.4)
65	兼任	准教授	マシヤマ ユカリ 増山 由香里 <平成33年4月>		修士 (教育学)		保育内容(人間関係)※	2前	1	2	札幌国際大学 人文学部 心理学科 准教授 (平29.10)
66	兼任	講師	ナガセ ヒダオ 長瀬 英生 <平成33年4月>		教育学士		道徳教育の理論と実践	2前	2	1	札幌市立八軒西 小学校 校長 (平28.4)
67	兼任	講師	ミノ エミ 三野 絵美 <平成34年4月>		学士 (医学)		病弱児の心理・生理・病 理	3前	2	1	天使病院 (平20.5)
68	兼任	講師	ホンマ ヒサシ 本間 尚史 <平成33年4月>		修士 (教育学)		知的障害児教育	2後	2	1	札幌市立山の手 養護学校 (平29.4)
69	兼任	講師	ナガネ ミチフミ 永根 道史 <平成34年4月>		法学士		病弱児教育	3後	2	1	札幌市教育委員 会 学校教育部児童 生徒担当課 学校支援専門員 (平26.4)
70	兼任	講師	ワタナベ ハヤト 渡辺 隼人 <平成32年4月>		修士 (教育学)		知的障害児教育総論	1後	2	1	藤女子大学 非常勤講師 (平28.4)
71	兼任	講師	キンダイチ ヒトシ 金田一 仁志 <平成33年4月>		高等学校 卒		総合表現	2前	4	2	藤女子大学 非常勤講師 (平21.4)

72	兼任	講師	シンゴ モトヤス(アツオ) 新保 元康(哲夫) <平成34年4月>		教育学士	社会 社会科教育法	3前 3後	2 2	1 1	札幌市立屯田小学校 校長 (平29.4)
73	兼任	講師	アイハラ ケイジュ 相原 啓寿 <平成32年4月>		学士 (音楽)	音楽 音楽表現法 音楽	2通 3通 1後	4 4 2	2 2 1	札幌コンセルヴァトワール 講師 (平10.12)
74	兼任	講師	アイハラ マミ 相原 真美 <平成33年4月>		学士 (音楽)	音楽 音楽表現法	2通 3通	4 4	2 2	株式会社エルム 楽器 声楽科 講師 (平23.6)
75	兼任	講師	イシバシ カツミ 石橋 克史 <平成33年4月>		学士 (音楽)	音楽 音楽表現法 音楽表現演習	2通 3通 4前	4 4 2	2 2 2	藤女子大学 非常勤講師 (平10.4)
76	兼任	講師	オオタカ シノ 大高 紫乃 <平成33年4月>		Kunstler ische Ausbildu ng (芸術修 士) (ドイツ)	音楽 音楽表現法 音楽表現演習	2通 3通 4前	4 4 2	2 2 2	藤女子大学 非常勤講師 (平27.4)
77	兼任	講師	コスギ メグミ 小杉 恵 <平成33年4月>		学士 (音楽)	音楽	2通	4	2	藤女子大学 非常勤講師 (平16.4)
78	兼任	講師	サトウ(カワヘ) ナツミ 佐藤(河邊) 奈都美 <平成33年4月>		学士 (音楽)	音楽 音楽表現法 音楽表現演習	2通 3通 4前	4 4 2	2 2 2	藤女子大学 非常勤講師 (平23.4)
79	兼任	講師	スドウ ナオミ 須藤 尚美 <平成33年4月>		教育学修 士(音楽 教育)	音楽 音楽表現法 音楽表現演習	2通 3通 4前	4 4 2	2 2 2	こどものための リトミック教室 主宰 (平24.5)
80	兼任	講師	タカキ マリコ 鷹木 真理子 <平成33年4月>		芸術学士 (音楽)	音楽 音楽表現法	2通 3通	4 4	2 2	藤女子大学 非常勤講師 (平15.4)
81	兼任	講師	ツジ(オオマエ) チエ 辻(大前) 千絵 <平成33年4月>		学士 (教育学)	音楽 音楽表現法 音楽表現演習	2通 3通 4前	4 4 2	2 2 2	藤女子大学 非常勤講師 (平16.4)
82	兼任	講師	ワカサ(アオノ) レイ 若狭(青野) 玲衣 <平成33年4月>		修士 (音楽)	音楽 音楽表現法 音楽表現演習	2通 3通 4前	4 4 2	2 2 2	藤女子大学 非常勤講師 (平16.4)
83	兼任	講師	ミチシタ アキ 道下 暁 <平成34年4月>		修士 (音楽)	音楽表現法	3通	4	2	藤女子大学 非常勤講師 (平23.4)
84	兼任	講師	シミズ タカコ 清水 貴子 <平成33年4月>		修士 (教育学)	保育内容(言葉)※ 保育内容の指導法(言葉)※	2前 2後	1 0.9	2 1	学校法人清水学園 札幌あかしや幼稚園 副園長 (平21.4)
85	兼任	講師	ヨシダ タカコ 吉田 孝子 <平成34年4月>		教育学士	特別支援教育と福祉	3前	2	1	北海道手稲養護 学校 校長 (平25.4)



86	兼任	講師	インダ シヅエ 石田 しづえ <平成34年4月>	修士 (栄養学)		子どもの食と栄養※	3前	2.8	2	天使大学 実習指導教員 (平29.9)
87	兼任	講師	コバヤシ ミカ 小林 美花 <平成33年4月>	准学士		乳児保育I 乳児保育II	2後 3前	2 2	1 2	北翔大学 短期大学部 こども学科 講師 (平27.4)
88	兼任	講師	オノ ミサ 小野 実佐 <平成34年4月>	修士 (臨床心理学)		子育て支援 (演習)	3後	4	2	社会福祉法人 常徳会 興正こども家庭 支援センター 心理判定員 (平15.4)
89	兼任	講師	ヤノ ジュン 矢野 潤 <平成35年4月>	理学士		教育実習指導(特別支援) 教育実習(特別支援)	4通 4通	1 2	1 1	特定非営利活動 法人アフタース クール運営会 理事長 (平28.4)
90	兼任	講師	キム インジヤ 金 仁子 <平成32年4月>	博士 (経済学)		女性と労働	1前	2	1	藤女子大学 非常勤講師 (平28.4)
91	兼任	講師	リ ケンシュク 李 妍淑 <平成32年4月>	博士 (法学)		女性と法律	1前	2	1	北海道大学 大学院法学研究 科 講師 (平28.4)
92	兼任	講師	シミズ コウキ 清水 香基 <平成32年4月>	修士 (総合文化政策学)		社会学	1前	2	1	藤女子大学 非常勤講師 (平30.4)
93	兼任	講師	イマイズミ メイコ 今泉 明子 <平成32年4月>	修士 (教育学)		心理学	1前	2	1	社会福祉法人 常徳会 興正こども家庭 支援センター 相談員 (平16.4)
94	兼任	講師	カワグチ タクシ 川口 琢司 <平成32年4月>	博士 (文学)		東洋史	1前	2	1	藤女子大学 非常勤講師 (平14.4)
95	兼任	講師	タダ ケイスケ 多田 圭介 <平成32年4月>	博士 (文学)		哲学	1前	2	1	藤女子大学 非常勤講師 (平28.4)
96	兼任	講師	ミヤノ コウイチロウ 宮野 晃一郎 <平成32年4月>	修士 (文学)		倫理学	1前	2	1	藤女子大学 非常勤講師 (平25.4)
97	兼任	講師	タシロ ハヤト 田代 早矢人 <平成32年4月>	修士 (文学)		文章表現	1前	4	2	藤女子大学 非常勤講師 (平25.4)
98	兼任	講師	ナカイ アケミ 中井 明美 <平成32年4月>	教育学士 (教育学)		運動の実践B	1後	2	2	藤女子大学 非常勤講師 (平27.4)
99	兼任	講師	タカギ ユイ 高木 維 <平成32年4月>	博士 (文学)		文章表現	1前・ 後	4	2	藤女子大学 非常勤講師 (平28.4)

100	兼任	講師	ヤマモト タカアキ 山本 貴昭 <平成32年4月>		修士 (文学)		文章表現	1後	4	2	藤女子大学 非常勤講師 (平20.9)
101	兼任	講師	ハラバヤシ シンゴ 原林 滋子 <平成32年4月>		理学士		統計学	1前	2	1	藤女子大学 非常勤講師 (平29.4)
102	兼任	講師	ナカヤマ リチエ 中山 理智恵 <平成32年4月>		高等学校 卒		情報処理の基礎 情報リテラシーA	1前 1前・ 後	1 6	1 3	リィ・ブランニ ング 代表
103	兼任	講師	タニガワ ヤスロウ 谷川 靖郎 <平成32年4月>		博士 (文学)		情報リテラシーB	1後	2	1	藤女子大学 非常勤講師 (平29.9)
104	兼任	講師	ケビン リットン Kevin Litton <平成32年4月>		Bachelor of Arts (in English) (米国)		Academic Communication I Academic Communication II Interactive English A Interactive English B	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	藤女子大学 非常勤講師 (平27.4)
105	兼任	講師	クリストファー ウィリアム カート ニー Christopher William Cartney <平成32年4月>		BSc (Hons )Physical Geograph y (英国)		Academic Communication I Academic Communication II Interactive English A Interactive English B Academic Listening & Note-taking Academic Speaking & Discussion Academic Reading I Academic Reading II	1前 1後 2前 2後 1前 1後 1後 2前 2後	1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	藤女子大学 非常勤講師 (平26.4)
106	兼任	講師	ロバート アトキンズ Robert Atkins <平成32年4月>		Bachelor of Science (Psychol ogy) (ニュー ジーラ ンド)		Academic Communication I Academic Communication II Interactive English A Interactive English B	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	藤女子大学 非常勤講師 (平28.4)
107	兼任	講師	クリストファー ブレイン サイモン ズ Christopher Blaine Simons <平成32年4月>		B. S. Corp orate Communi cations (米国)		Academic Communication I Academic Communication II Interactive English A Interactive English B	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	藤女子大学 非常勤講師 (平27.4)
108	兼任	講師	デニス ウィリアム クイン Denis William Quinn <平成32年4月>		Bachelor of Arts (HONORS IIA) (オース トラリ ア)		Academic Communication I Academic Communication II Practical English A Practical English B Academic Reading I Academic Reading II	1前 1後 1前 1後 2前 2後	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	藤女子大学 非常勤講師 (平29.4)
109	兼任	講師	キタマ サオリ 北間 砂織 <平成32年4月>		M. A. in English Language and Linguist ics (英国)		Academic Communication I Academic Communication II	1前 1後	1 1	1 1	藤女子大学 非常勤講師 (平20.4)
110	兼任	講師	ヤマダ コウコ 山田 晃子 <平成32年4月>		修士 (言語文 化コミュ ニケー ション 学)		Academic Communication I Academic Communication II Essential Vocabulary & Grammar	1前 1後 1前	1 1 1	1 1 1	藤女子大学 非常勤講師 (平26.4)

111	兼任	講師	スギウラ ヤスノリ 杉浦 康則 <平成32年4月>	博士 (文学)		初級ドイツ語I 初級ドイツ語II 中級ドイツ語I 中級ドイツ語II	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	北海道大学 文学研究科 専門研究員 (平24.4)
112	兼任	講師	アベ カズオ 阿部 和夫 <平成33年4月>	修士 (ドイツ 文学)		ドイツ語演習I	2前	1	1	藤女子大学 非常勤講師 (平28.4)
113	兼任	講師	サンドウ アキラ 山藤 顕 <平成33年4月>	修士 (文学)		ドイツ語演習II	2後	1	1	藤女子大学 非常勤講師 (平29.4)
114	兼任	講師	ミウラ ナツミ 三浦 なつみ <平成32年4月>	文学修士		初級フランス語I 初級フランス語II 中級フランス語I 中級フランス語II	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	藤女子大学 非常勤講師 (平23.4)
115	兼任	講師	サクライ ノリオ 櫻井 典夫 <平成32年4月>	博士 (文学)		初級フランス語I 初級フランス語II フランス語演習I フランス語演習II	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	藤女子大学 非常勤講師 (平27.4)
116	兼任	講師	オザワ タツヤ 小澤 卓哉 <平成34年4月>	修士 (文学)		上級フランス語I 上級フランス語II	3前 3後	1 1	1 1	藤女子大学 非常勤講師 (平23.4)
117	兼任	講師	ヤン チーカン 楊 志剛 <平成32年4月>	修士 (教育学)		初級中国語I 初級中国語II 中級中国語I 中級中国語II	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	藤女子大学 非常勤講師 (平13.4)
118	兼任	講師	チョウ アケン 張 阿金 <平成32年4月>	博士 (文学)		初級中国語I 初級中国語II	1前 1後	1 1	1 1	藤女子大学 非常勤講師 (平17.4)
119	兼任	講師	ヒノシギ タダヒロ 日野杉 匡大 <平成32年4月>	修士 (文学)		初級中国語I 初級中国語II 中国語演習I 中国語演習II	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	藤女子大学 非常勤講師 (平23.4)

120	兼任	講師	コイノ ケイケン 胡(猪野) 慧君 <平成34年4月>		博士 (文学)		上級中国語I 上級中国語II	3前 3後	1 1	1 1	藤女子大学 非常勤講師 (平29.4)
121	兼任	講師	モリワカ ヒロコ 森若 裕子 <平成33年4月>		修士 (人類学)		中国語実践演習A 中国語実践演習B	2前 2後	2 2	1 1	藤女子大学 非常勤講師 (平23.4)
122	兼任	講師	マツダ ユキ 松田 由紀 <平成32年4月>		修士 (政治学)		初級韓国語I 初級韓国語II 韓国語演習I 韓国語演習II	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	藤女子大学 非常勤講師 (平18.4)
123	兼任	講師	キム チャング 金 昌九 <平成32年4月>		博士 (文学)		初級韓国語I 初級韓国語II 中級韓国語I 中級韓国語II 上級韓国語I 上級韓国語II	1前 1後 2前 2後 3前 3後	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	藤女子大学 非常勤講師 (平29.4)
124	兼任	講師	キム キョンエ 金 京愛 <平成32年4月>		博士 (文学)		初級韓国語I 初級韓国語II	1前 1後	1 1	1 1	藤女子大学 非常勤講師 (平25.4)
125	兼任	講師	ソン ミラン 宋 美蘭 <平成33年4月>		博士 (教育学)		韓国語実践演習A 韓国語実践演習B	2前 2後	2 2	1 1	藤女子大学 非常勤講師 (平28.4)
126	兼任	講師	シバタ エリコ 柴田 恵里子 <平成33年4月>		准学士		児童館・放課後児童クラ ブの機能と運営	2前	2	1	公益財団法人 さっぽろ青少年 女性活動協会 (平4.12)
127	兼任	講師	モリオカ ユミコ 森岡 裕美子 <平成33年4月>		准学士		児童館・放課後児童クラ ブの機能と運営	2前	0.4	1	公益財団法人 さっぽろ青少年 女性活動協会 (平8.4)
128	兼任	講師	ヤマダ ミナ 山田 美奈 <平成33年4月>		高等学校 卒		児童館・放課後児童クラ ブの活動内容と指導法I	2前	2	1	公益財団法人 さっぽろ青少年 女性活動協会 (平5.1)
129	兼任	講師	クドウ アケミ 工藤 明美 <平成35年4月>		准学士		児童館・放課後児童クラ ブの活動内容と指導法II	4前	0.4	1	公益財団法人 さっぽろ青少年 女性活動協会 (平11.6)
130	兼任	講師	ヨシハラ アサコ 吉原 朝子 <平成33年4月>		准学士		児童館・放課後児童クラ ブの活動内容と指導法I 児童館・放課後児童クラ ブの活動内容と指導法II	2前 4前	0.3 2	1 1	公益財団法人 さっぽろ青少年 女性活動協会 (平8.4)

131	兼任	講師	ナカジマ ヒロユキ 仲嶋 貴将 <平成32年4月>		修士 (芸術学)	美術論		1前	2	1	札幌大谷大学 短期大学部 保育科 非常勤講師 (平19.4)	
-----	----	----	---------------------------------	--	-------------	-----	--	----	---	---	--	--

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
職 位	学 位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合 計	備 考
教 授	博 士	人	人	人	人	1人	1人	人	2人	
	修 士	人	人	人	1人	1人	2人	人	4人	
	学 士	人	人	人	人	人	3人	1人	4人	
	短期大 学 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准 教 授	博 士	人	人	1人	人	人	人	人	1人	
	修 士	人	人	2人	人	1人	人	人	3人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大 学 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講 師	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大 学 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助 教	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大 学 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合 計	博 士	人	人	1人	人	1人	1人	人	3人	
	修 士	人	人	2人	1人	2人	2人	人	7人	
	学 士	人	人	人	人	人	3人	1人	4人	
	短期大 学 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	

(注)

- 1 この書類は、申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
- 2 この書類は、専任教員についてのみ、作成すること。
- 3 この書類は、申請又は届出に係る学部等の開設後、当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度（以下「完成年度」という。）における状況を記載すること。
- 4 専門職大学院の課程を修了した者に対し授与された学位については、「その他」の欄にその数を記載し、「備考」の欄に、具体的な学位名称を付記すること。